



とんがり帽子の
アトリエ
こんなツ帽子の

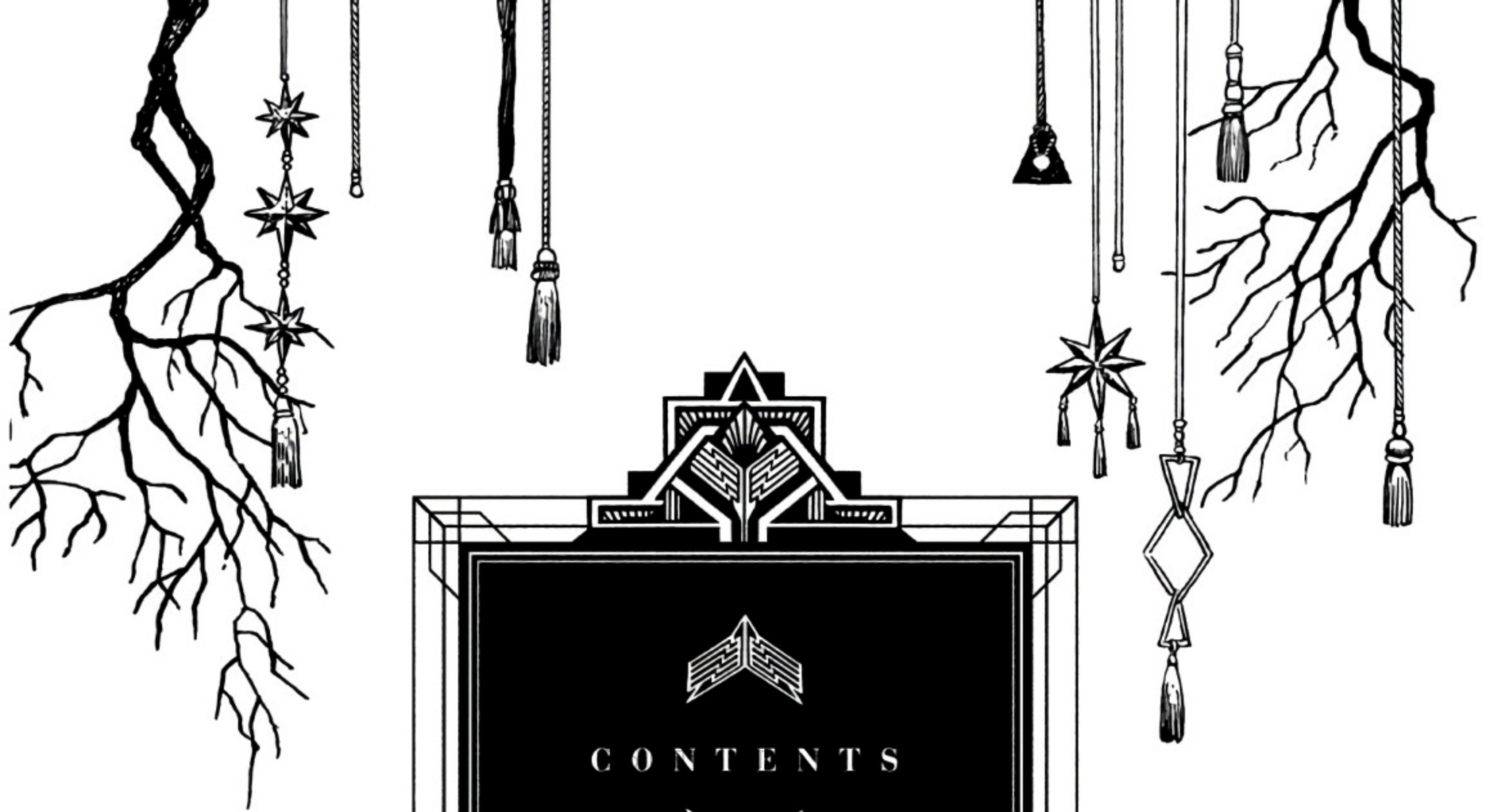
ATELIER OF WITCH HAT

自浜 鴎

KAMOME SHIRAHAMA

6





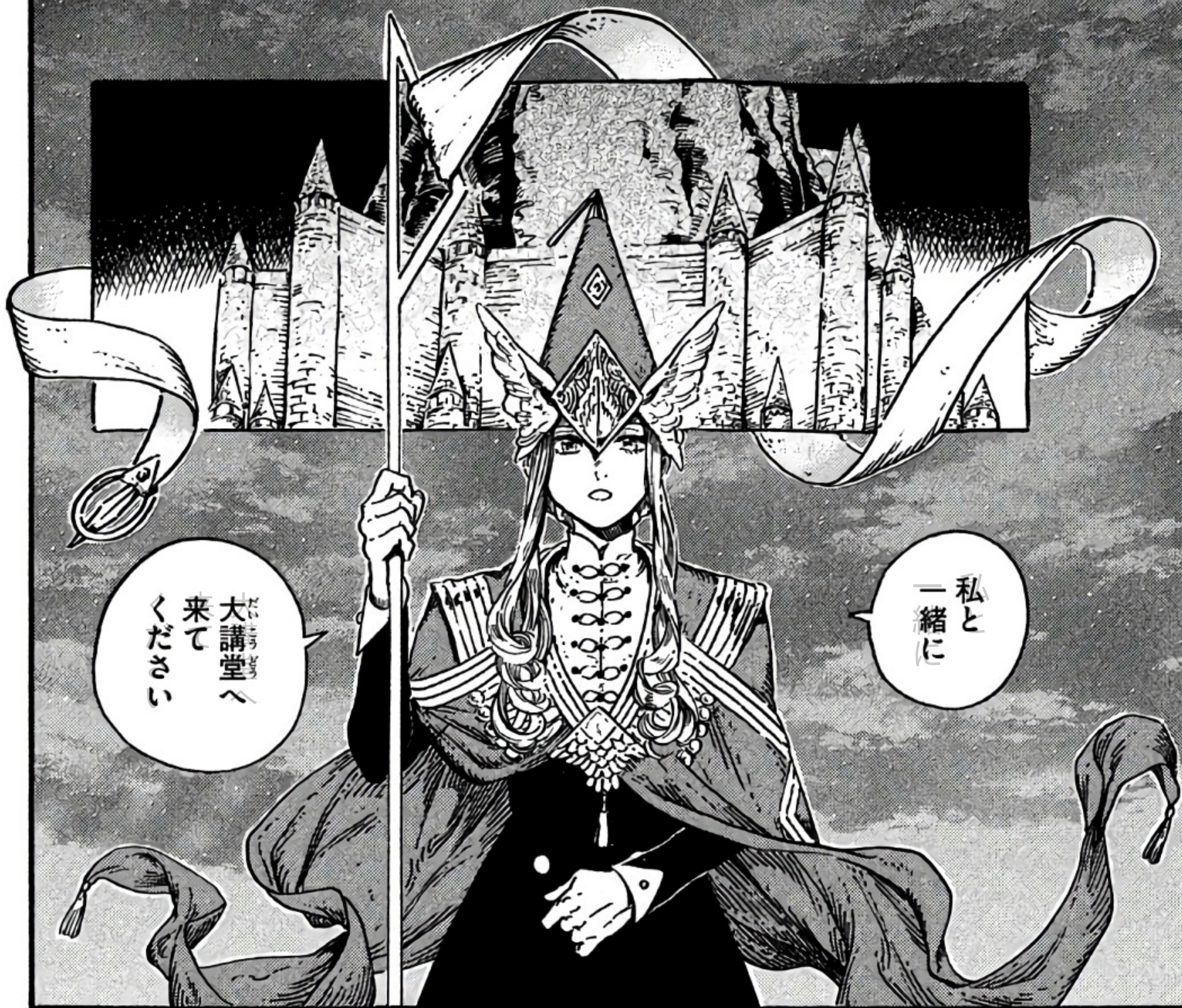
CONTENTS

第30話	◆	003
第31話	◆	033
第32話	◆	051
第33話	◆	085
第34話	◆	119
第35話	◆	153
番外編	◆	170

ATELIER OF WITCH HAT

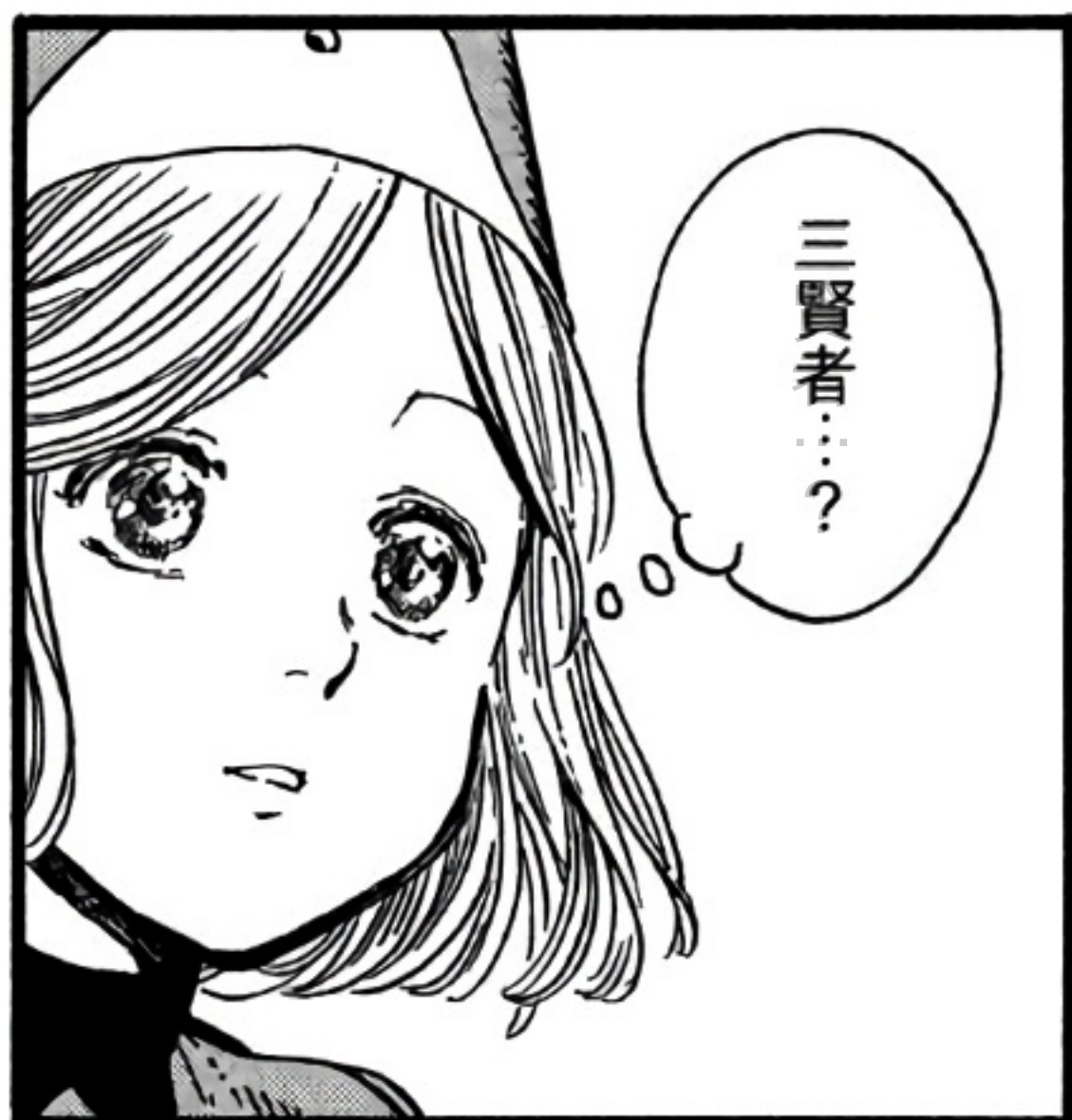
KAMOME
SHIRAHAMA

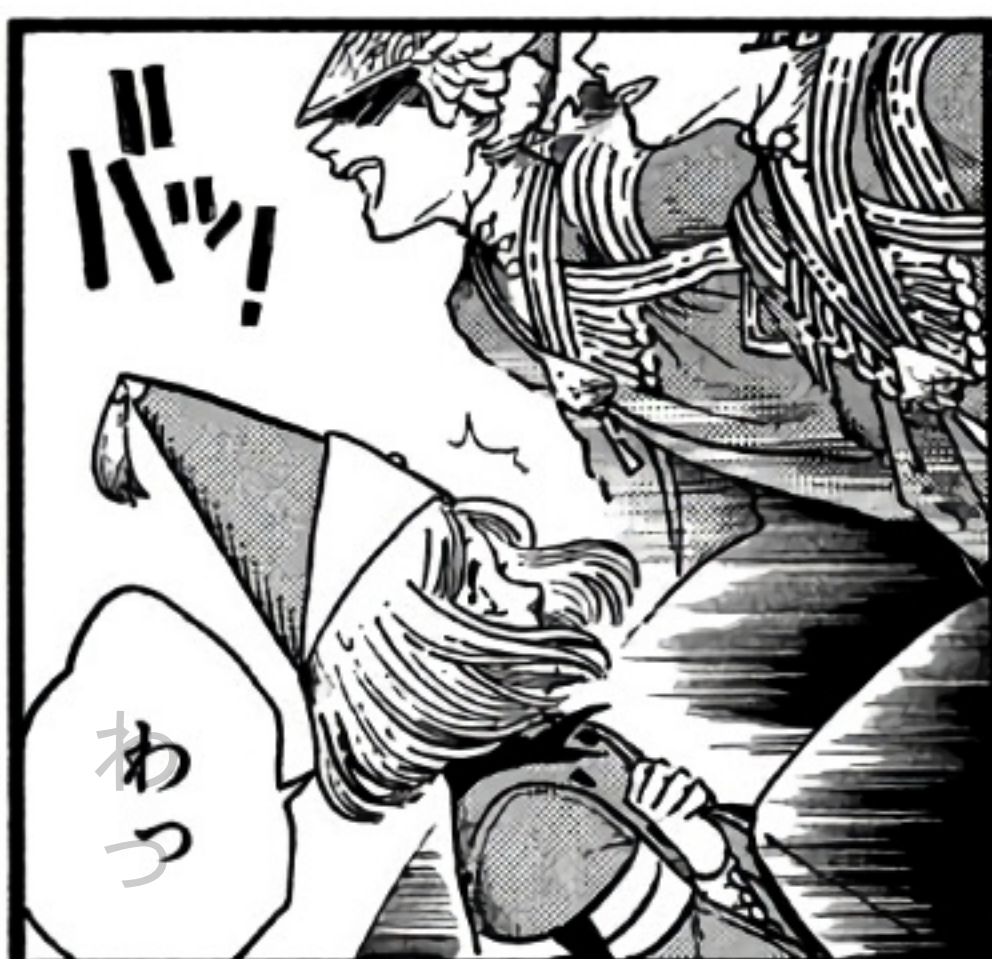


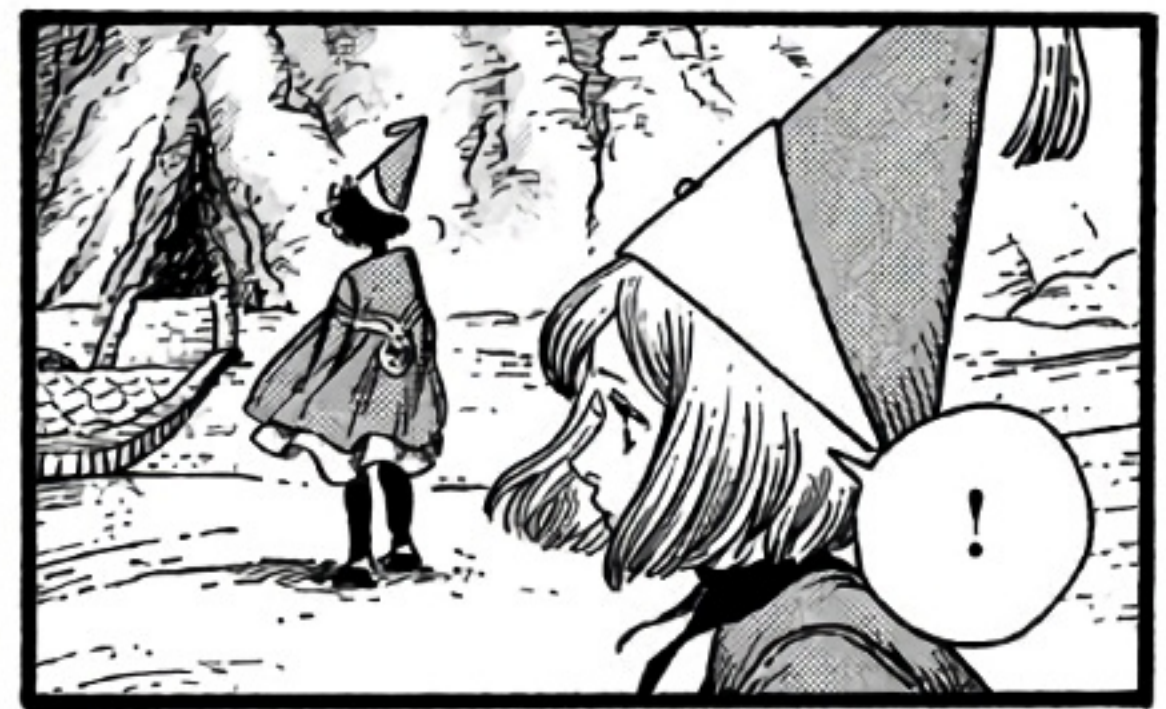
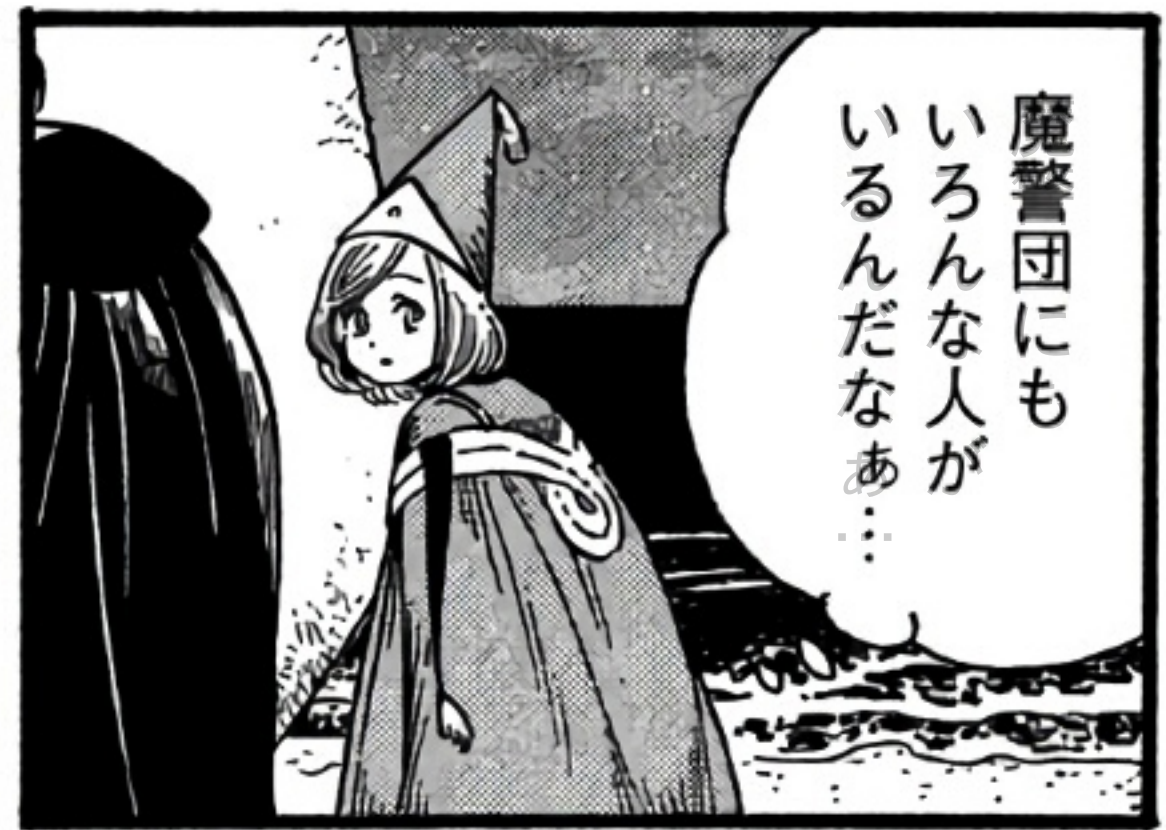










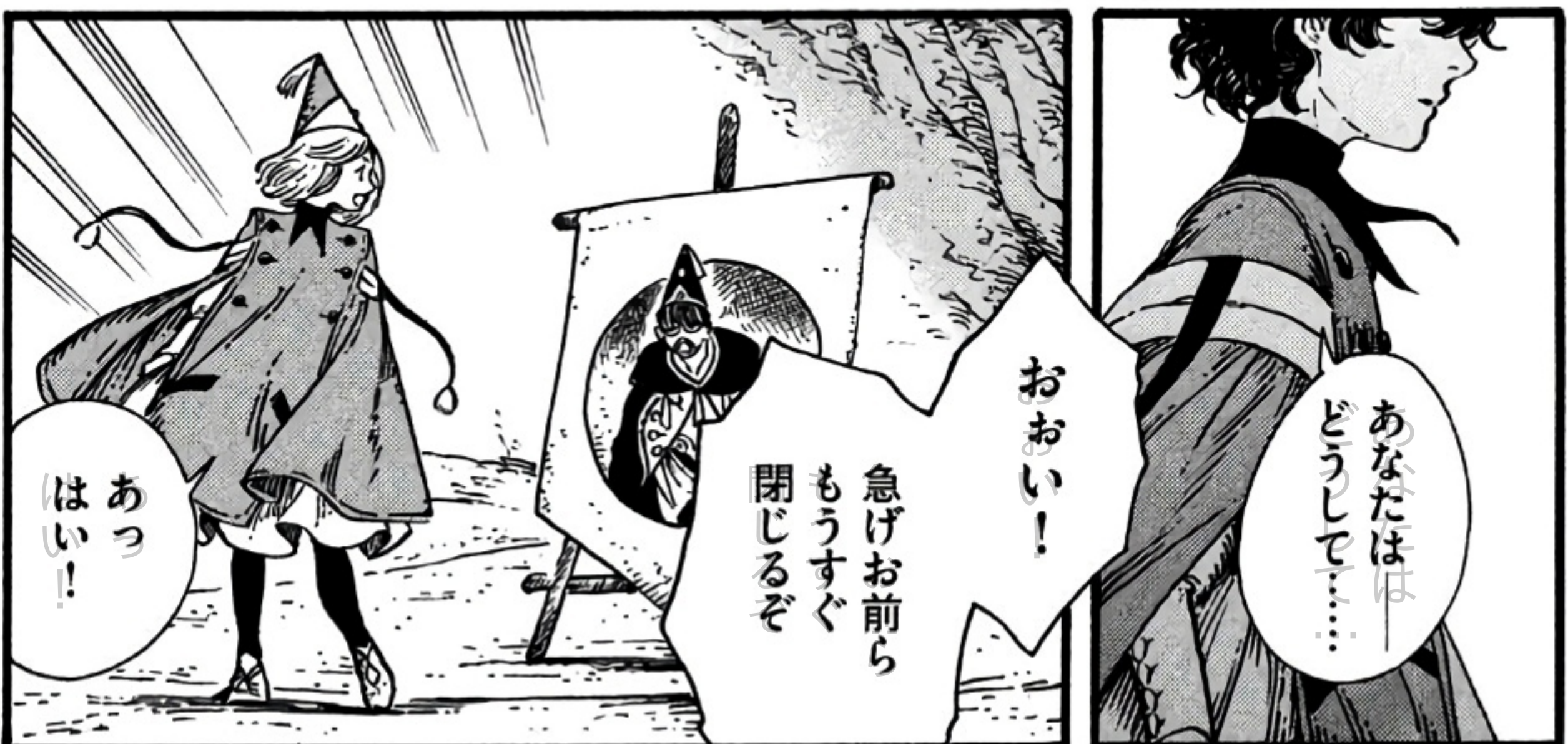




アガツトが
いたから無事に
出られたんだよ。

すごく
頼もしかった

ありがとう
助けてくれて…

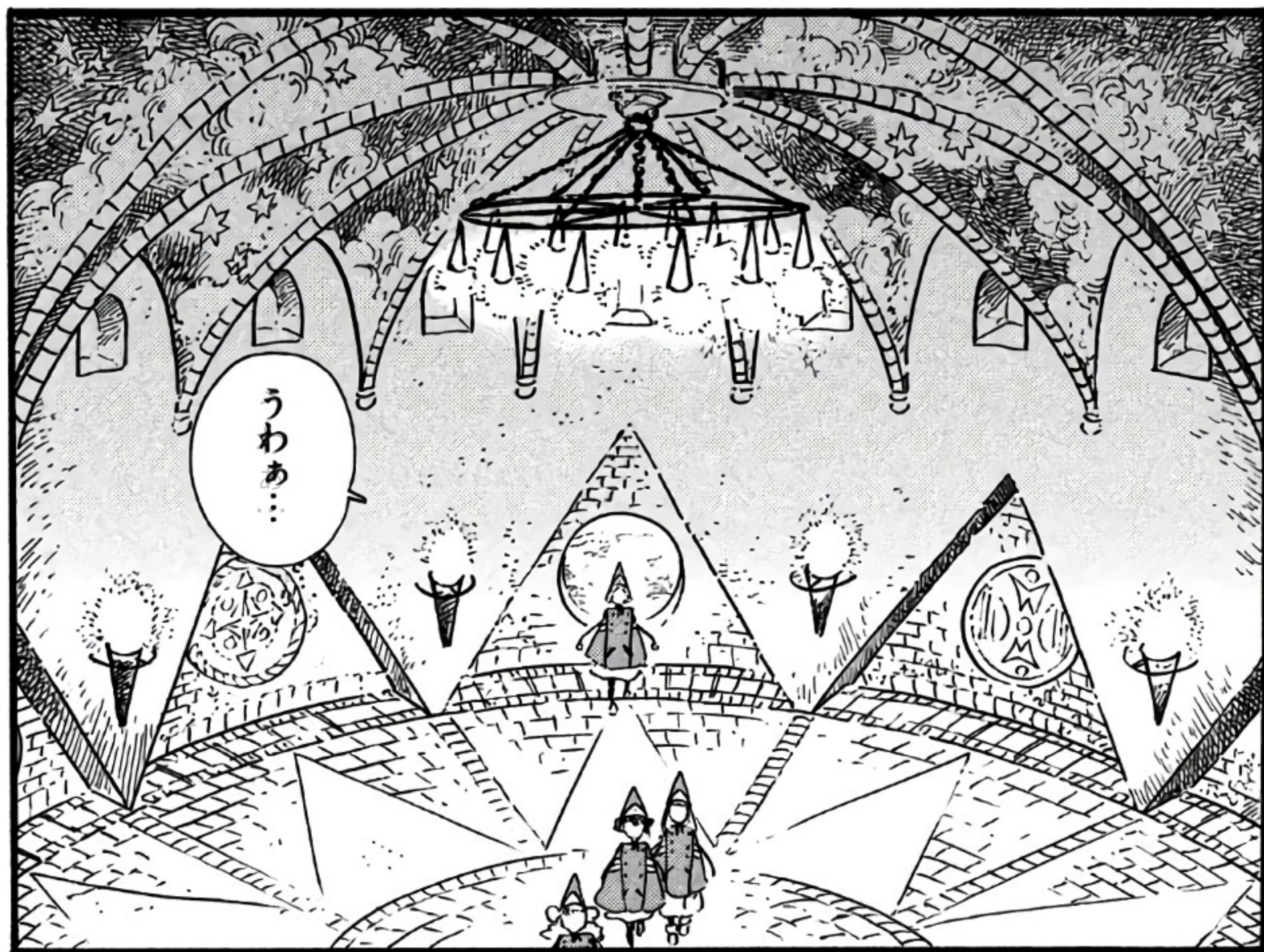
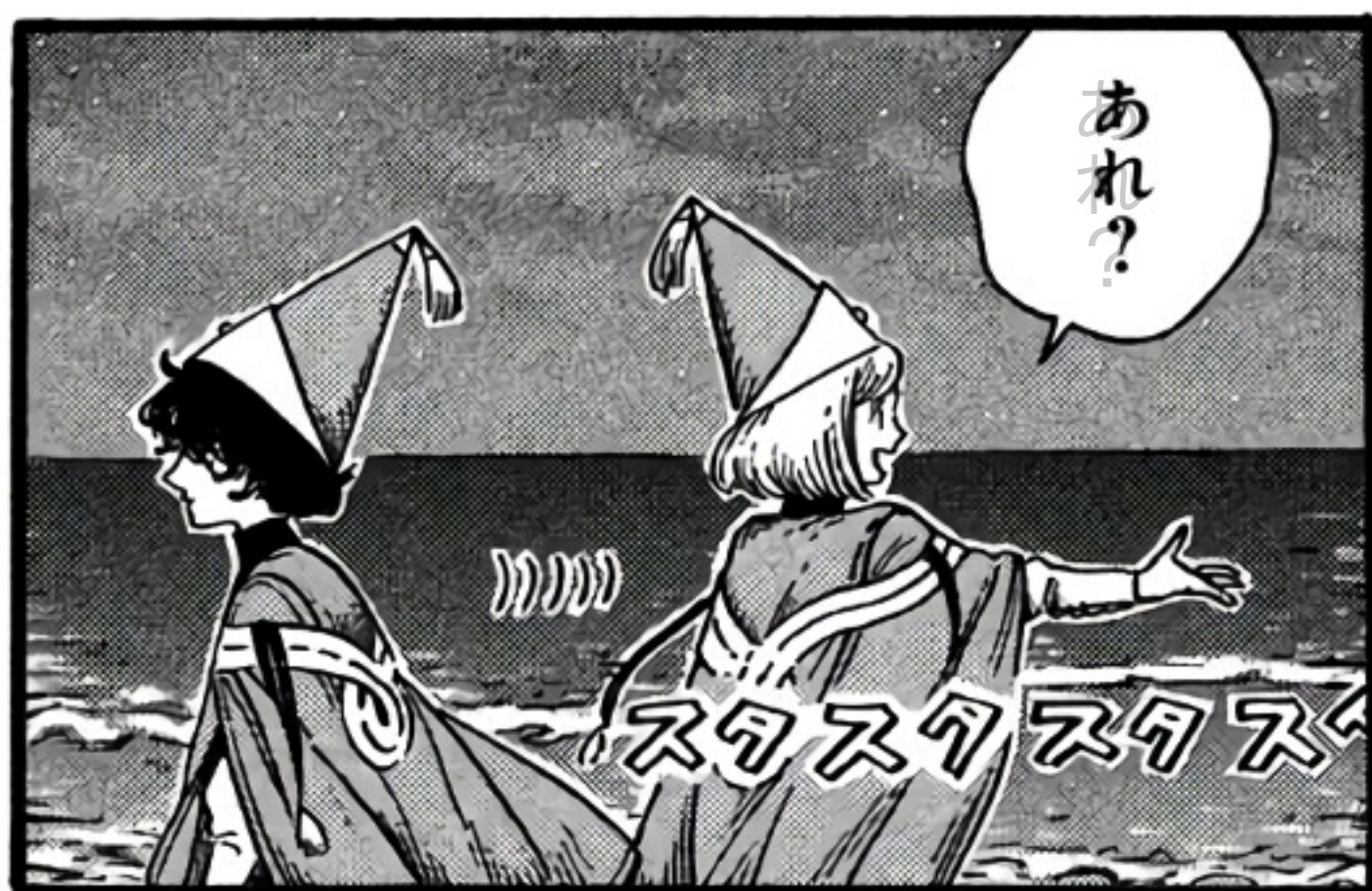


あっ
はい！

急げお前ら
もうすぐ
閉じるぞ

おおい！

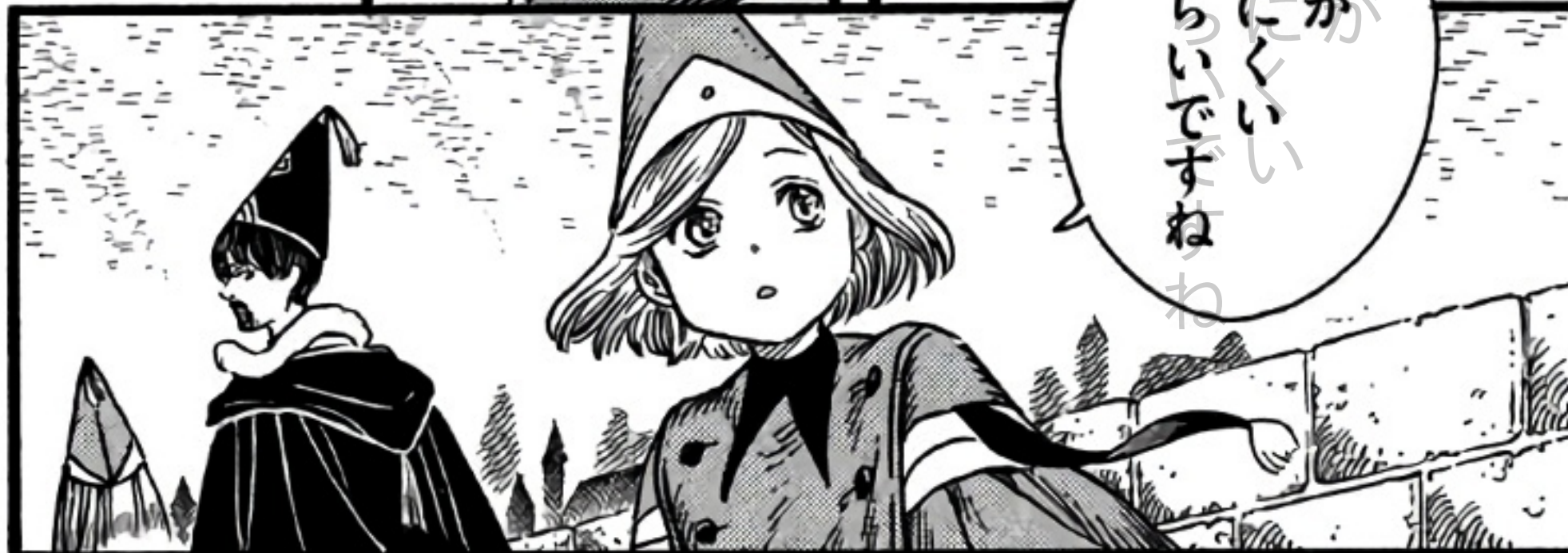
あなたは
どうして…





すごい霧...

息がしにくいくらいですね



逆だ

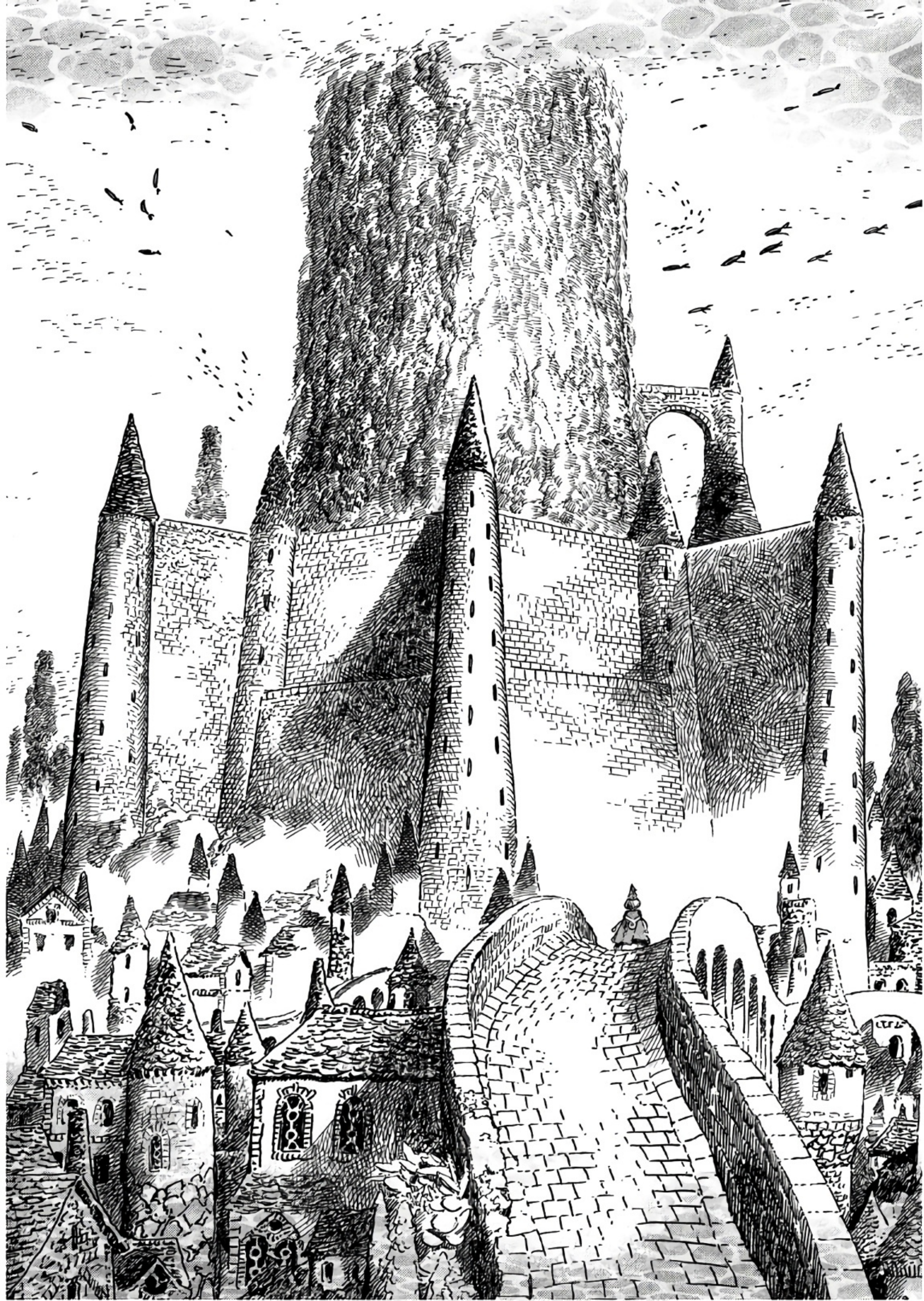
この魔法の霧のおかげで息ができてる

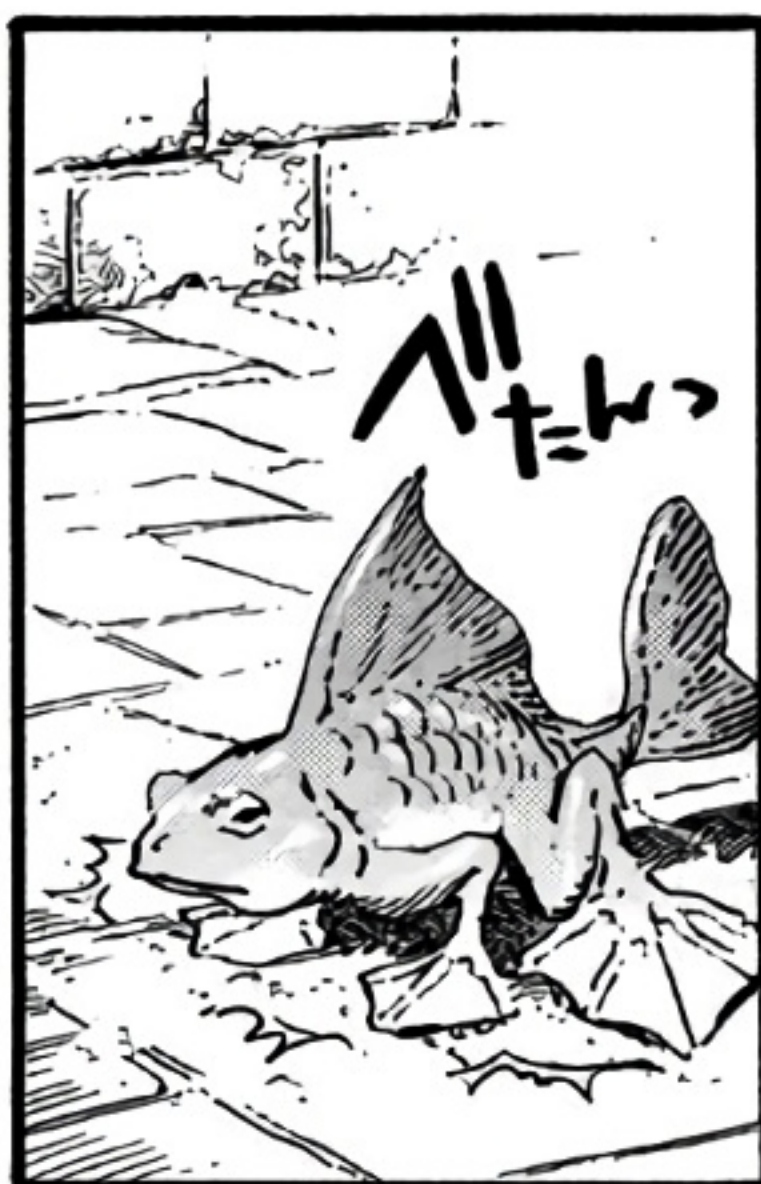
霧底から出るなよ溺れるぞ

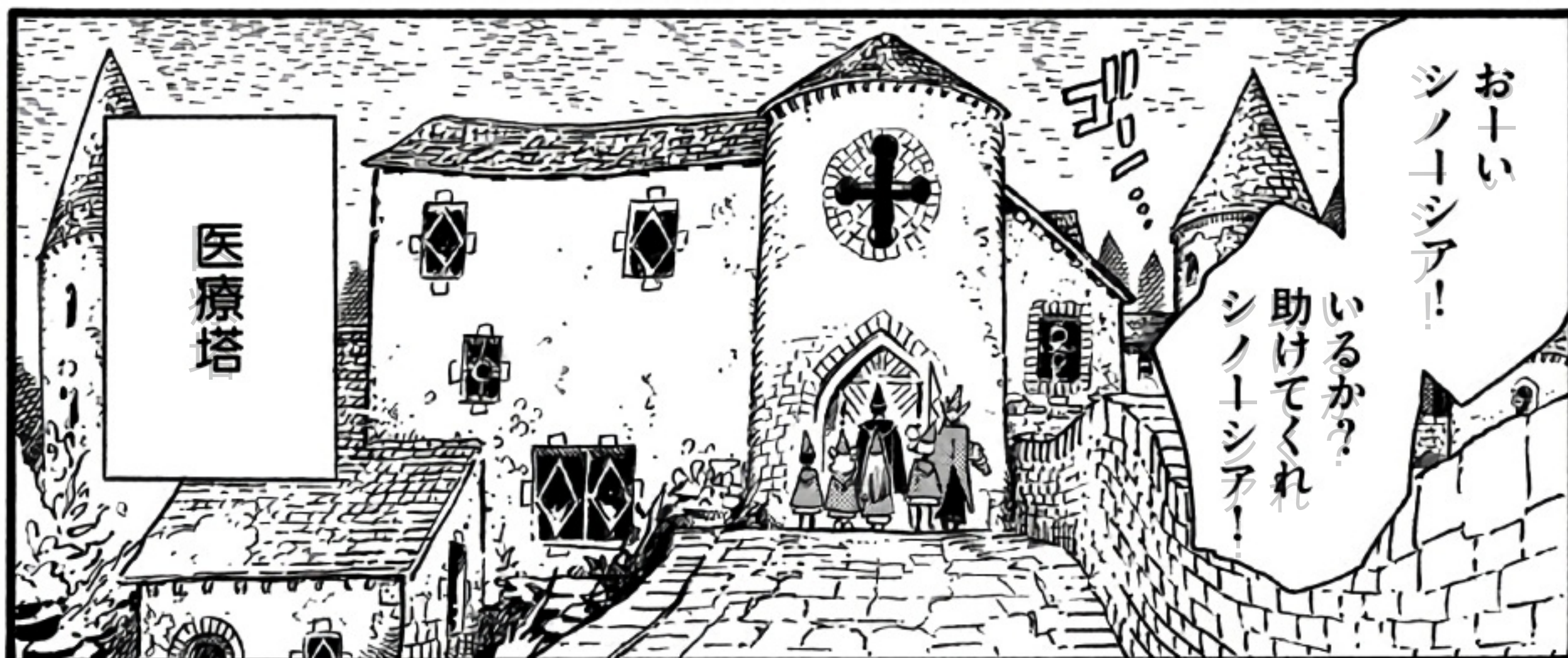
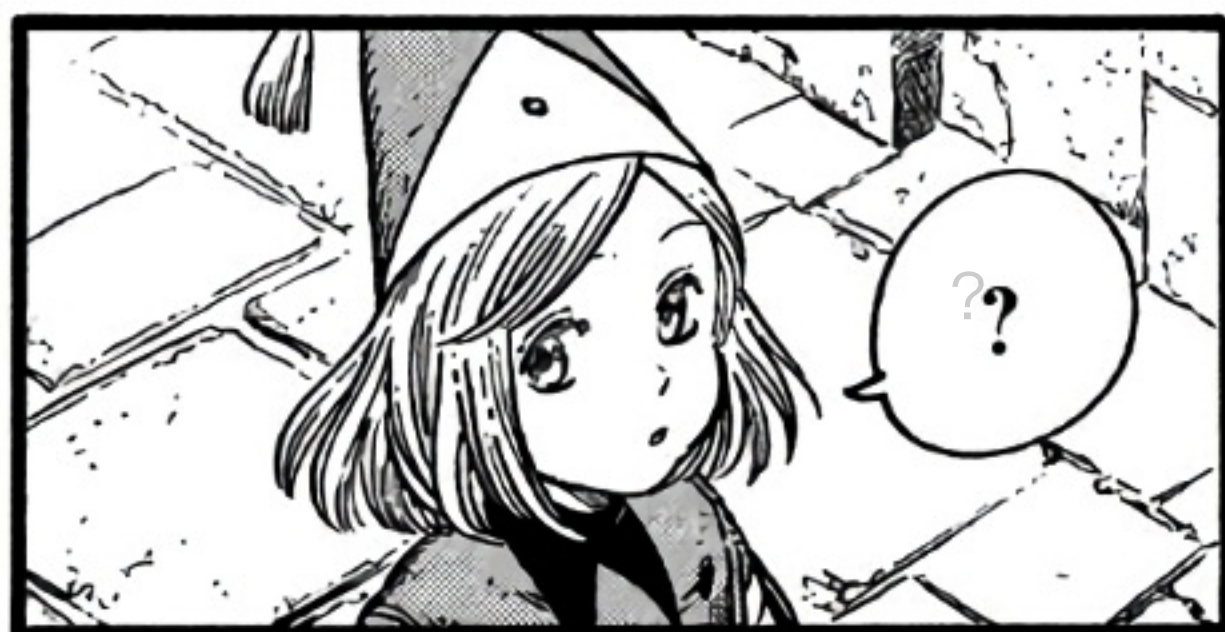


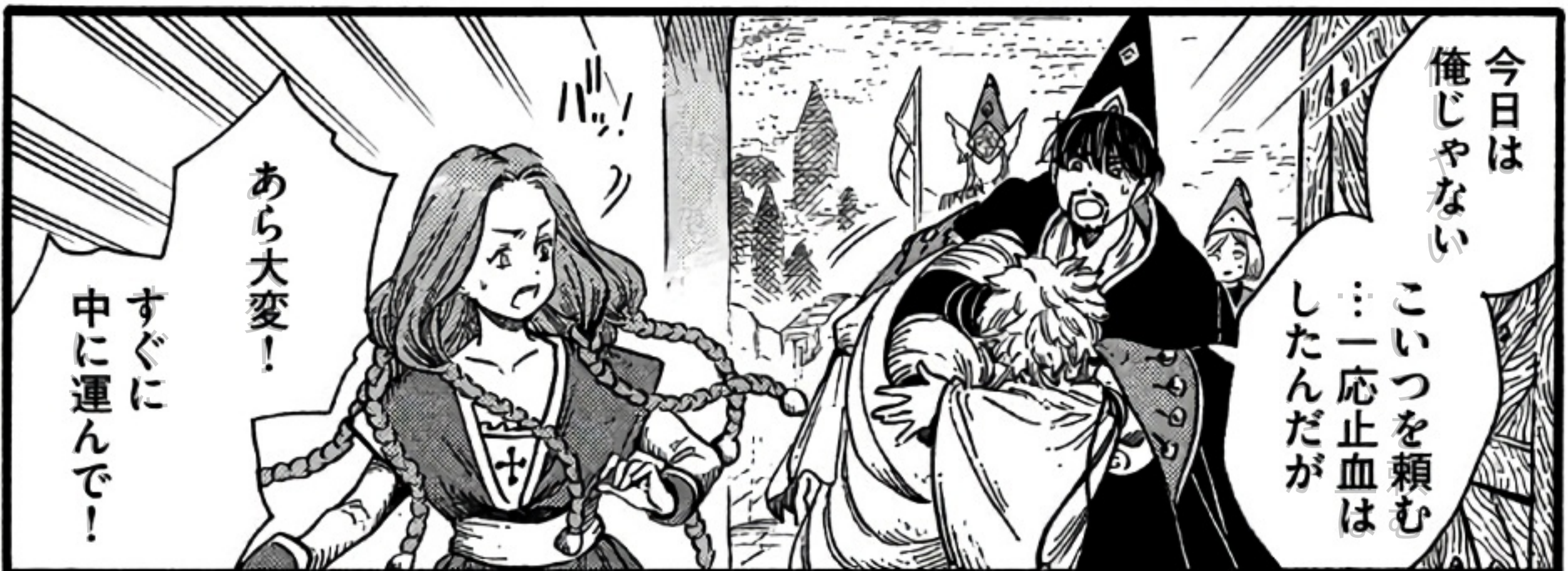
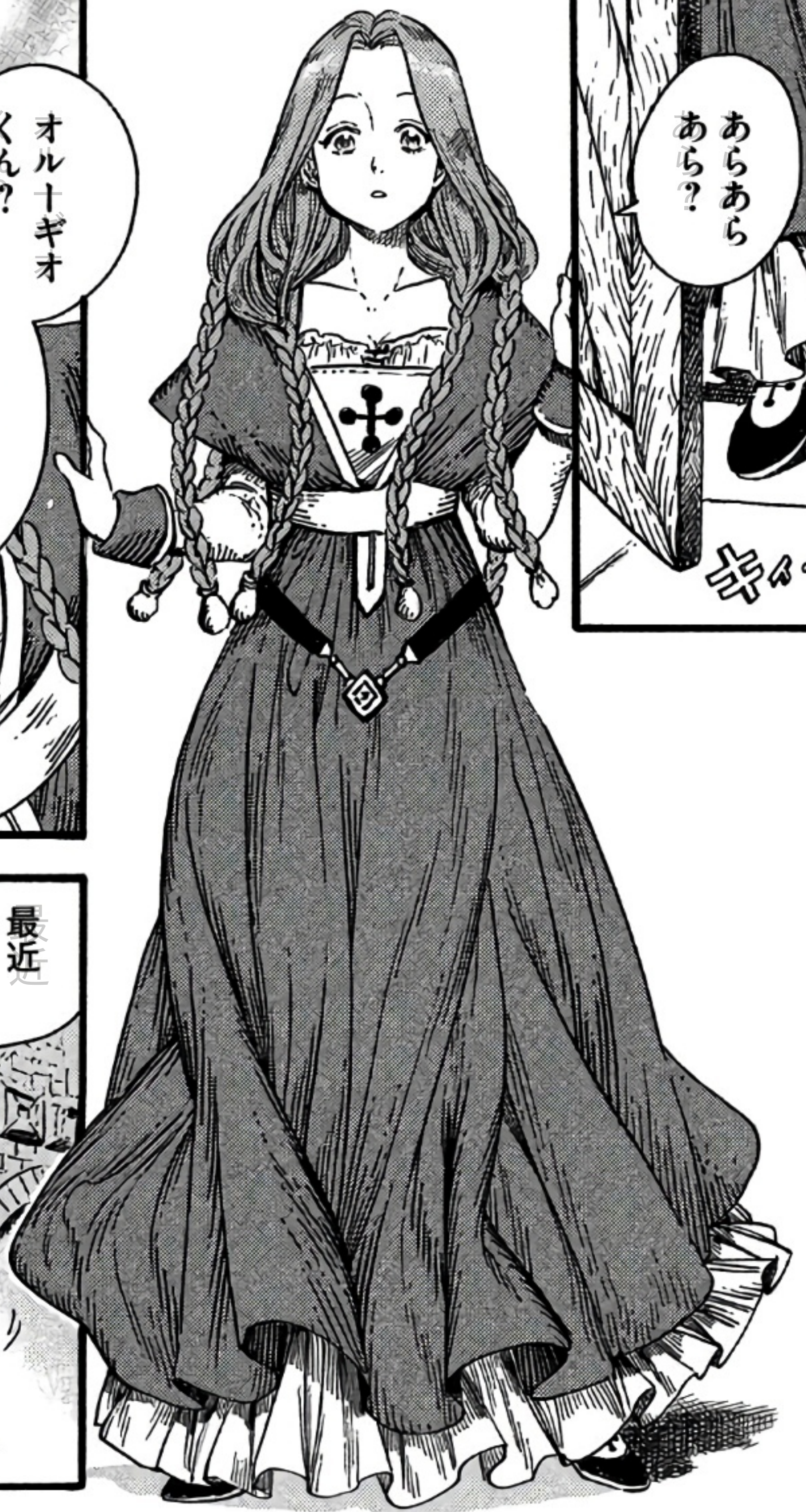
溺れる？

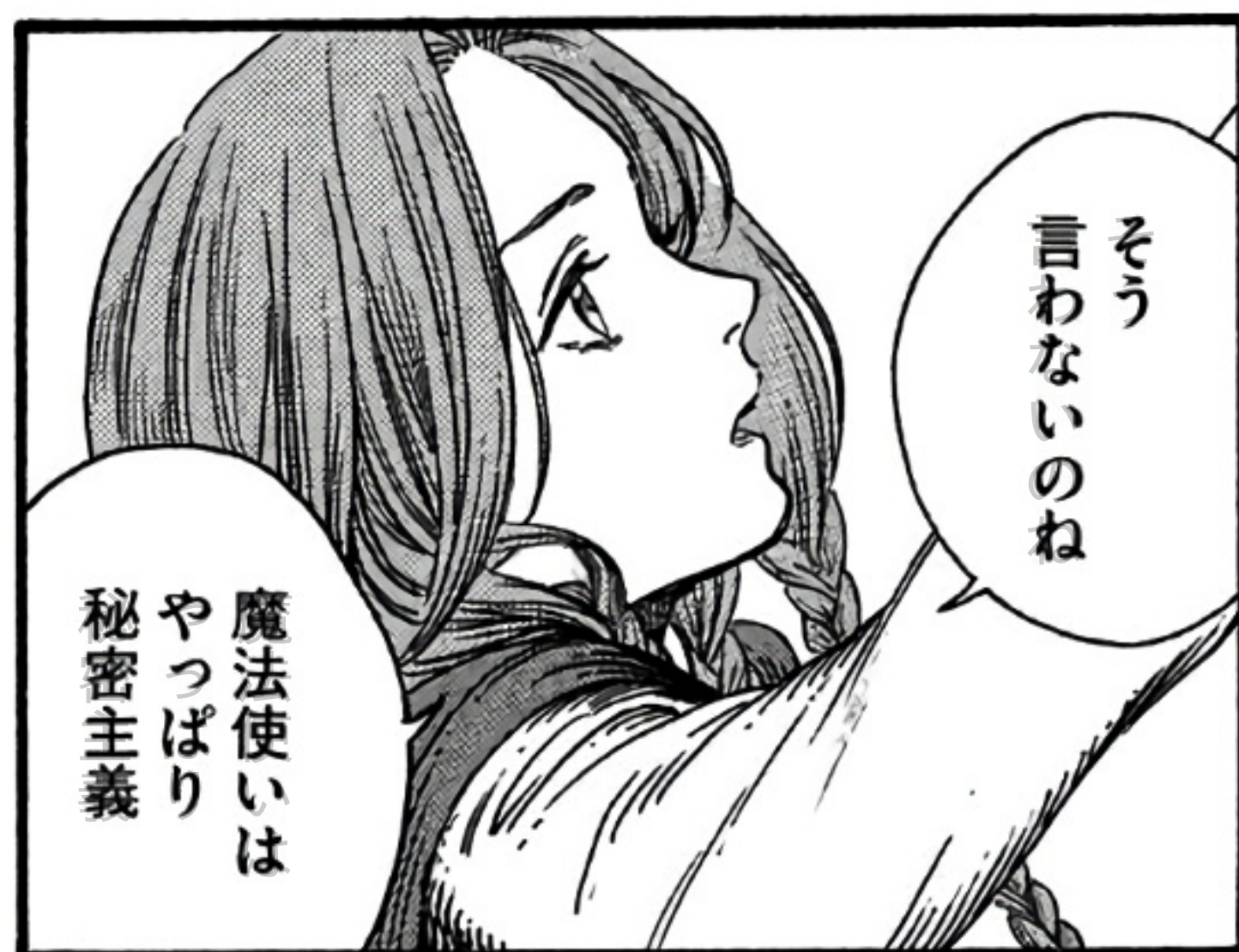
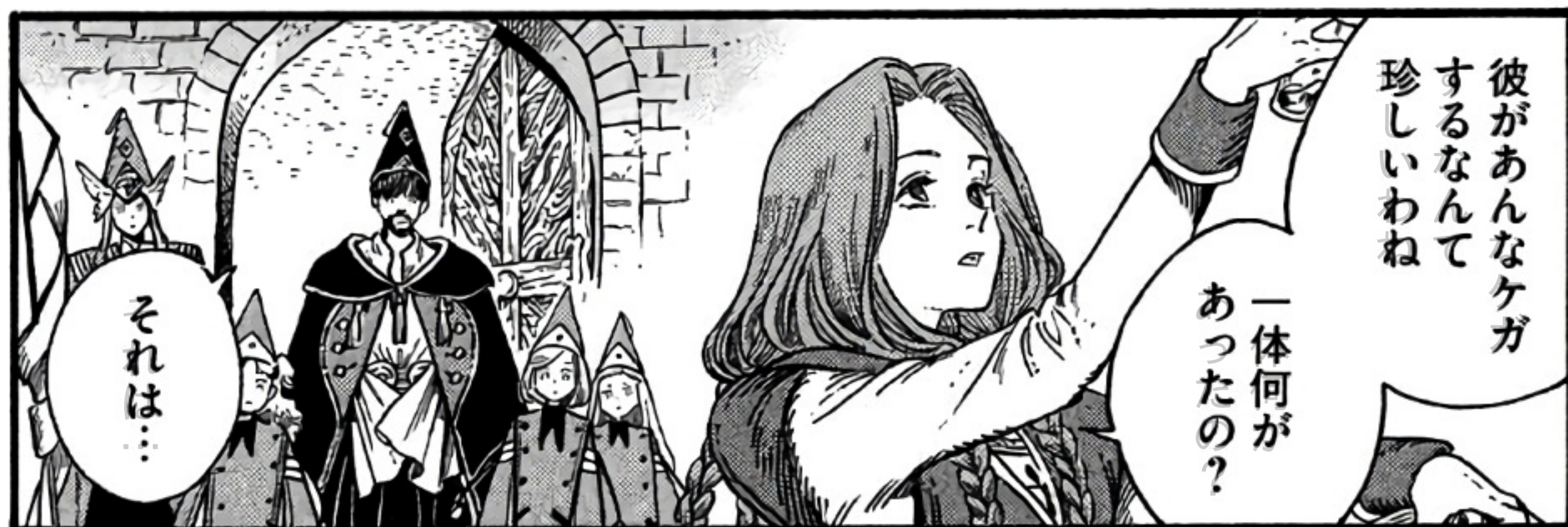
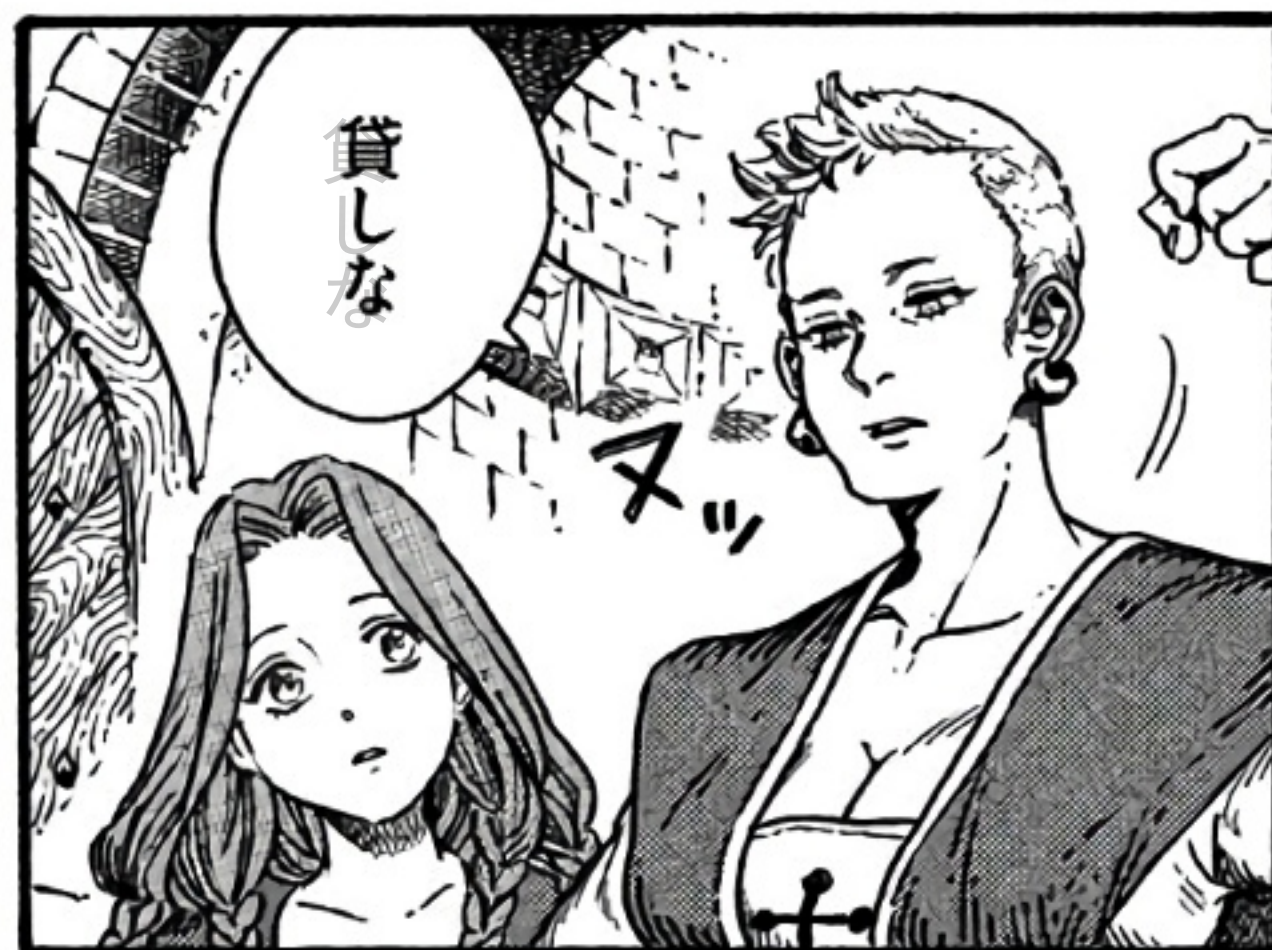
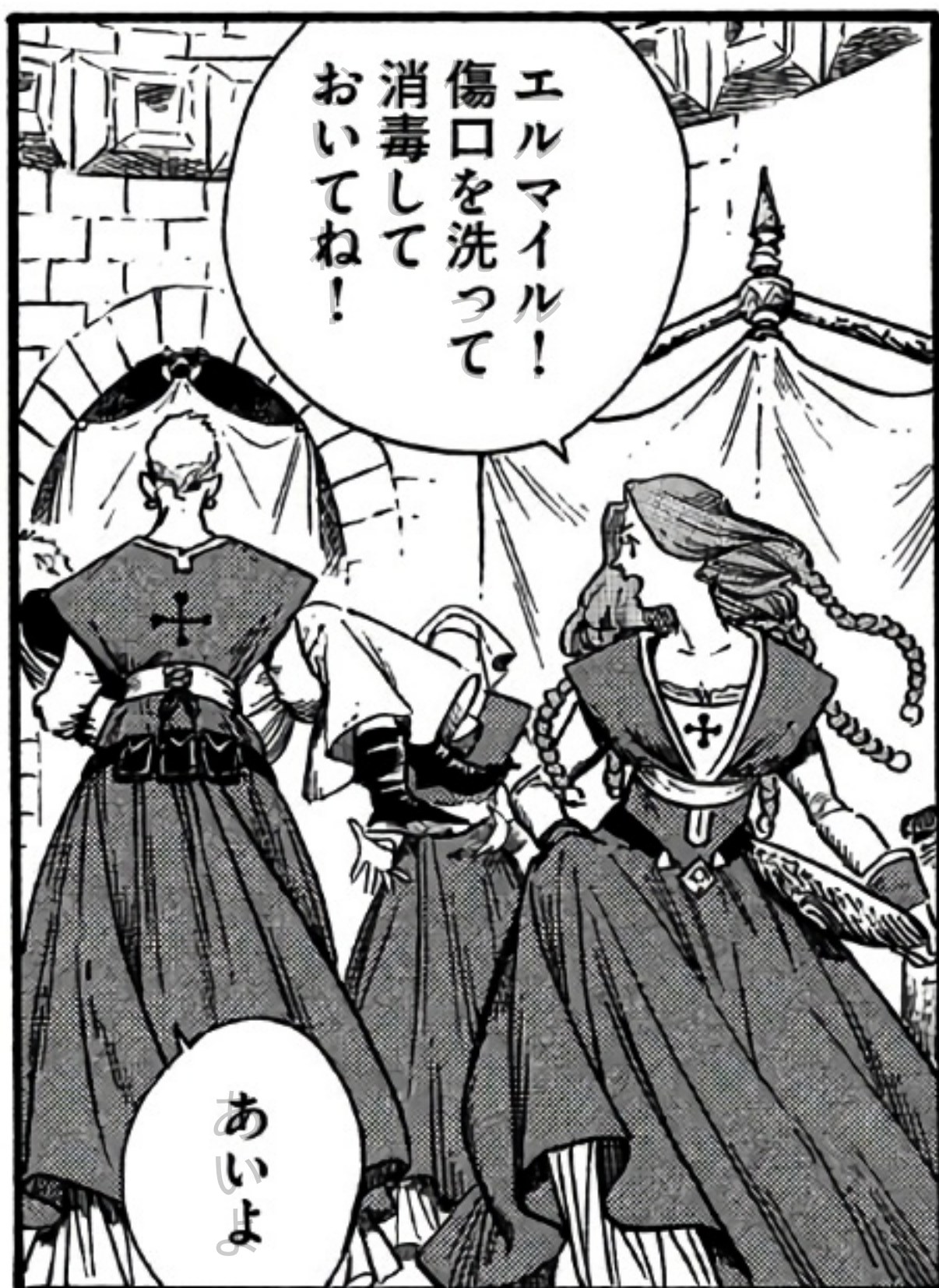


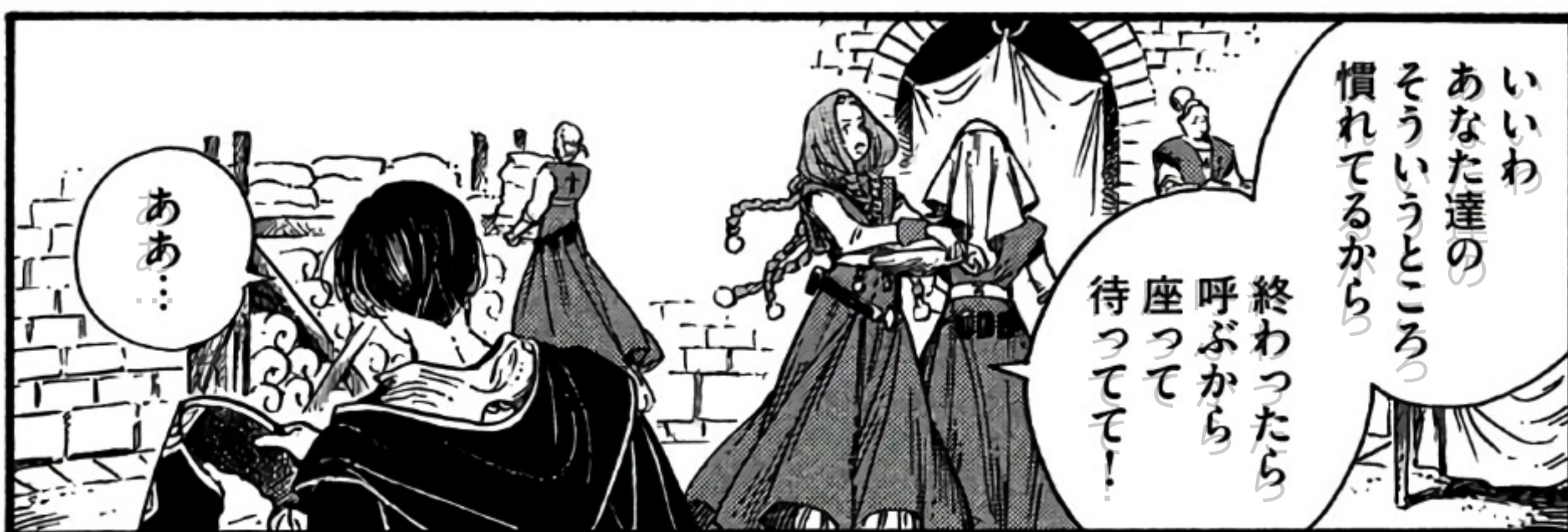












遠い昔

癒やしの魔法を
学ぶ魔法医の
ごく一部が

「人を救うため」
という大義名分を
掲げて

不老不死や
死者蘇生……
おぞましい人体実験
にまで手を出して

戦になつたのよ

結託の日……
人体そのものに
かける魔法が
禁止されたのは

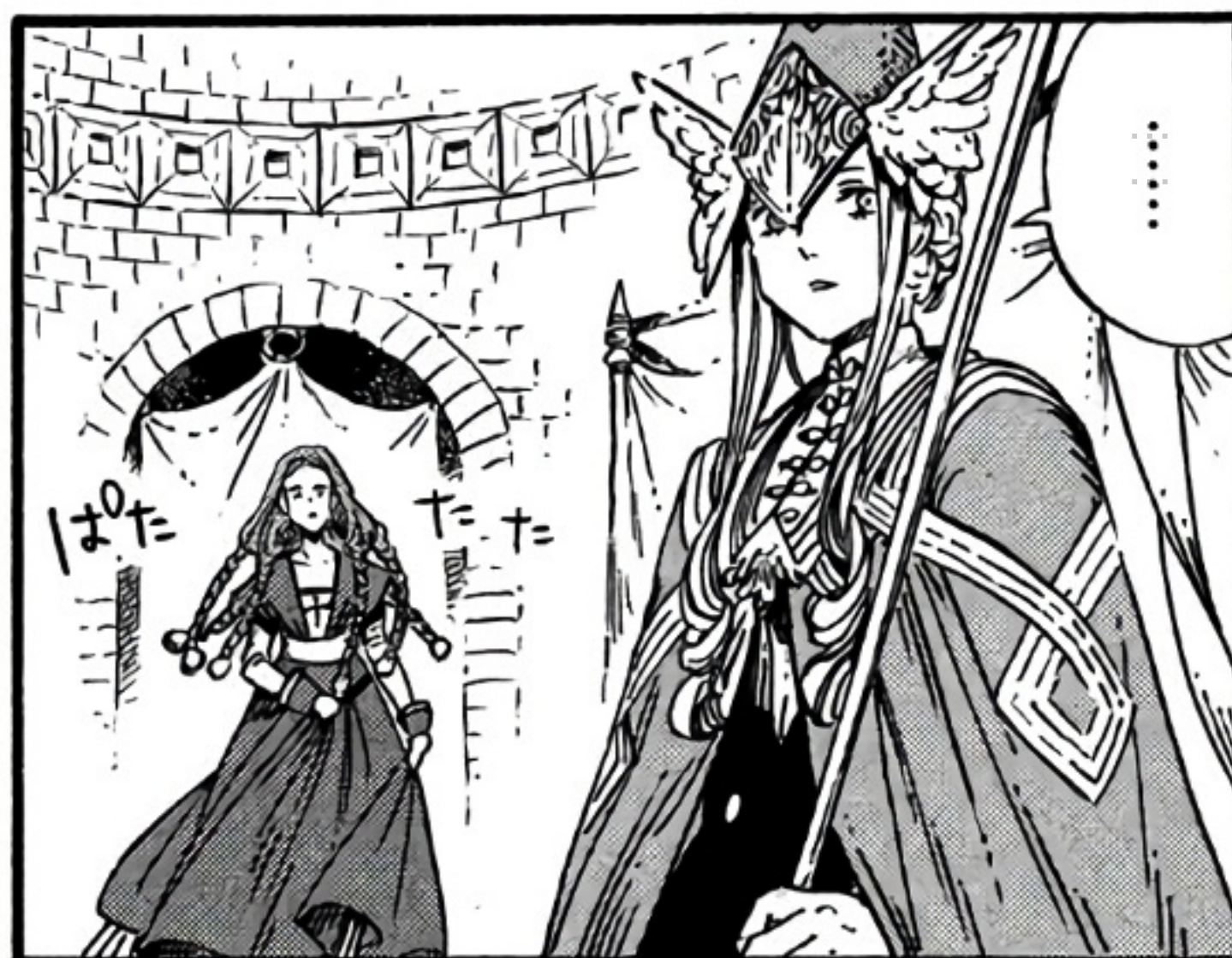
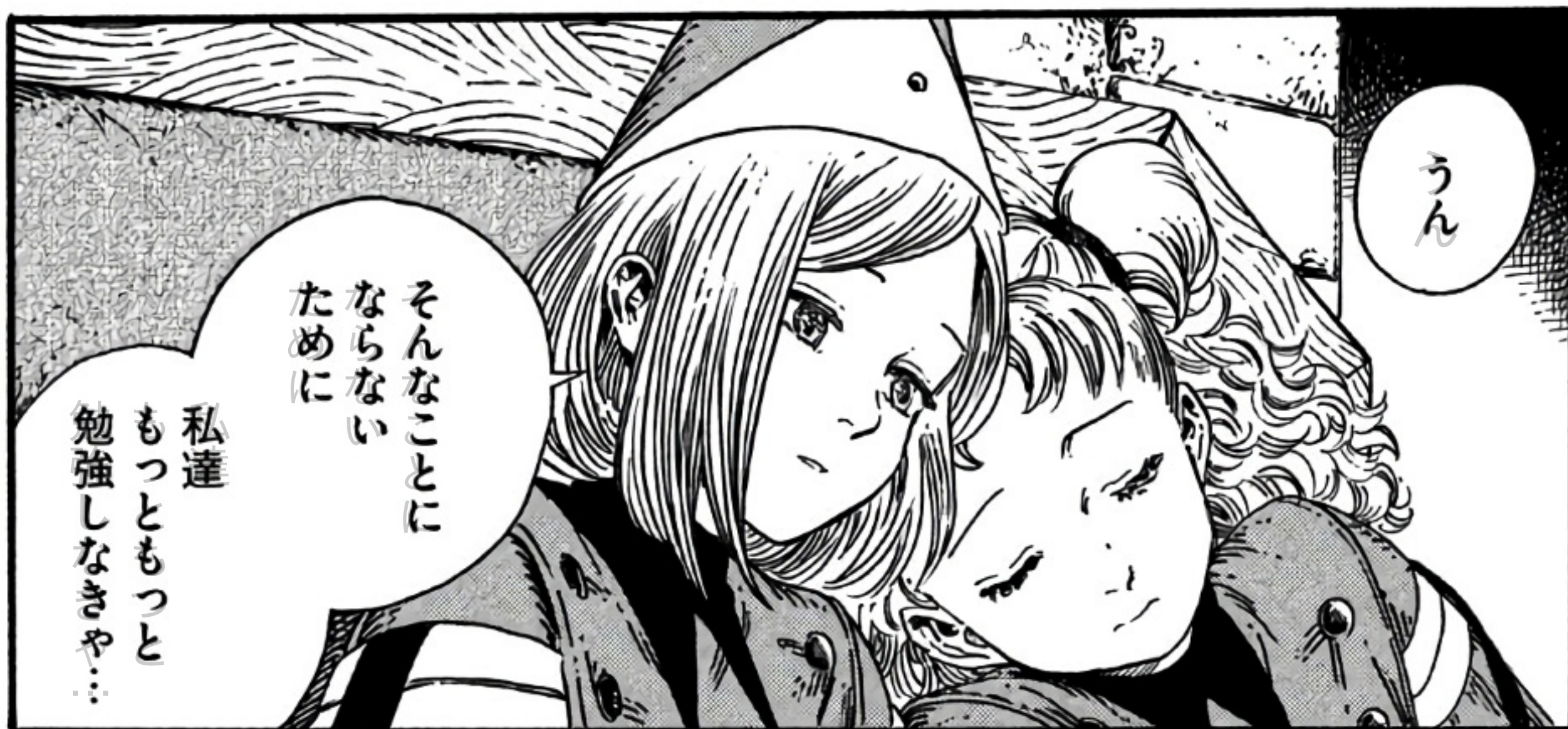
彼らの研究が
あまりにも
危険なものだつた
からと言われて
いるわ

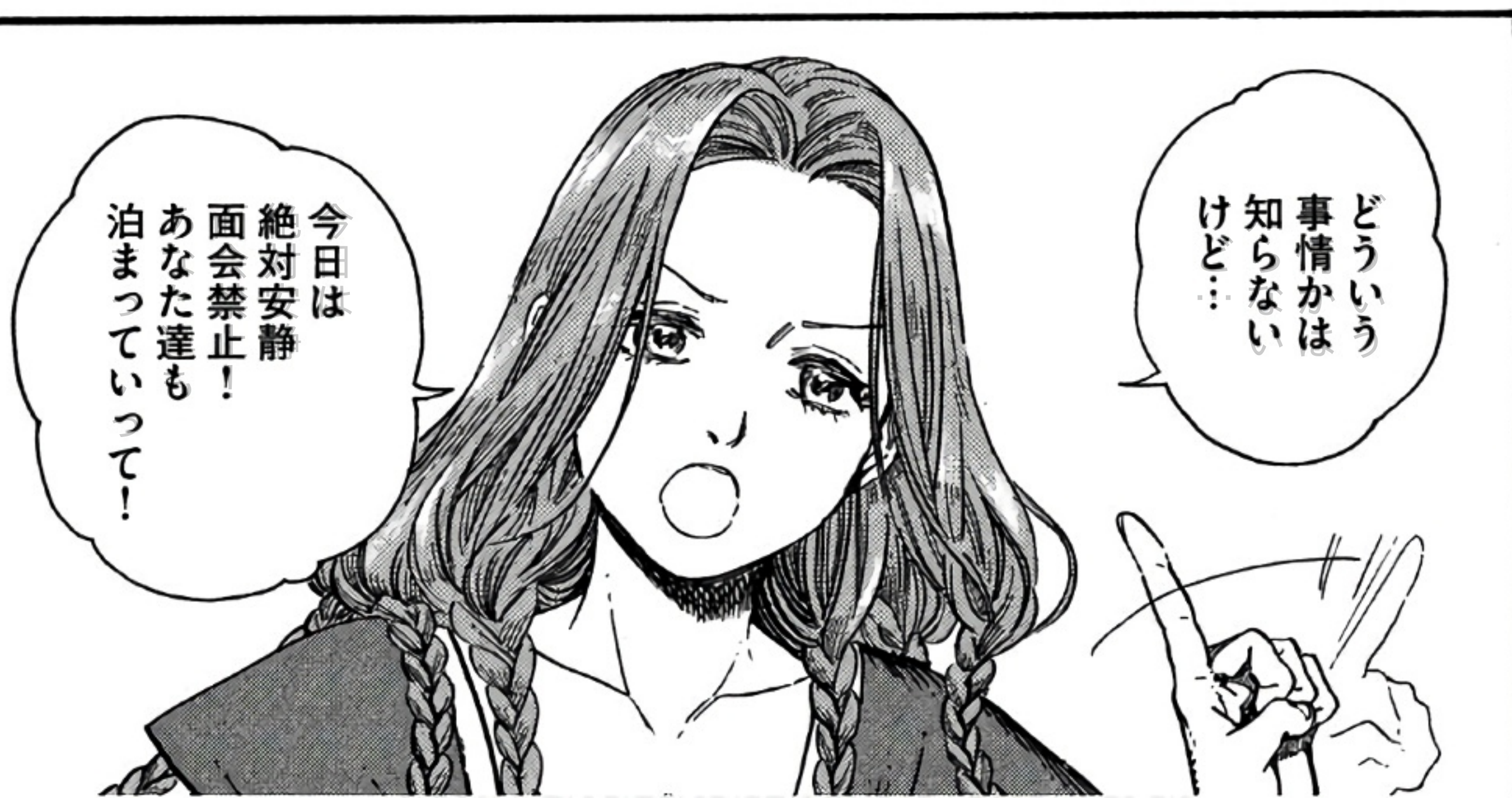
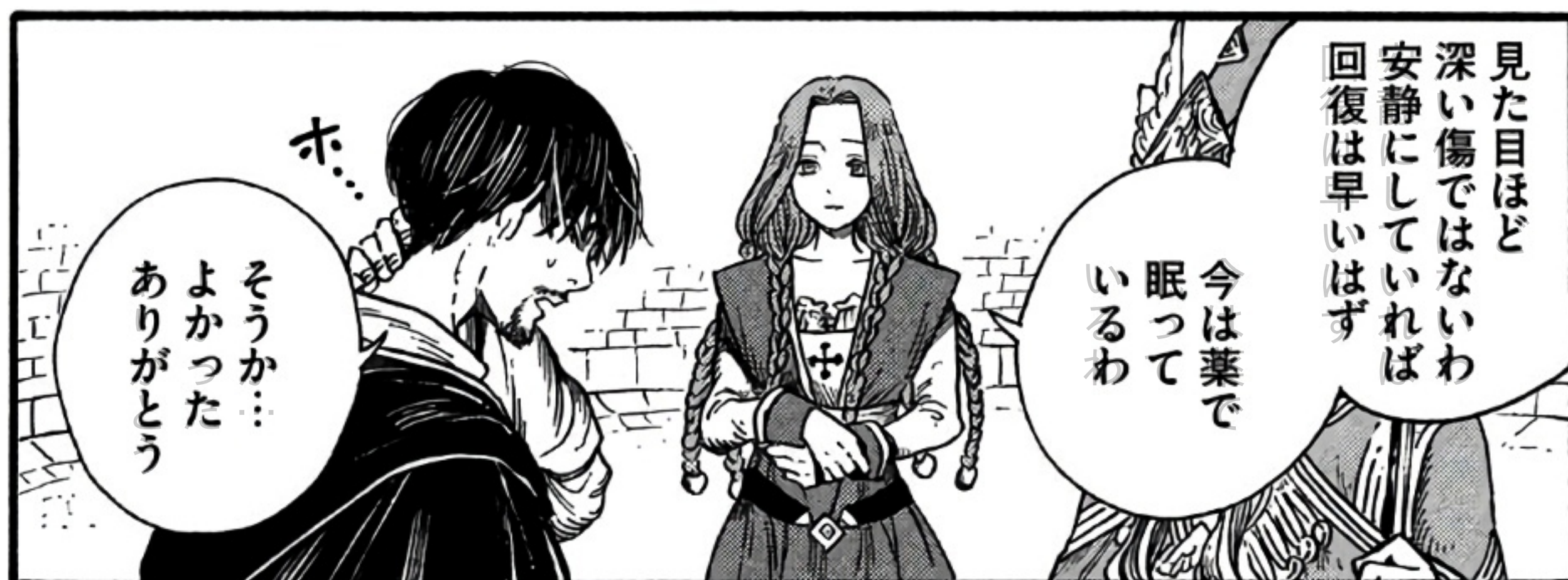
そうです……
それ以来
魔法使いは
医師を
医術を

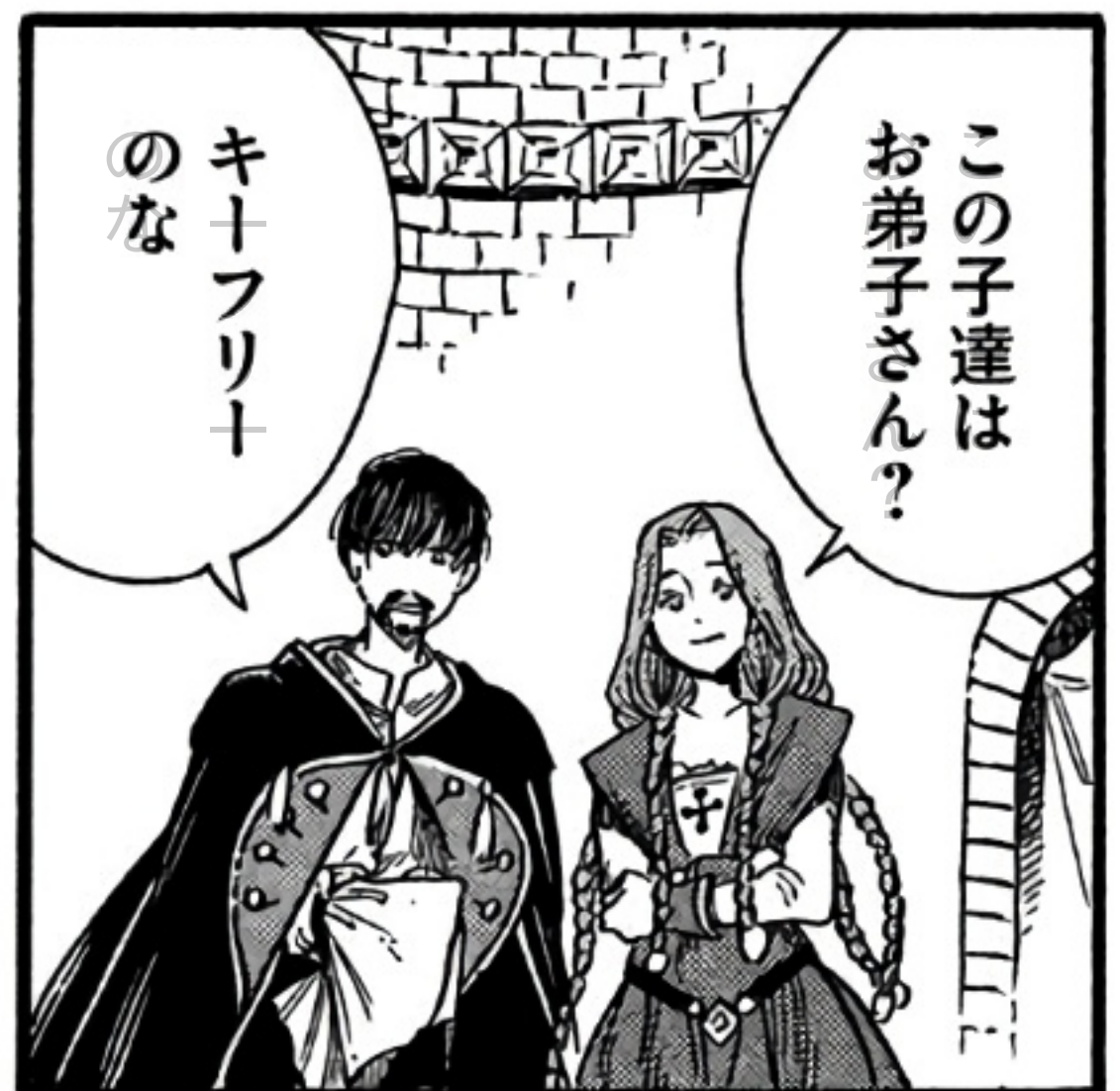
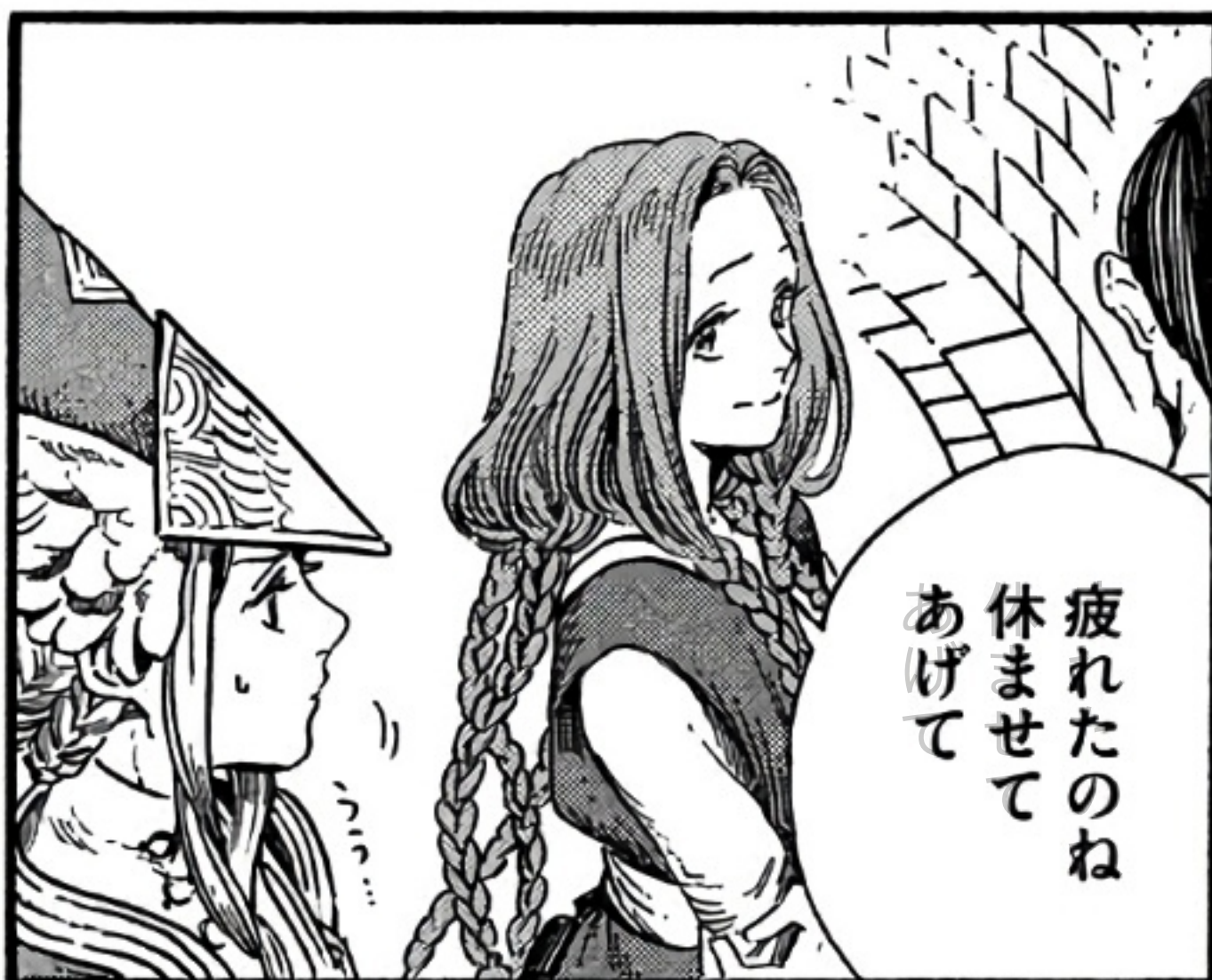
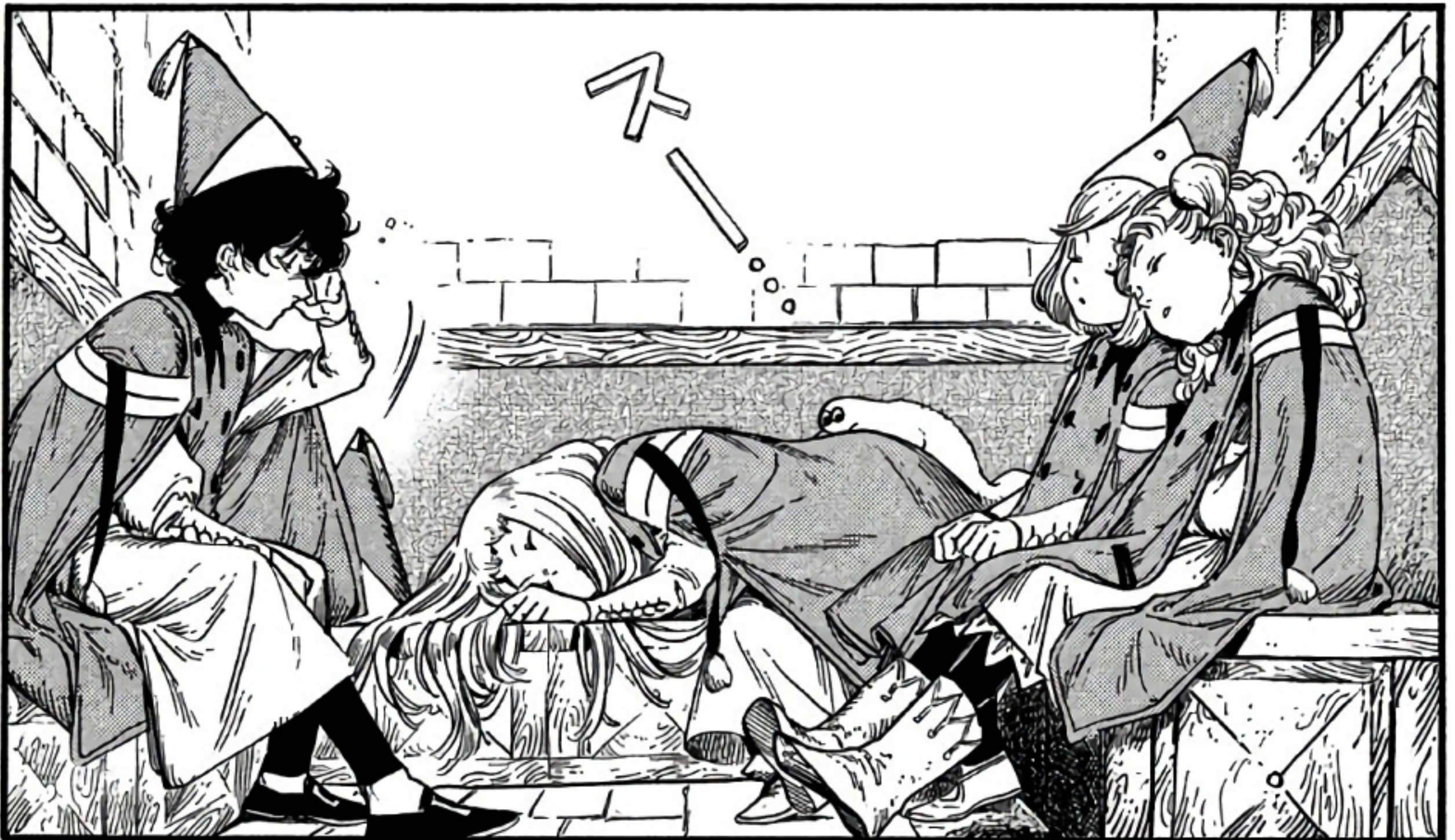
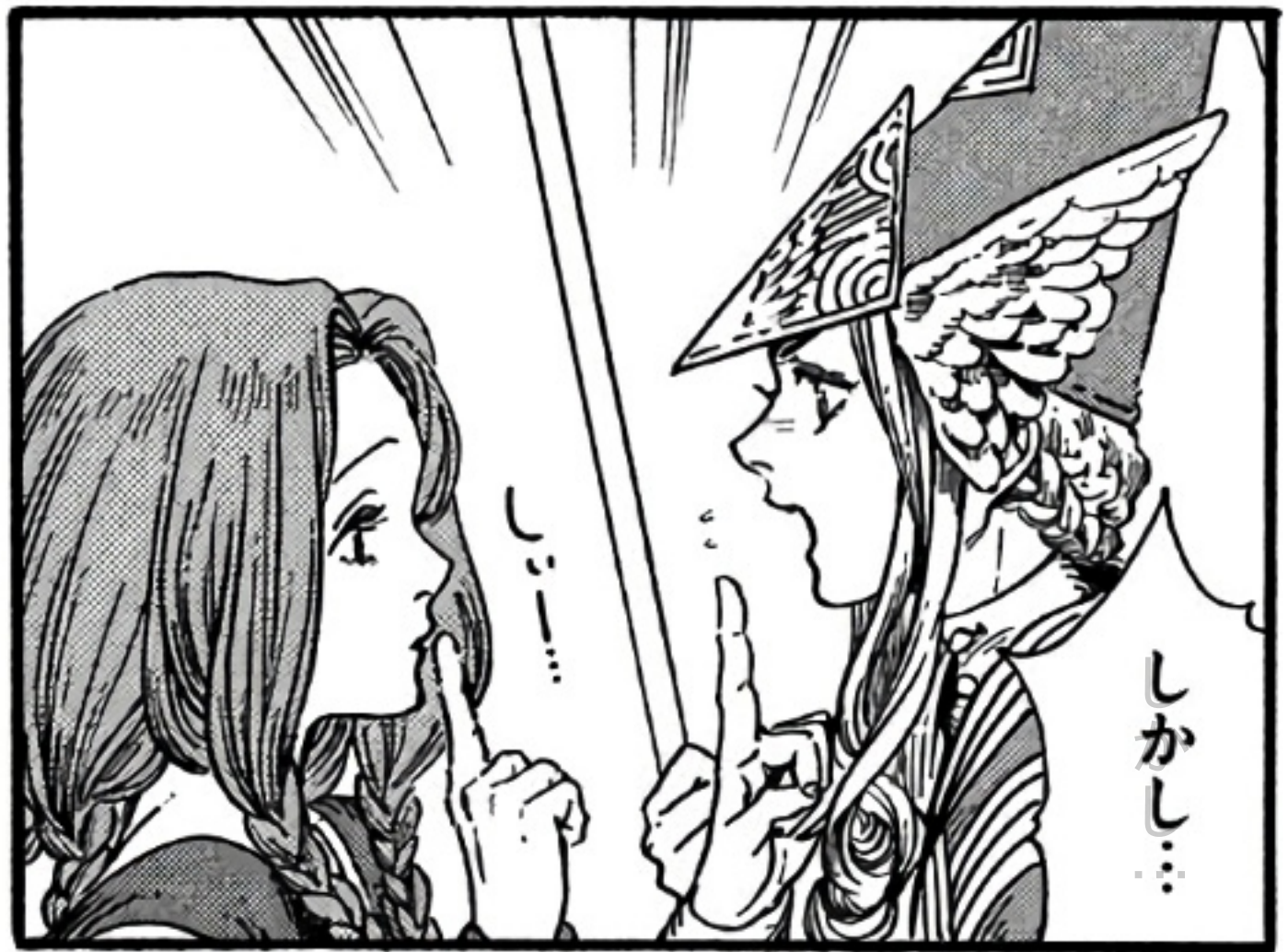
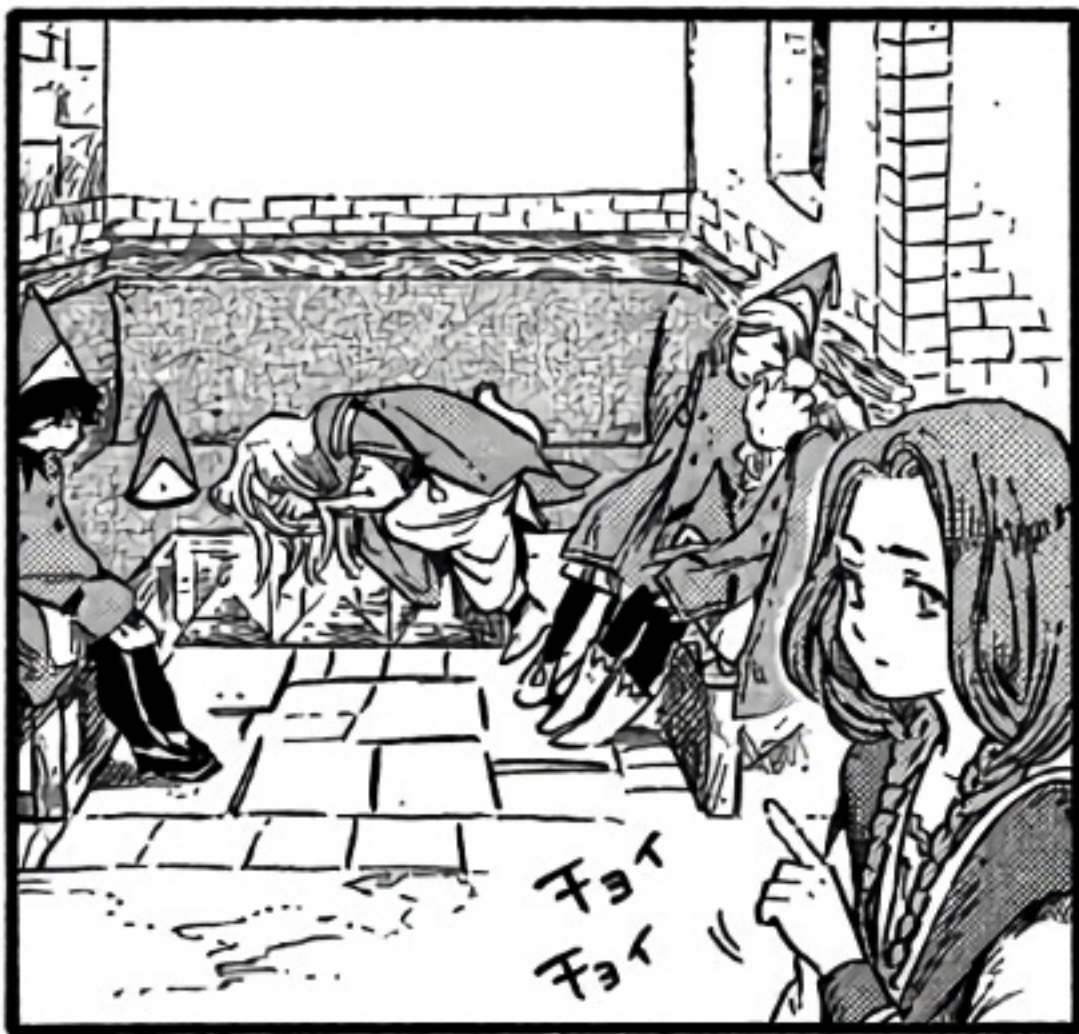
医師を志す者は
魔法を学んでは
いけない決まりに
なつたのです！

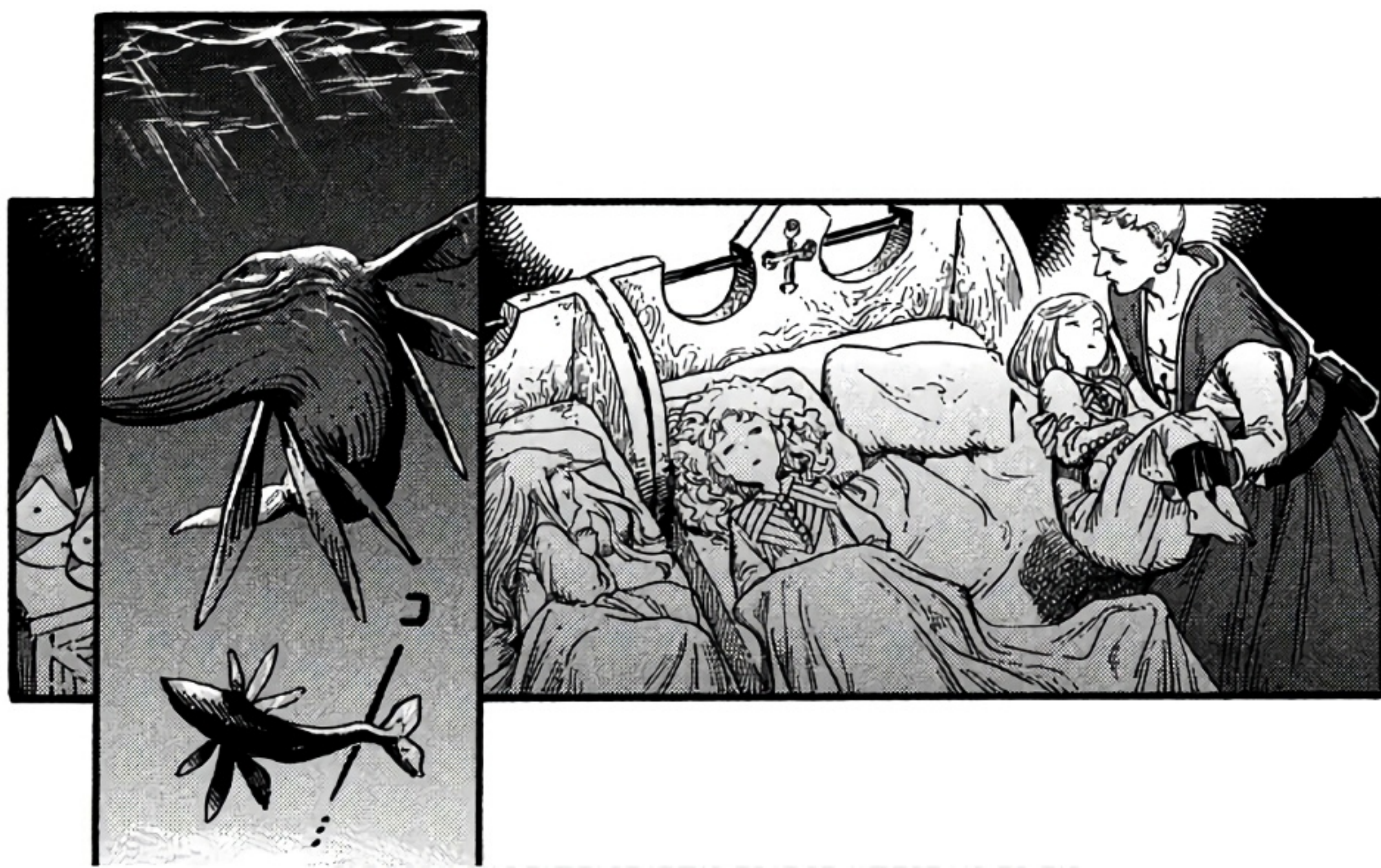
これは
基礎クラスで
学ぶ魔法史
ですよ！

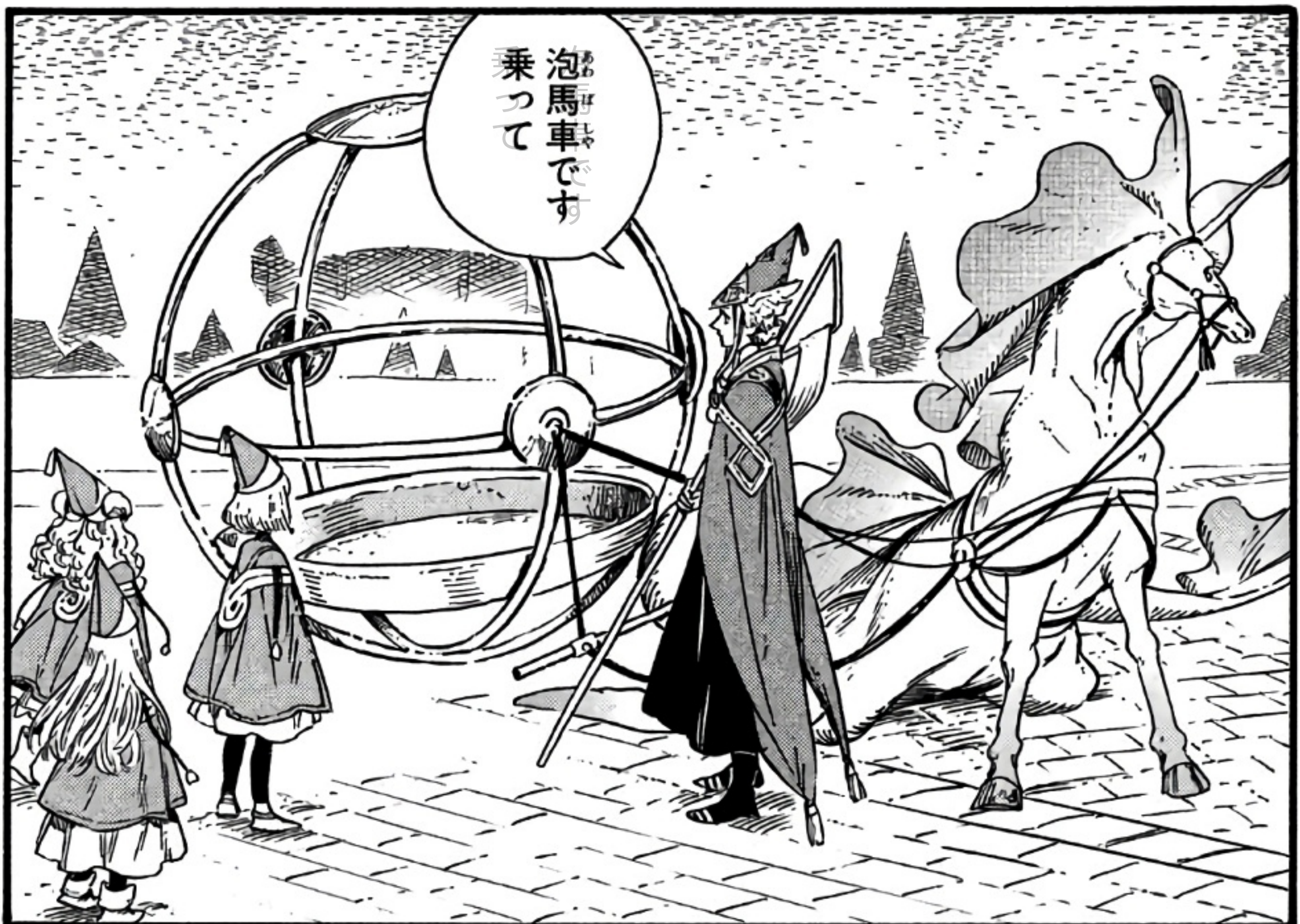
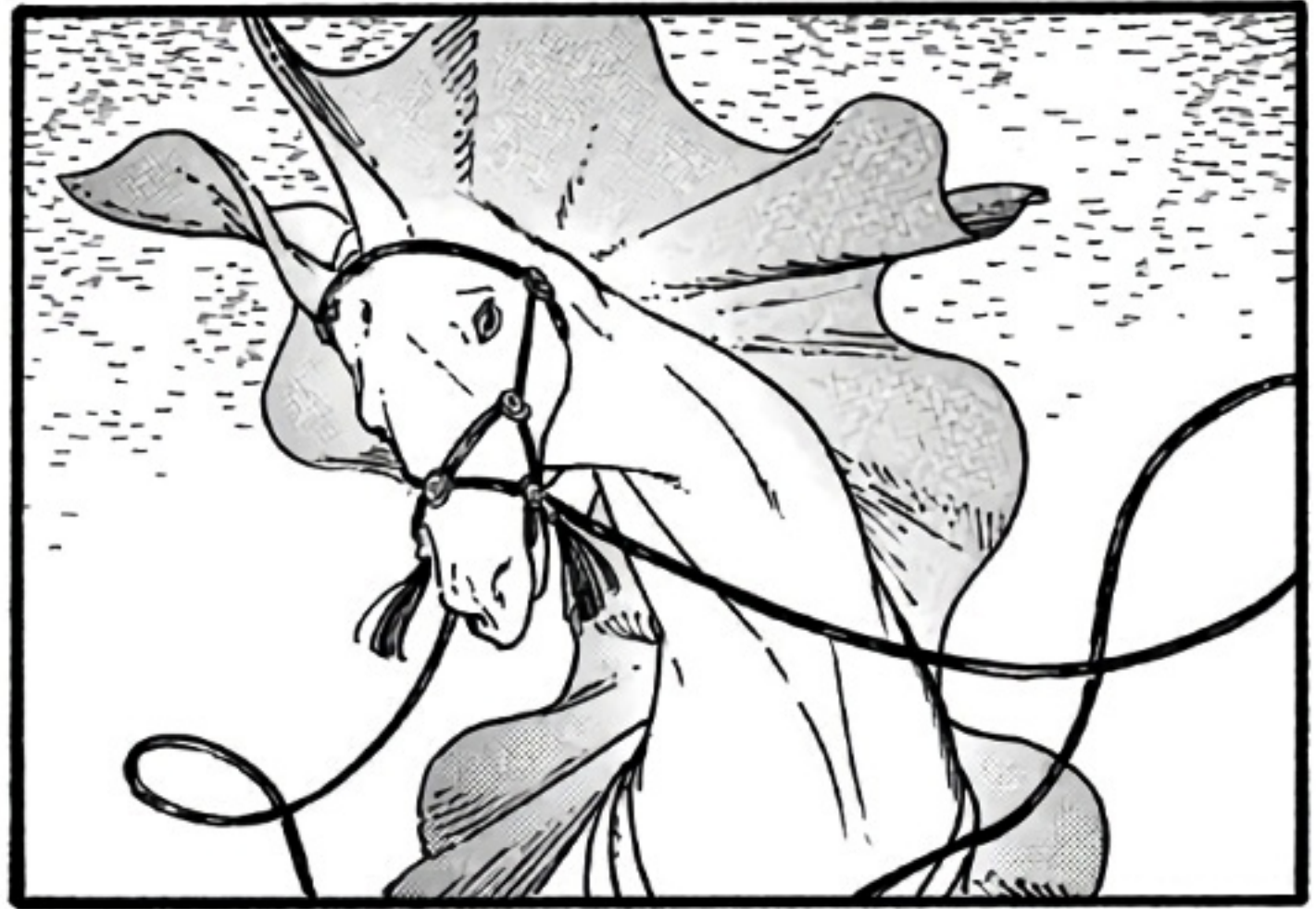
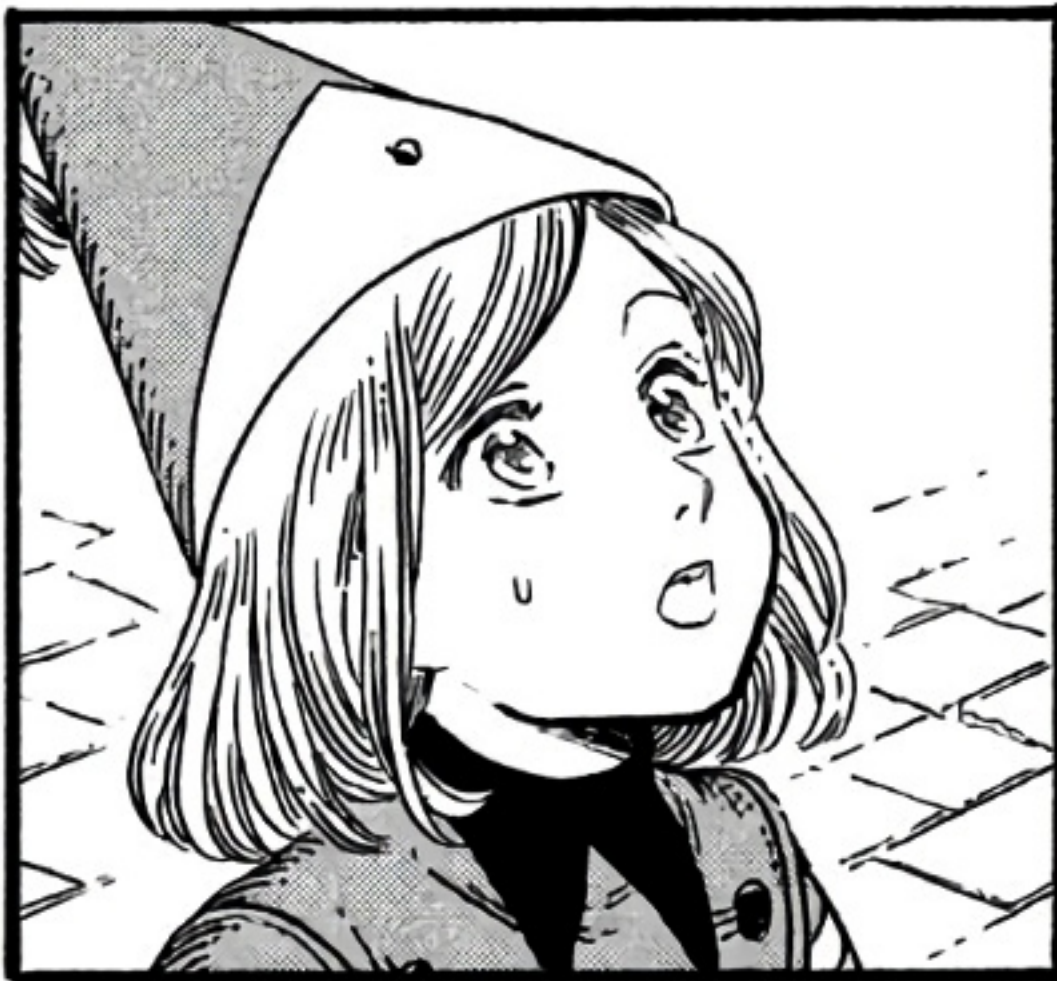
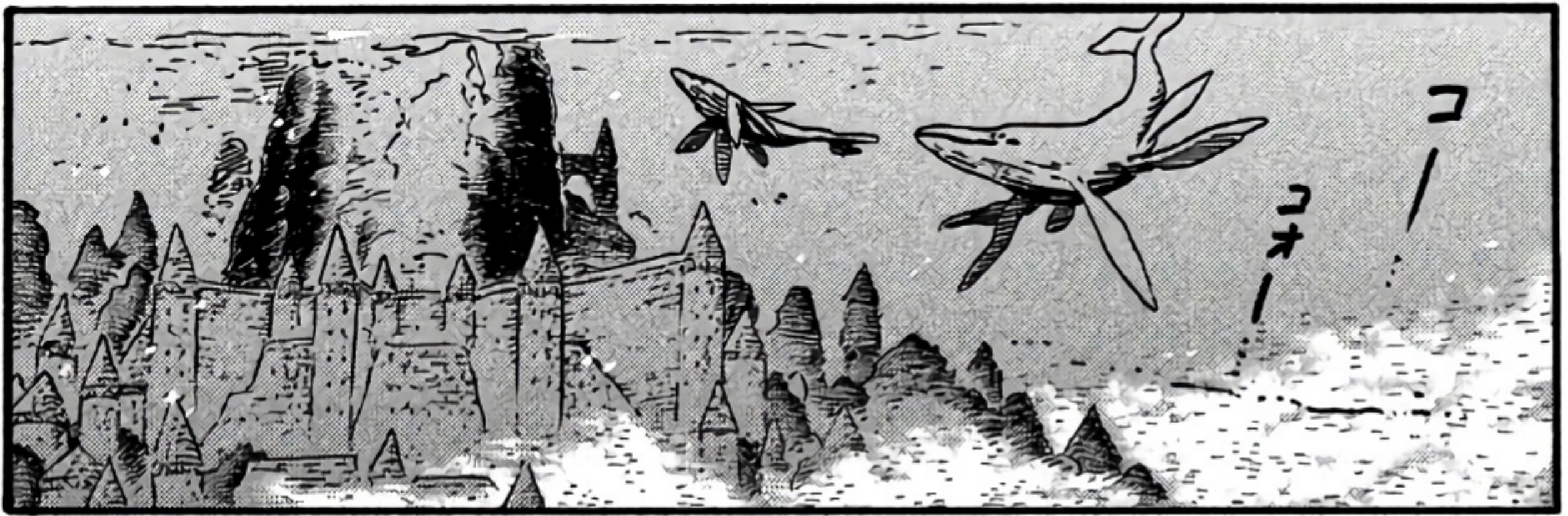
あいつ……

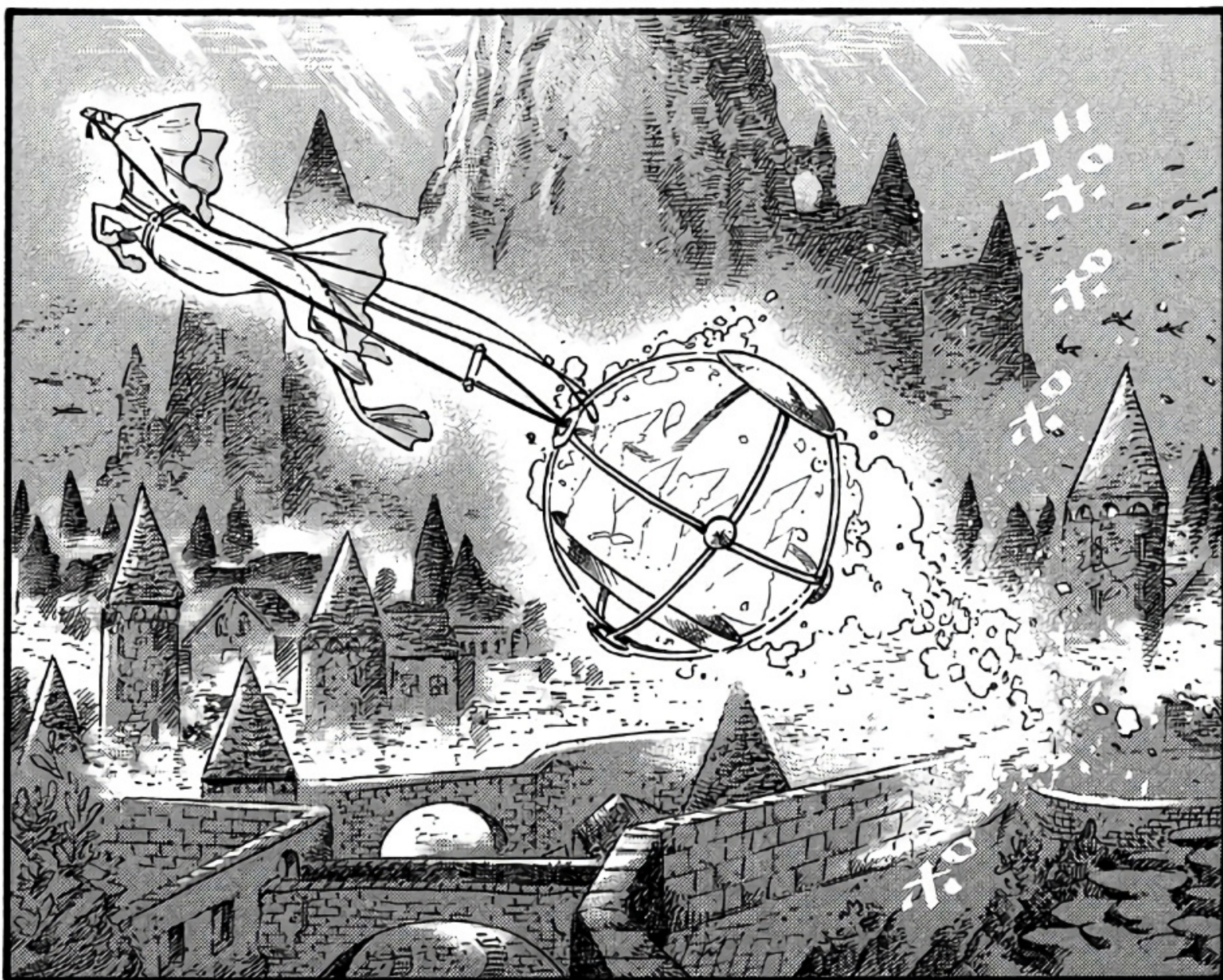
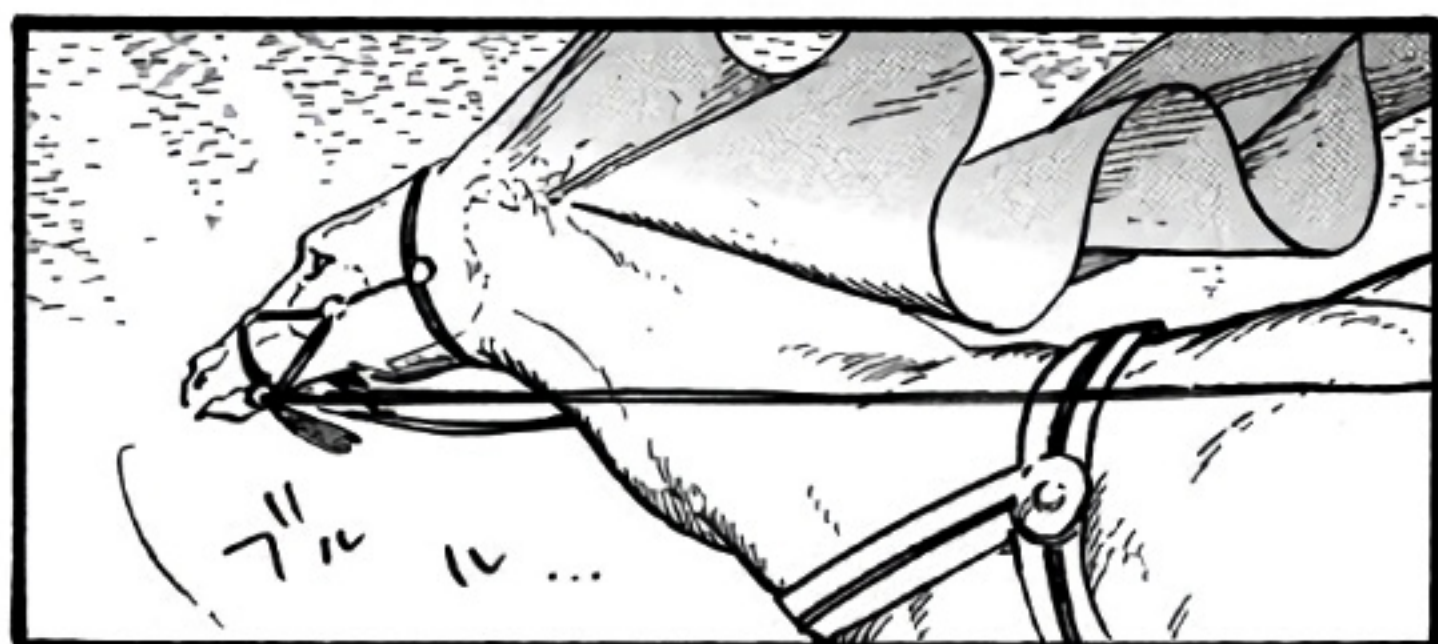
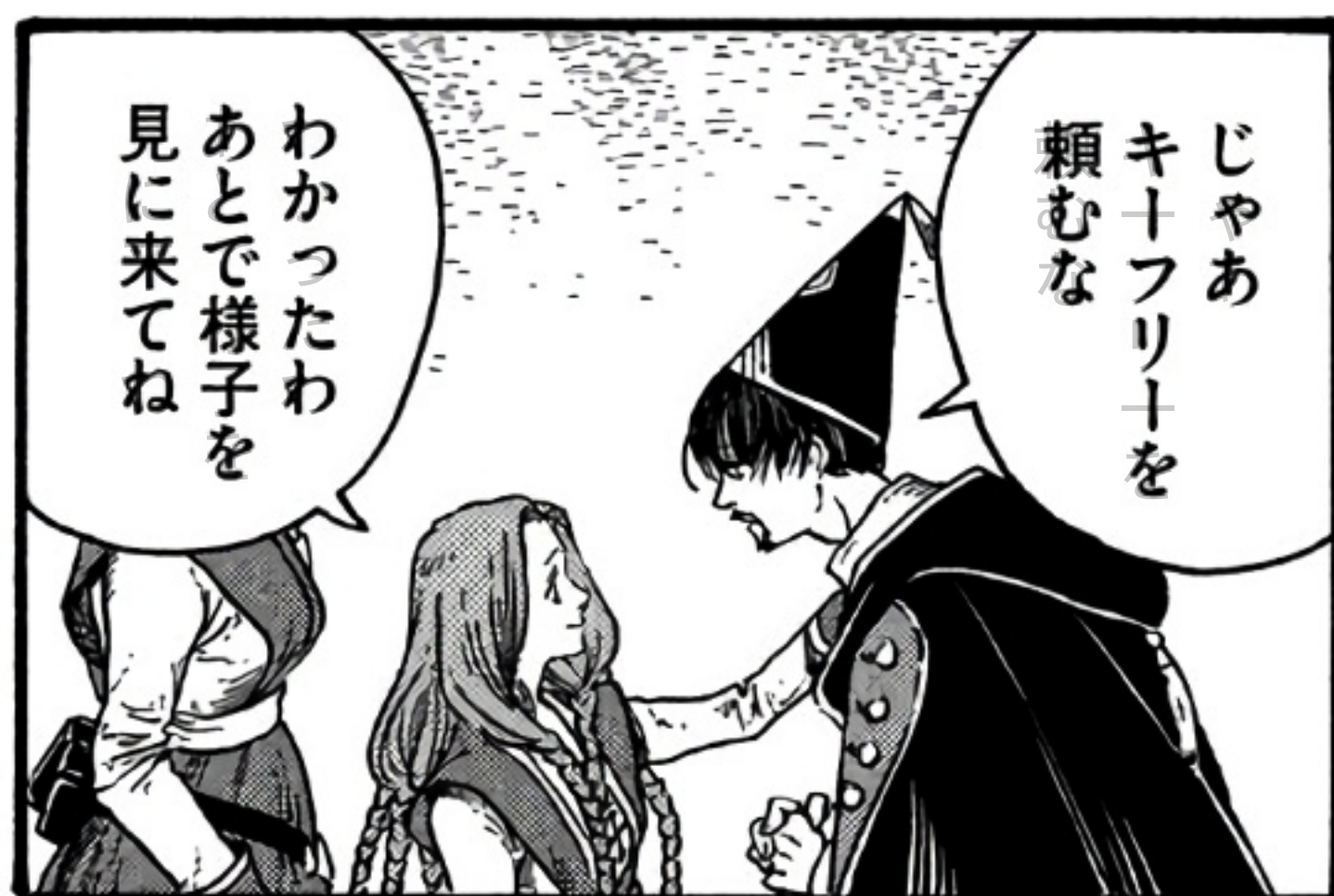






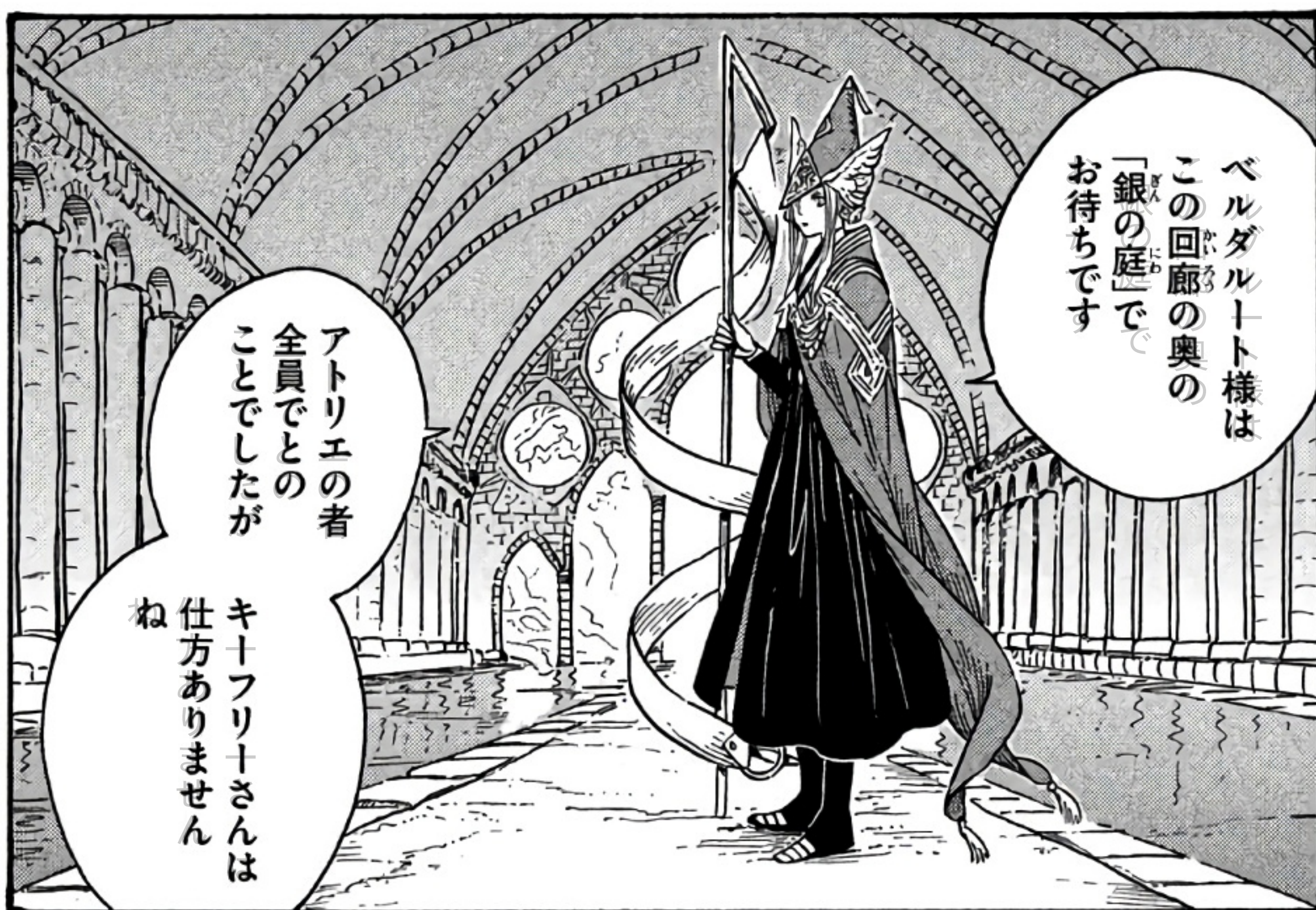
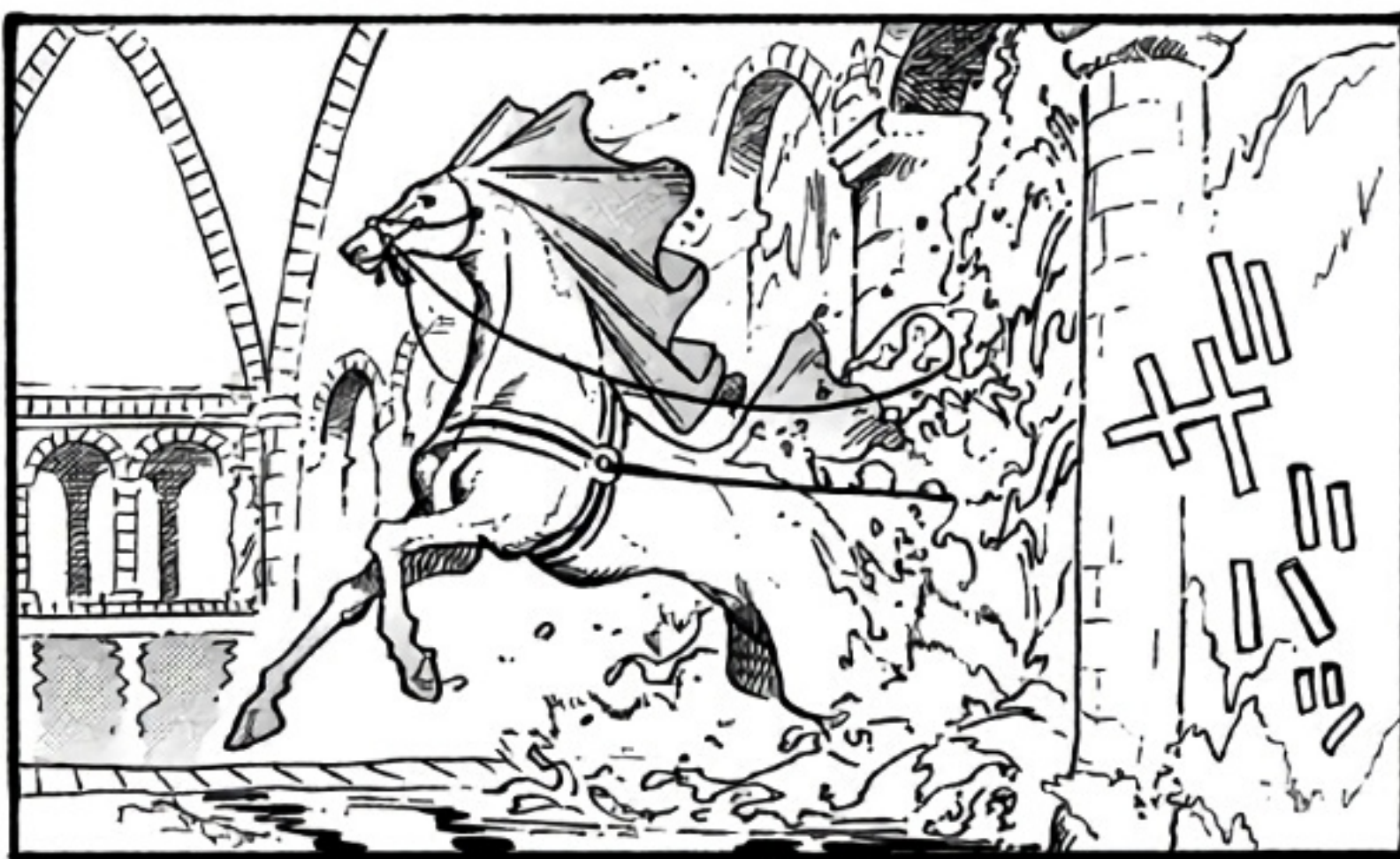
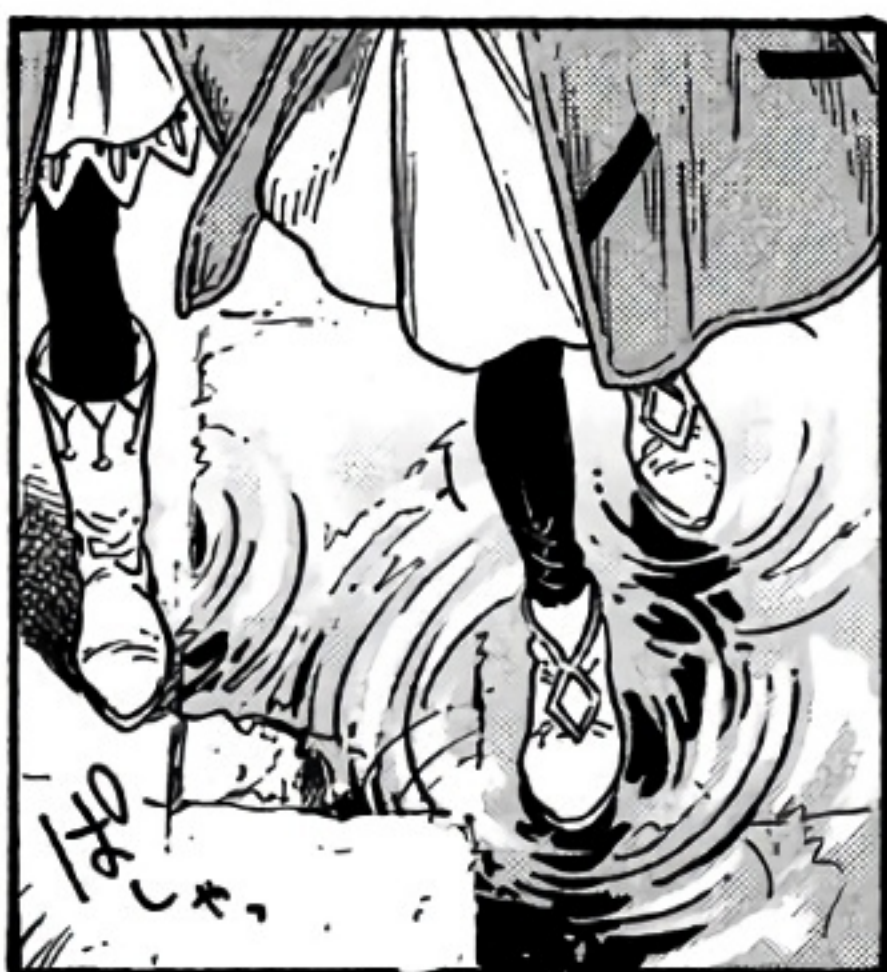
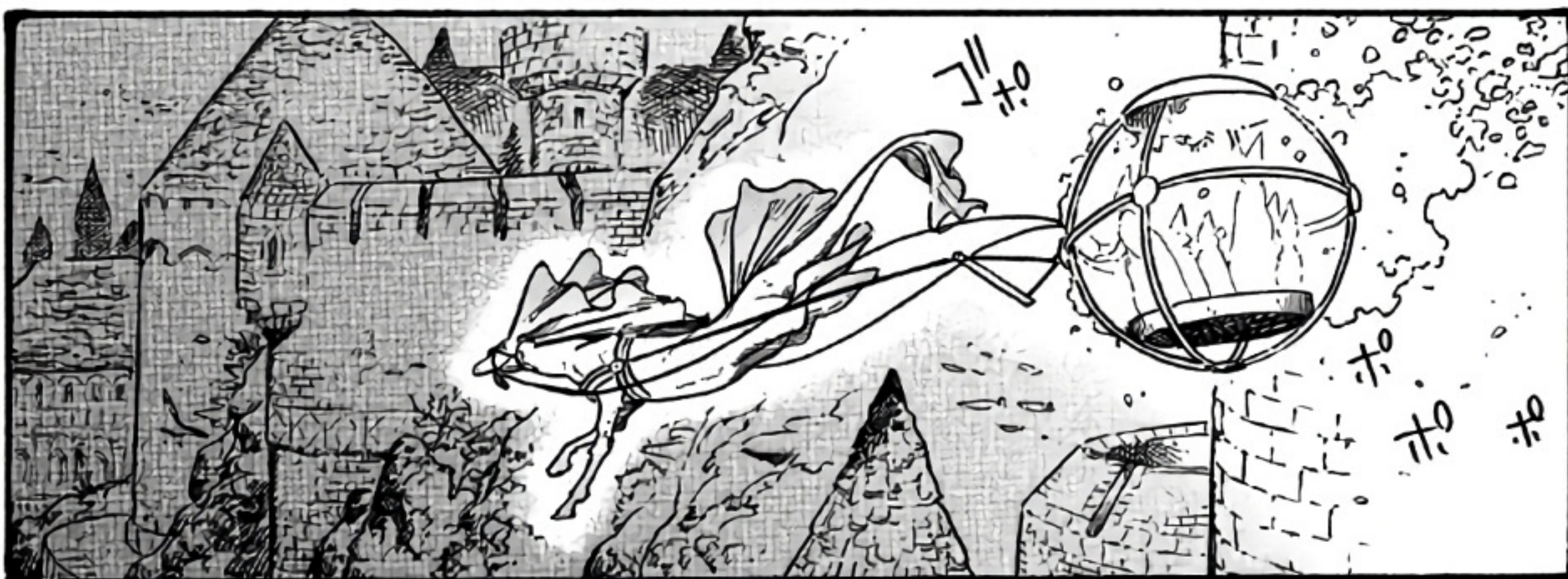


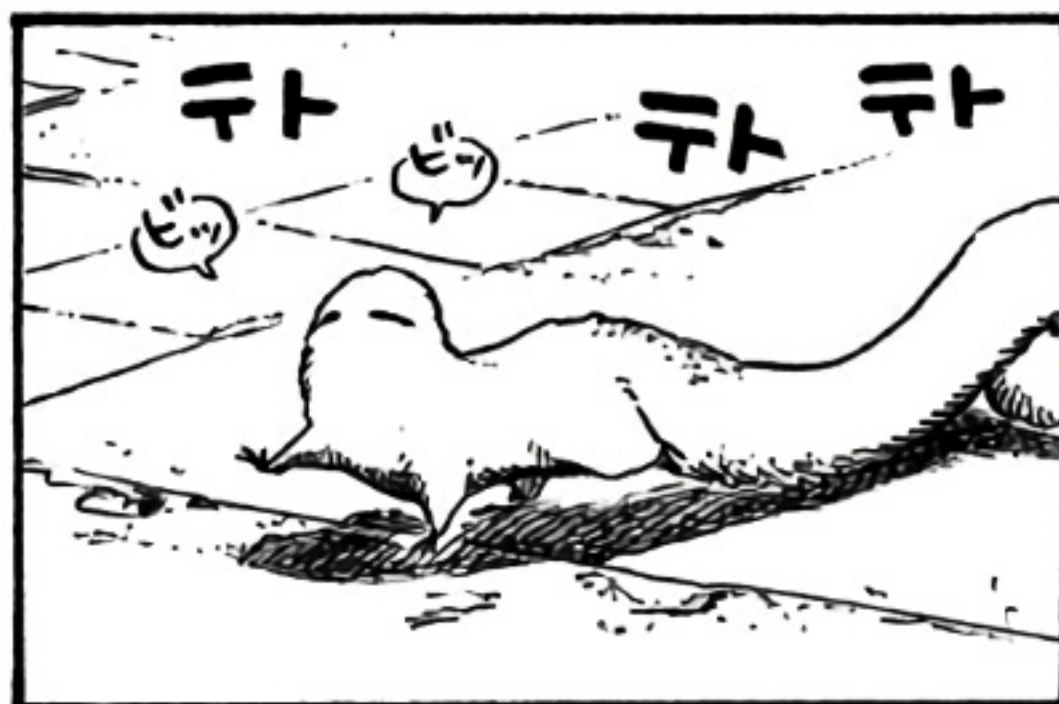
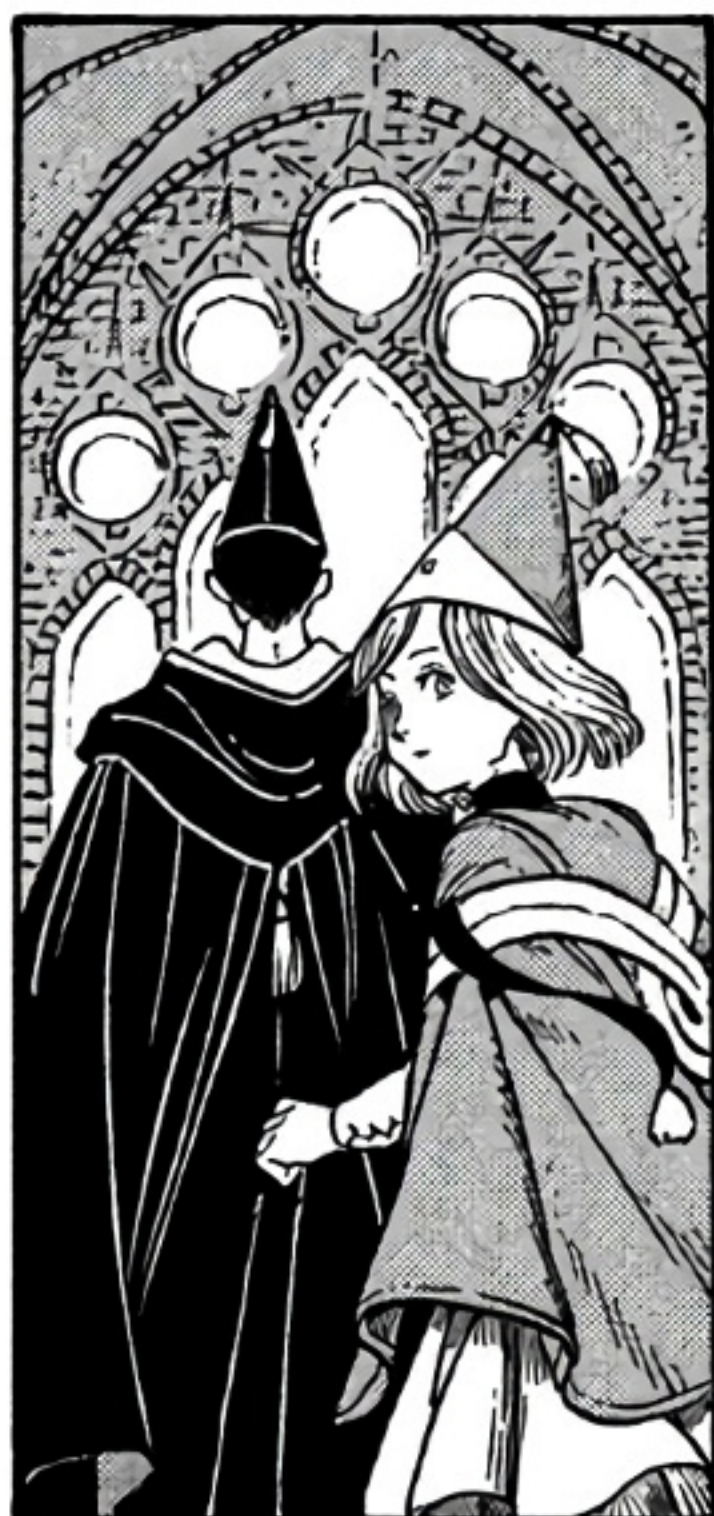


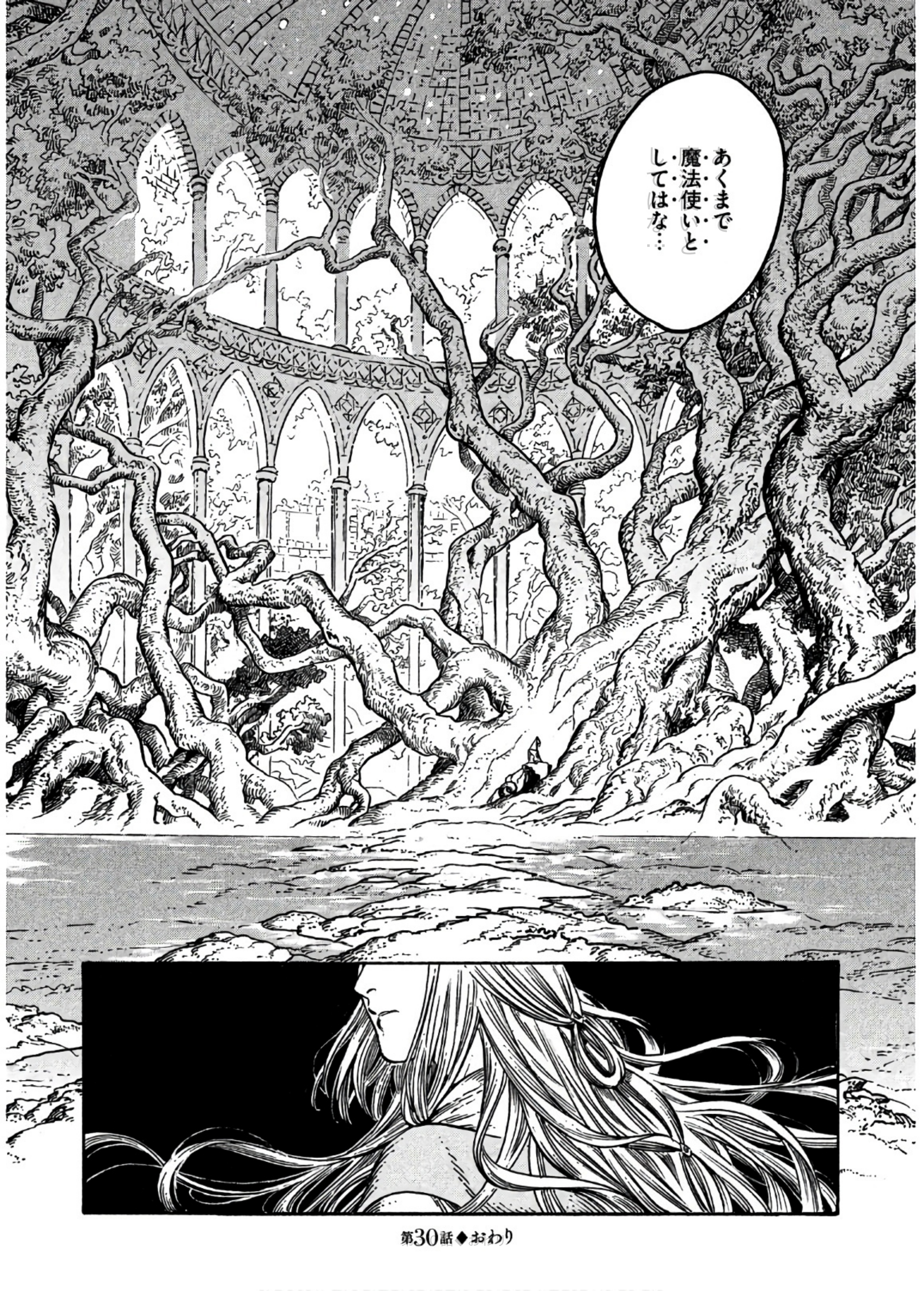








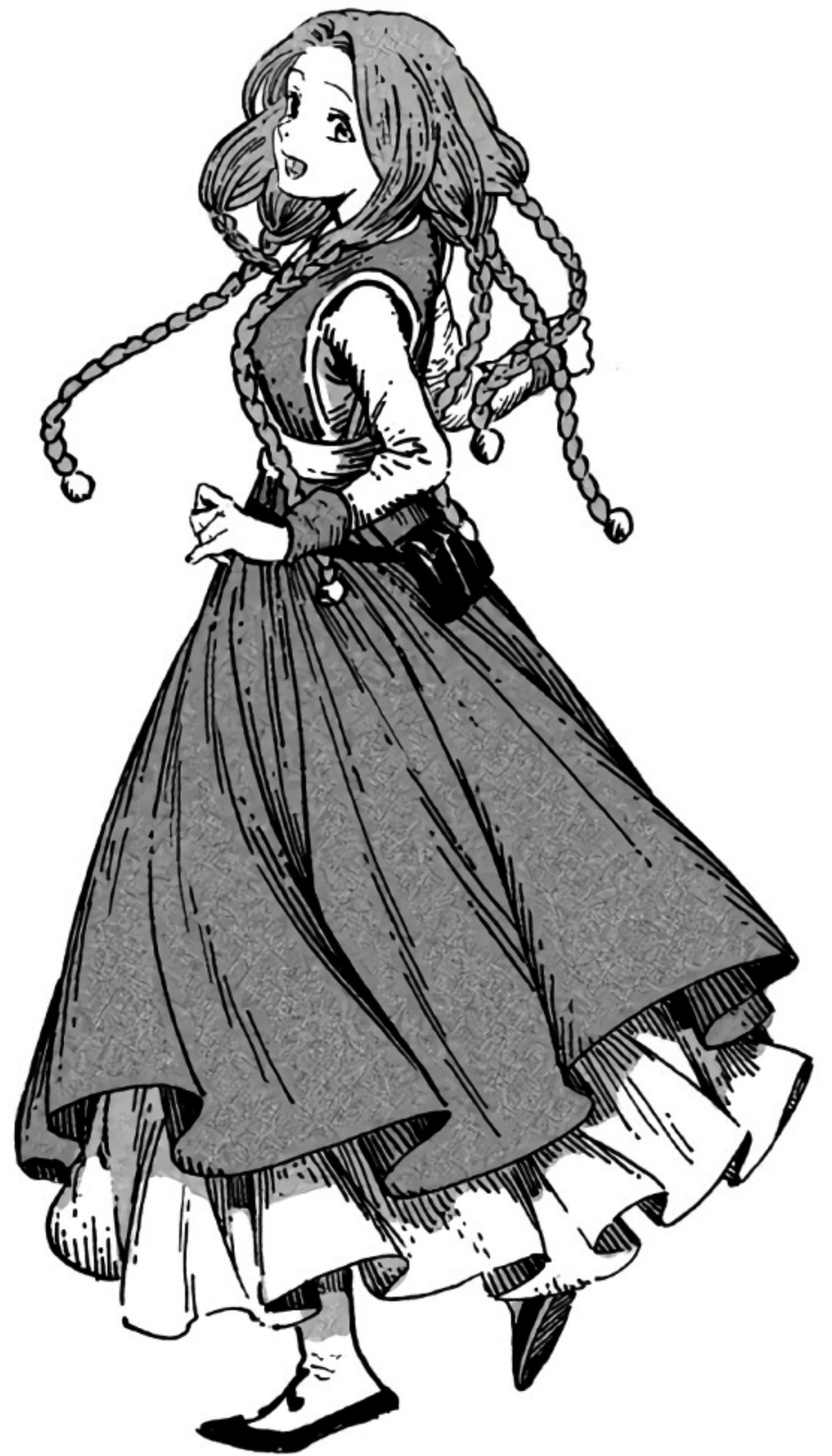


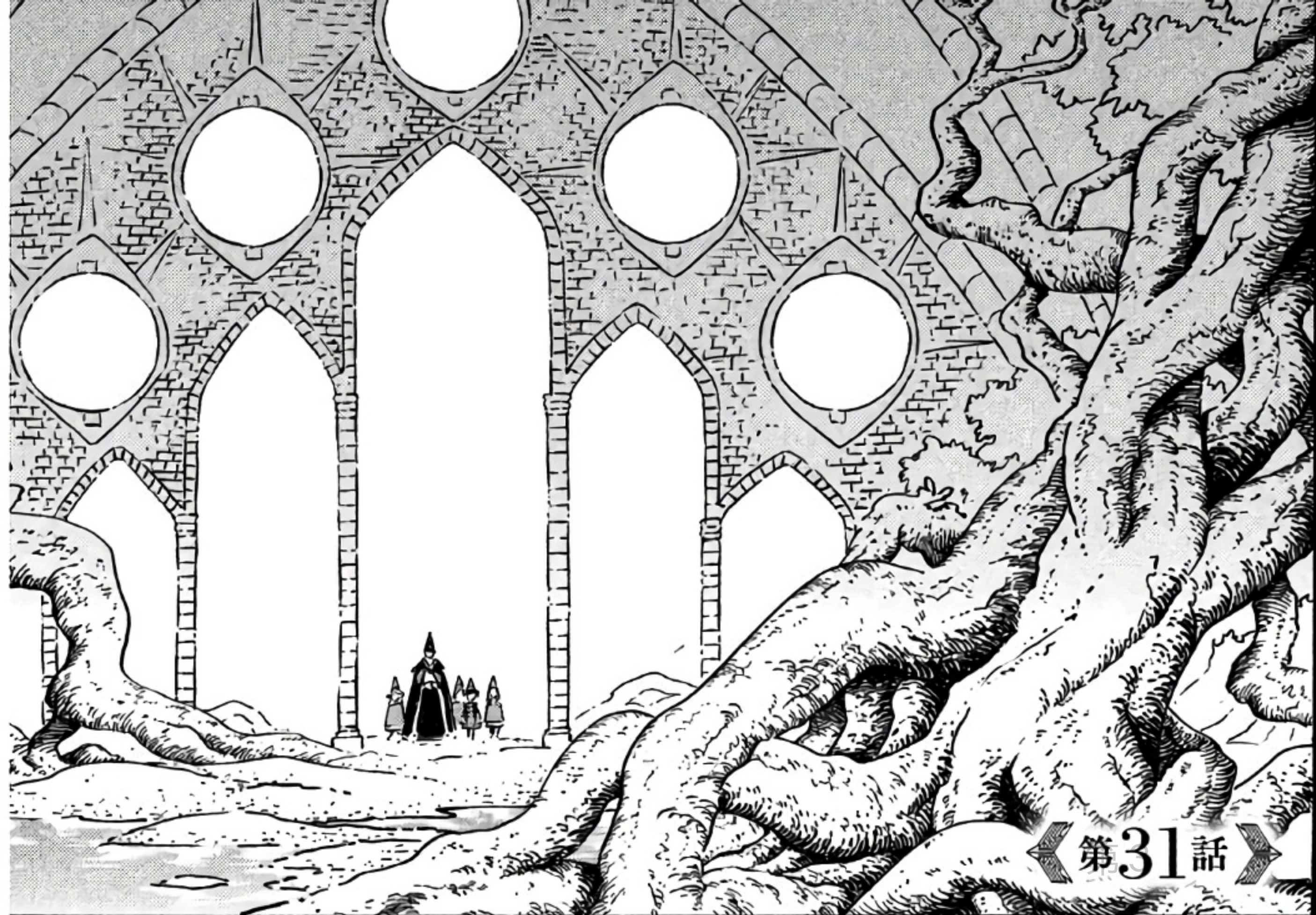


あくまで
魔法使いと
してはな…

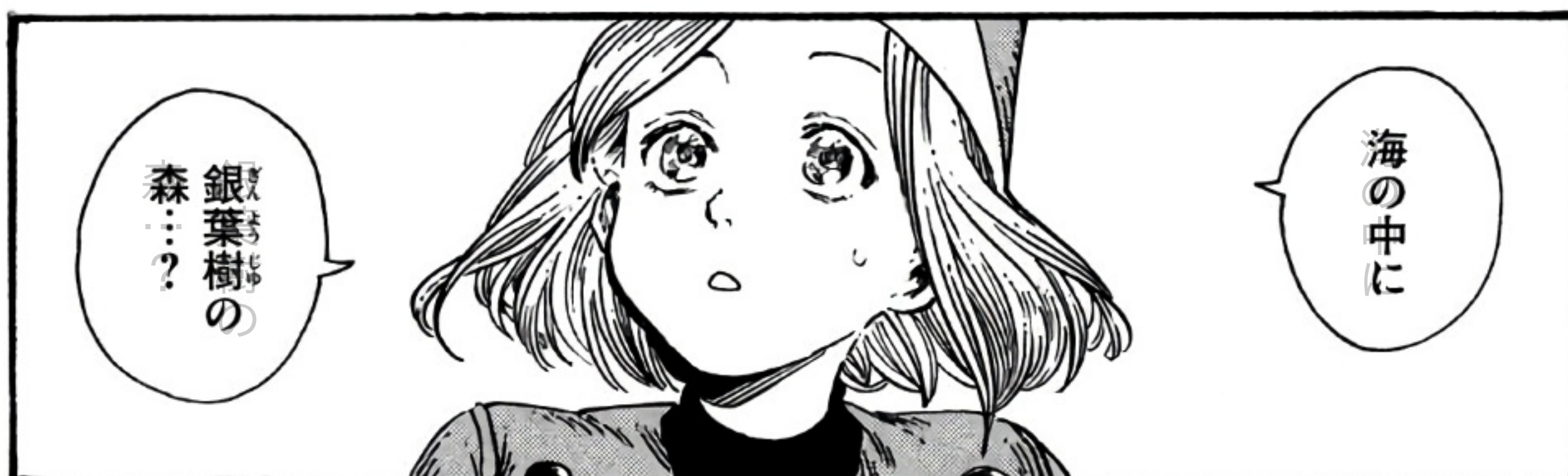
とんがり帽子のアトリエ

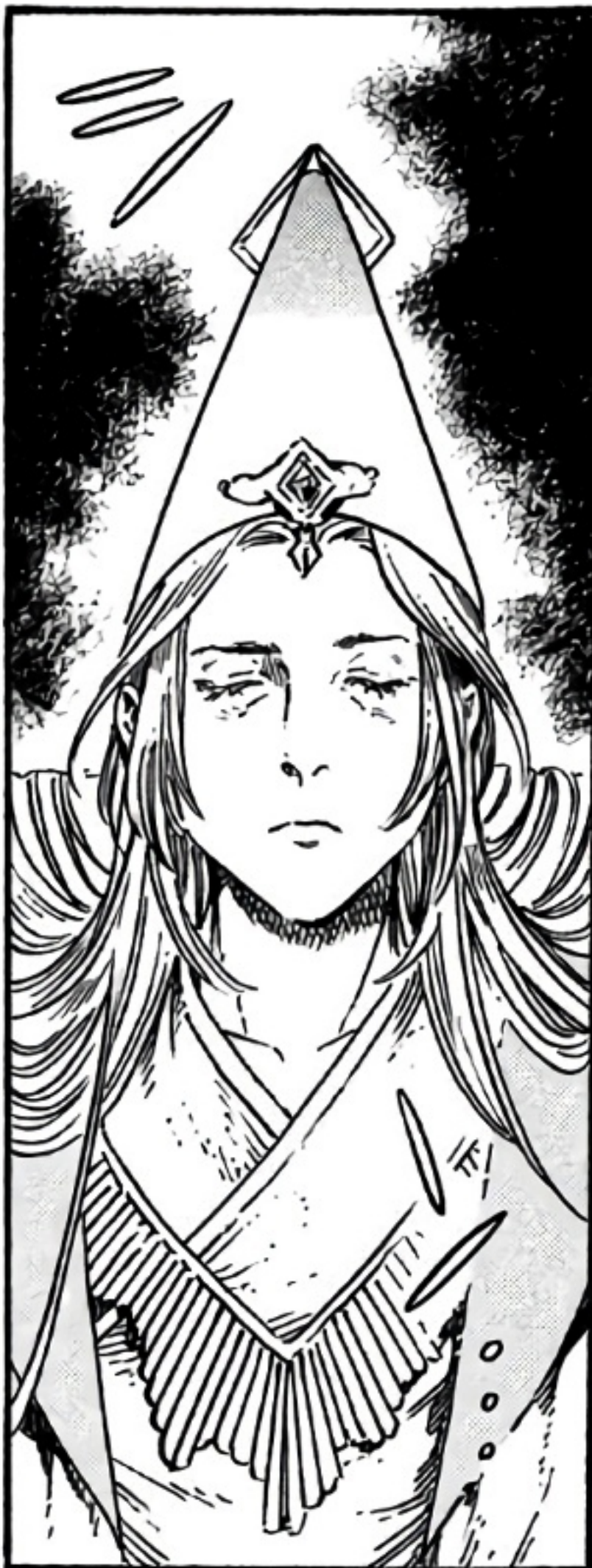
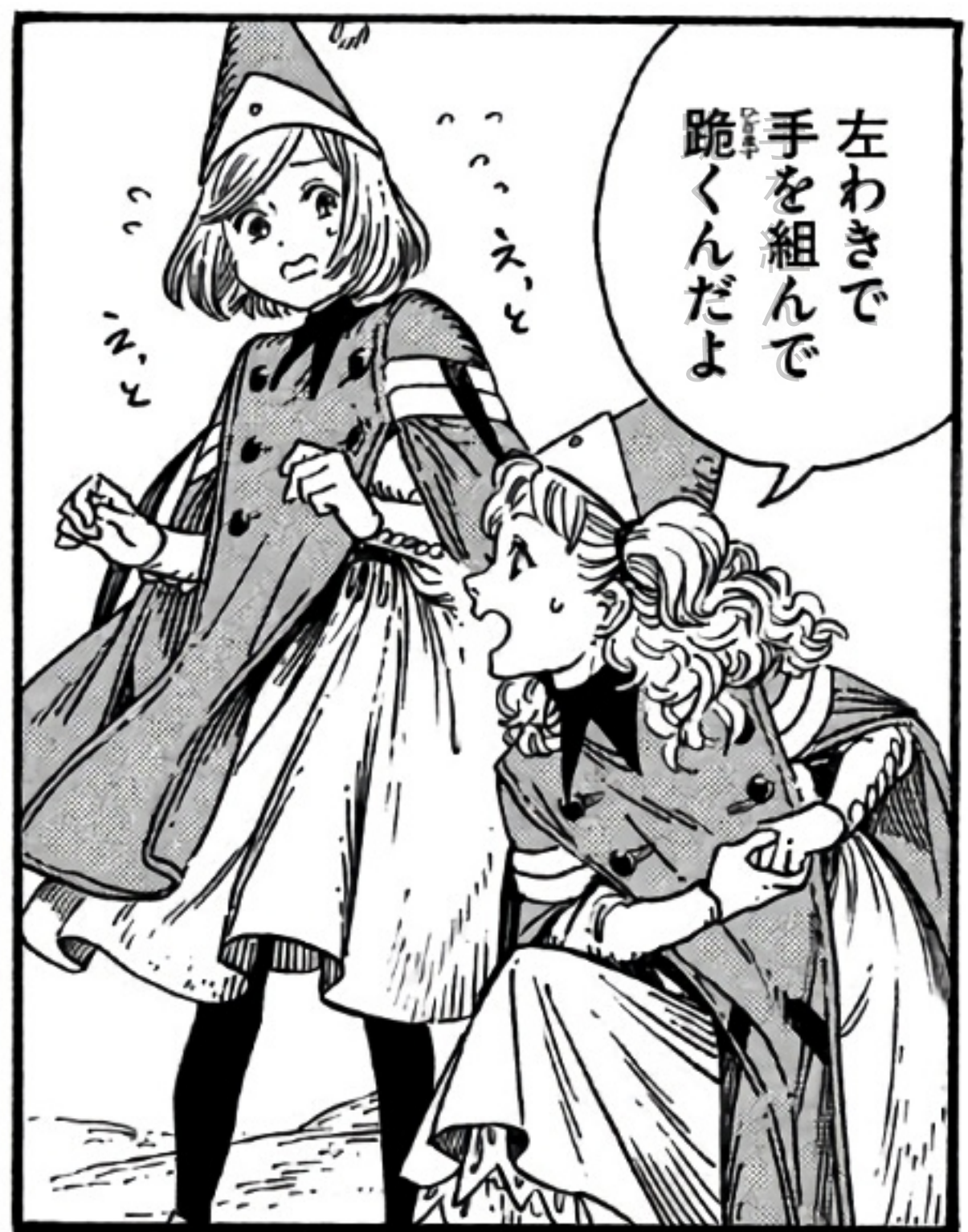
ATELIER OF WITCH HAT





《第31話》









これから
我が幻影が
宙に浮き

七色に
光り輝く予定
だったのに

せつかくの
煙彫刻を
散らしおつて



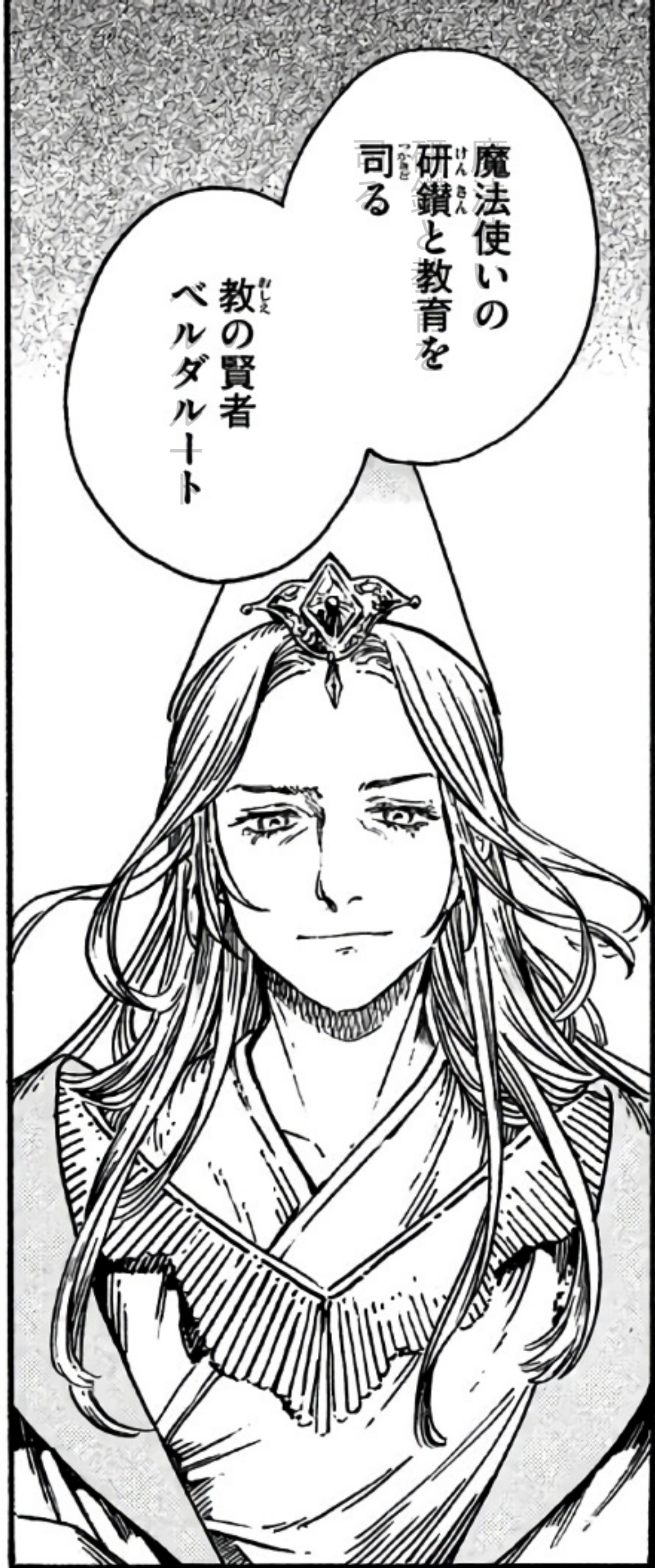
相変わらず
せつかちだのう
オルーギオ



どーせ
そんな魔法
だろうと思
いましたがよ

あなたの方が
相変わらずだ

もう少し
威厳というものを
保ってみたら
いかがです







学びを急ぐ
若者たちに

次の機会まで
待てとするのも
酷というもの…

ト…

どうだろう

皆に私から
再試験を出す
というのは

三賢者さまが
自ら!?

そ…そんな
願ってもない
ことです…

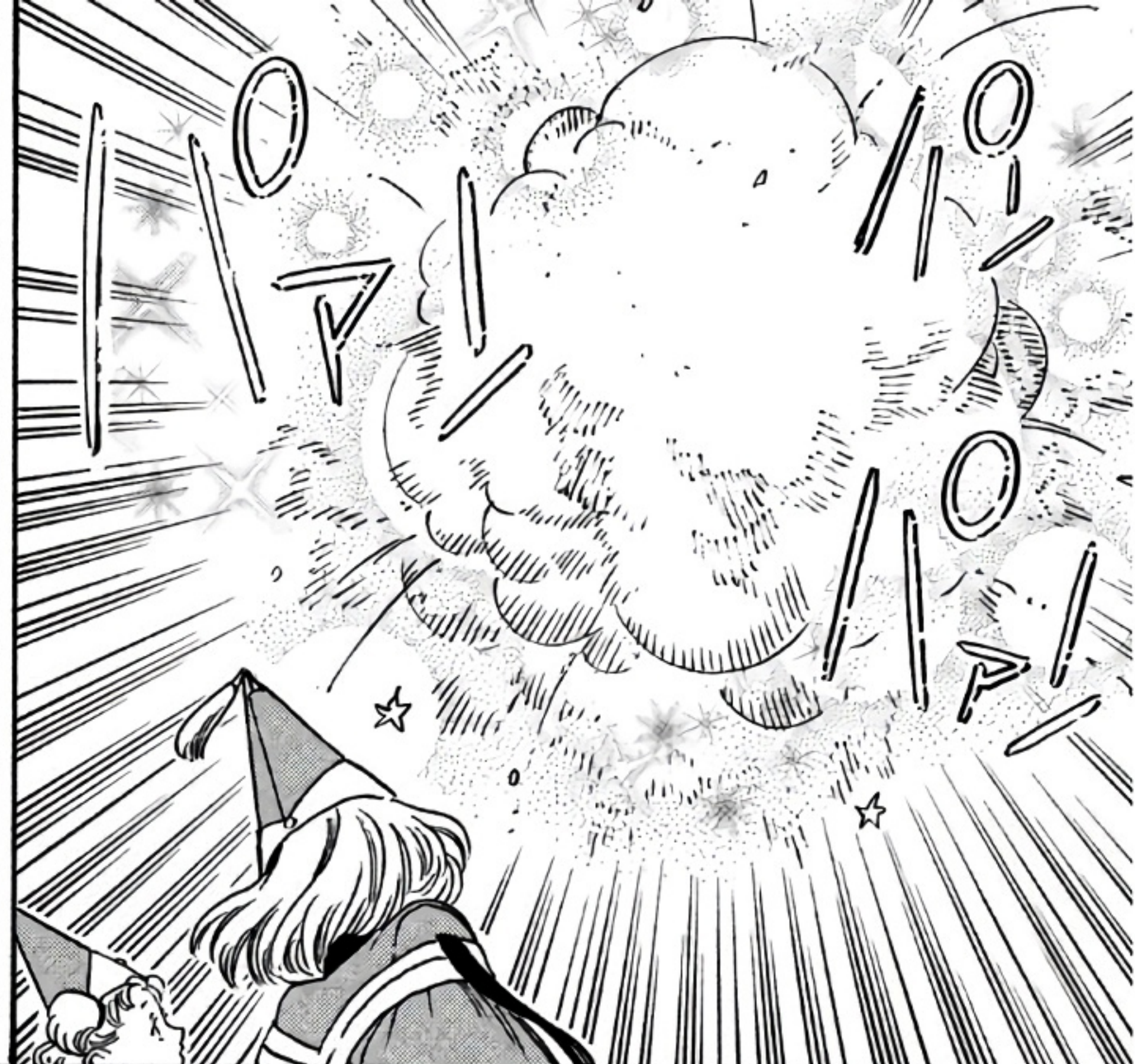
けど…

え?
待って…

「皆」?…















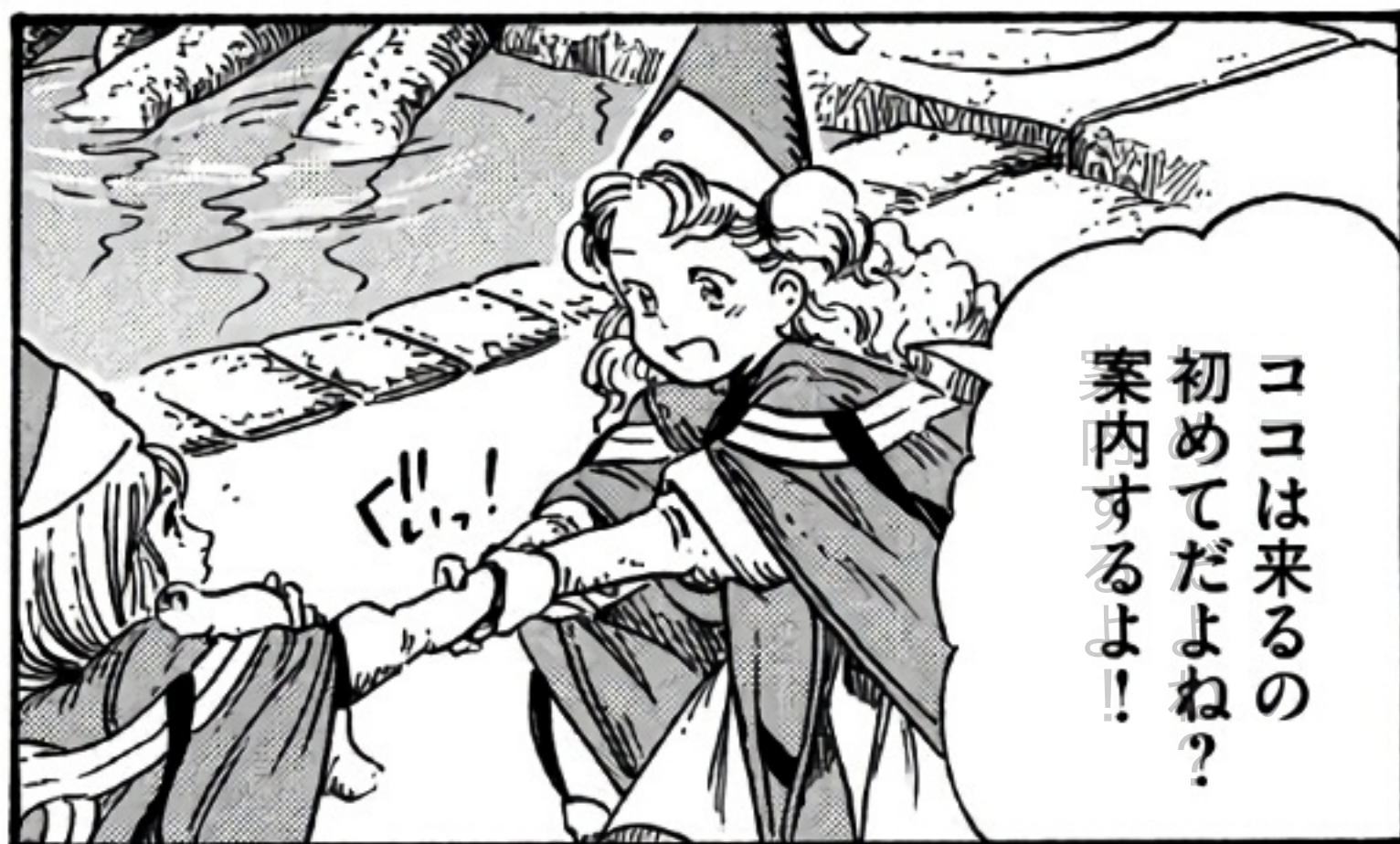
はい



ちよつと
行ってくる

後で
食堂に迎えに
行くから

用事を
済ませたら
待っていてくれ



ココは来るの
初めてだね？
案内するよ！



魔法使いの
食堂に

大浴場
かあ……！

いじい



テティア達
魔法使い
みーんなの
お家！

大講堂を
隅から
隅までね！

とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH HAT



大講堂マップ

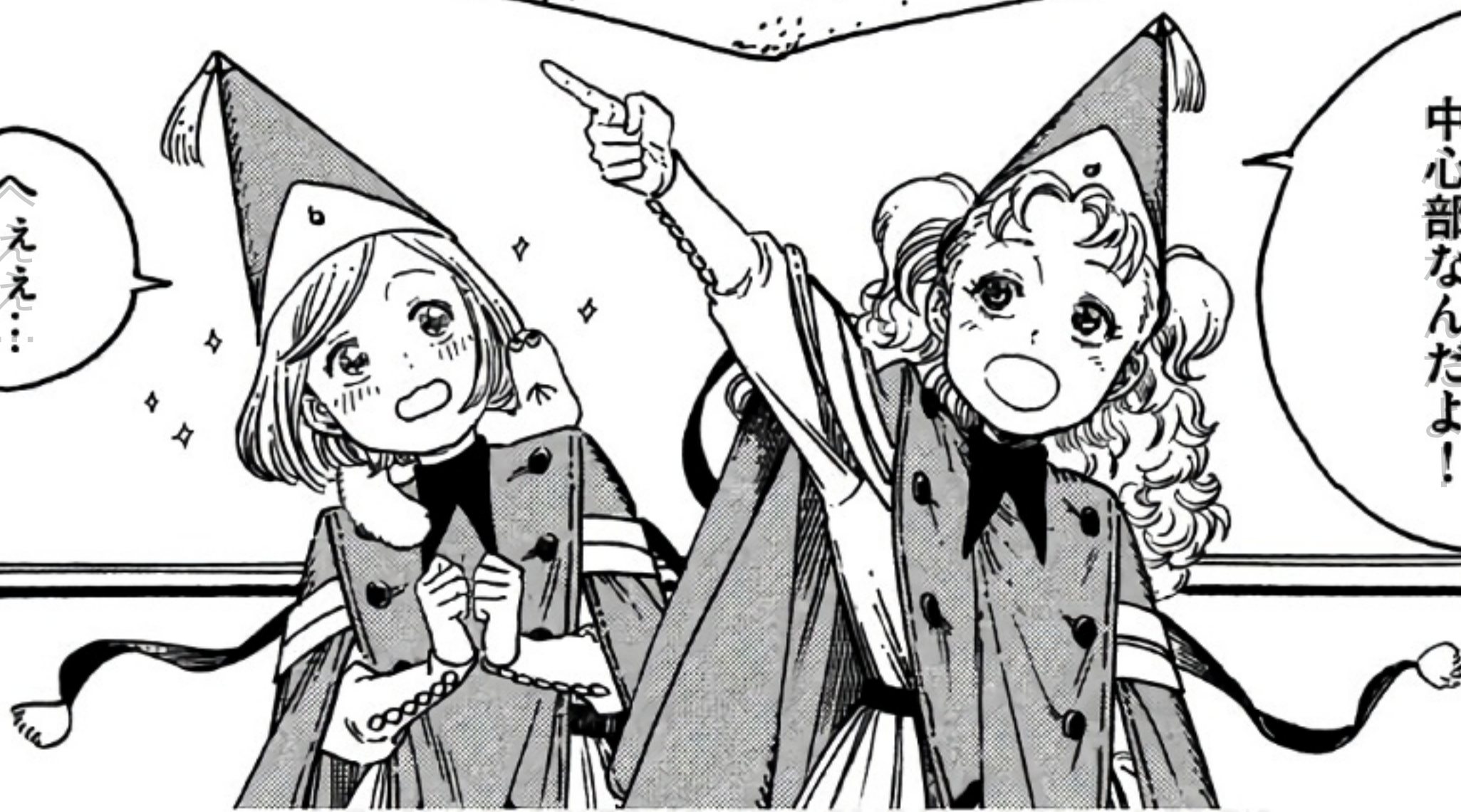
テティア達が
通って来たのが
扉窓の間で…

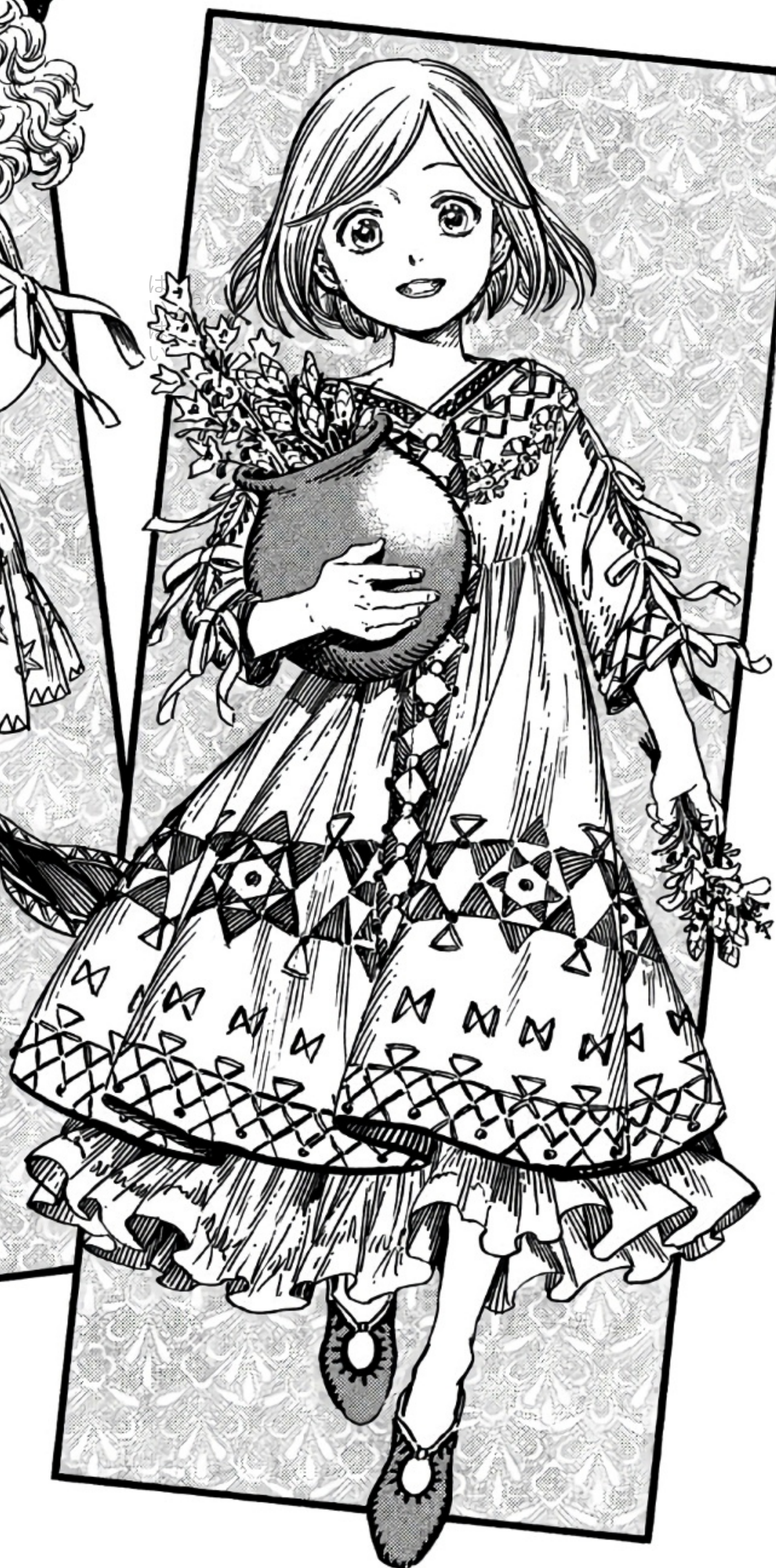
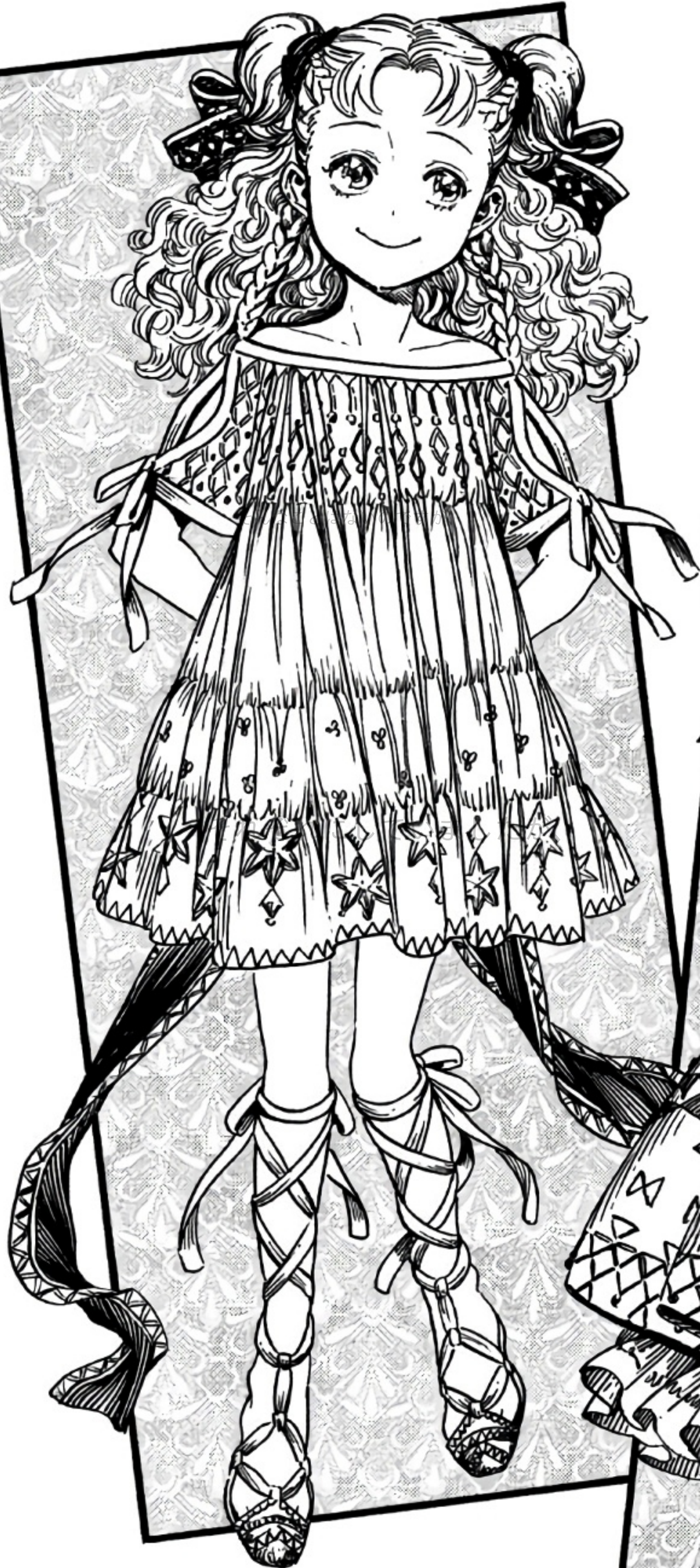
海霧の
終わる辺りに
あるのが医療塔

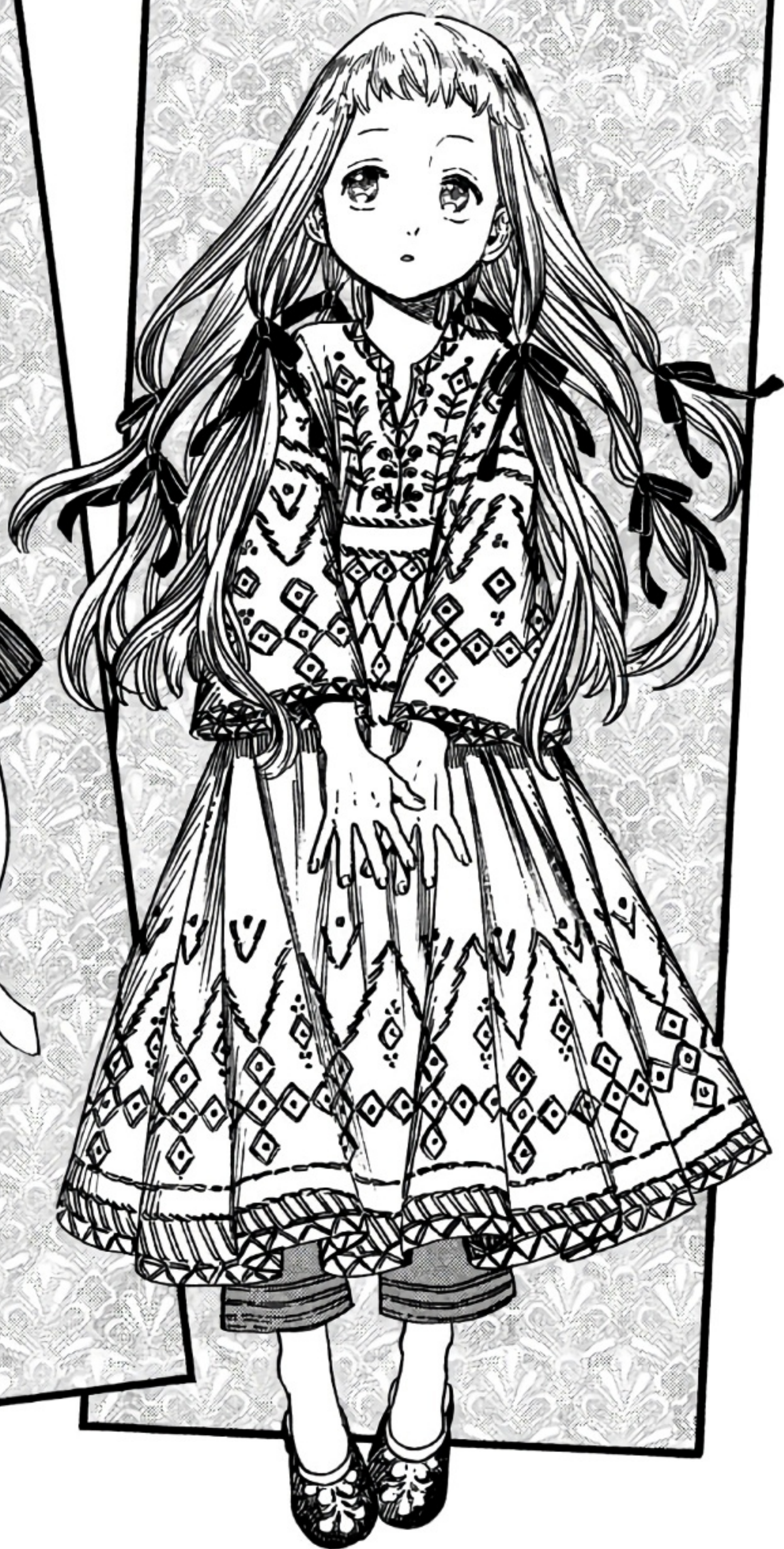
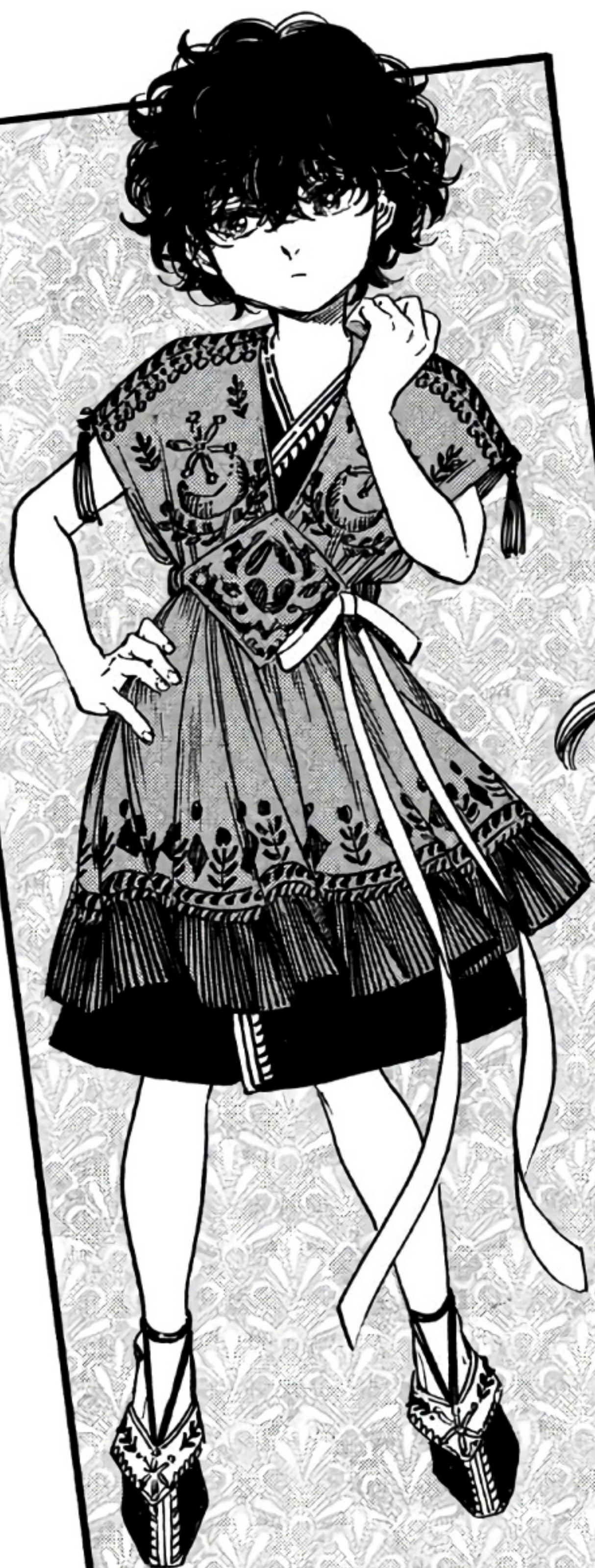
銀の庭が
ある所は
真ん中の…

大講堂の
「水底城」の
中心部なんだよ！

へええ…









で…

今いる
ここは…

水底城の
「商店回廊」
しょうてんかいどう

大講堂内の
お店屋さんが
ある廊下だよ



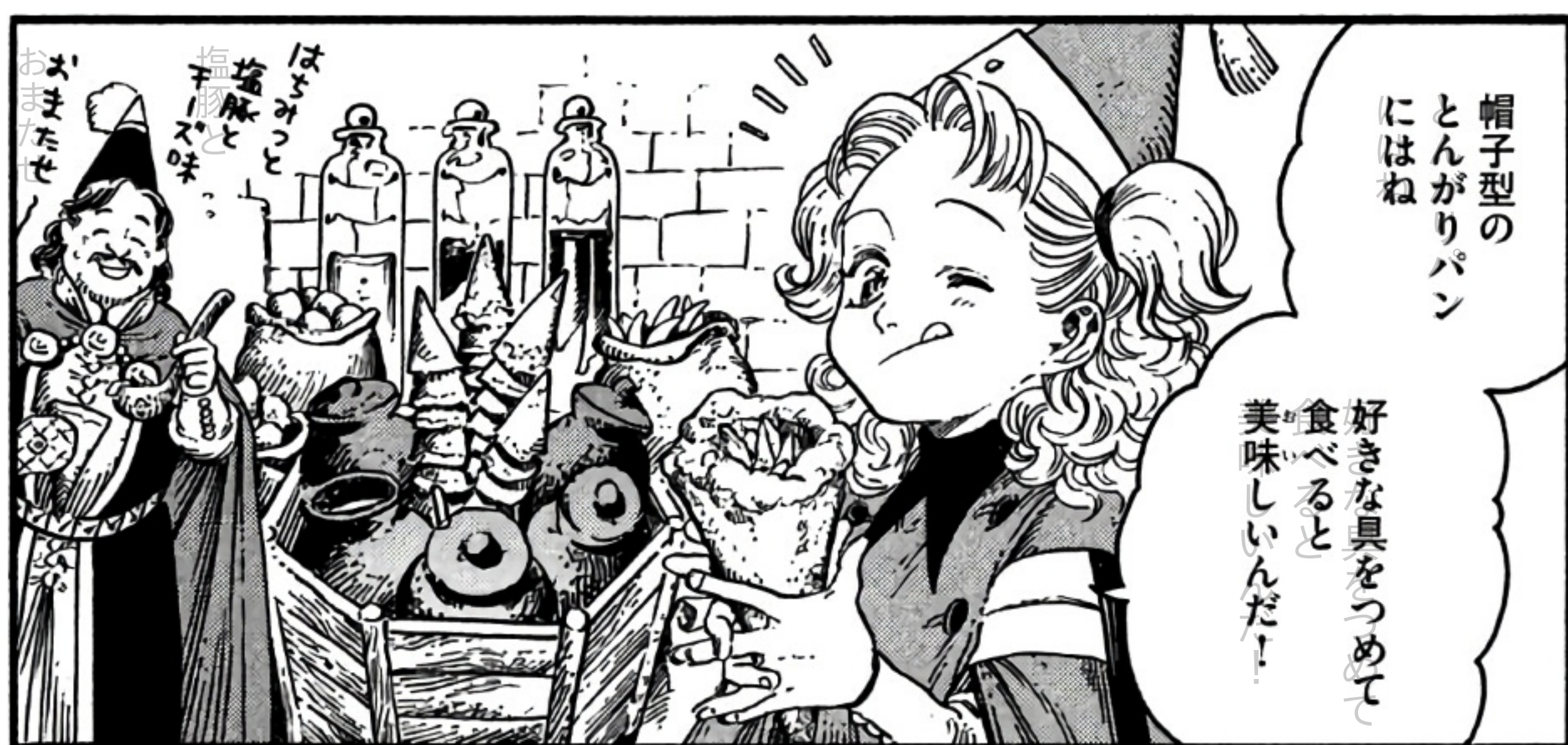
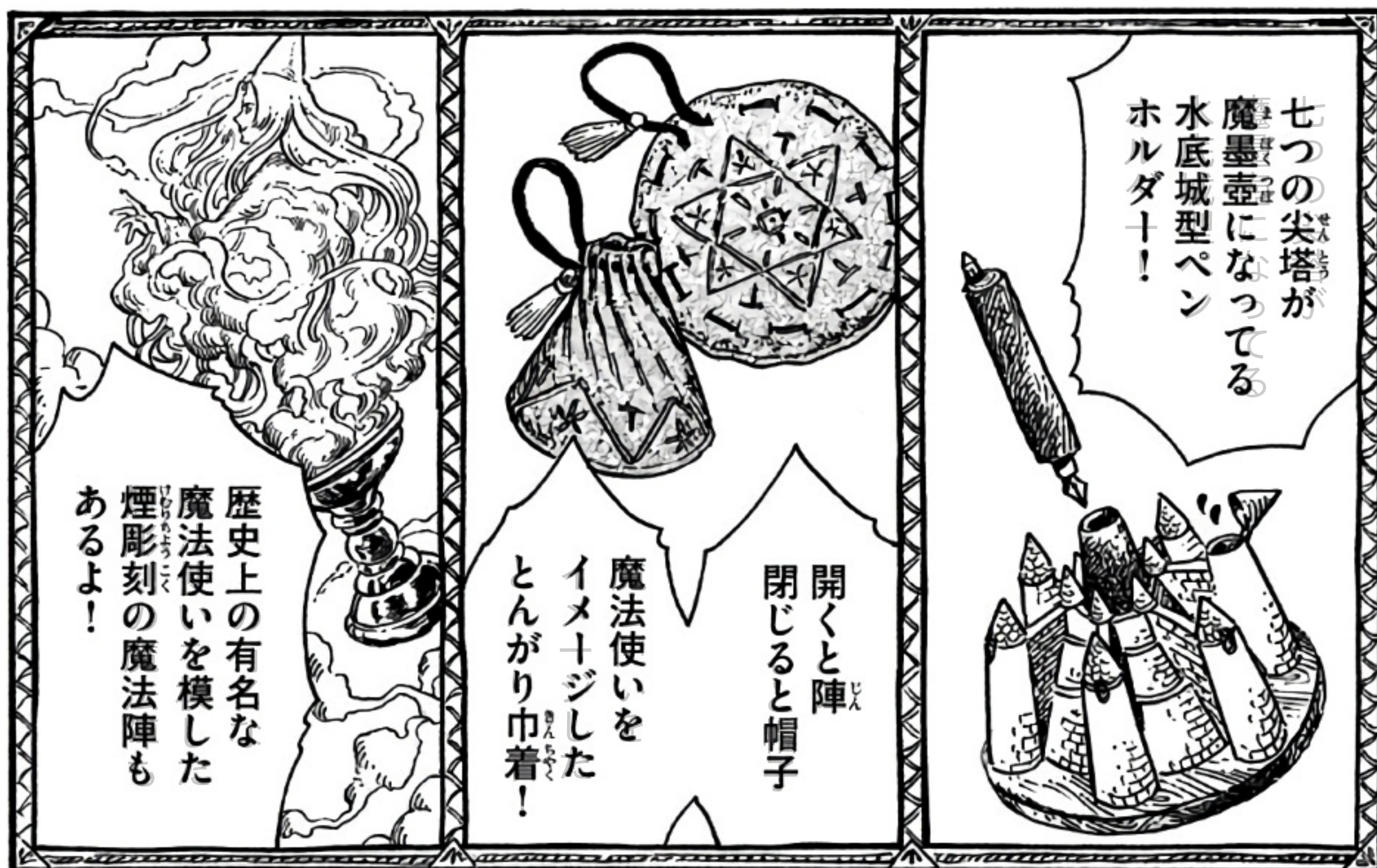
壁のくぼみで
魔材や食べ物を
売ってたり

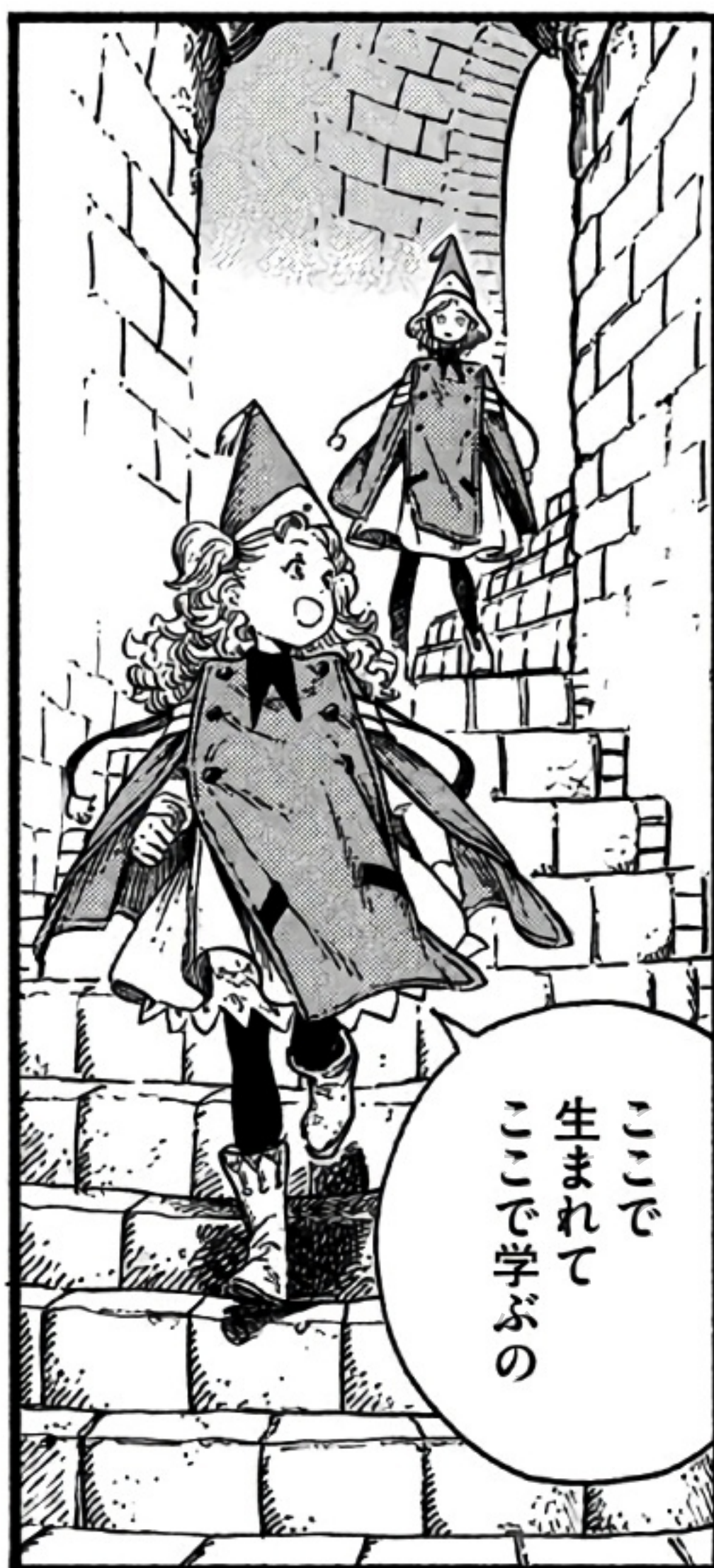
自作の魔法器を
置いてたり…

大講堂の
限定グッズも
あるんだよ!

大講堂の
限定グッズ!?

ふおおおお





ここで
生まれて
ここで学ぶの



皆も
前はここに
いたの？

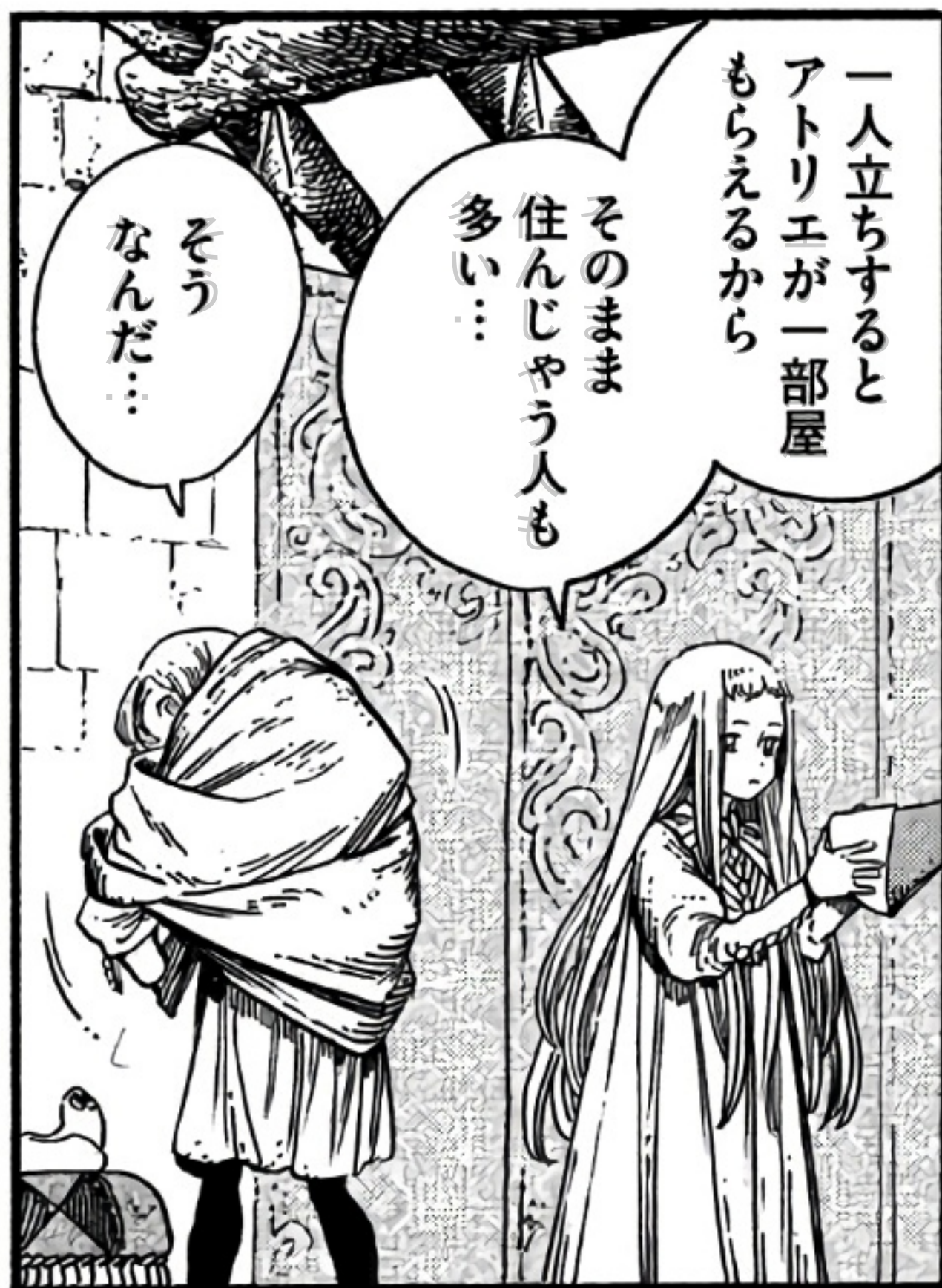
たくさんの
魔法使いが
ここ出身だよ



幼児期は
教室に通って
一般教養を
学び

7歳から
10歳くらいの間に
先生を選んで
弟子入りする

経験を積んで
試験を受けて
卒業できたら
一人立ち





そう
いえば

キ+フリ+先生の
アトリエは
カルンから少し
離れた郊外だけど

どうして
あの場所
なんだろう

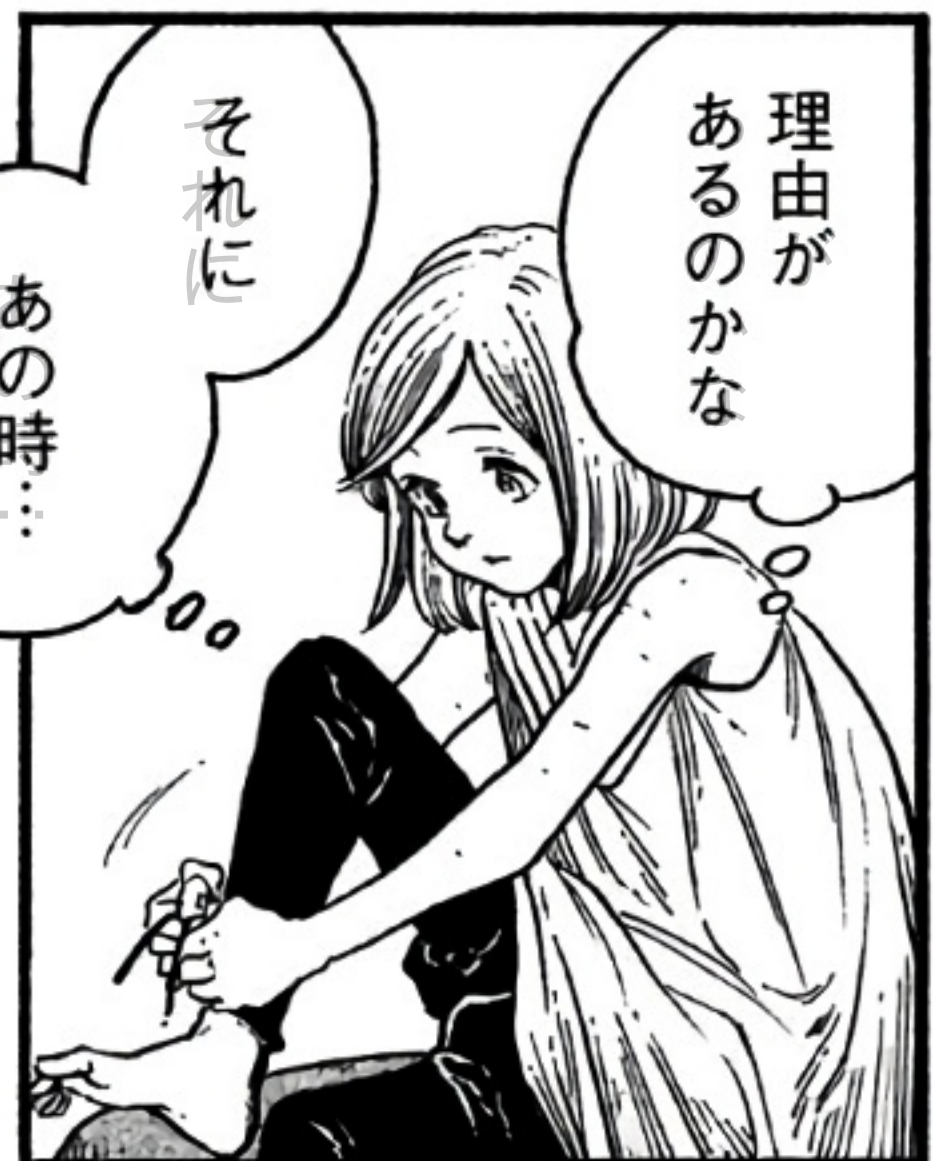


私先生のこと
よく考えたら
何も知らない
んだなあ...

ココ...
ココ!



あの時...



理由が
あるのかな

それに

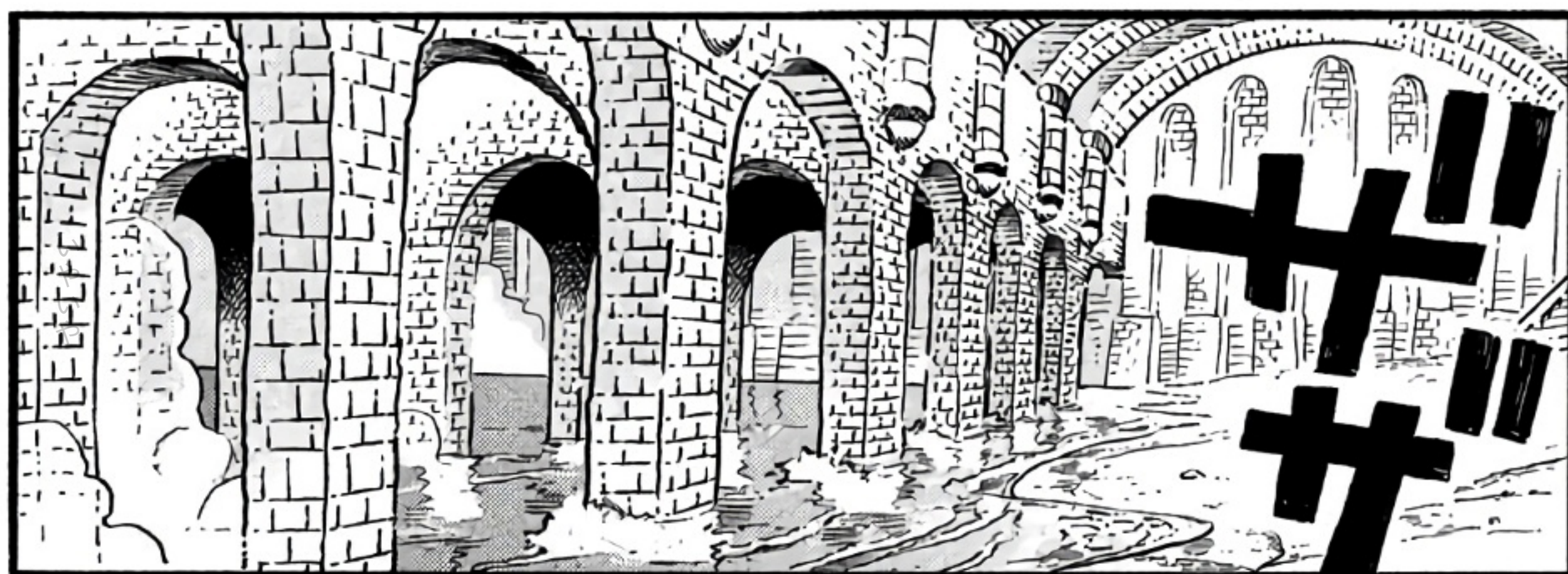
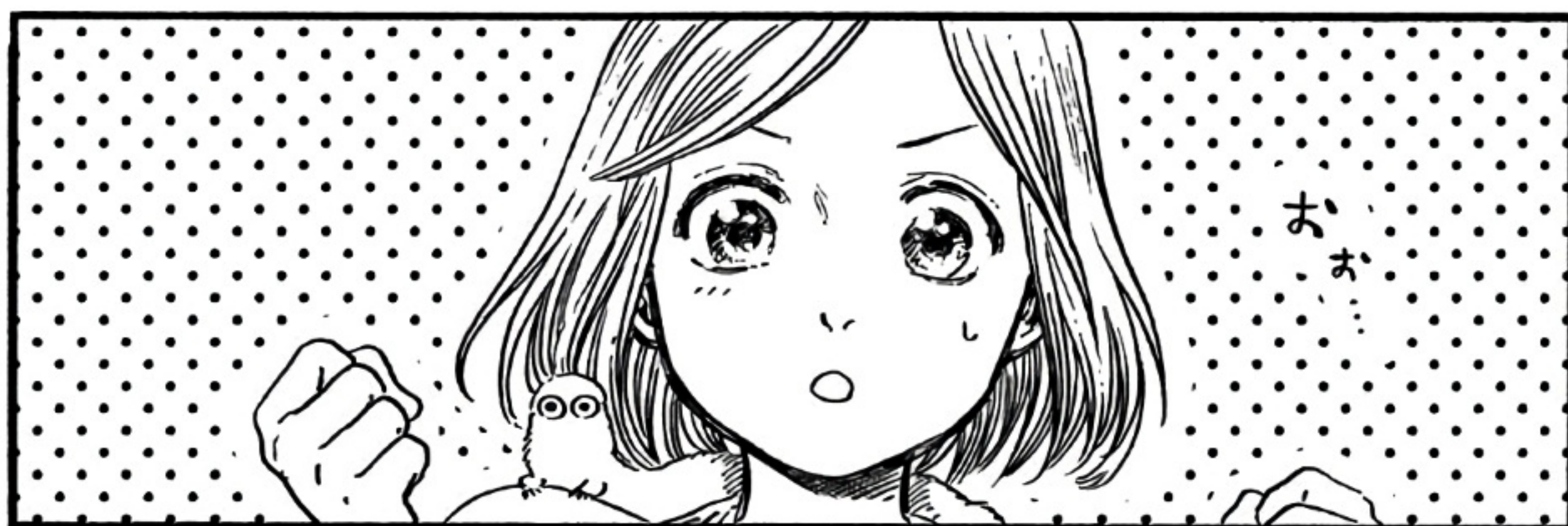
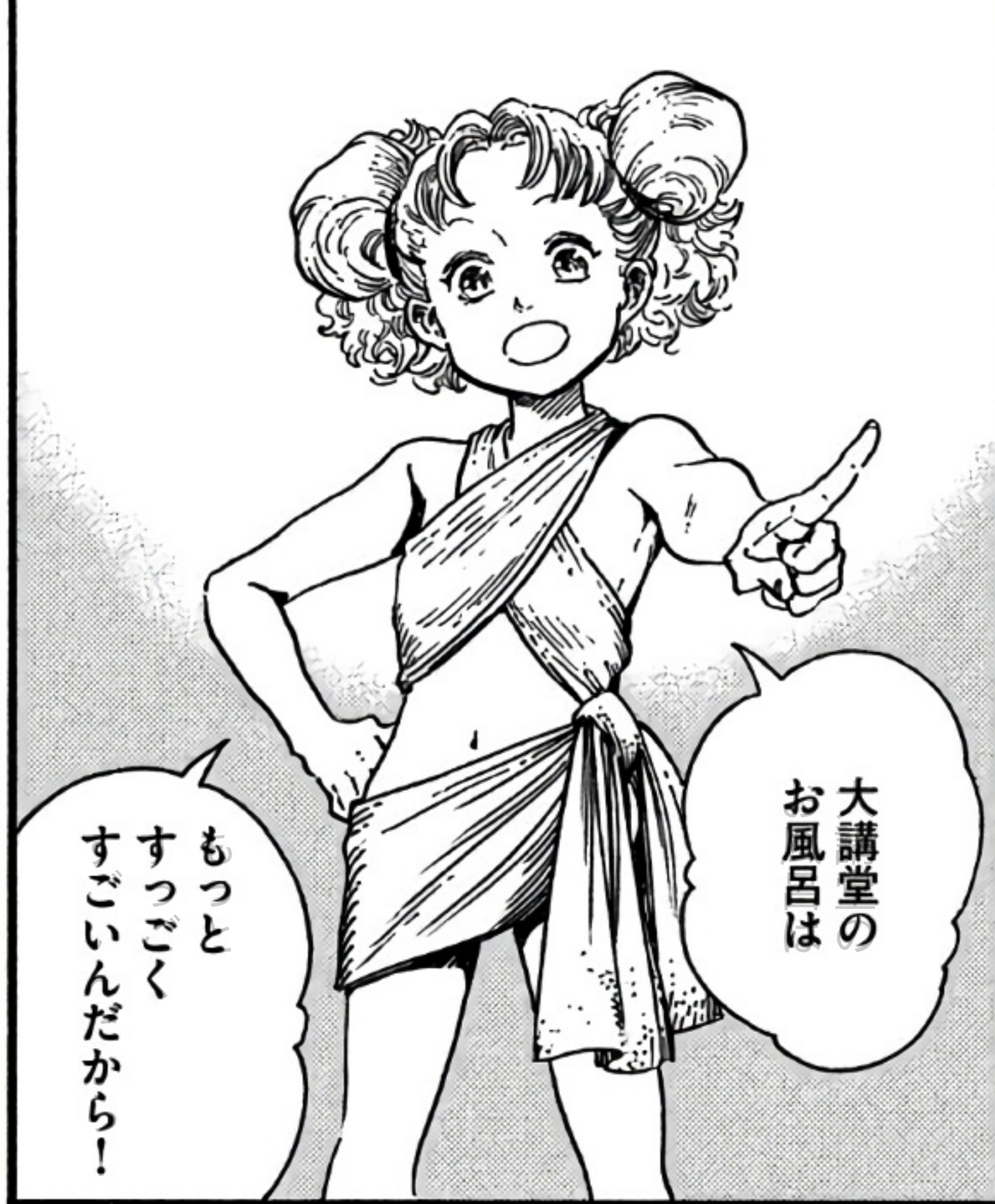


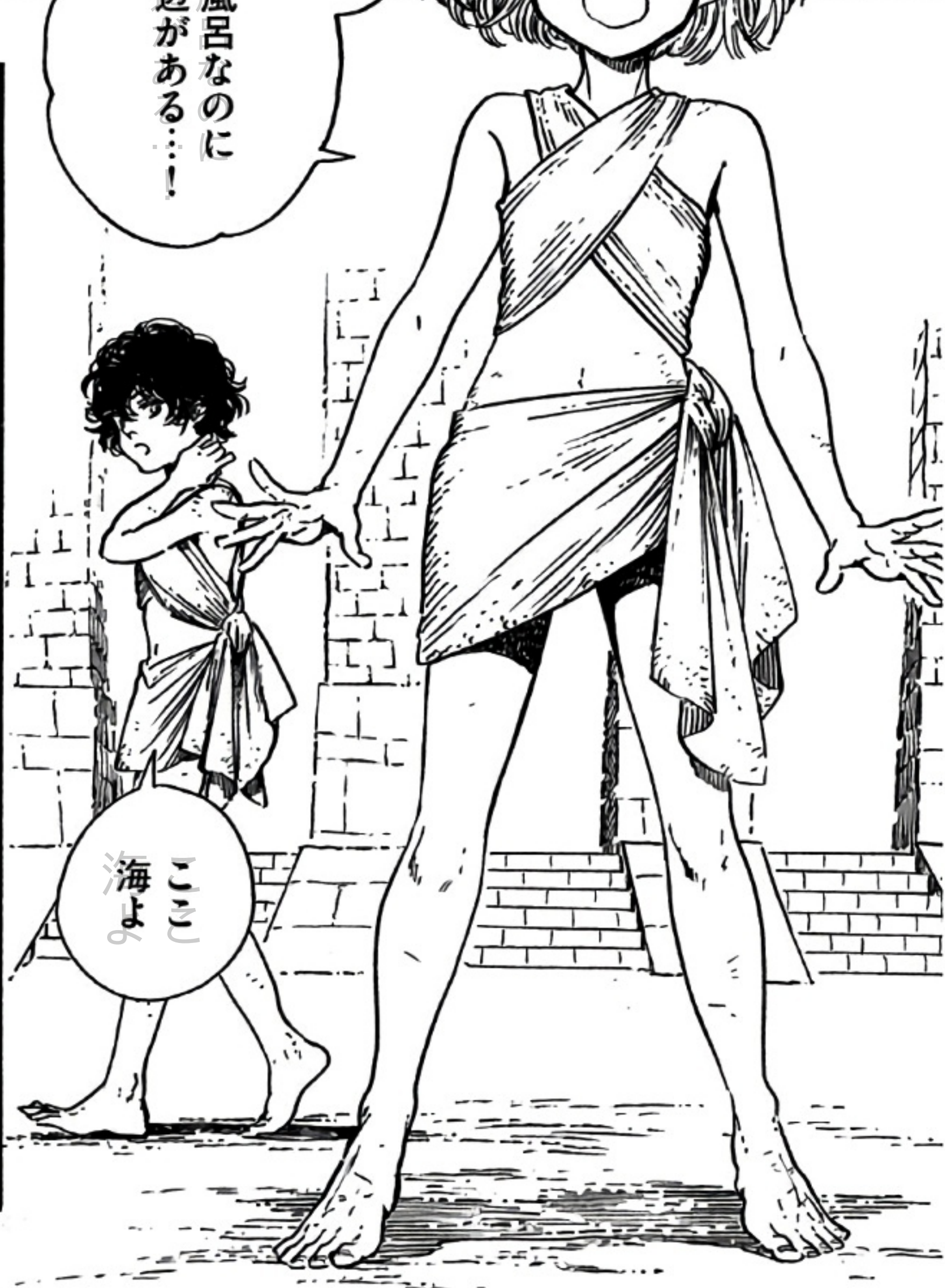
くり返しの陣で
新品の頃に
戻るんだよ

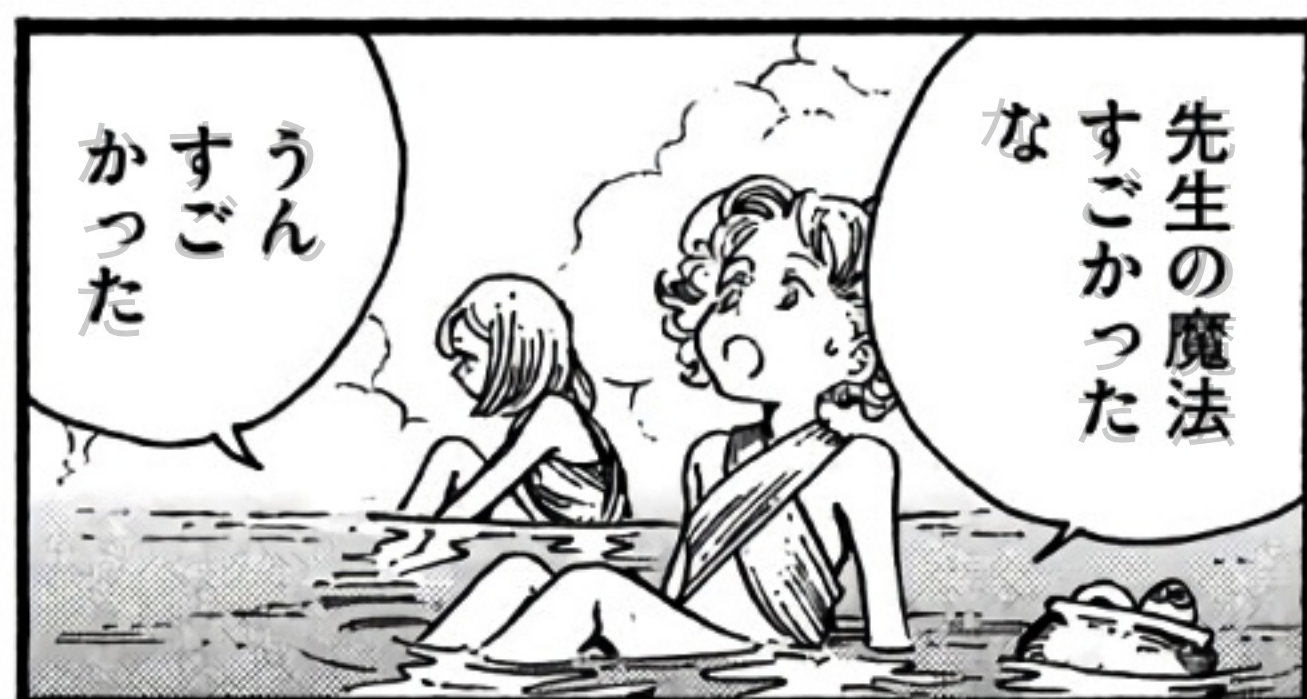
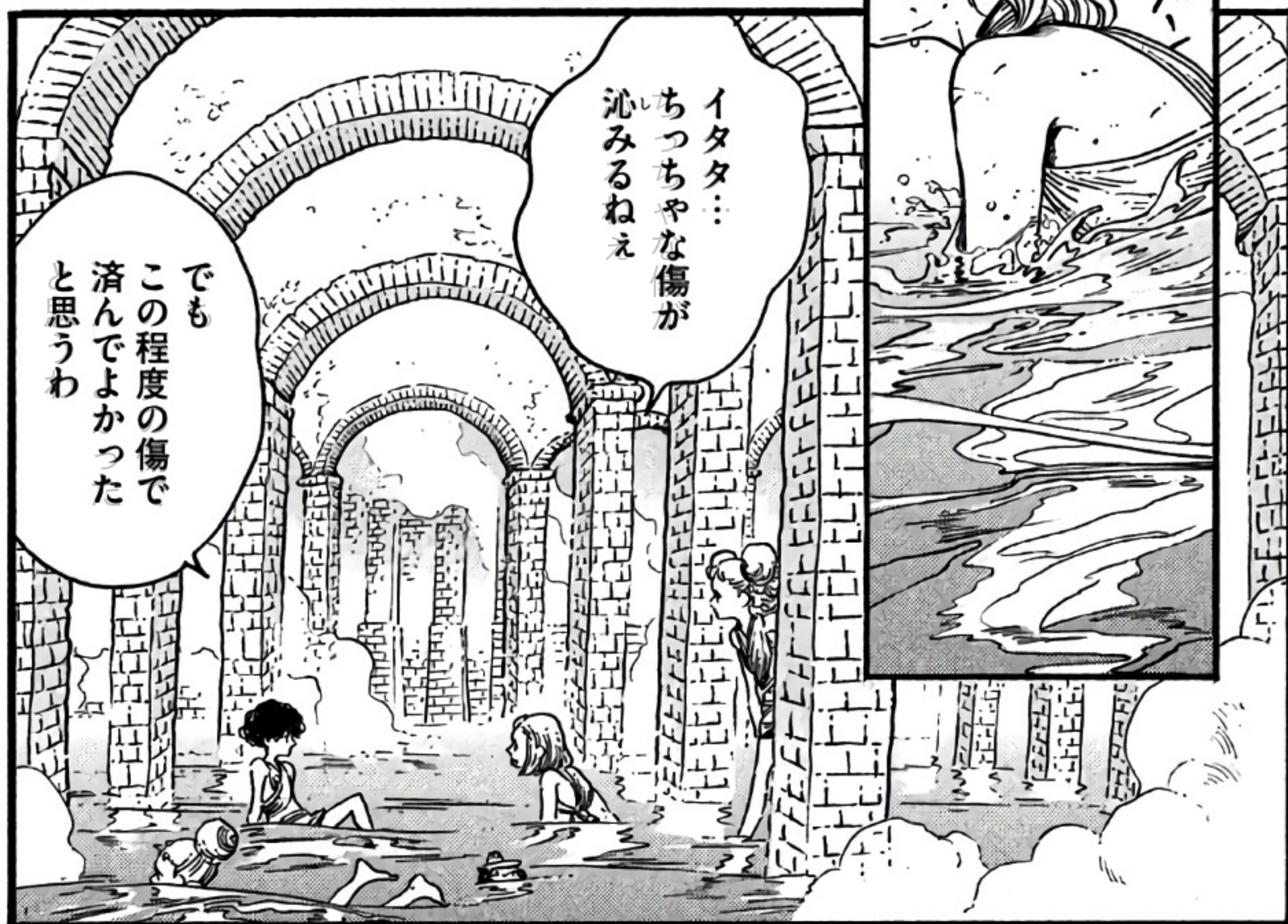
汚れた
ほつれ
ヤシも

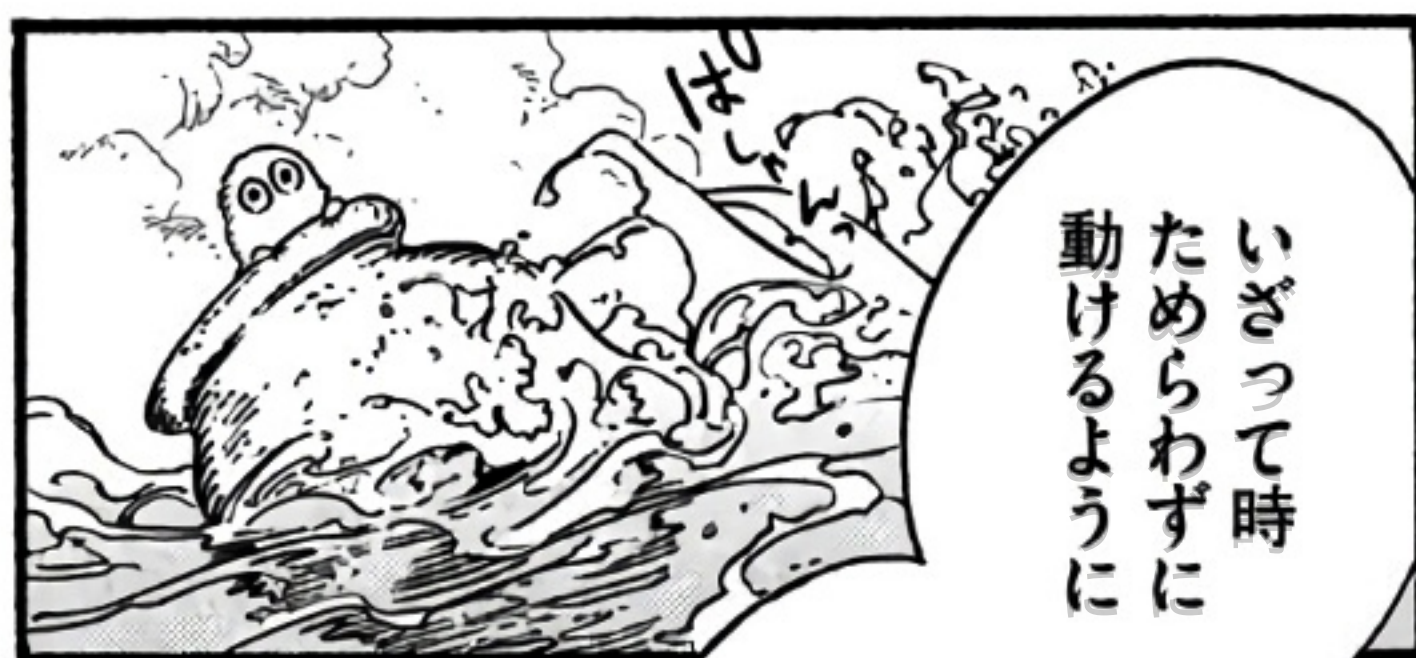


湯浴み着に
着がえたら
汚れた服は
洗い樽に
入れてね









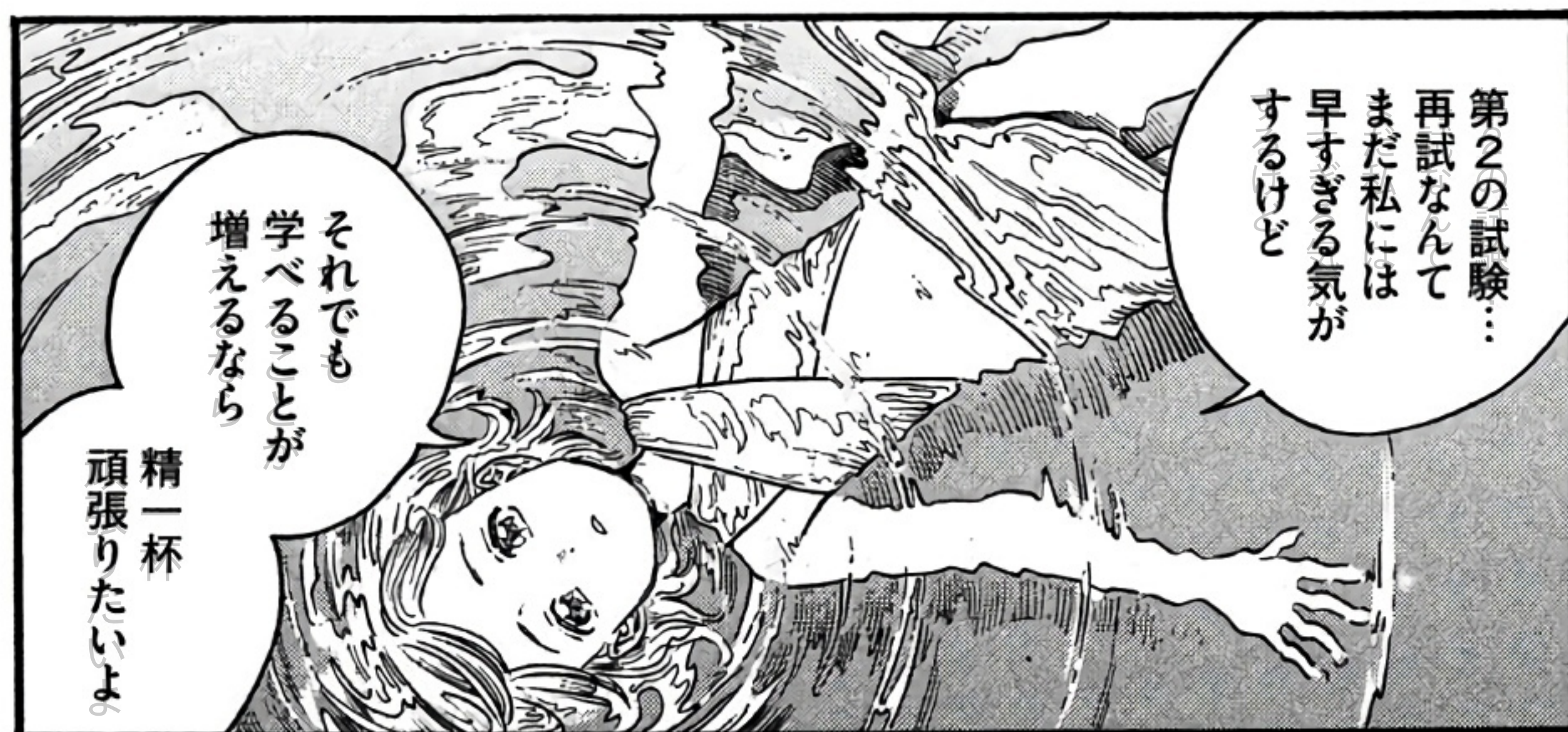
いざって時
ためらわずに
動けるように



描ける魔法の
選択肢を
増やしたい



私…もっと
いろんな魔法が
描けるように
なりたいな



それでも
学べるものが
増えるなら

精一杯
頑張りたいよ

第2の試験…
再試なんて
まだ私には
早すぎる気が
するけど



…私も
教えて
あげても
いいわ



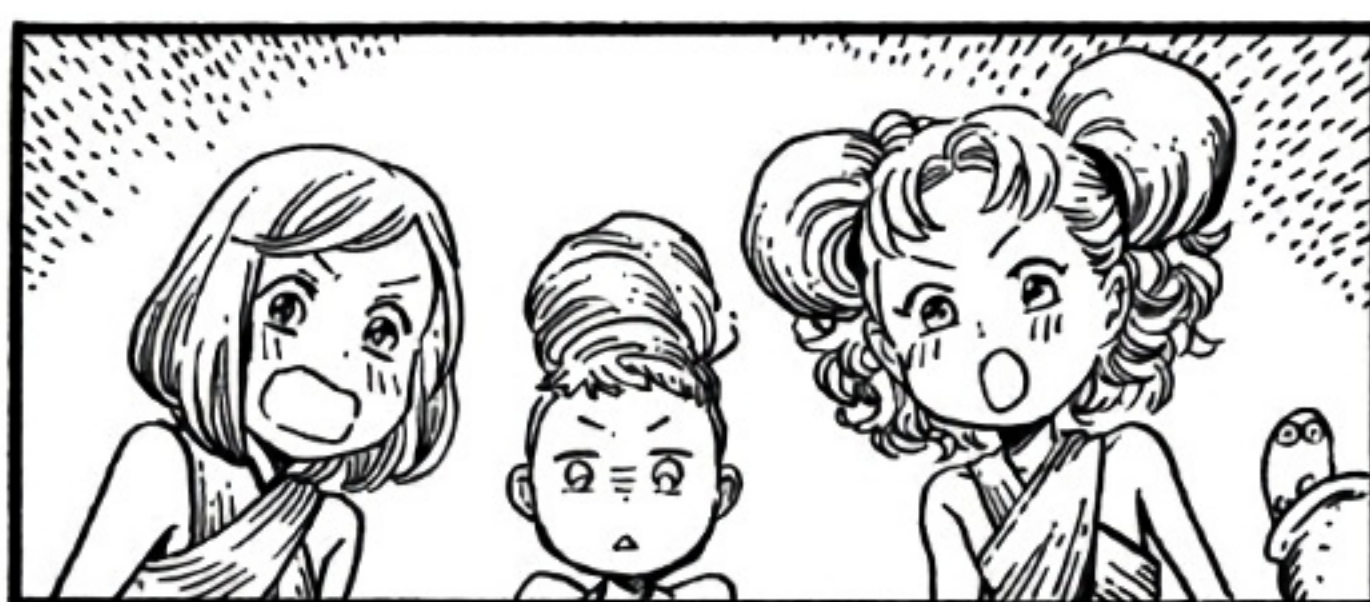
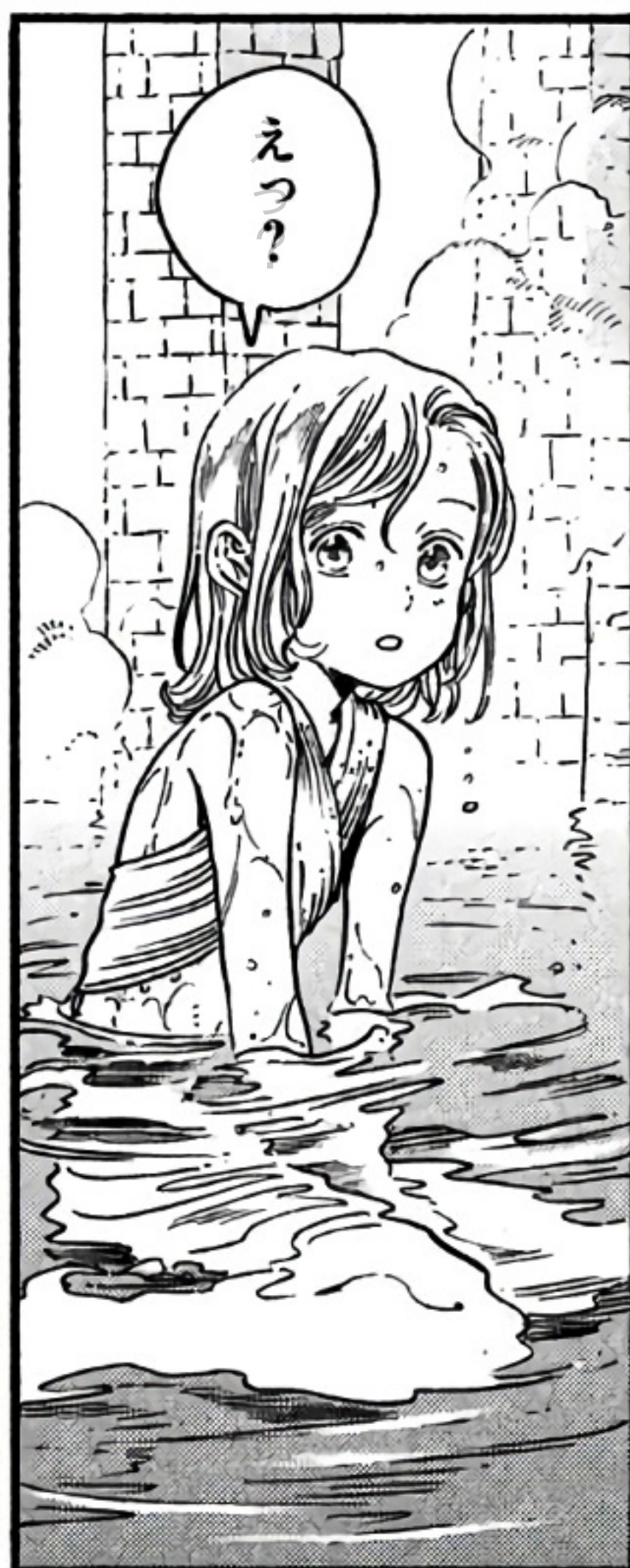
うん！
テティアも
一緒に頑張る！
がんばろう！

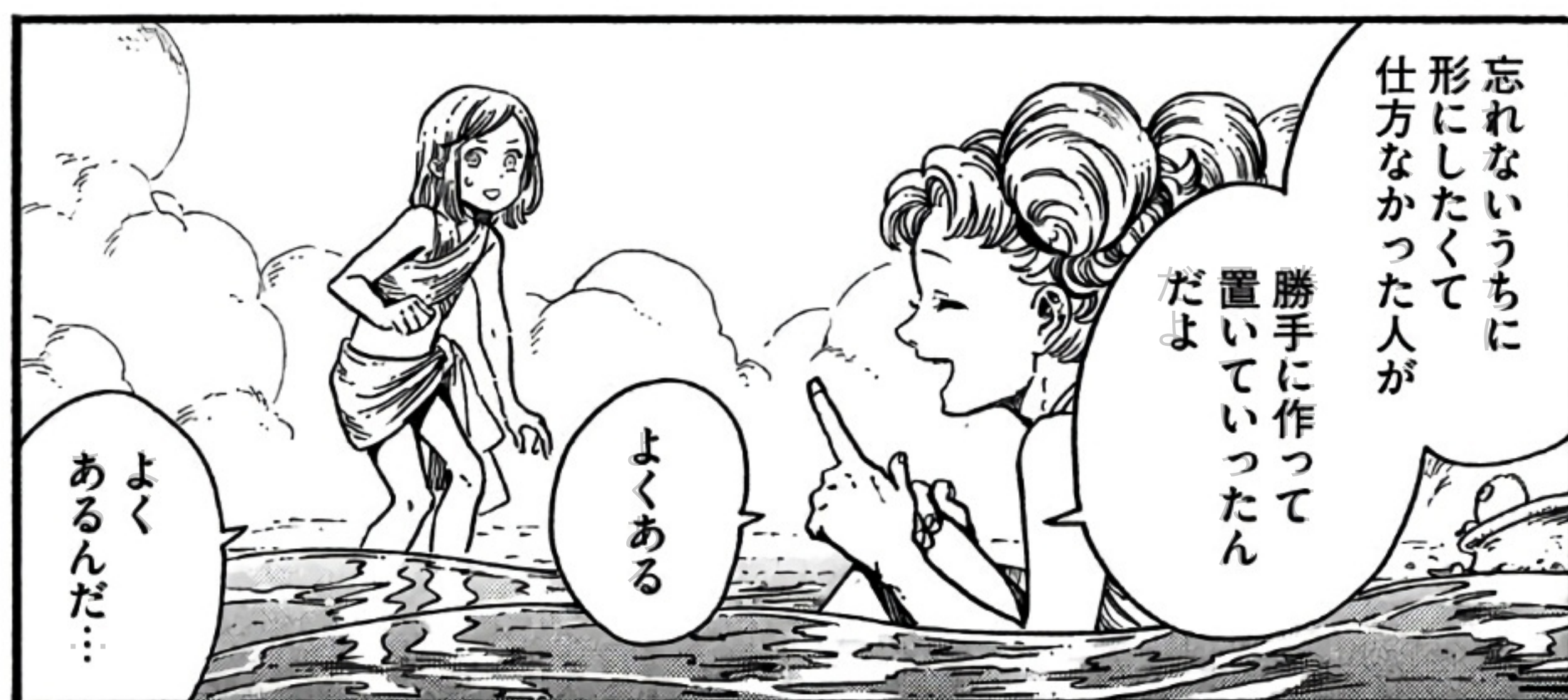
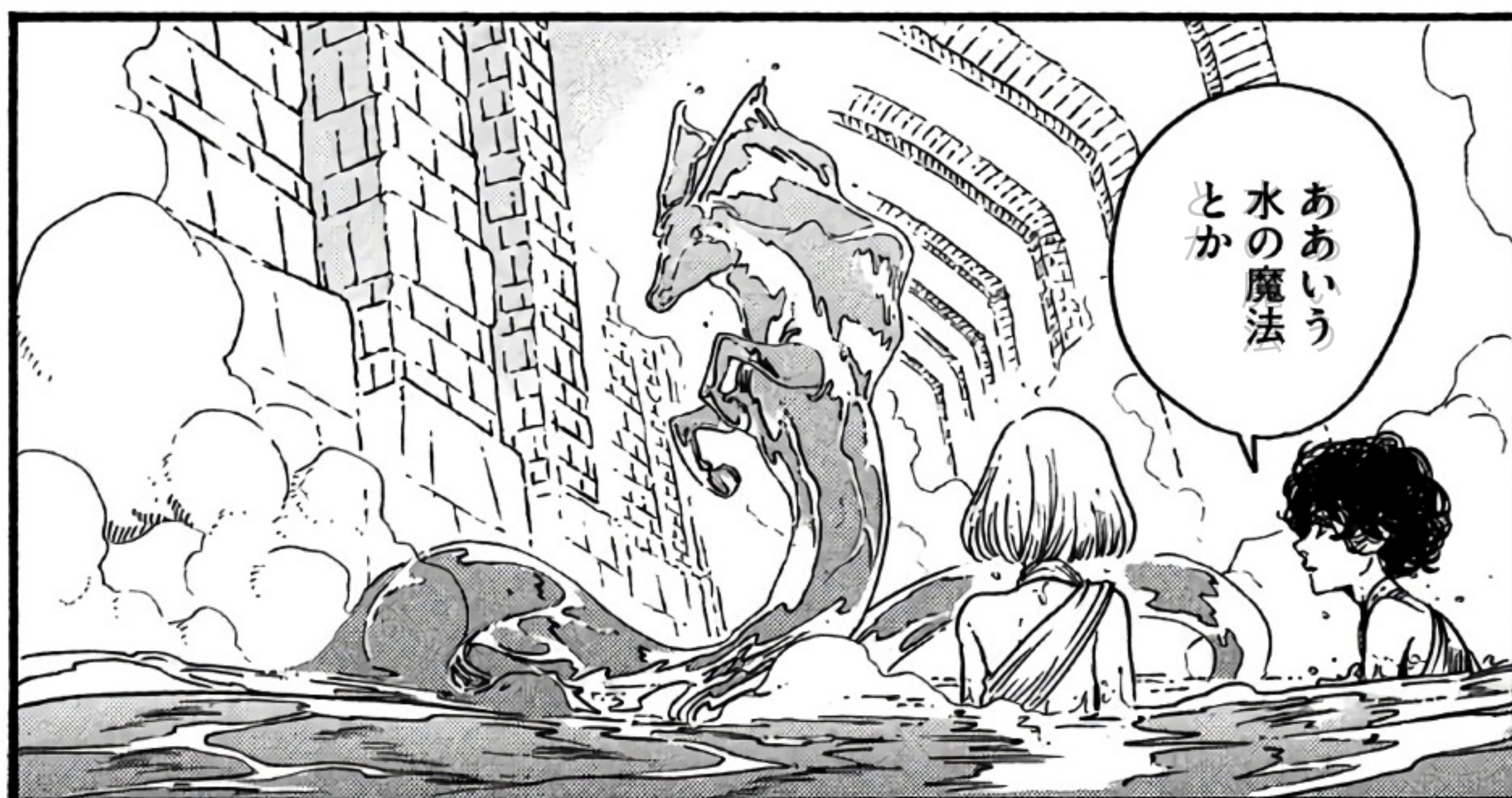
リチエも

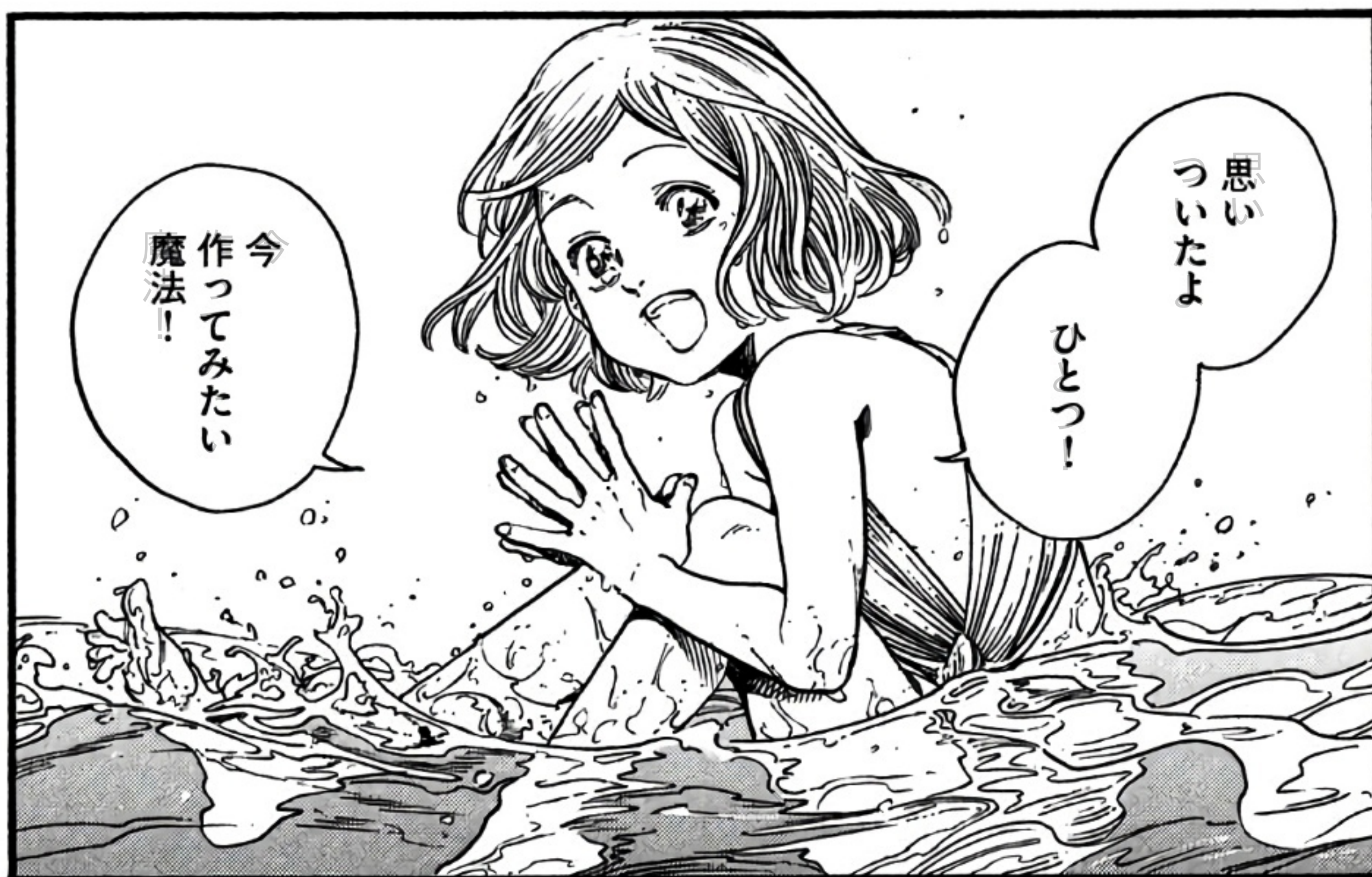
ありがとう
二人とも！

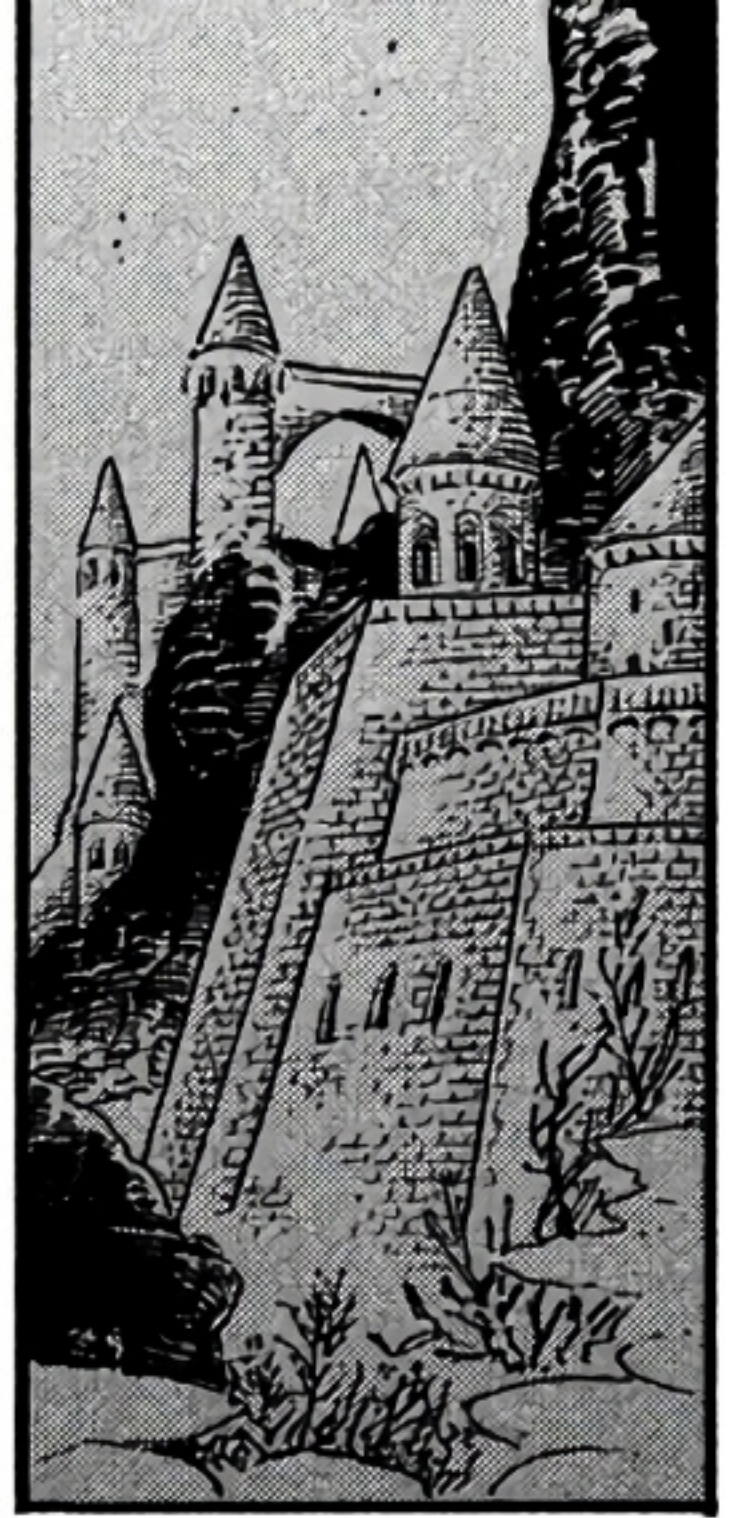


ココ…









…だからさ

俺が着いた時は
何もかも終わって
たんだって

弟子たちは
はぐれてて
キーフリーは
負傷

つばあり帽は
逃げるところ
だったんだ

子供たちは
突然襲われた
と言ってたぞ

理由なんか
知るか

危険が予測
できない以上
少人数での
講堂外活動は
見直した方が
いいかもな

少なくとも
引率者は
弟子の側を
離れるべきでは
ないと思うね

なっ

なっ

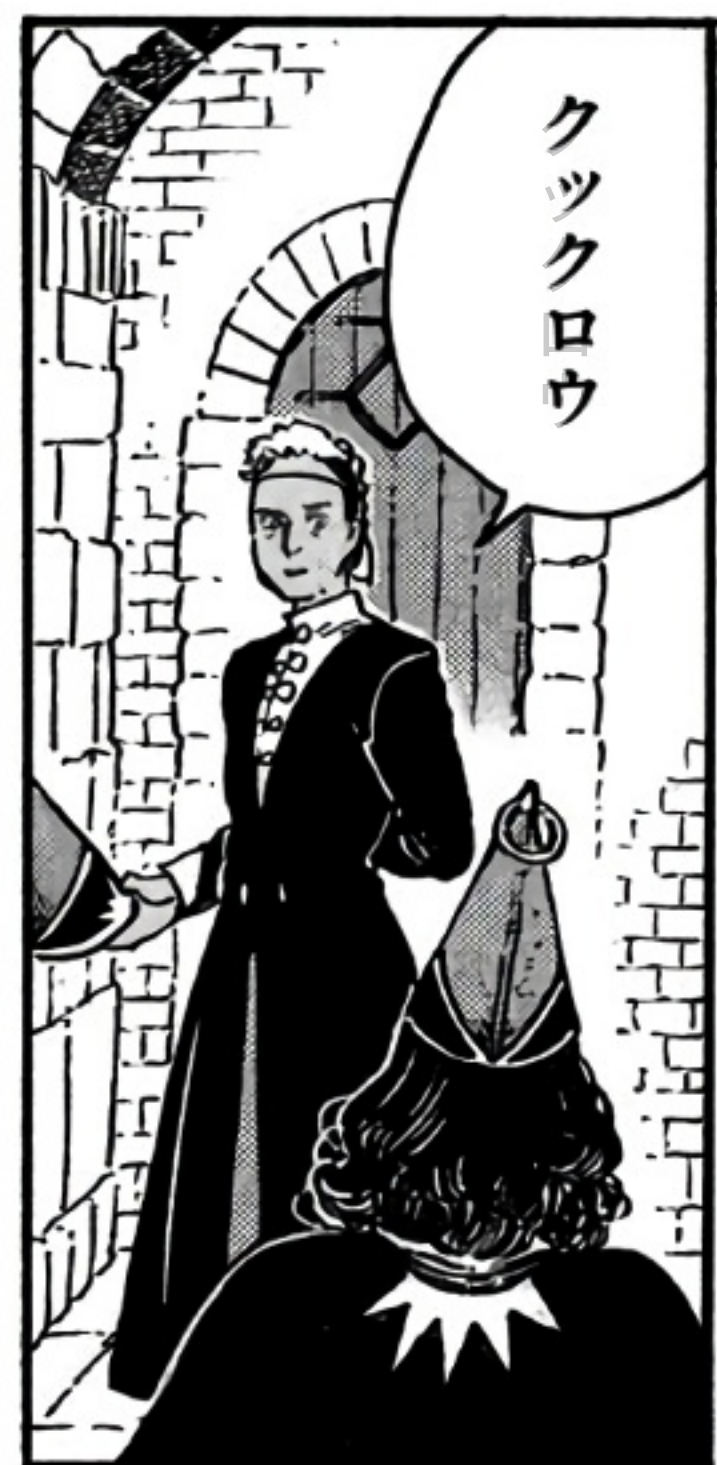
私の責任とでも
言いたいのかね!?







あなたも
その帽子を
自らの手で
弟子に返却
するように



クックロウ



えっ…?

でも…

ユイニイは
まだ見つかつて
ないんです
よね…?



そうだ

だから
師であるあなたが
搜索の任に就く

師弟の
決まりだ



何
寝呆けたこと
言っ
てんだ？



掟はご存知の
はずだが？

あ……いや
知ってます
けど



し……しかし
私は……その……

他によほど
適任者が
いるのでは……？



大切な大切な
アンタの弟子が
行方不明なんだぞ

心配じゃ
ないとしても
言うつもりか？

まさか！
そんなこと
は……

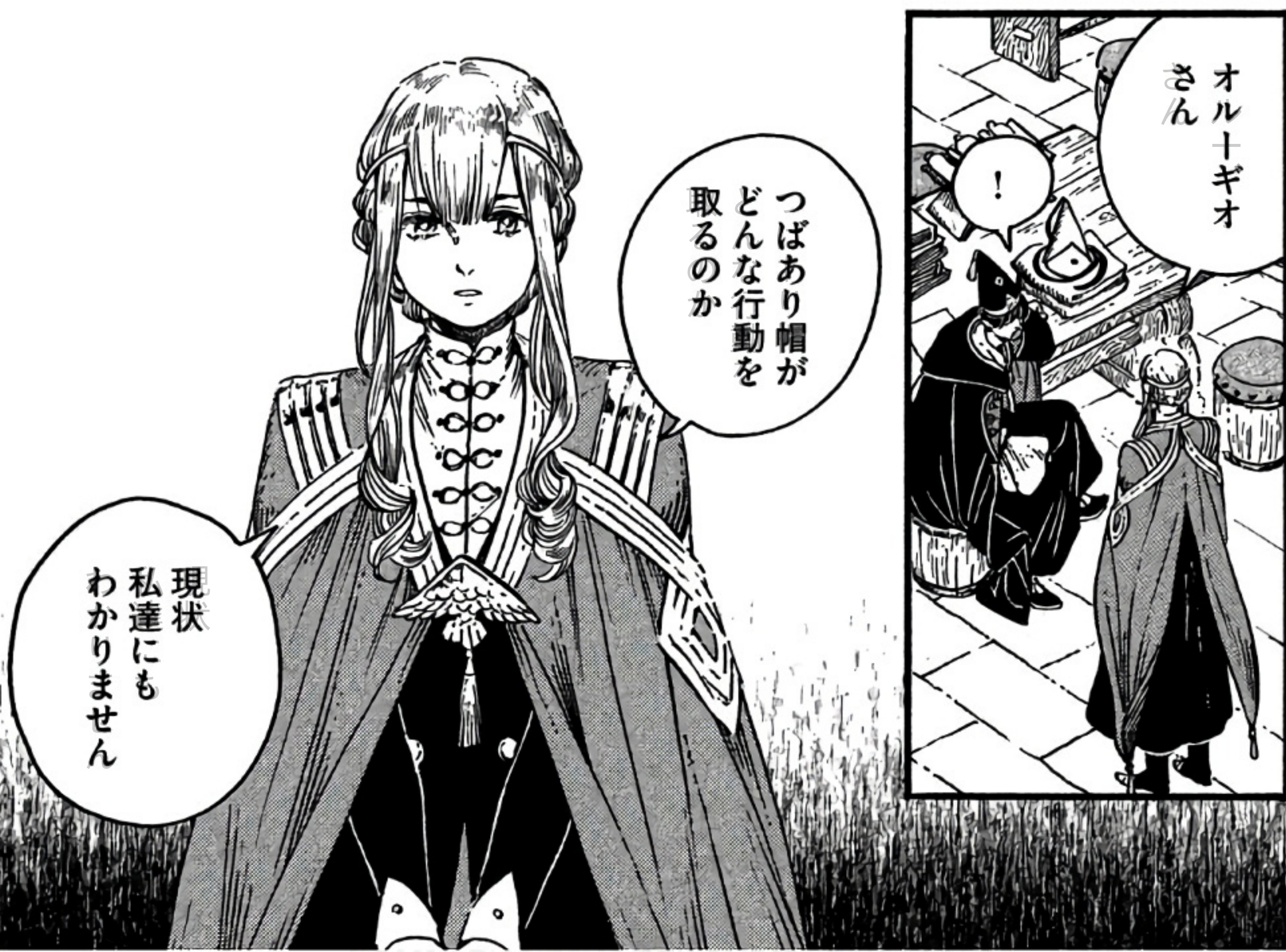


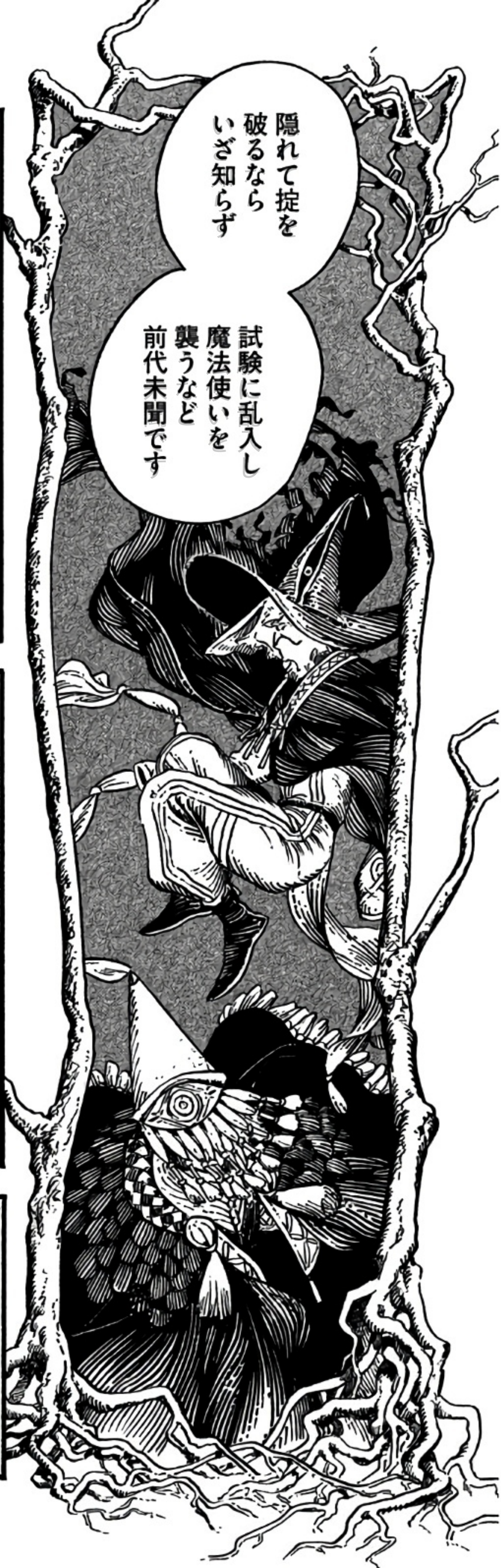
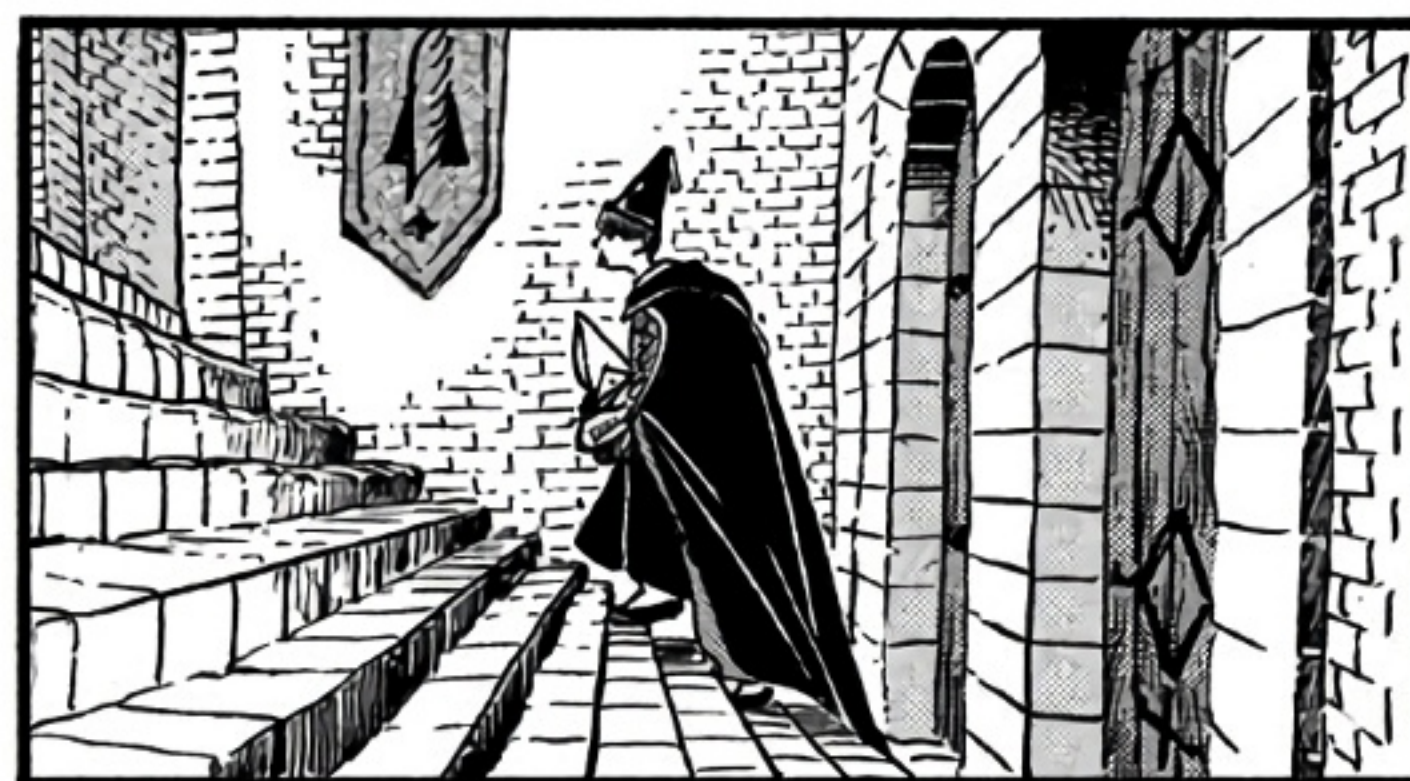
そうなつたら
大講堂に
いづらくなる
かもなアツ



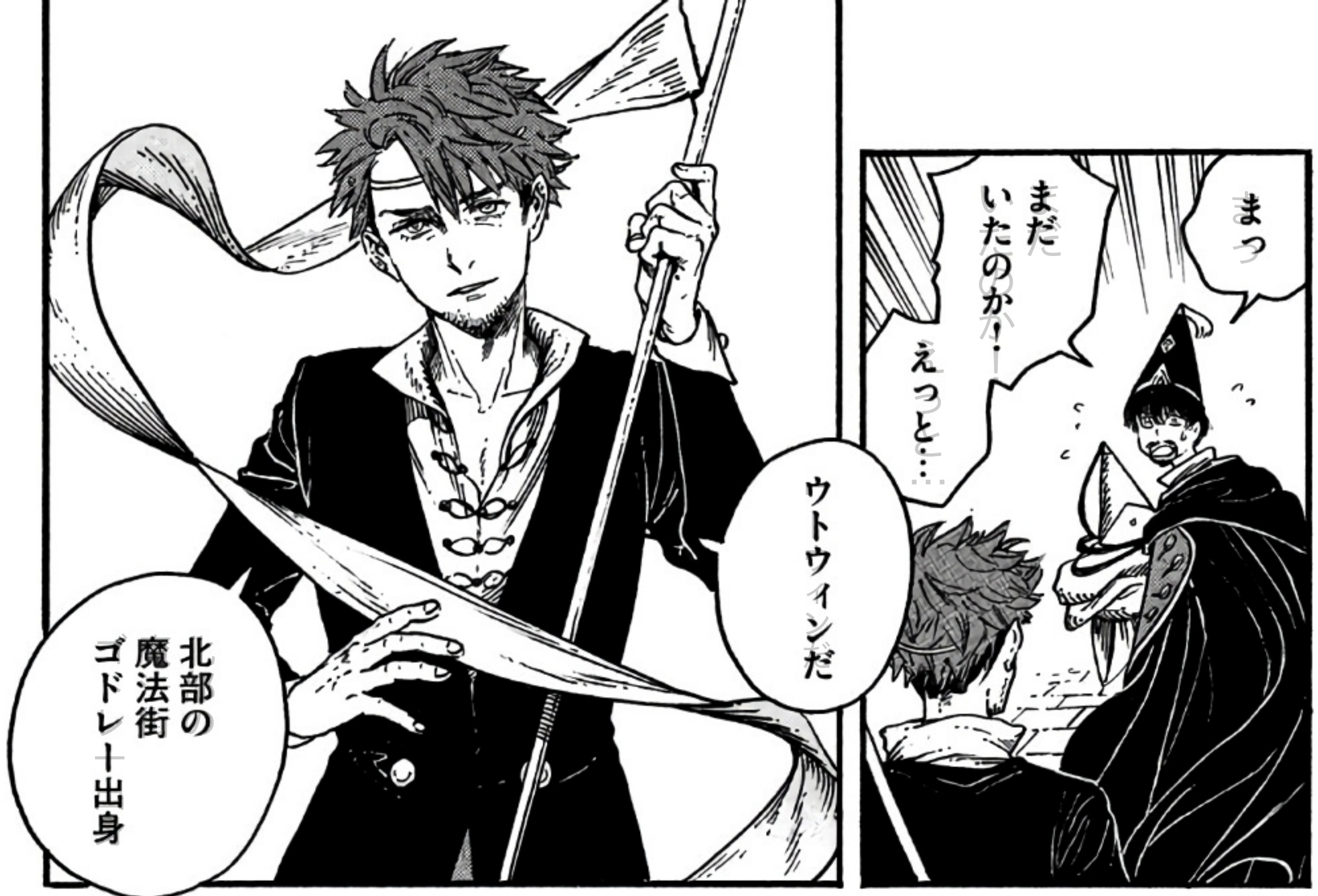
弟子を
見捨てた
師匠なんぞ

噂はすぐに
広まるぜ











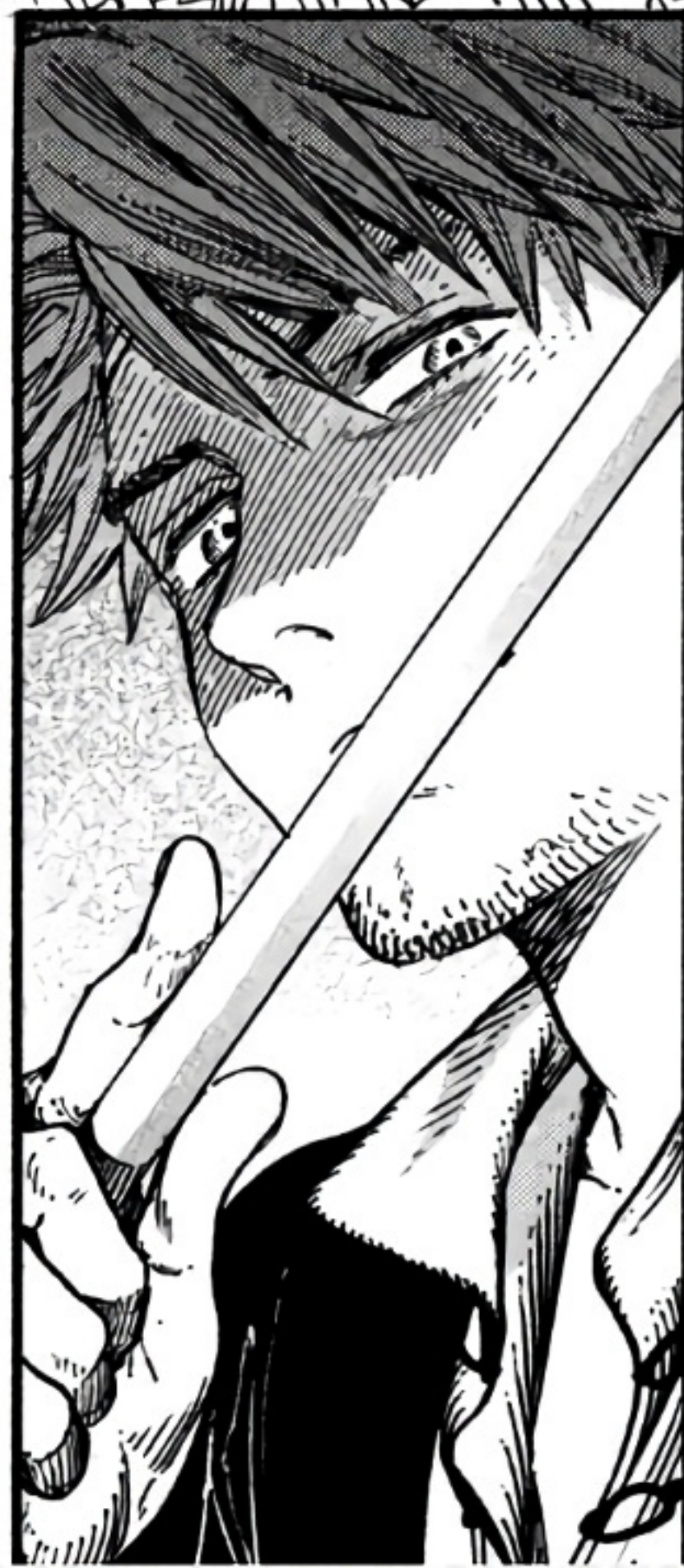


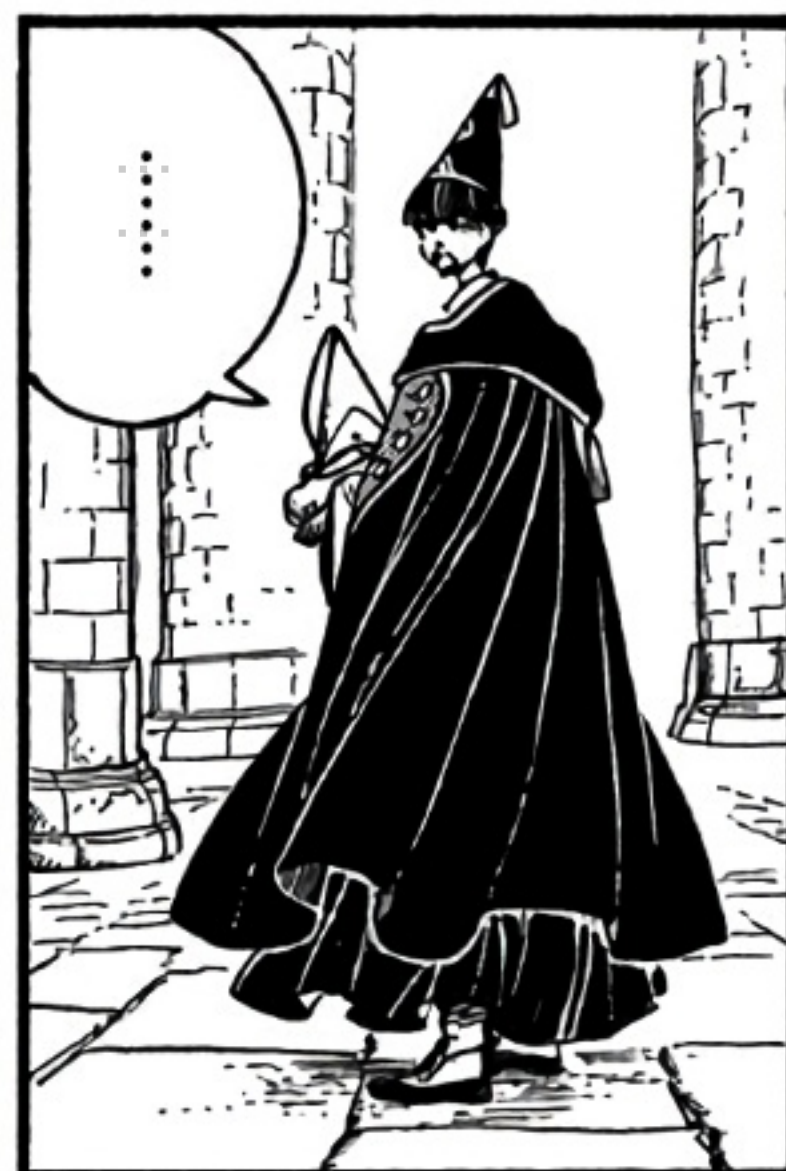
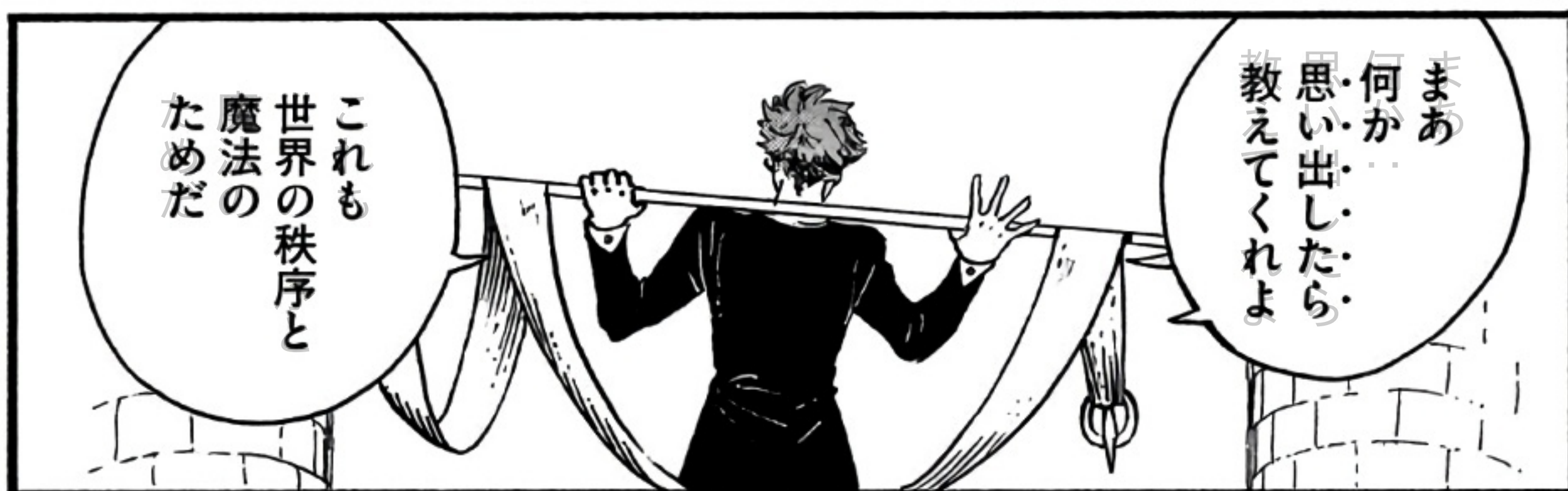
それが
世界を揺るがす
脅威の前兆だったら
見逃すわけには
いかないだろ？



……って
みはり^{みはり}の眼^{まなこ}が
嘘^{うそ}をつくはずが
ないか

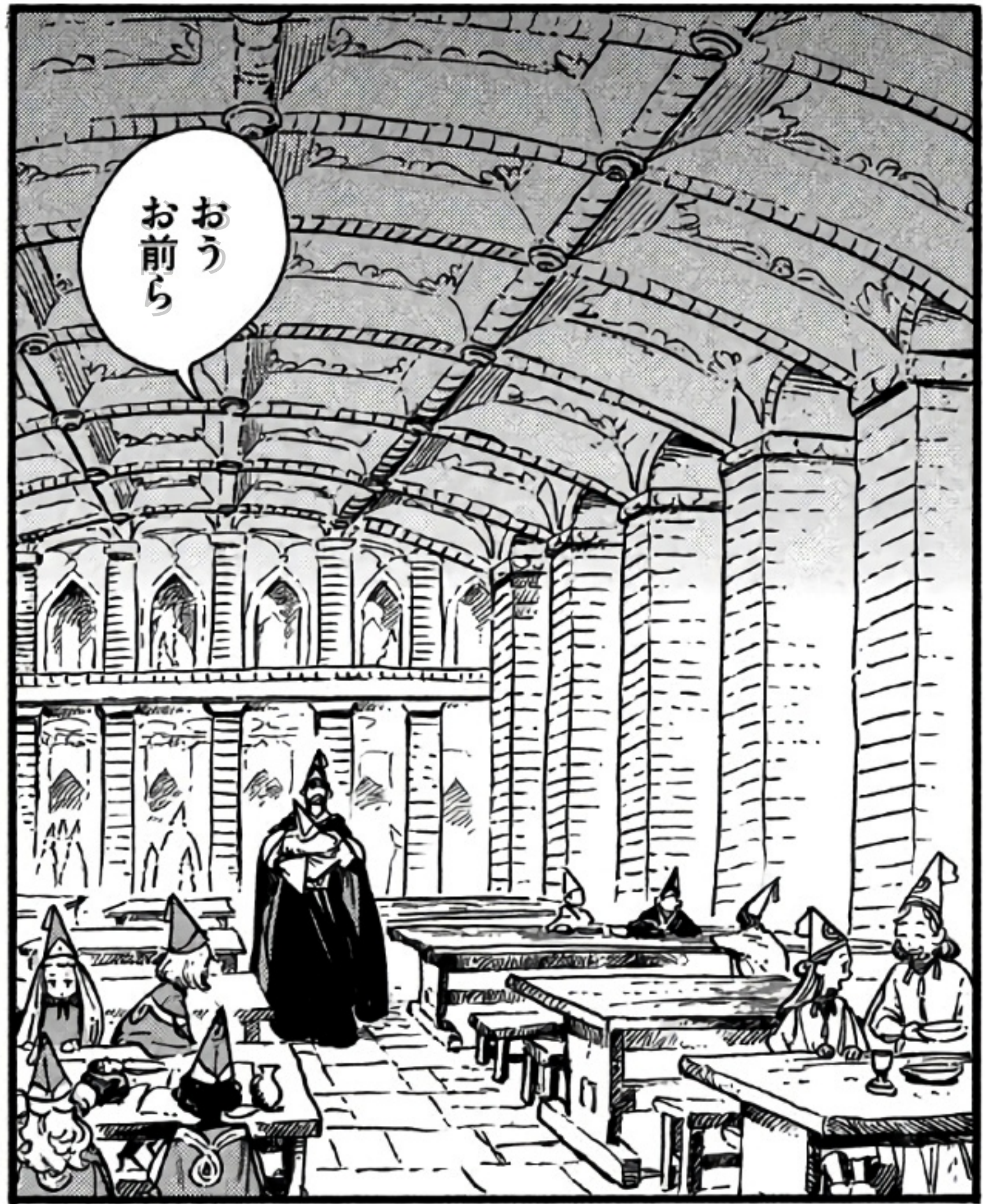
はっ！







待たせたな
……って



おう
お前ら



それに……
何だそりや

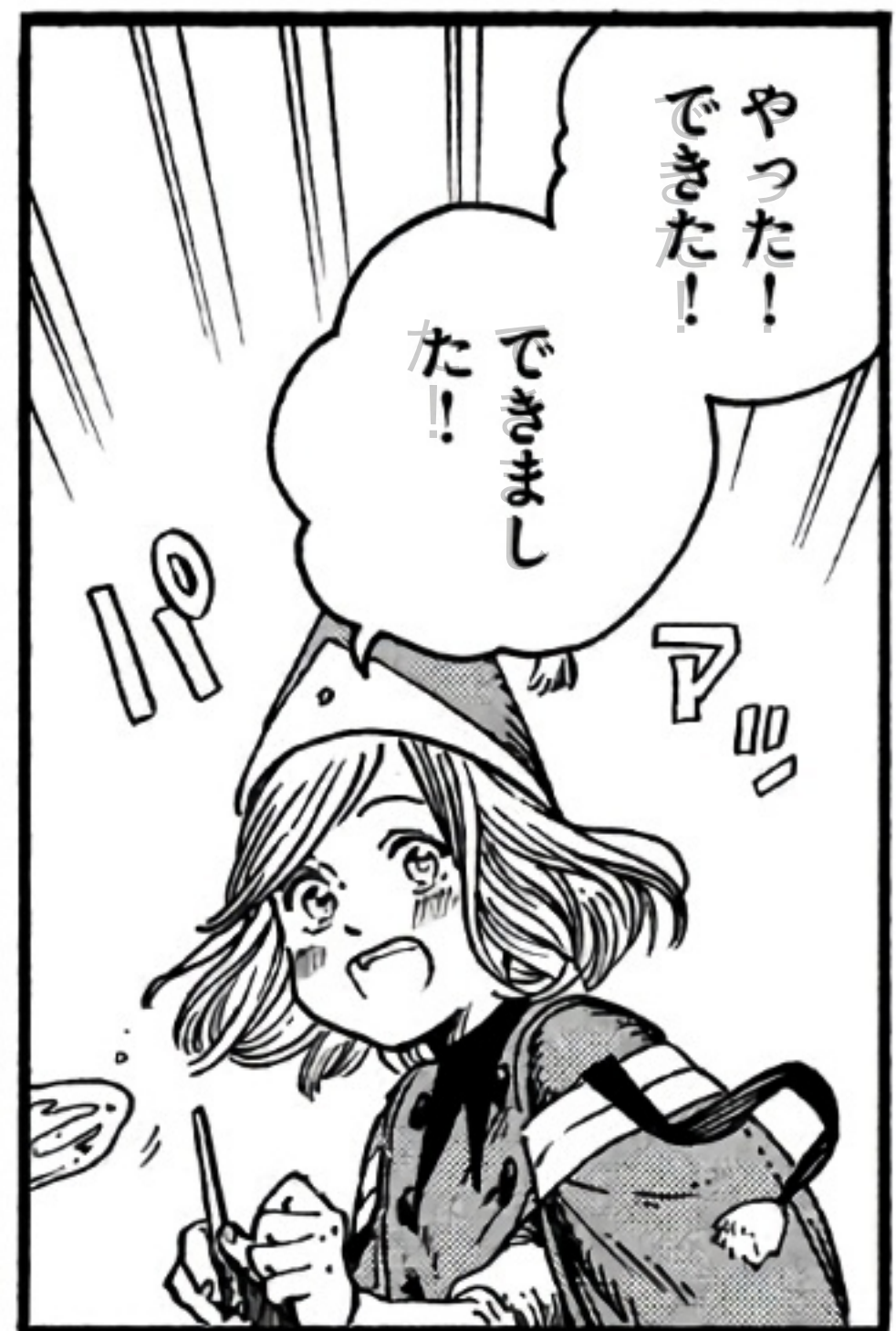


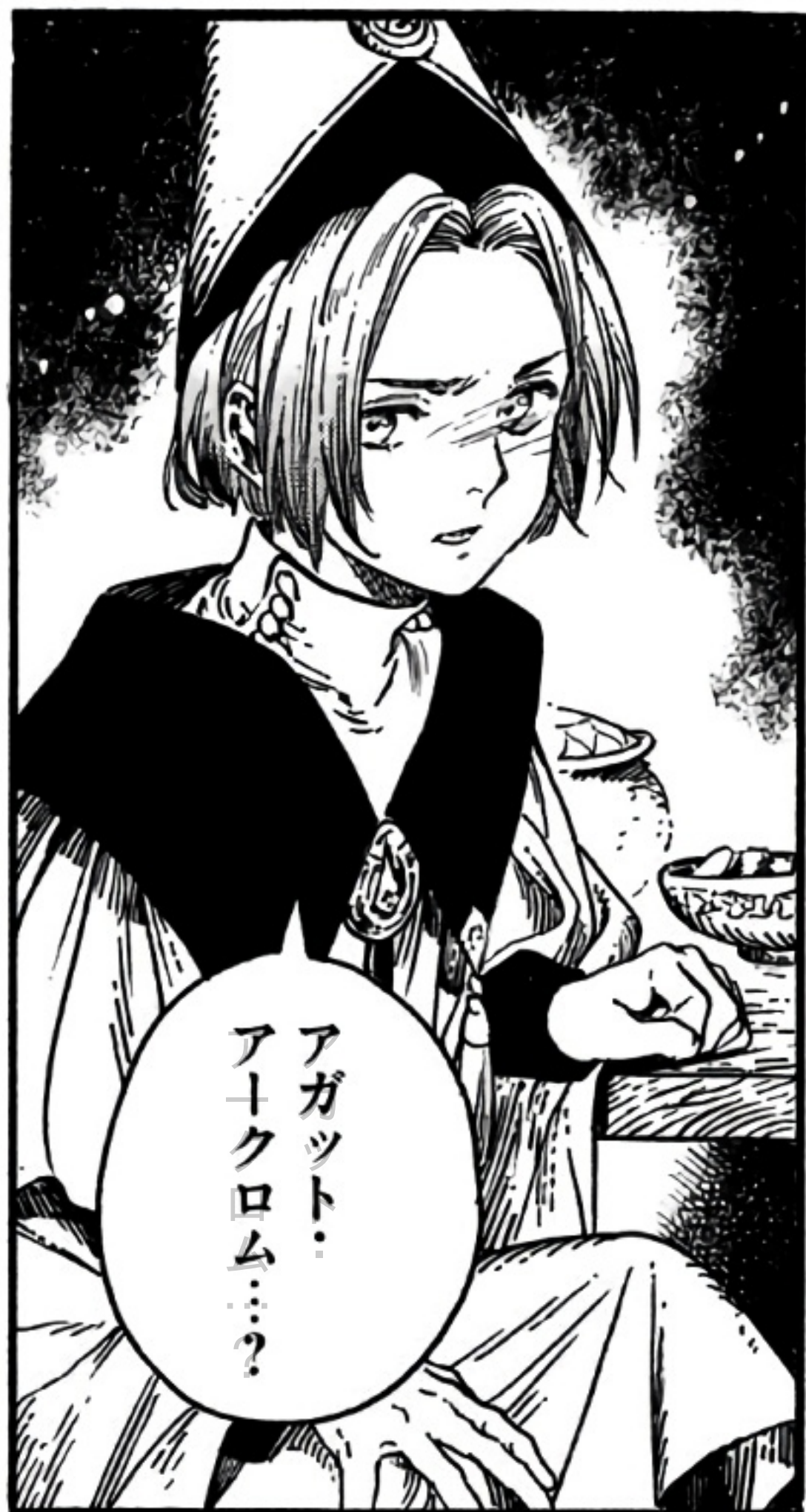
ずいぶん
盛大に
広げたな

えへへ







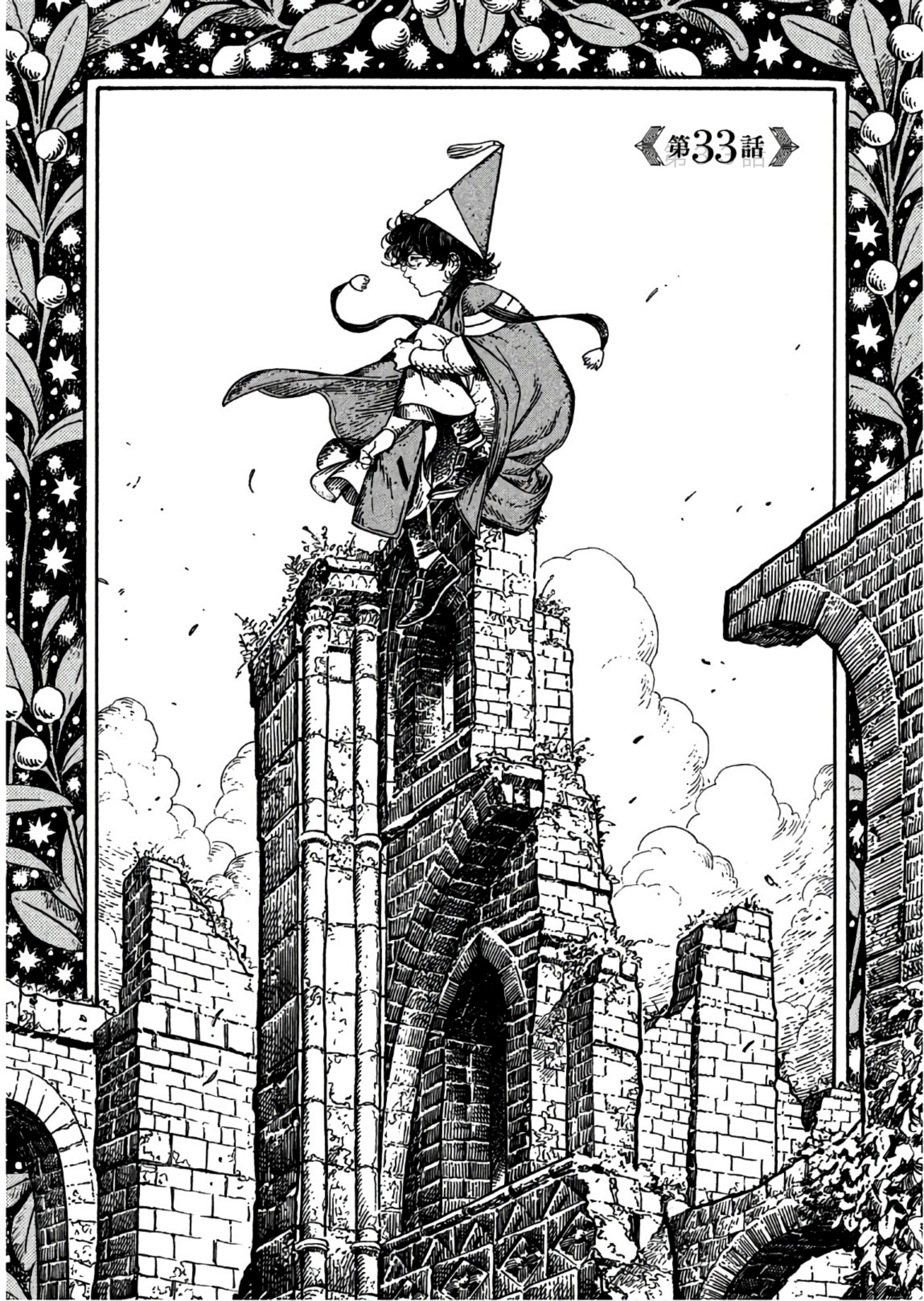


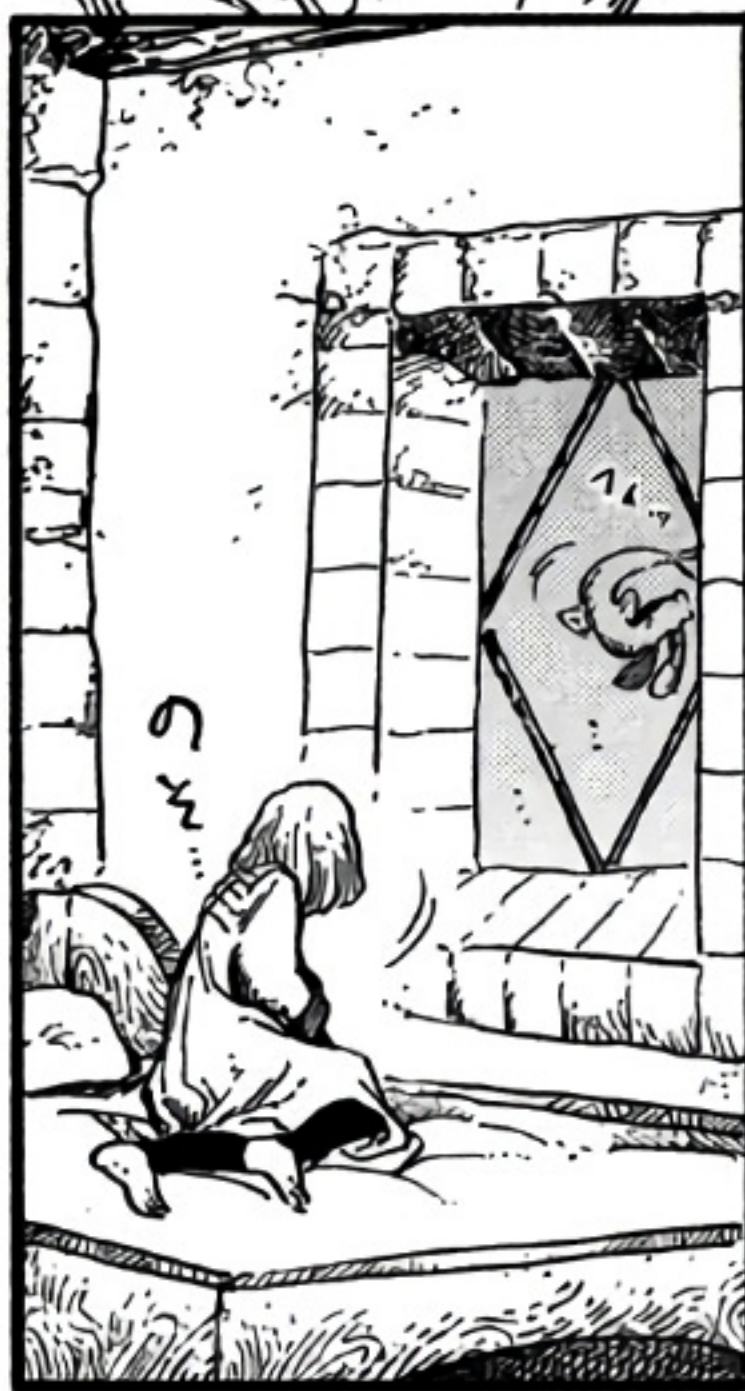
とんがり帽子のアトリエ

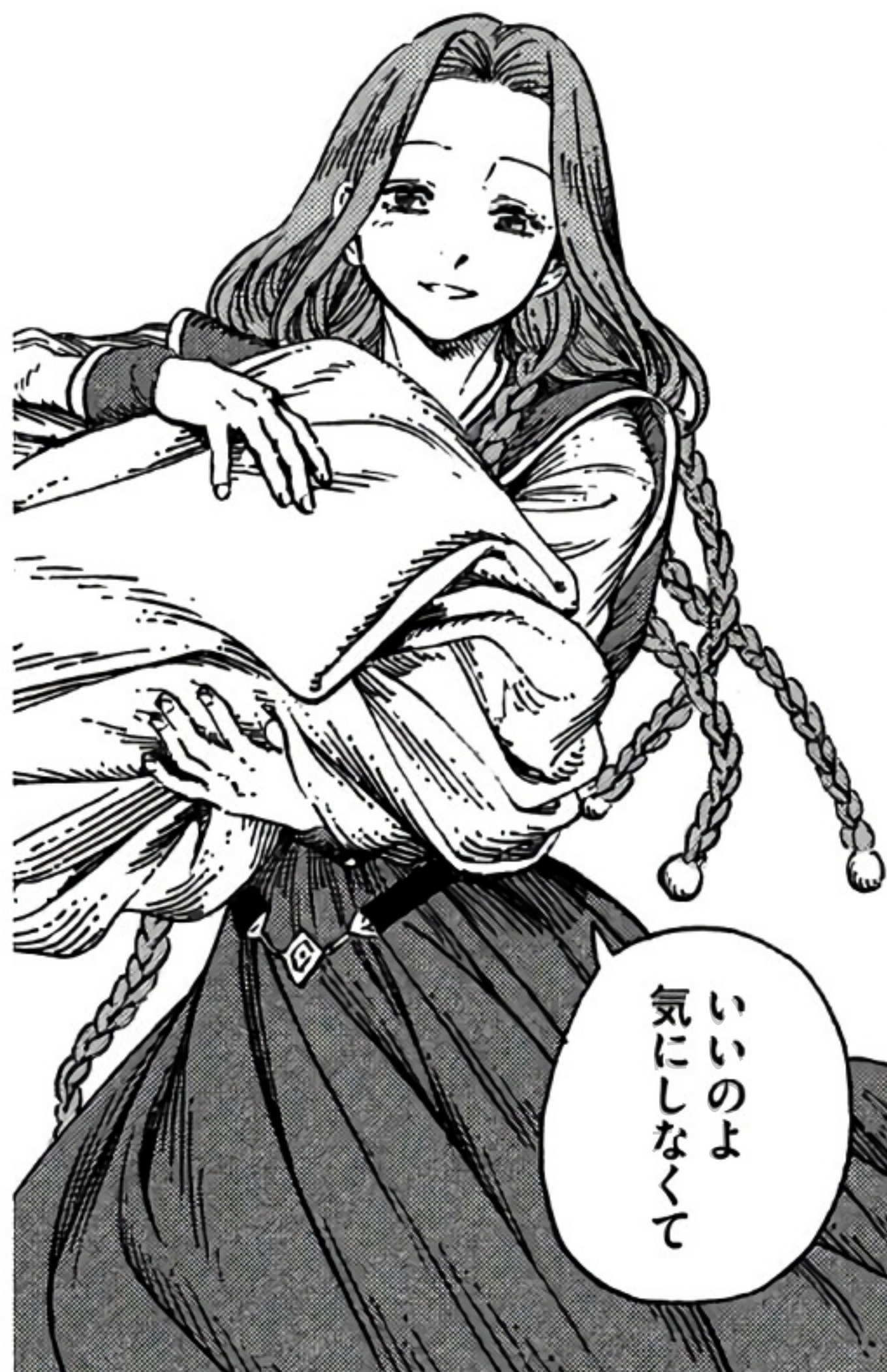
ATELIER OF WITCH HAT



《第33話》







おはよう
ココちゃん

よく
眠れた？

はい



医療塔のお部屋
使わせてくれて
ありがとうございます
シノシアさん

いいのよ
気にしなくて

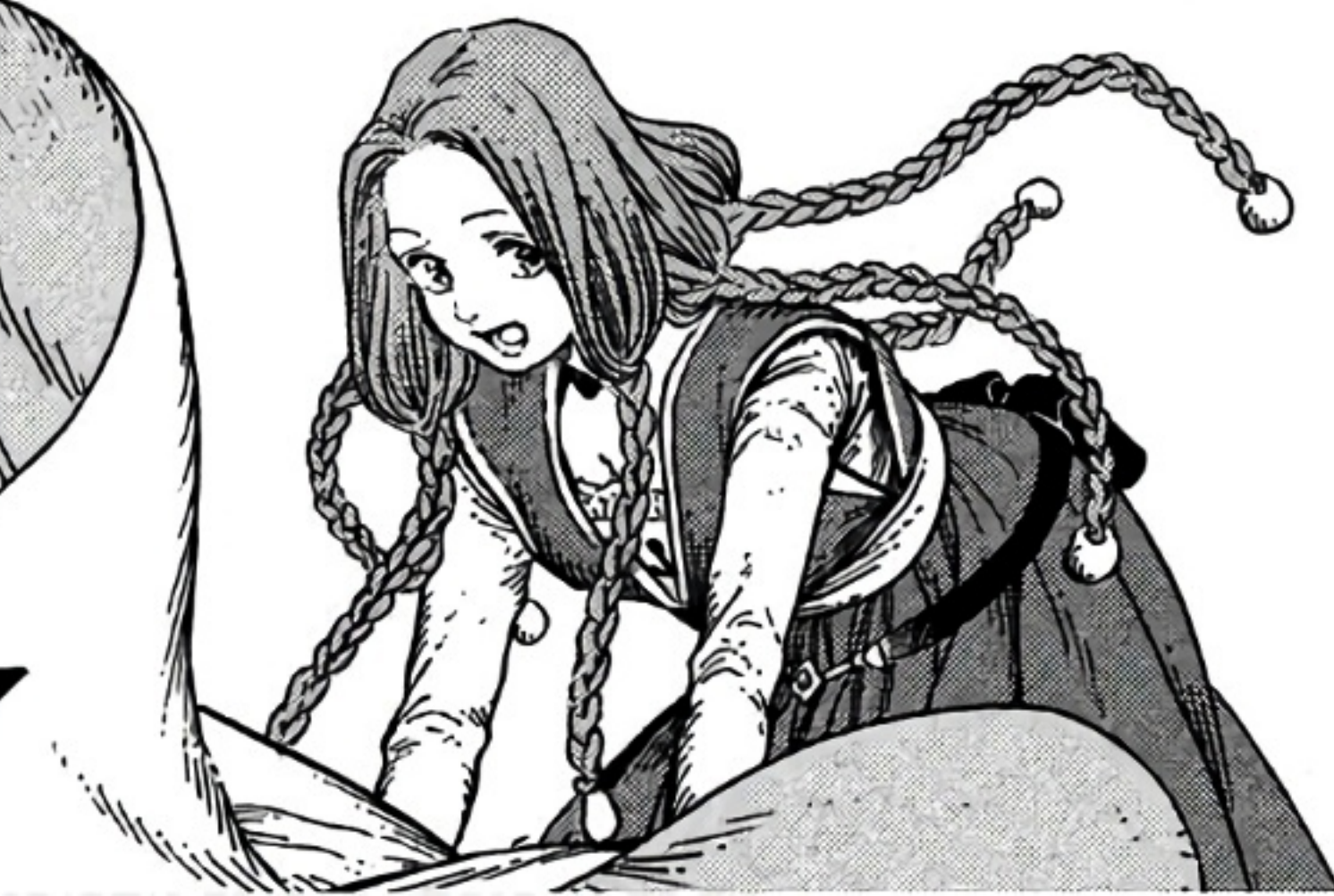


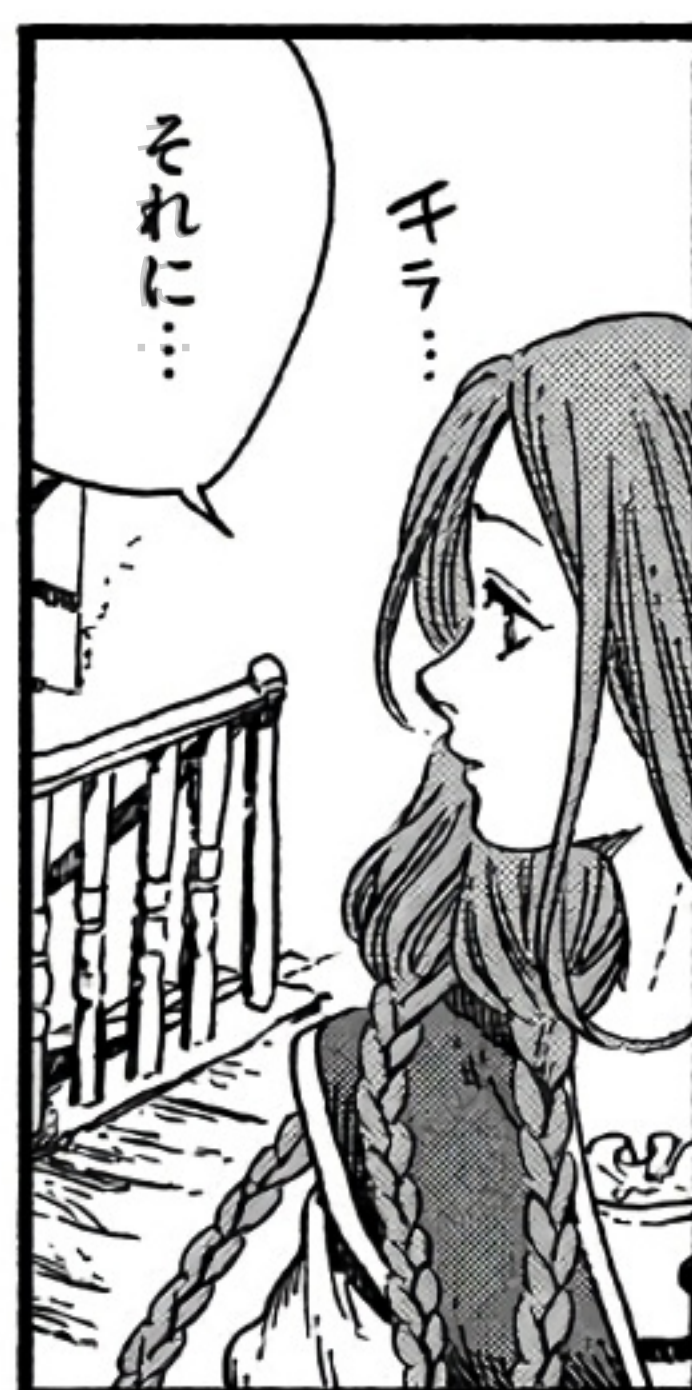
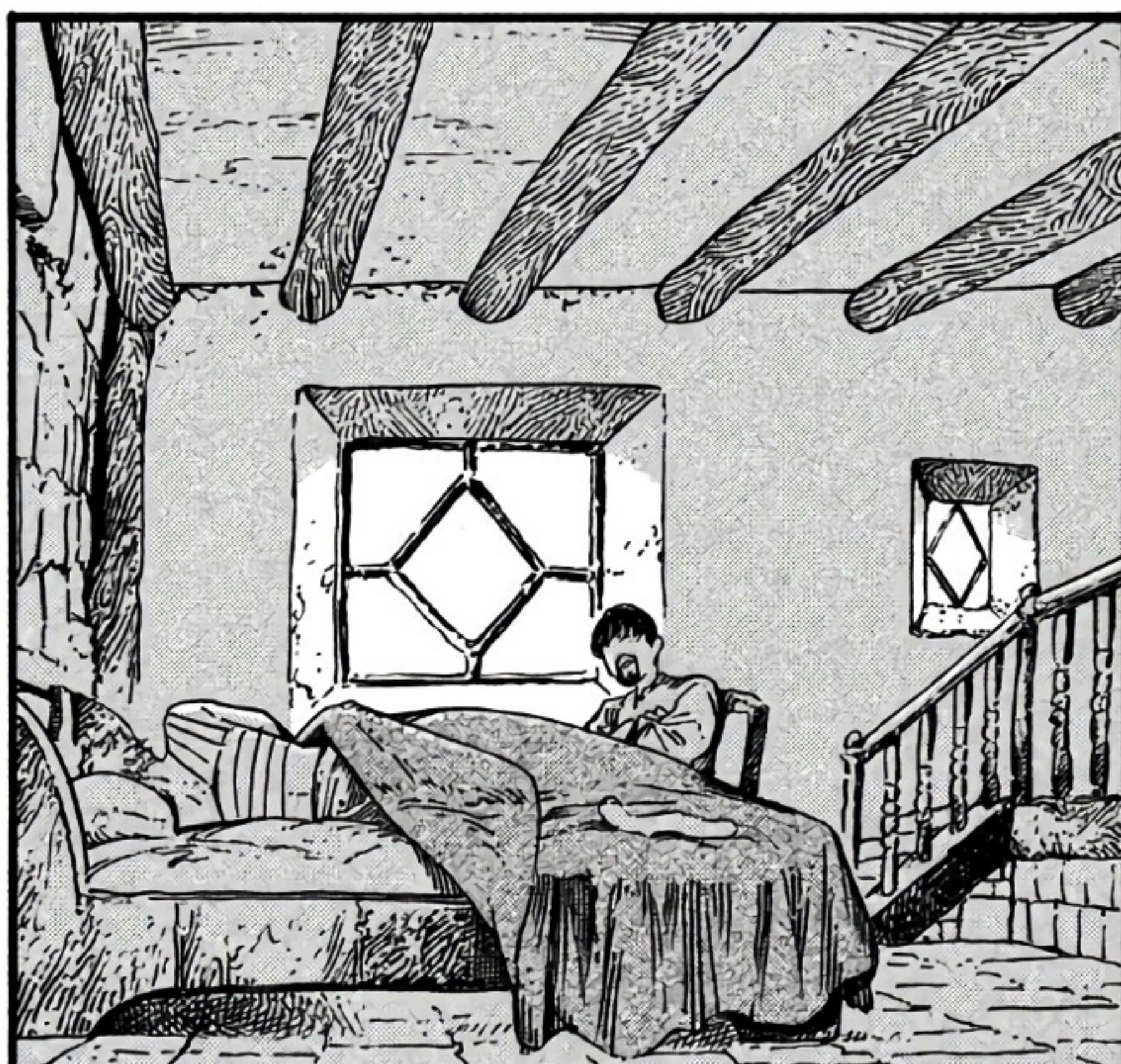
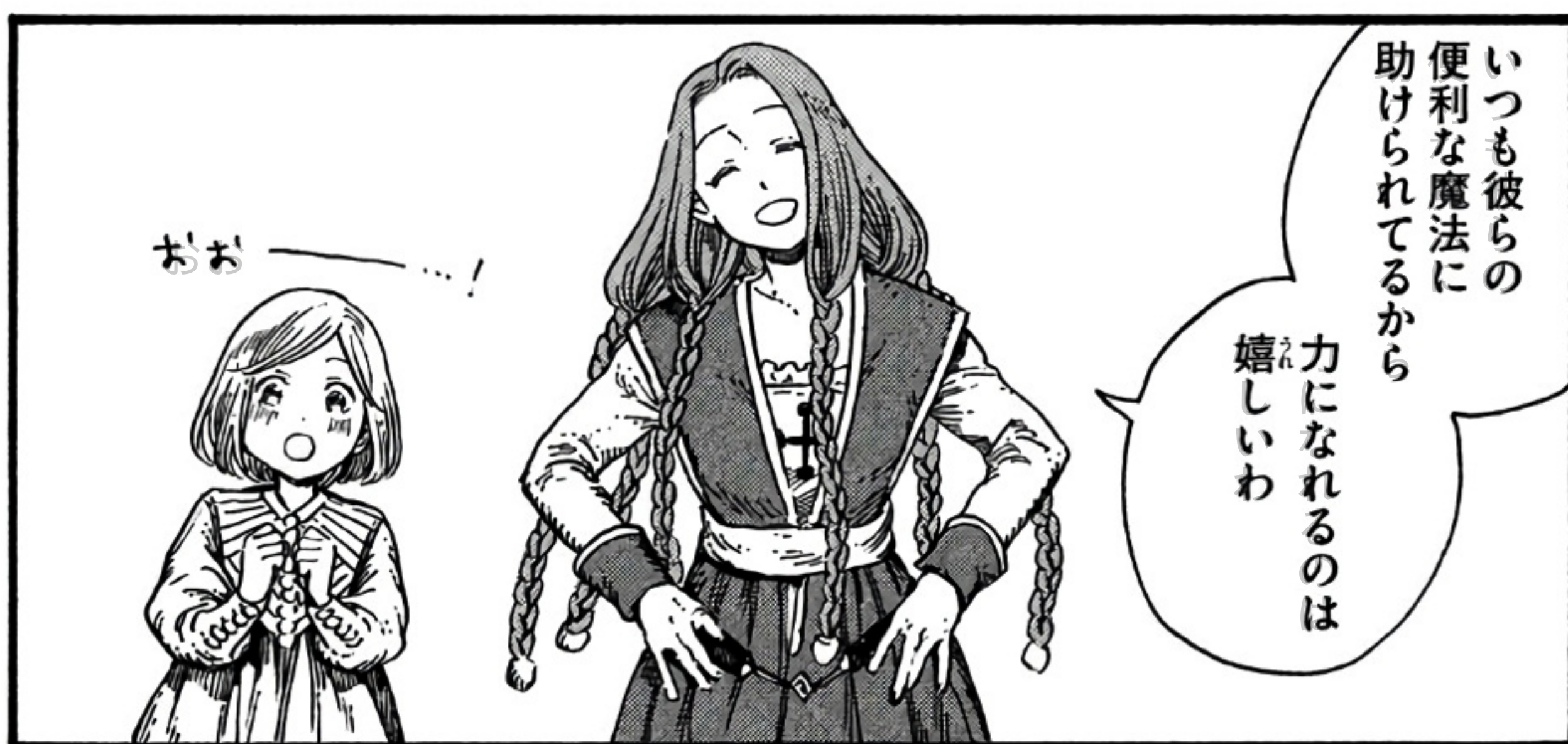
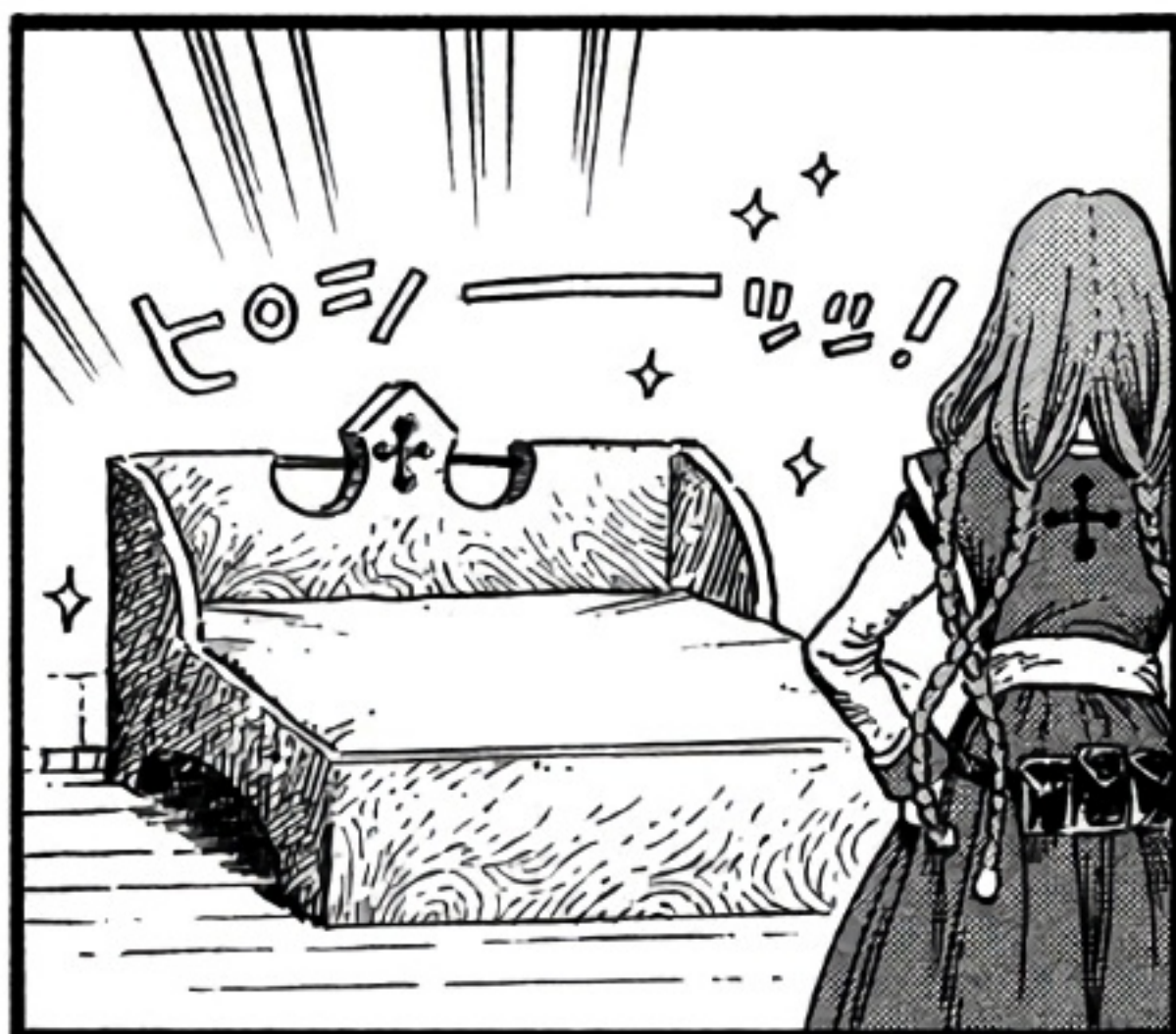
ここには
魔法のかかった
道具がたくさん
あるから

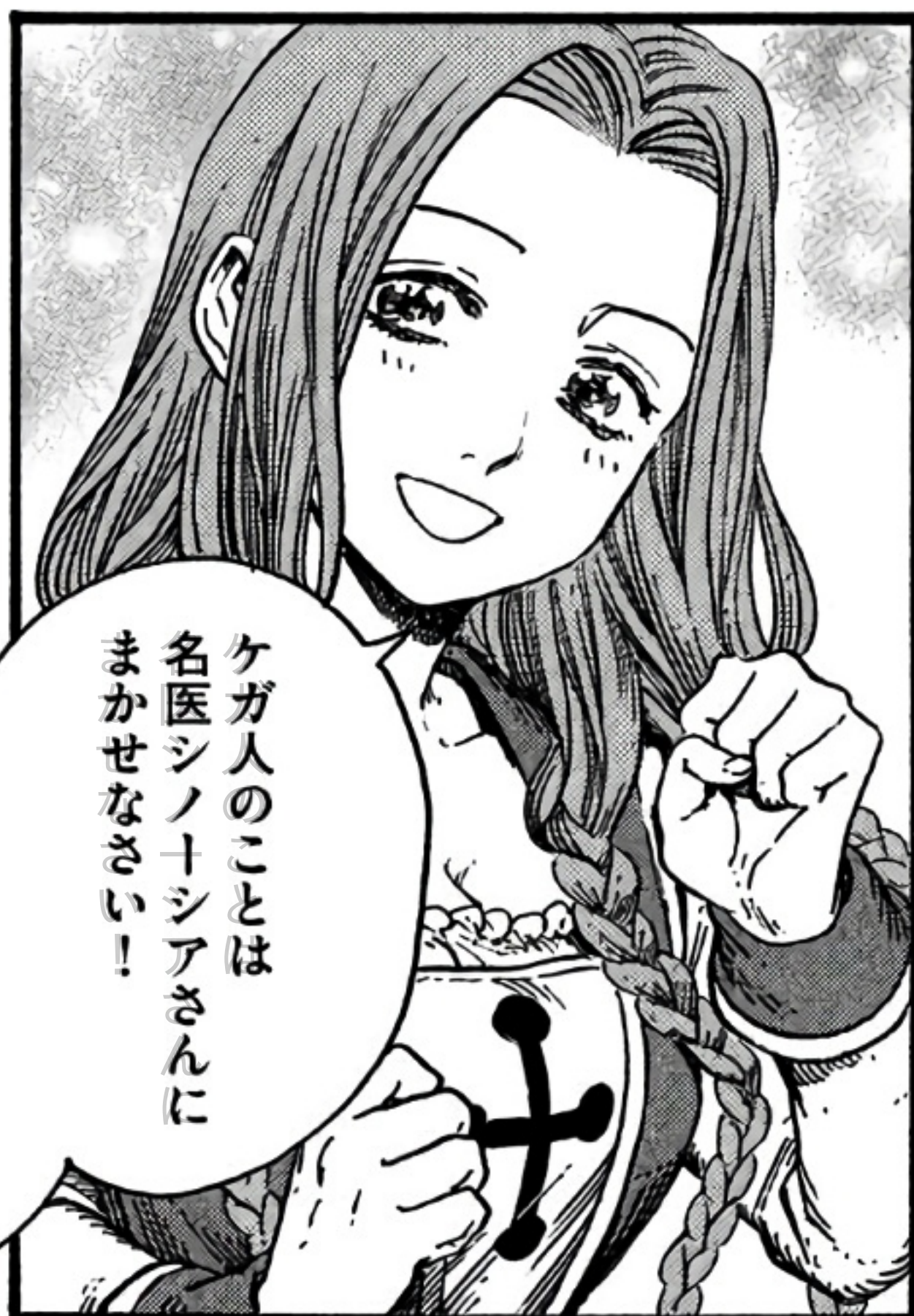
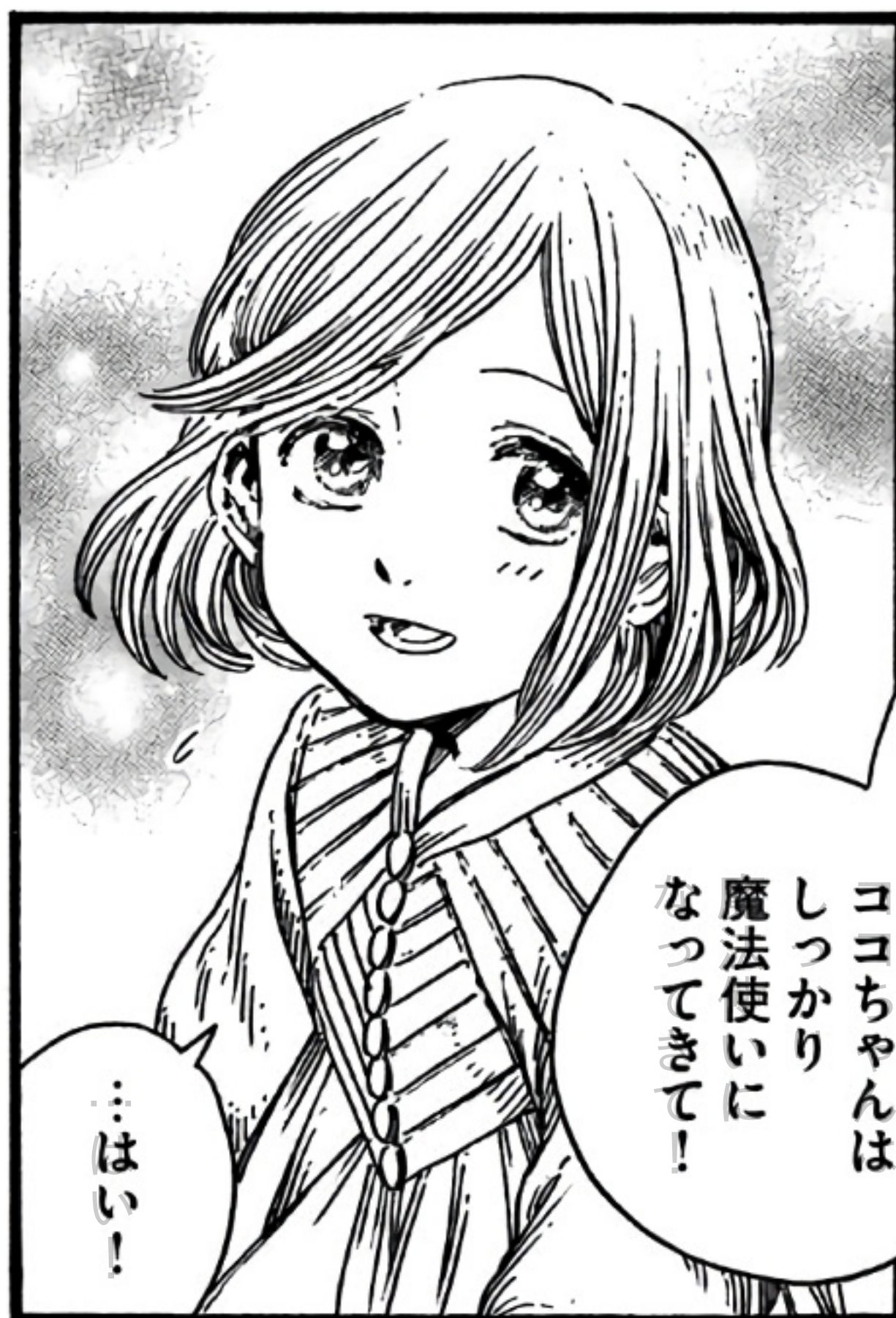
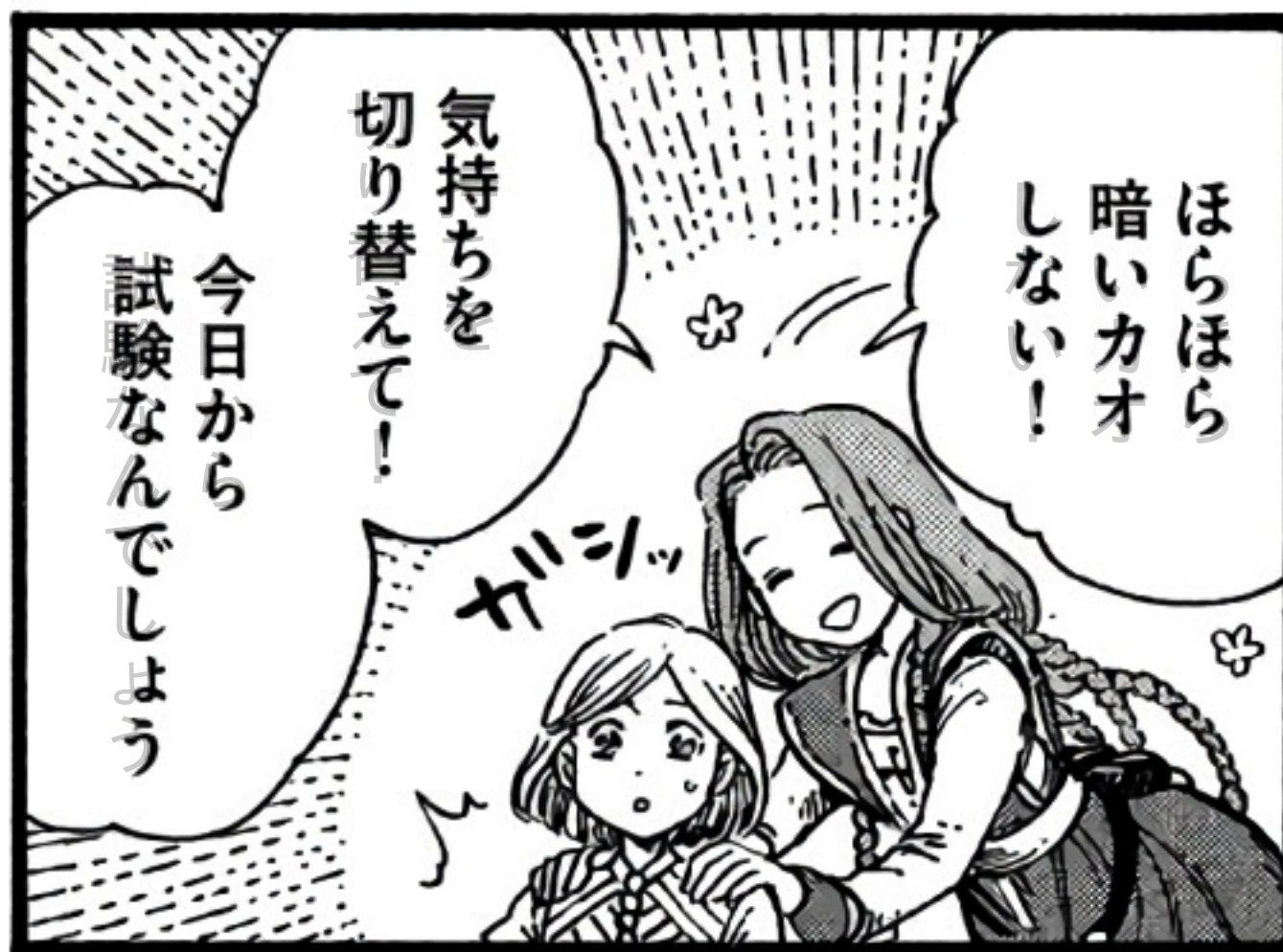
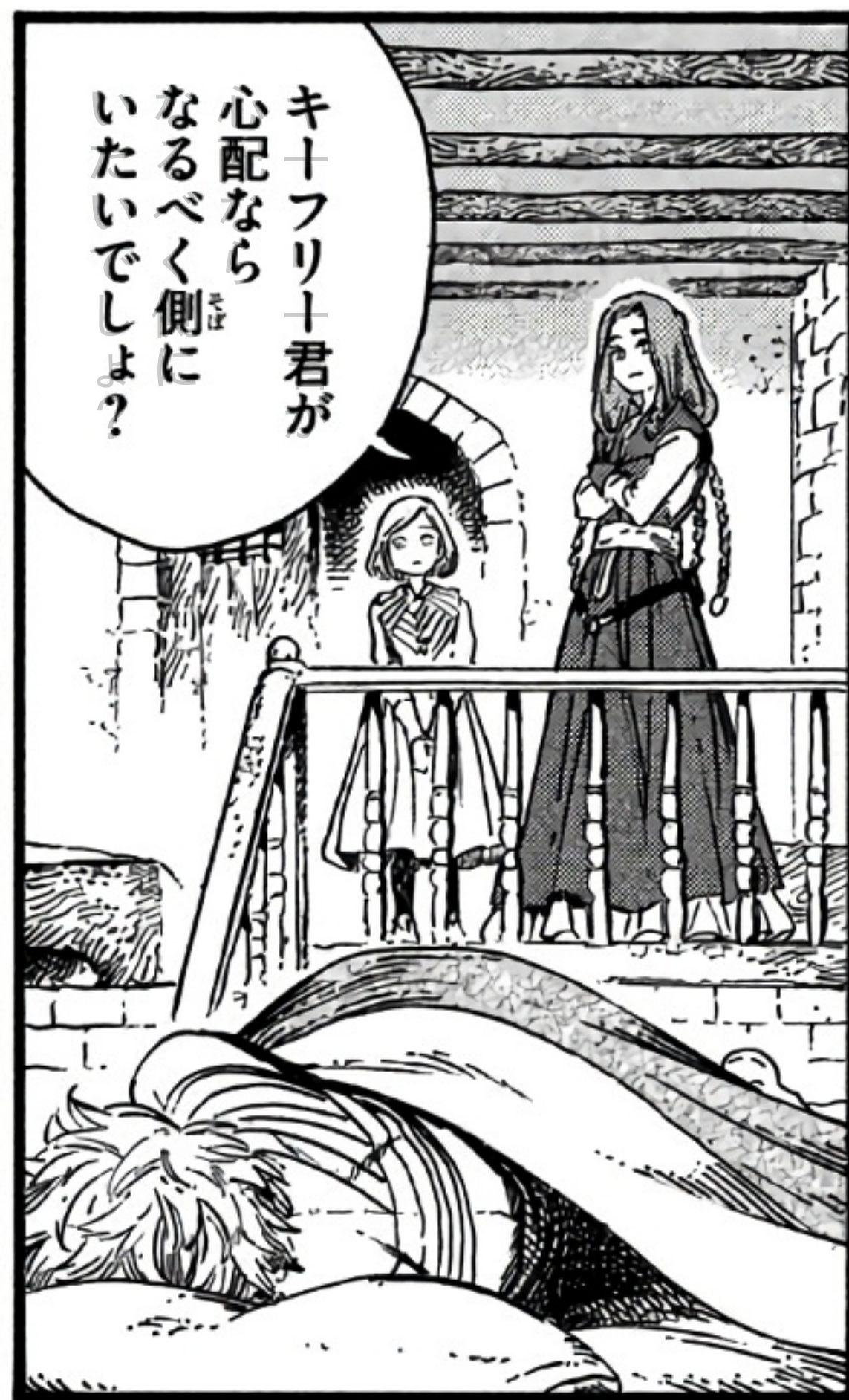
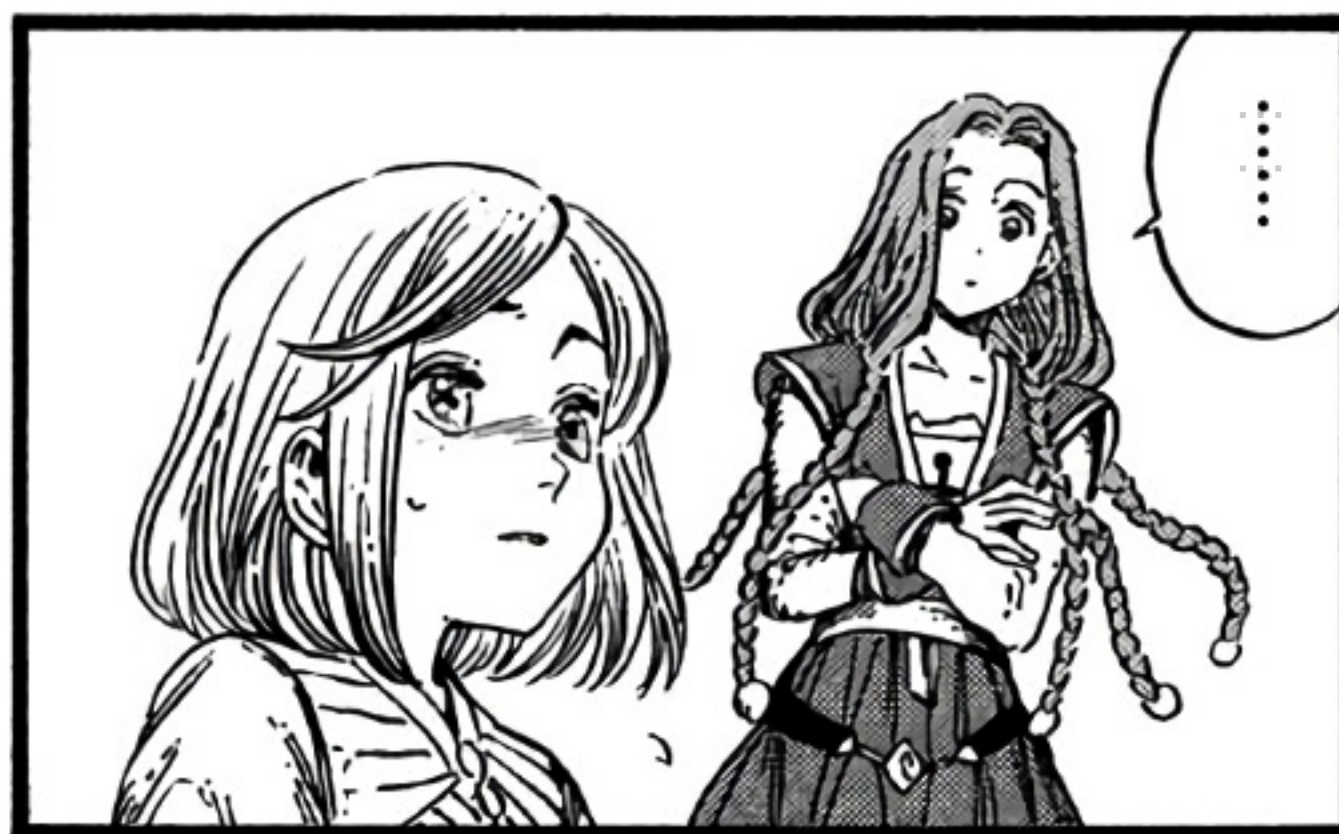
雑用に
取られる時間が
すごく短いの

おかげで
時間も部屋も
余裕があるのよ

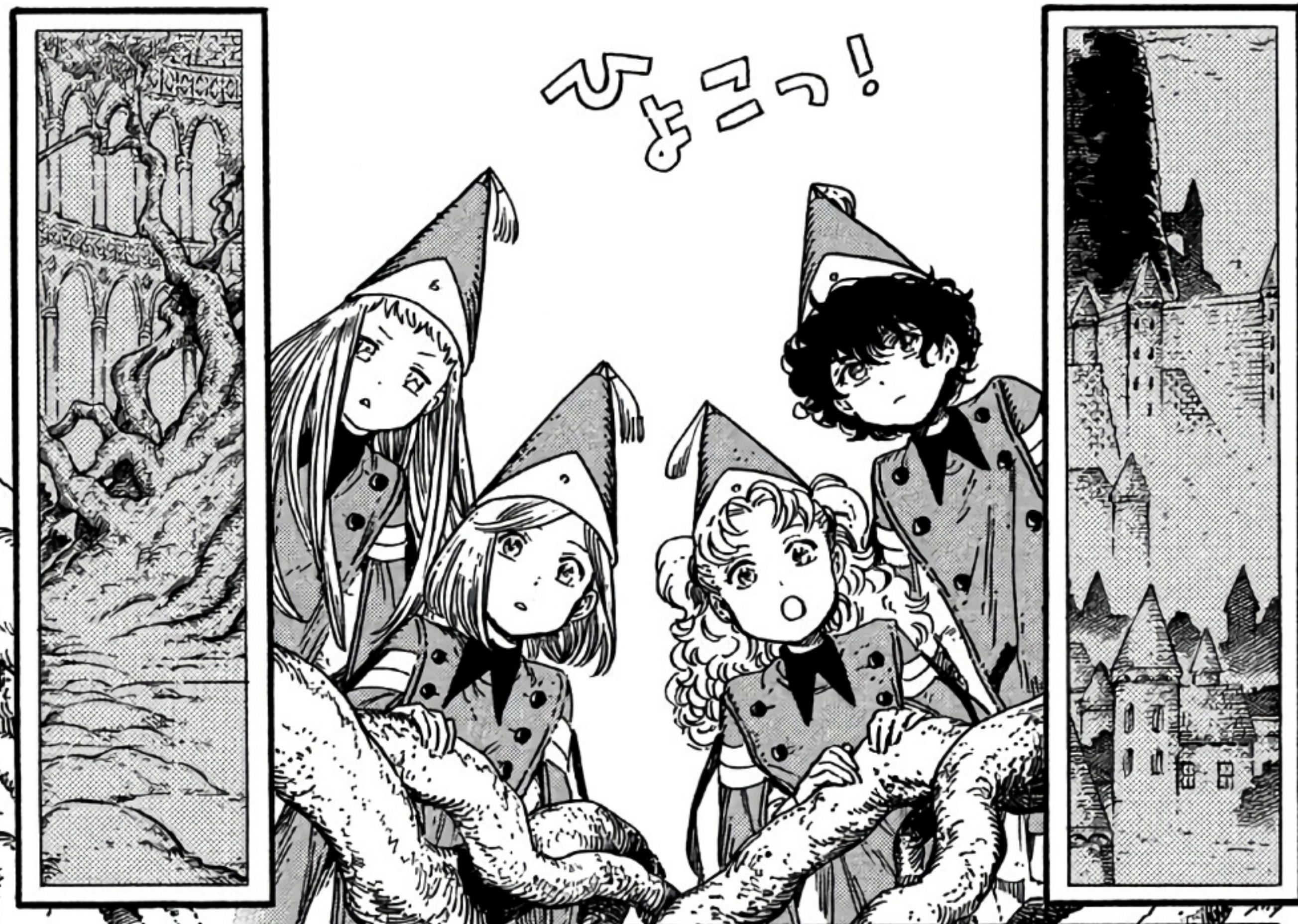
サア







ふんっ!





昨日銀の庭で
思いついた

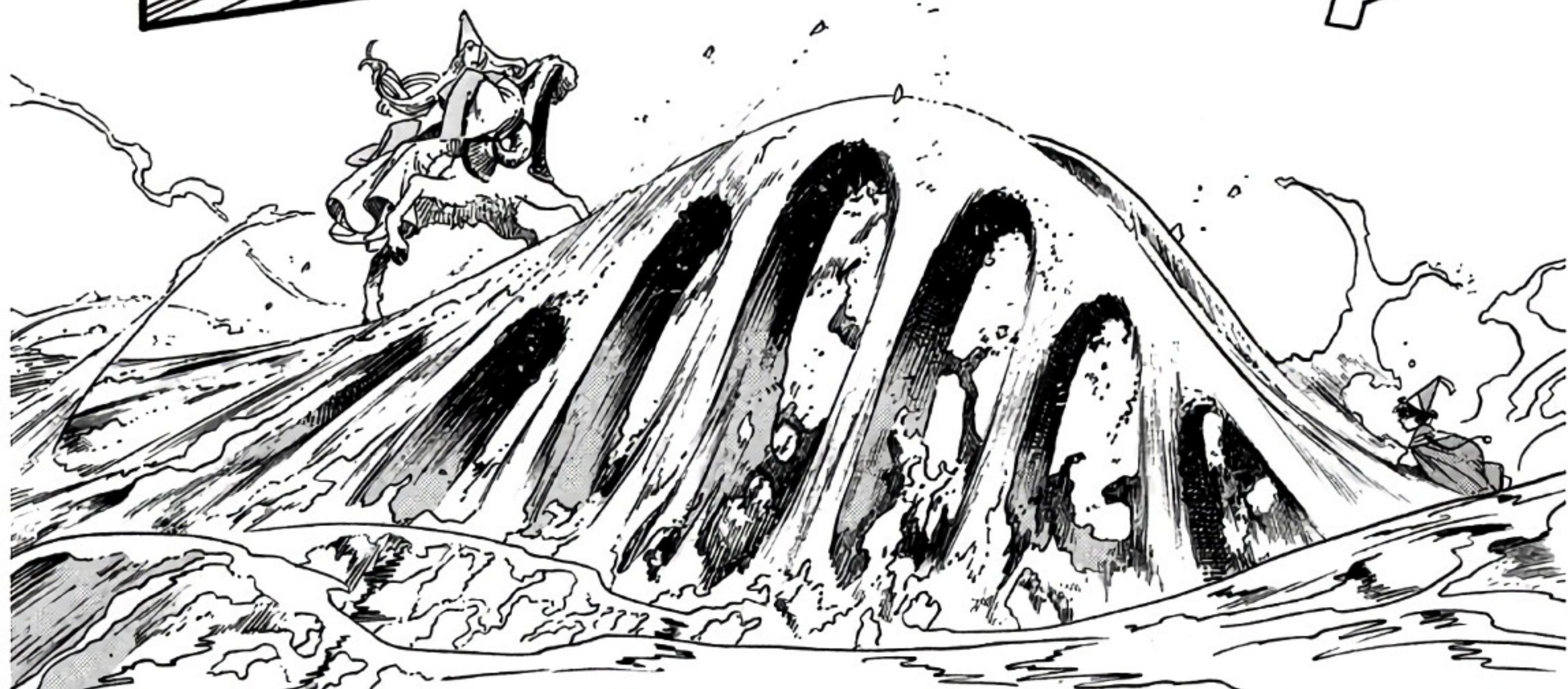
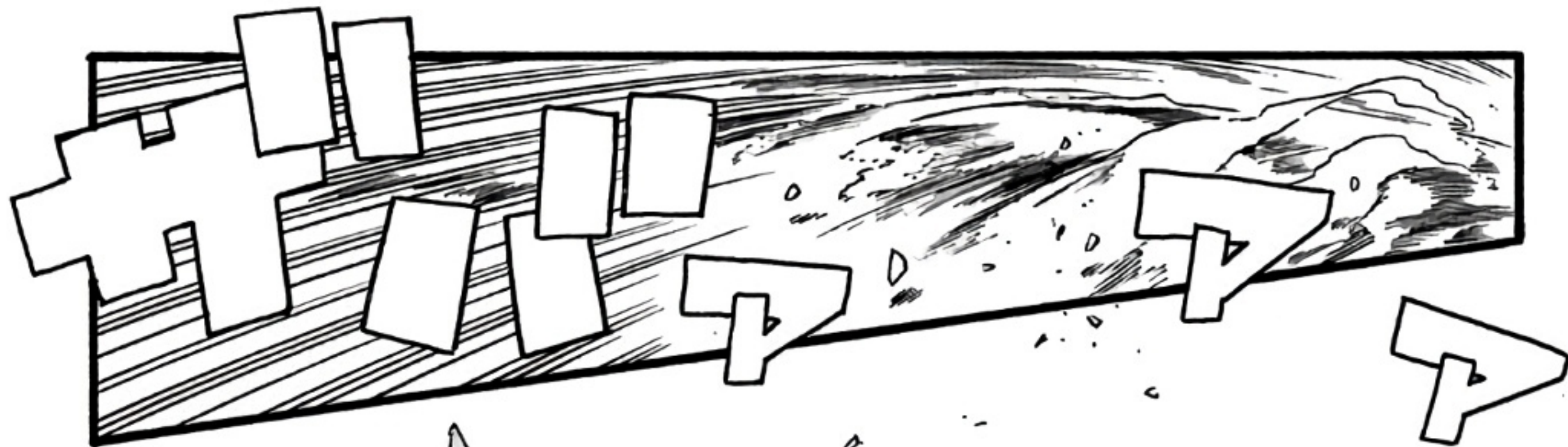
銀葉樹へ至る
足場の悪い
砂の道

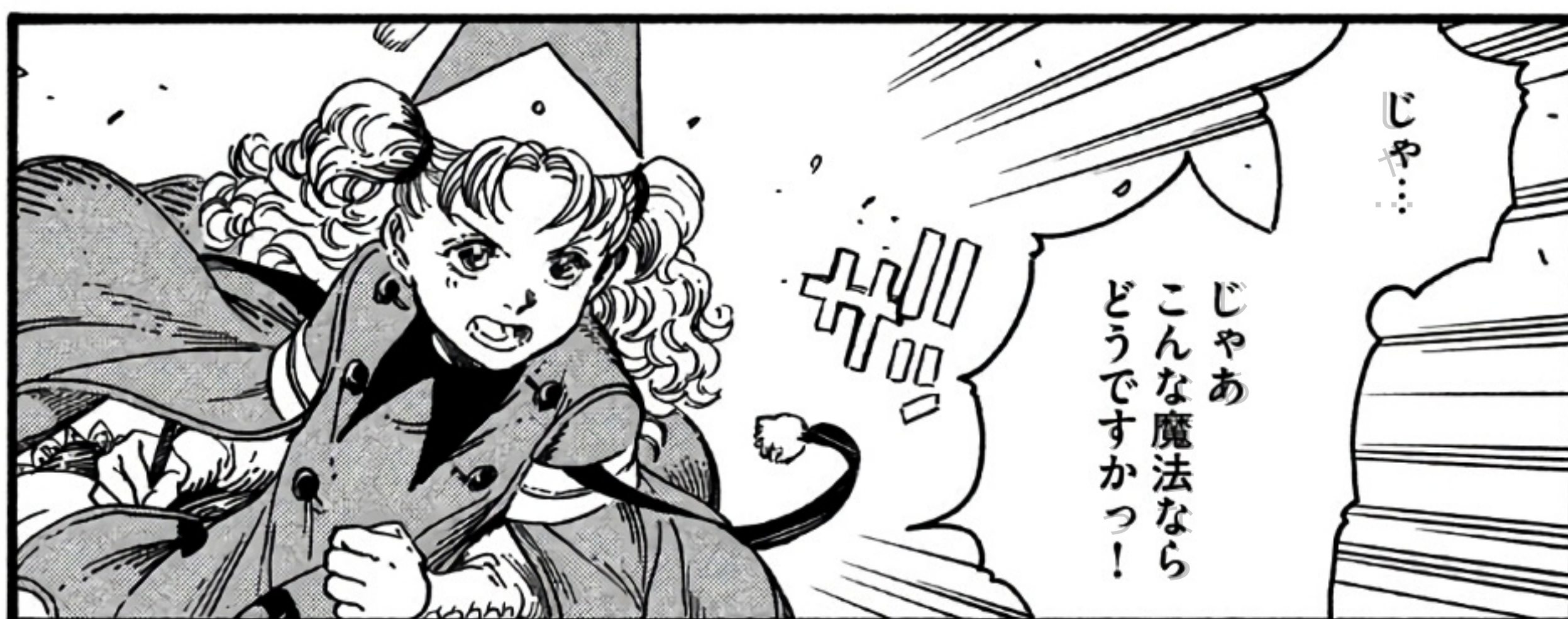
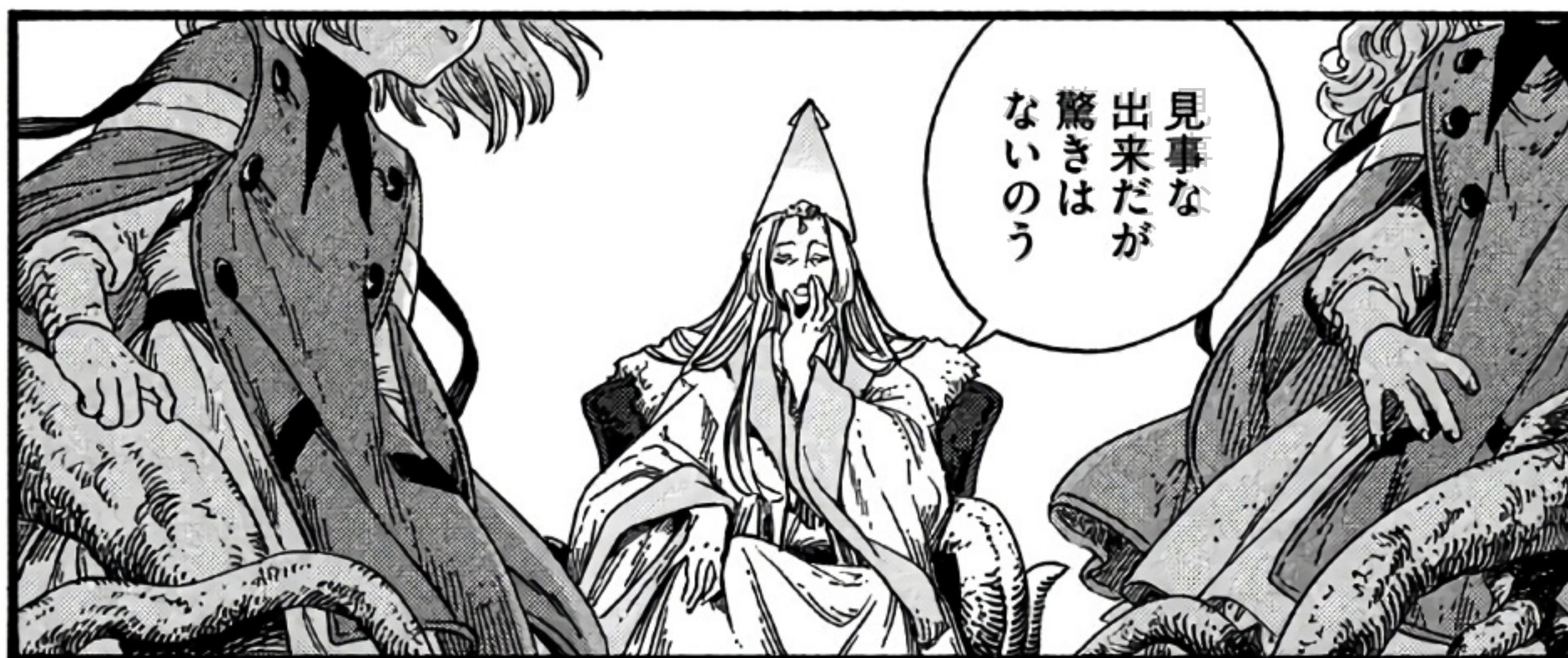


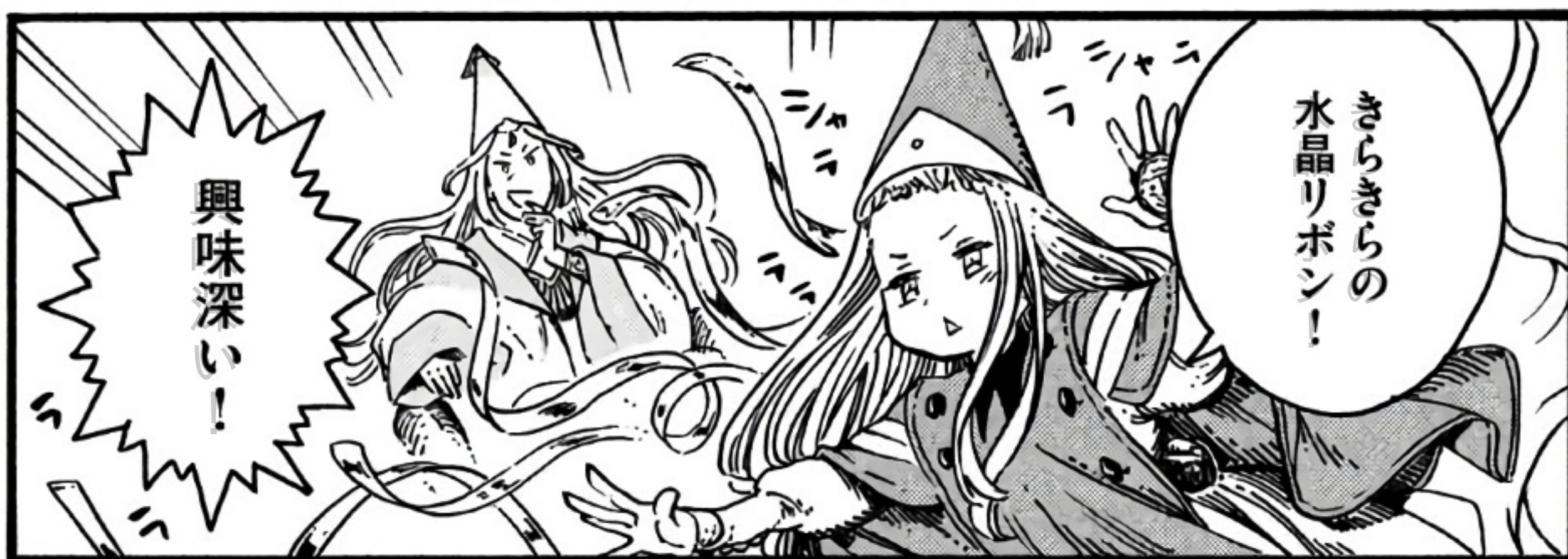
今の私が
知る中で

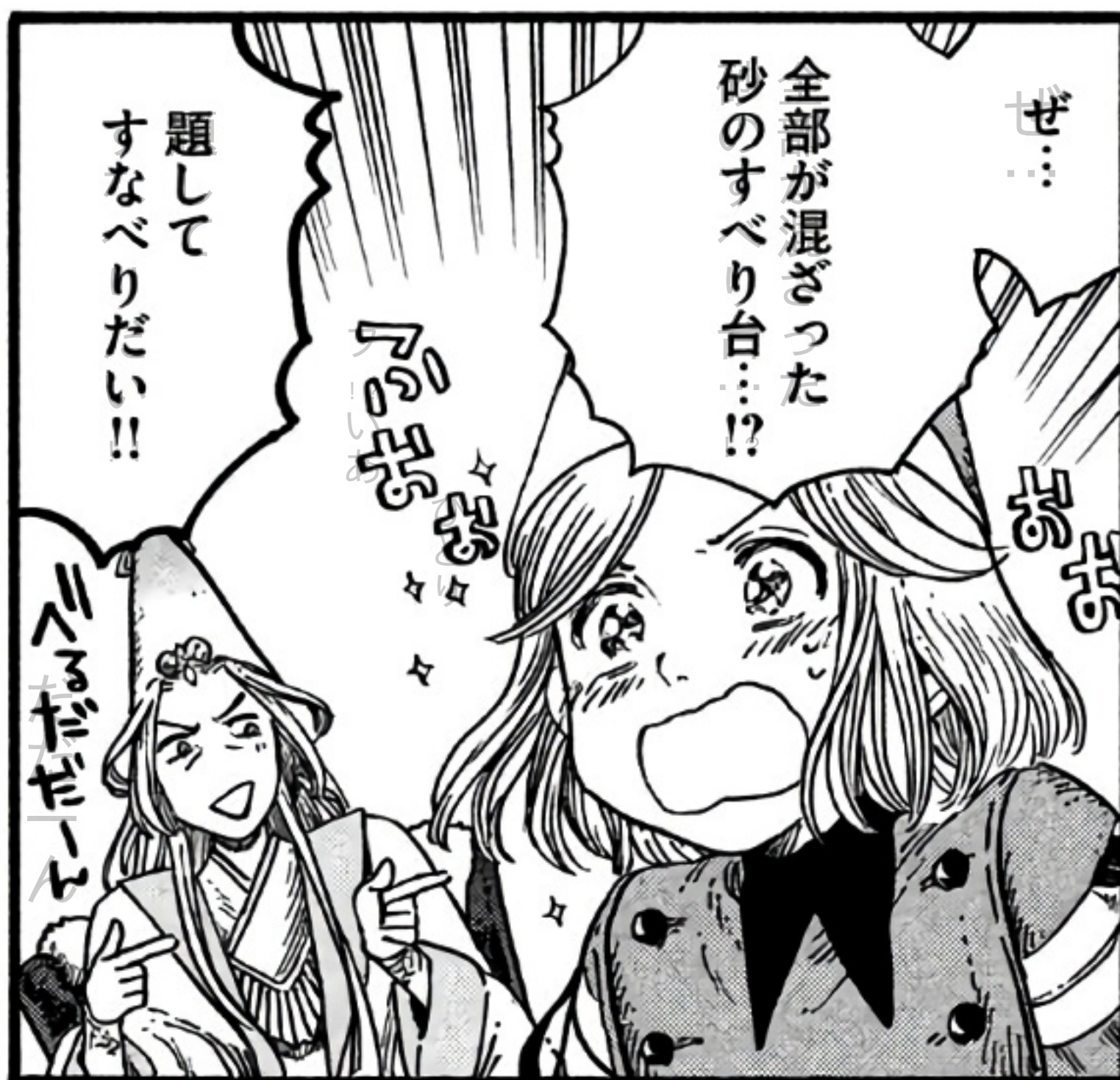
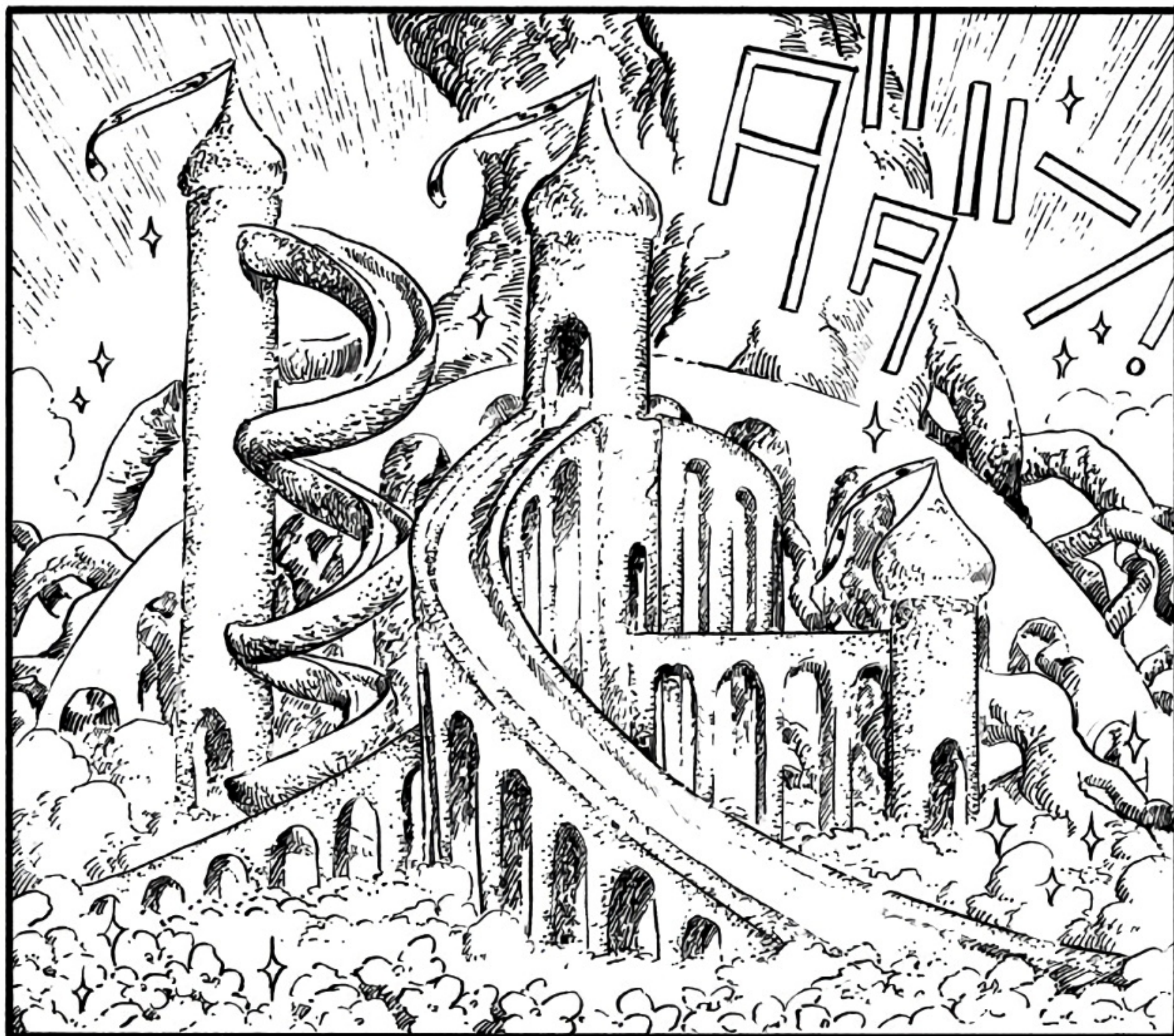
もっとも難易度が
高くてこの場所で
役に立った
魔法……！







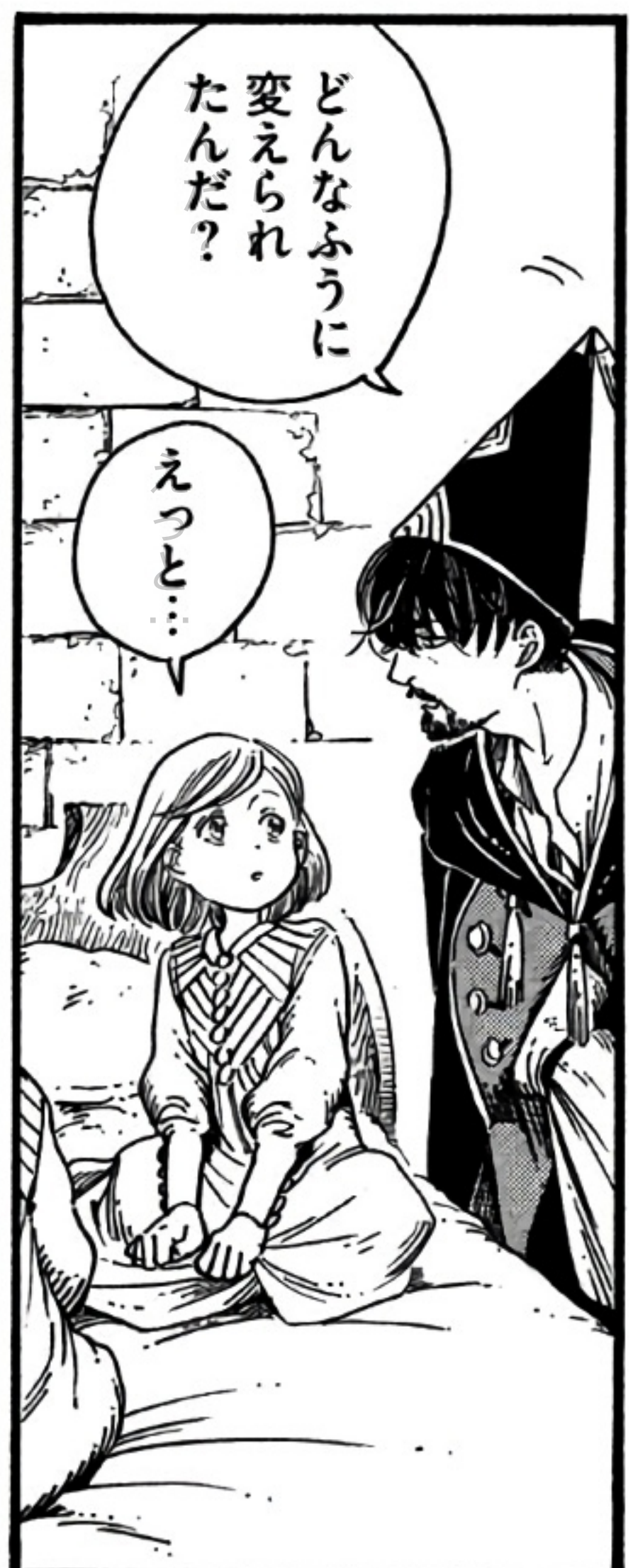
















翌日

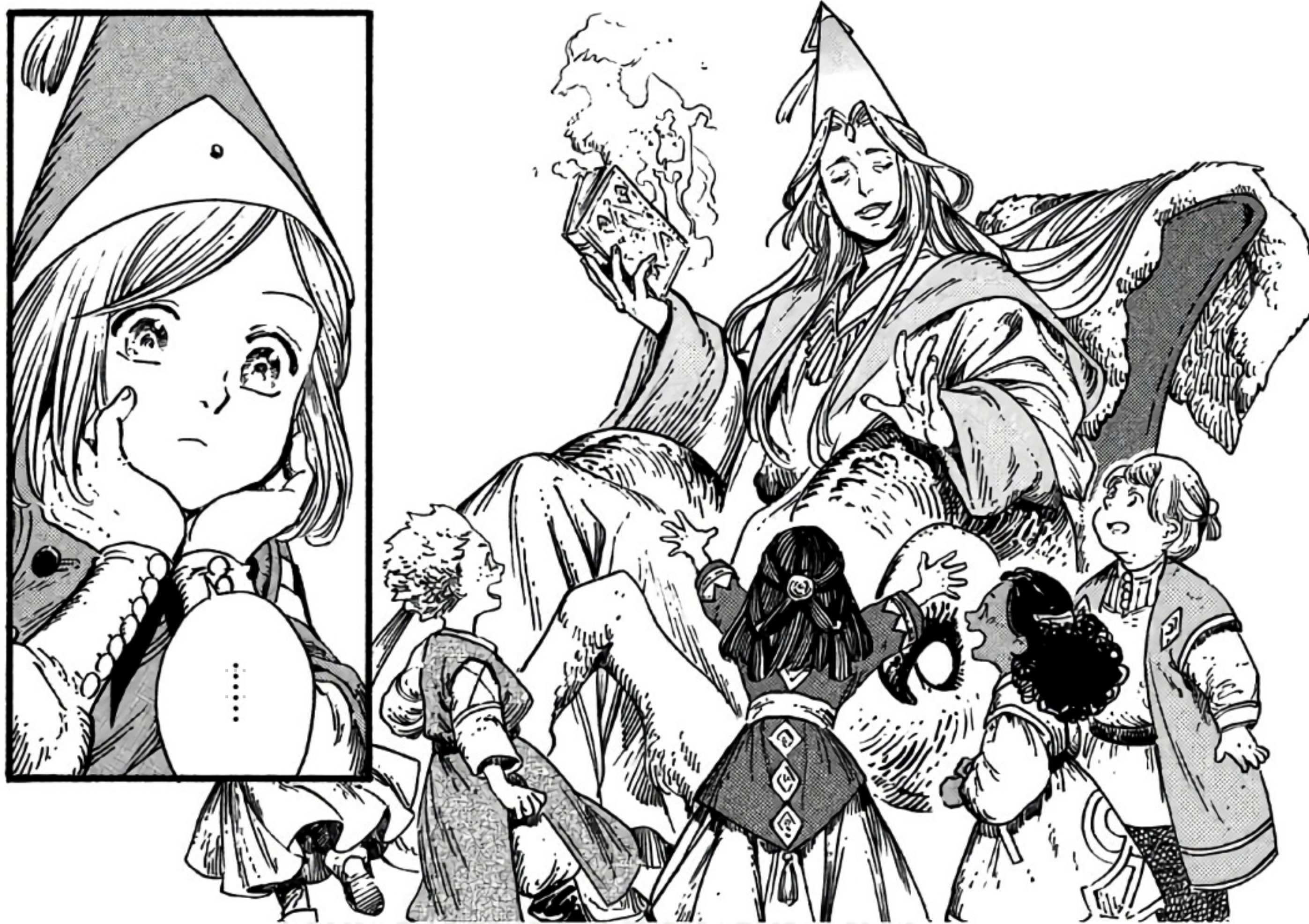
一日目は
がむしゃらに
描いて
挑戦失敗
だったから

二日目は手分けして
ベルダルー下様の
観察...

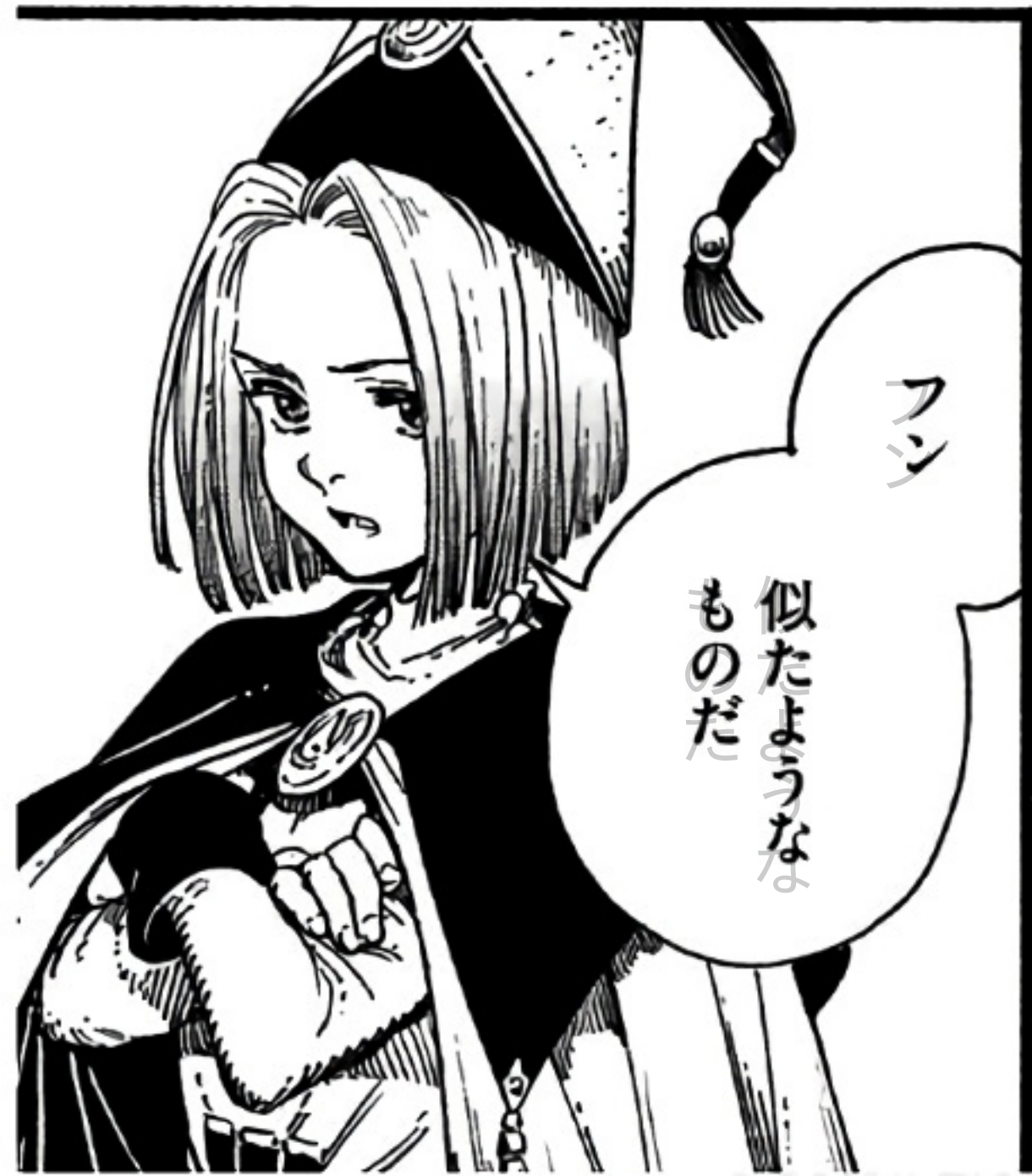
あっ
ベルさままだ！

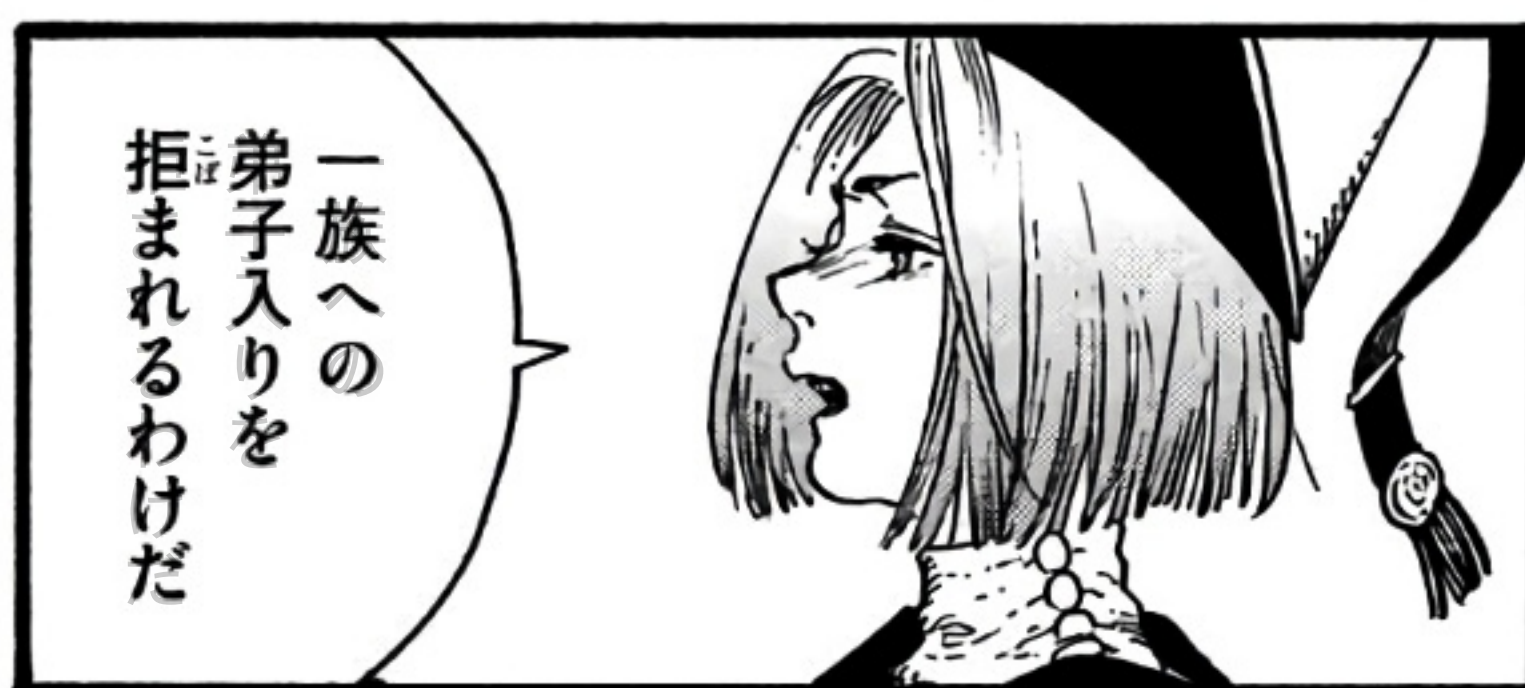
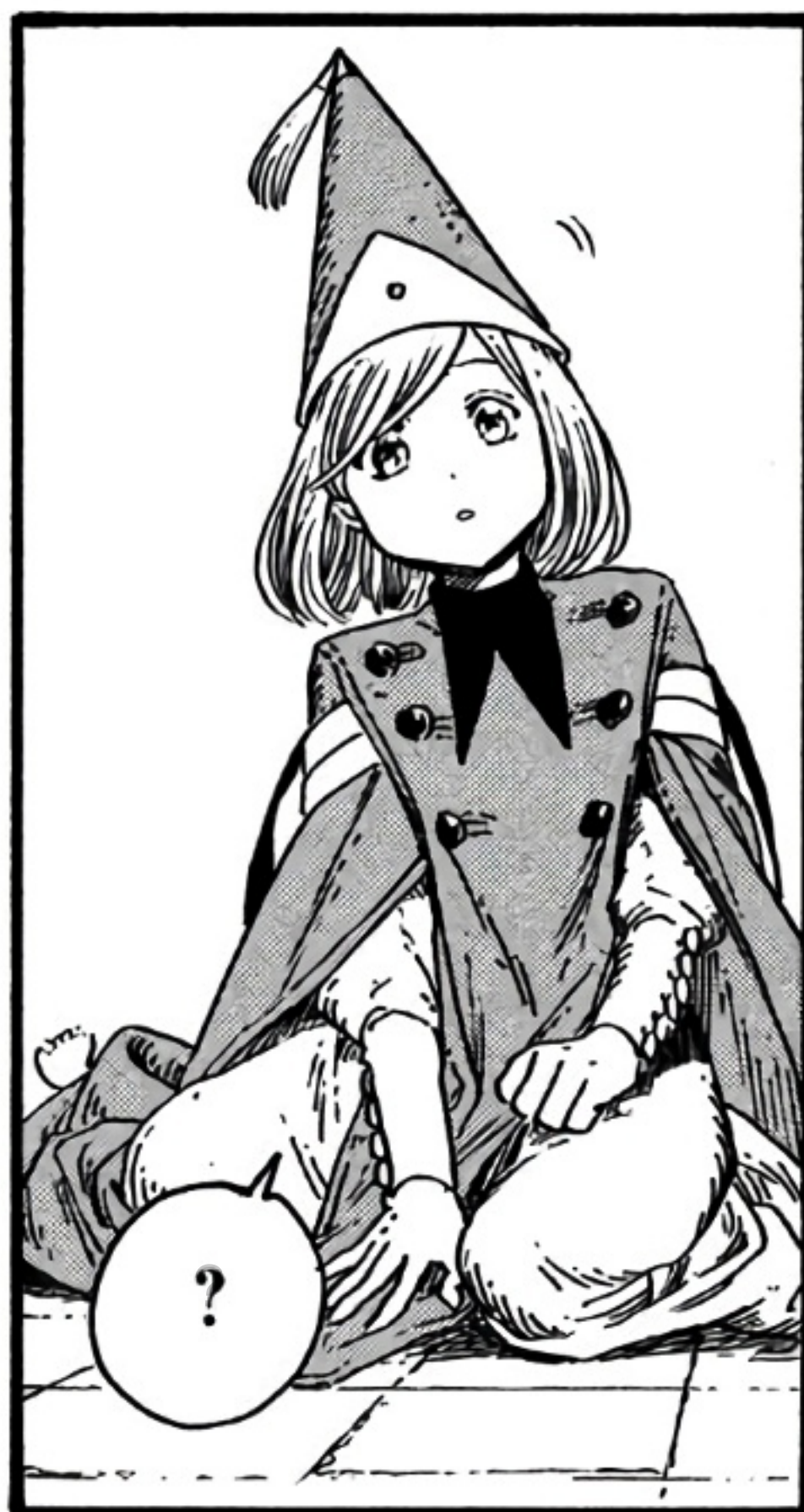
わあ

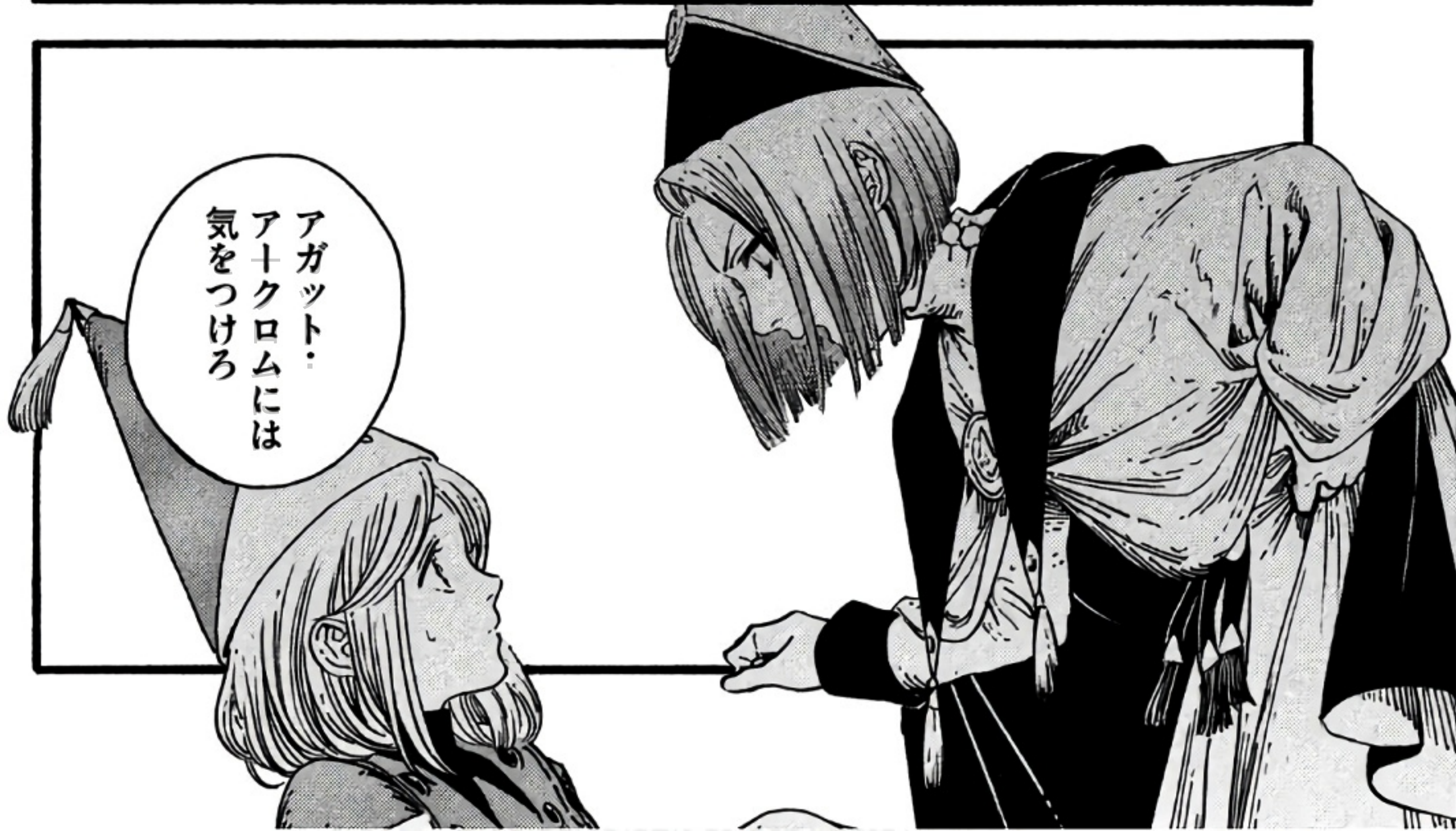
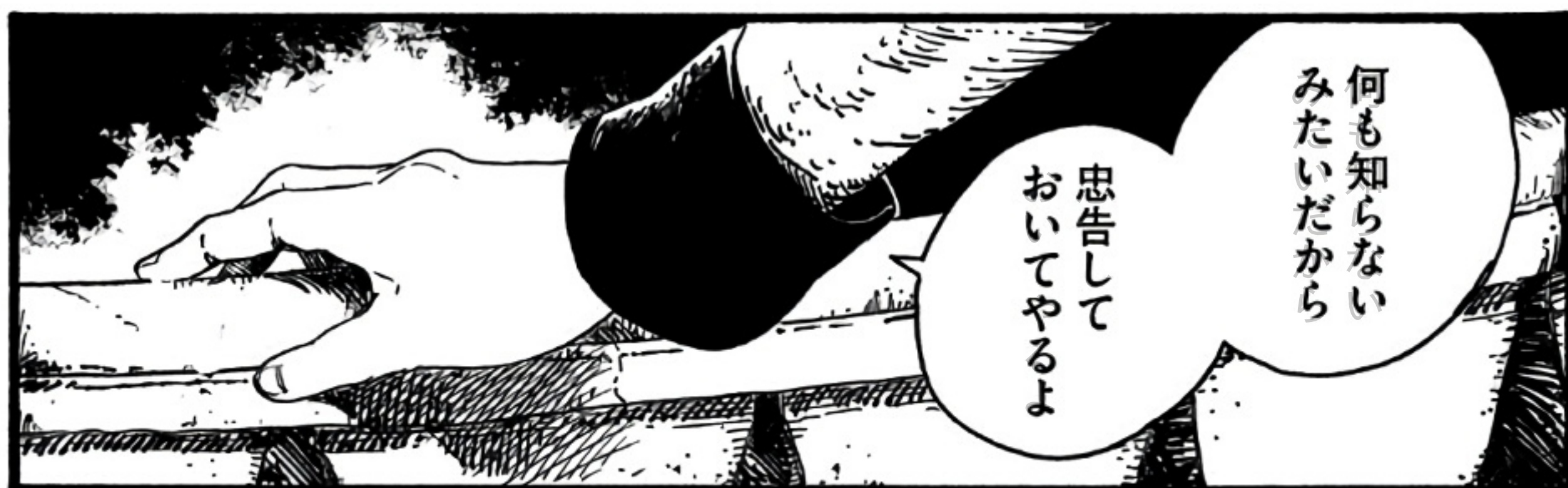
ベルさま
魔法
を見せてー！











何でそんな
ひどいこと
言うの

ムッ

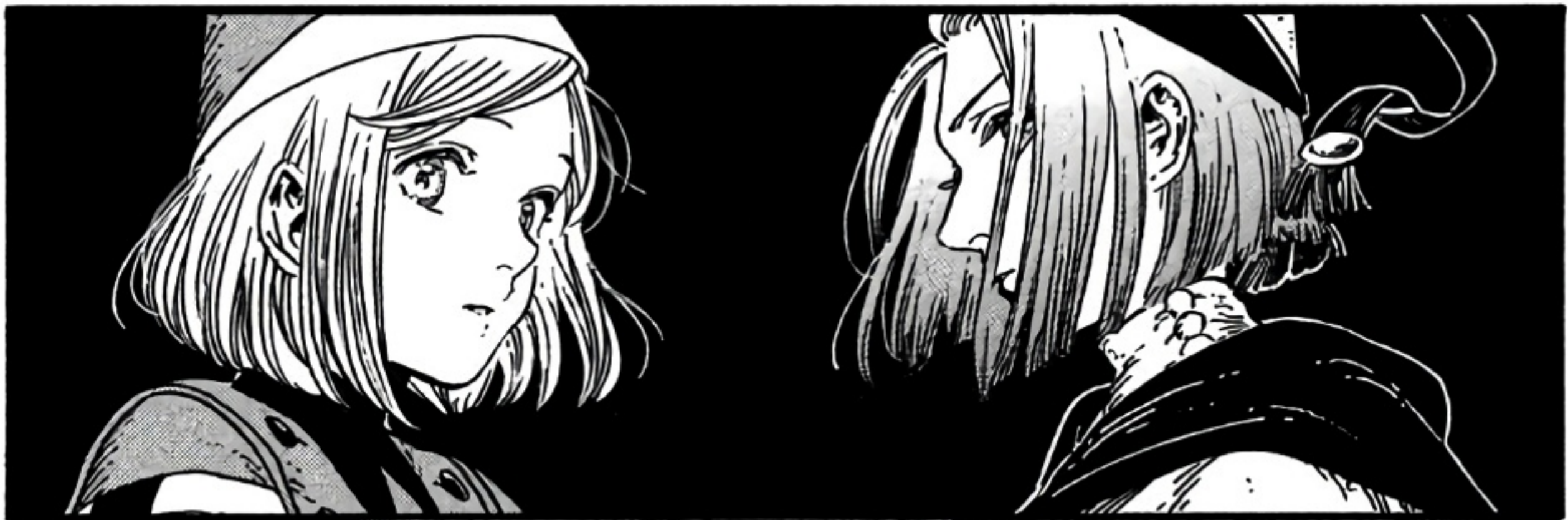
…アガツトは

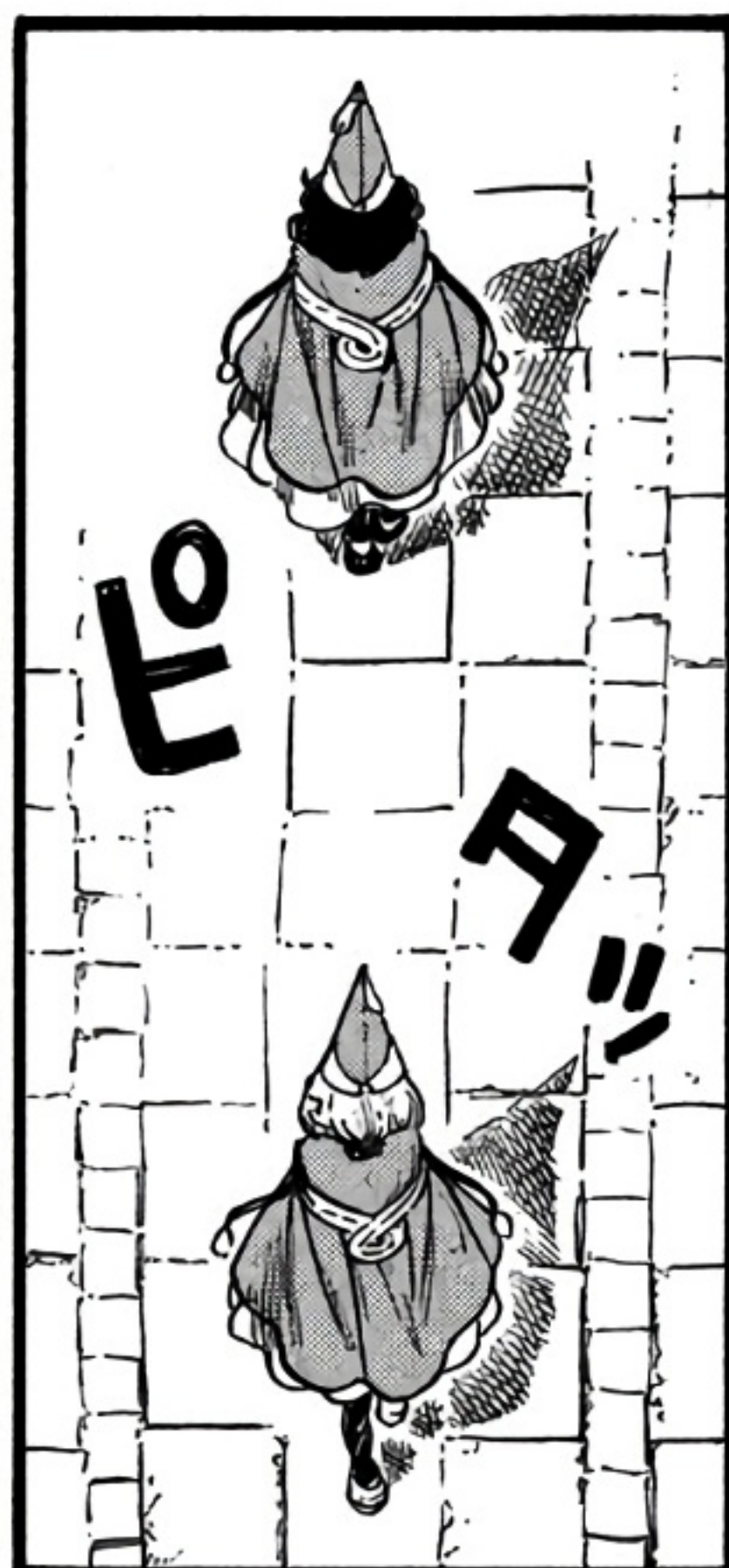
一族に認められ
当主の弟子に
なるための
お披露目会で

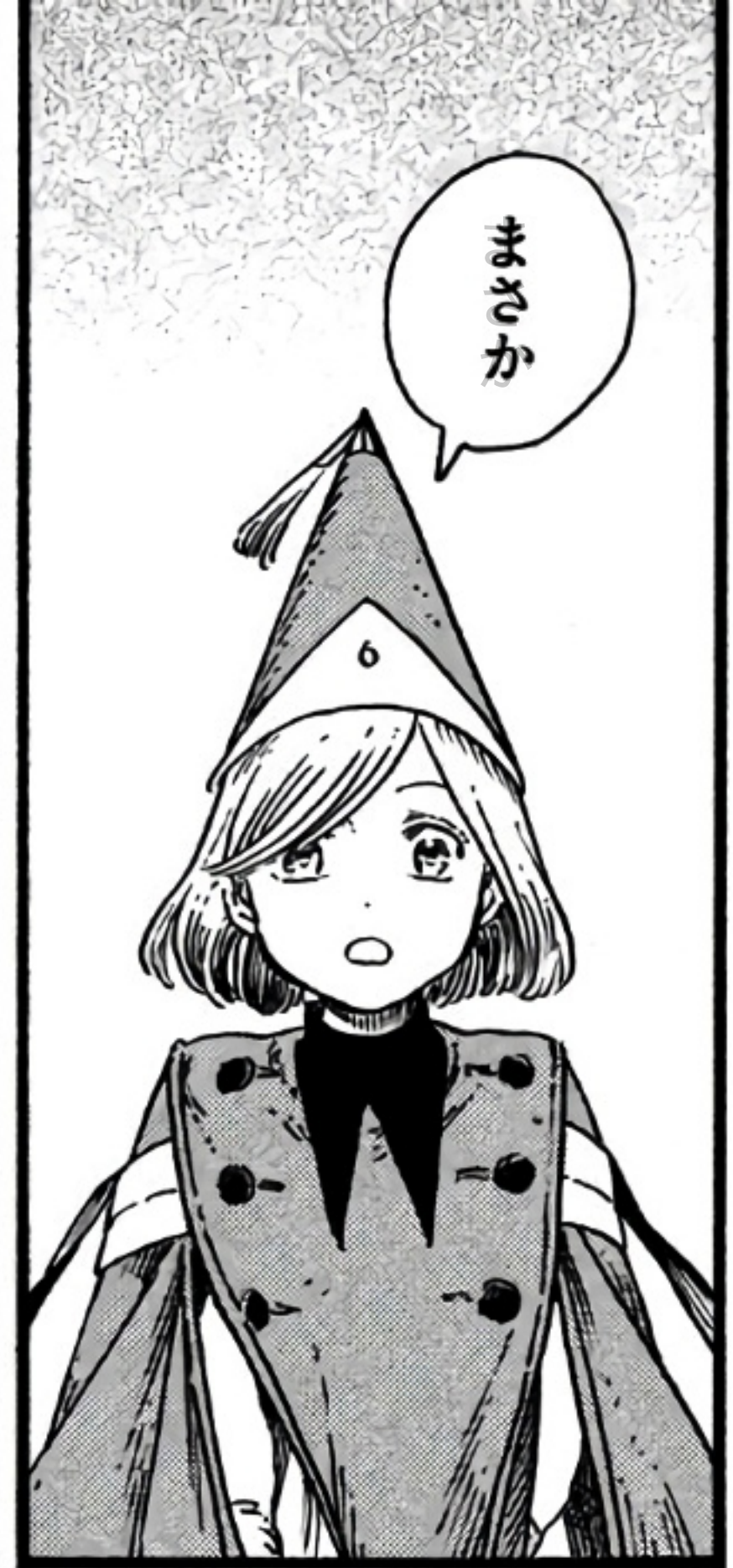
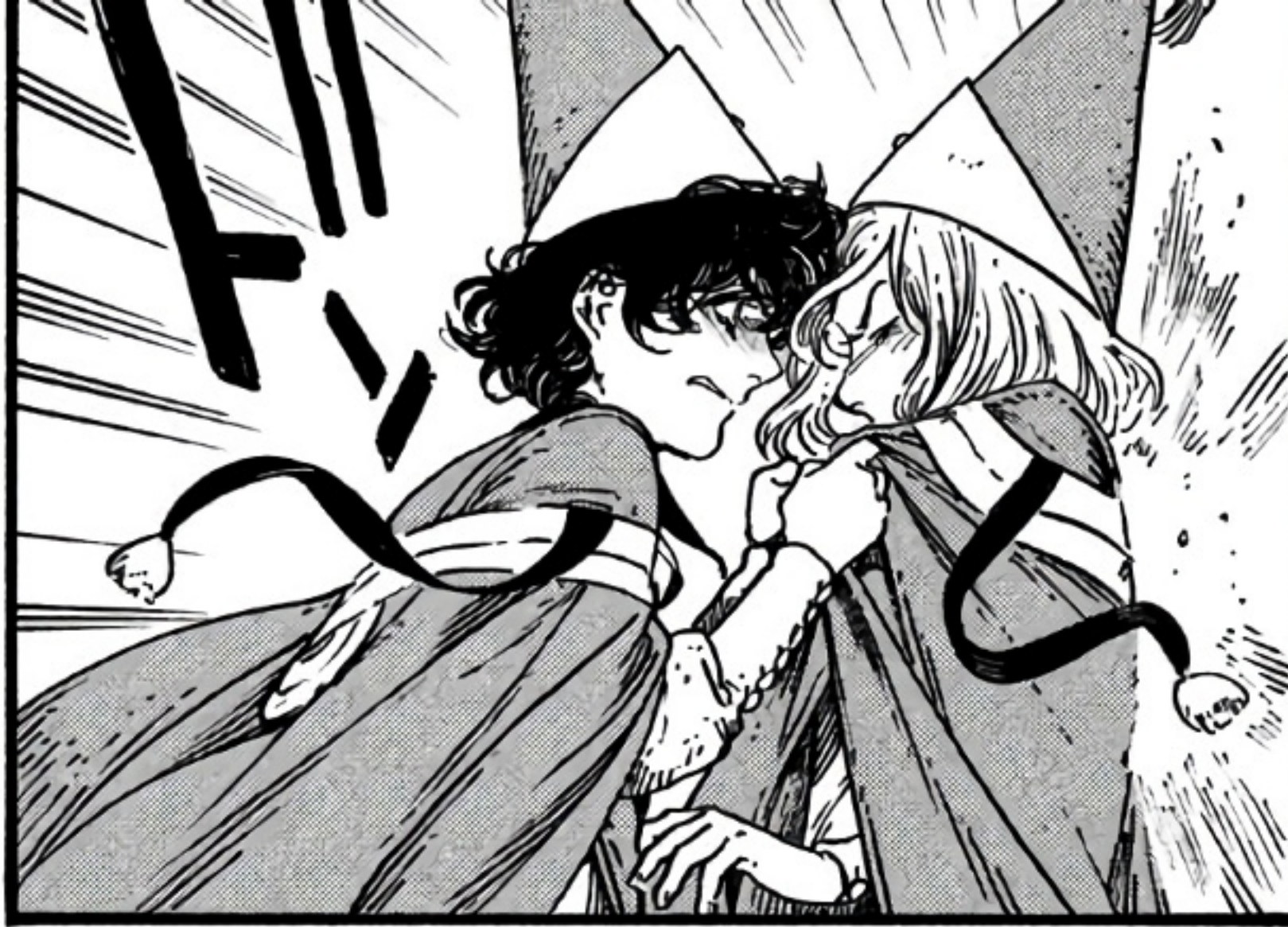
他人の魔法を
盗んだんだ

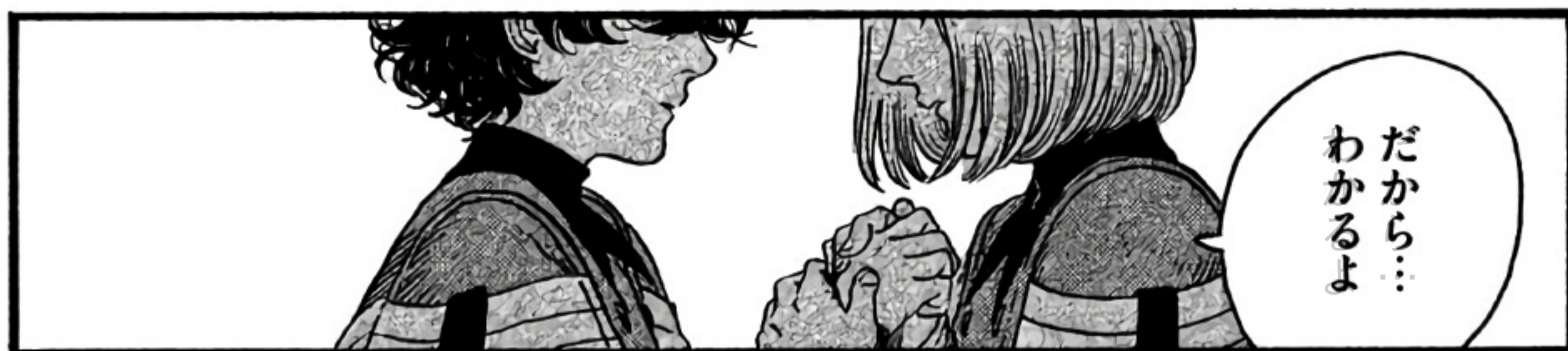
自分のものと
偽って発表
したんだぞ













…今更あなたに
信じてもらった
ところでもう何も
変わらないわ



アガツト…

この話は
二度としない



私は
証明するの
努力して

実力で
勝負して

家族に
頼らずに
司書になつて

絶対に
見返して
やるのよ



私を疑つた
私の一族が
向こうから
戻ってほしいと
頼むくらいにね

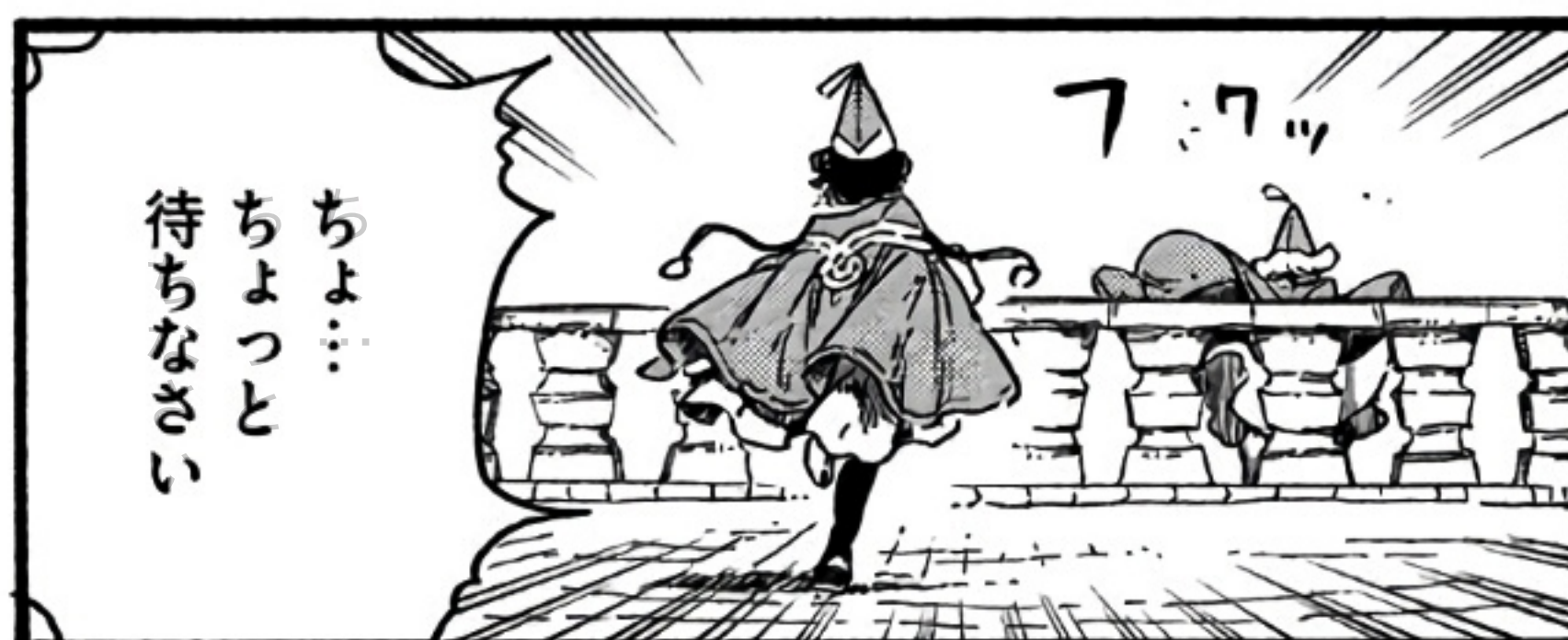
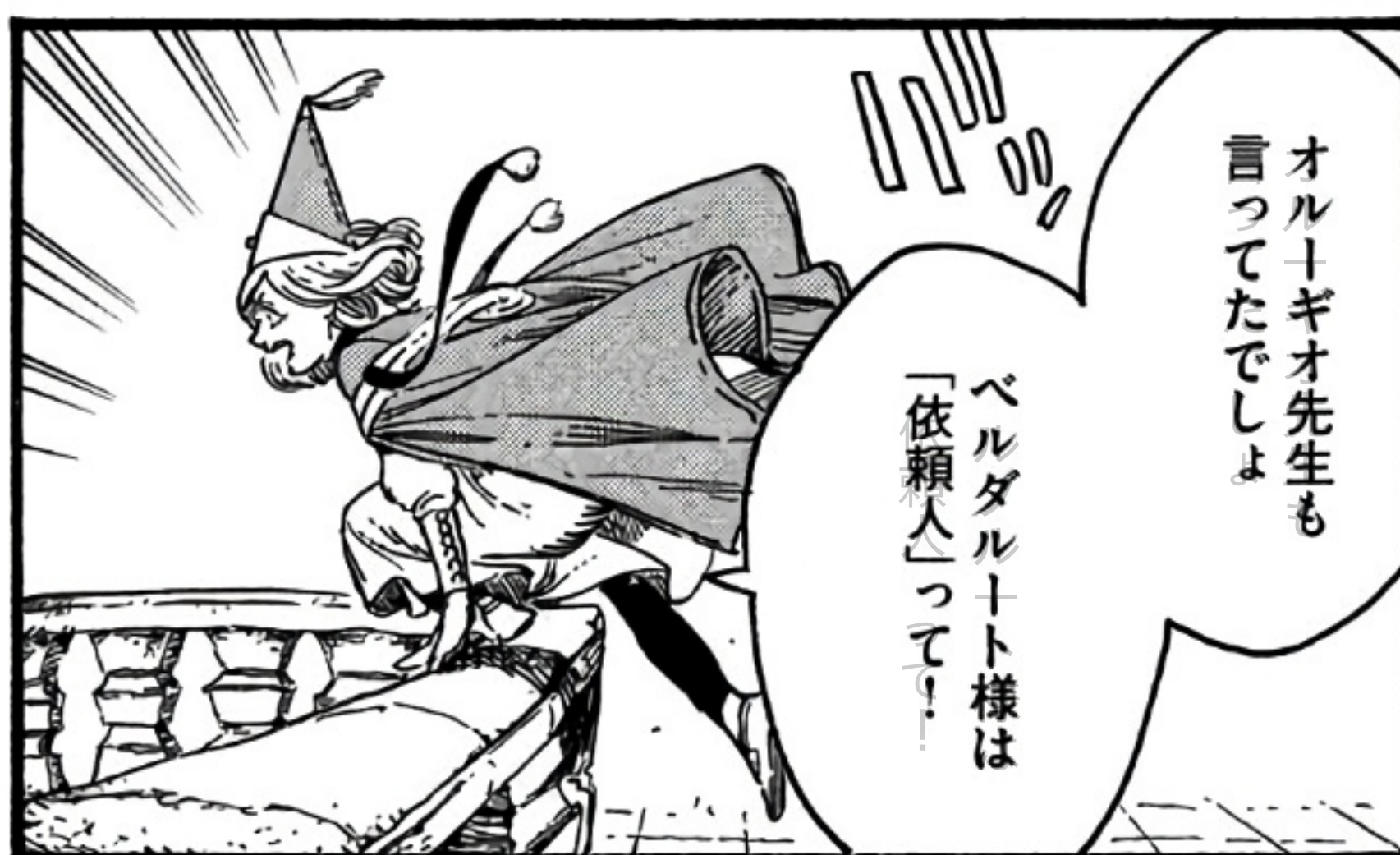


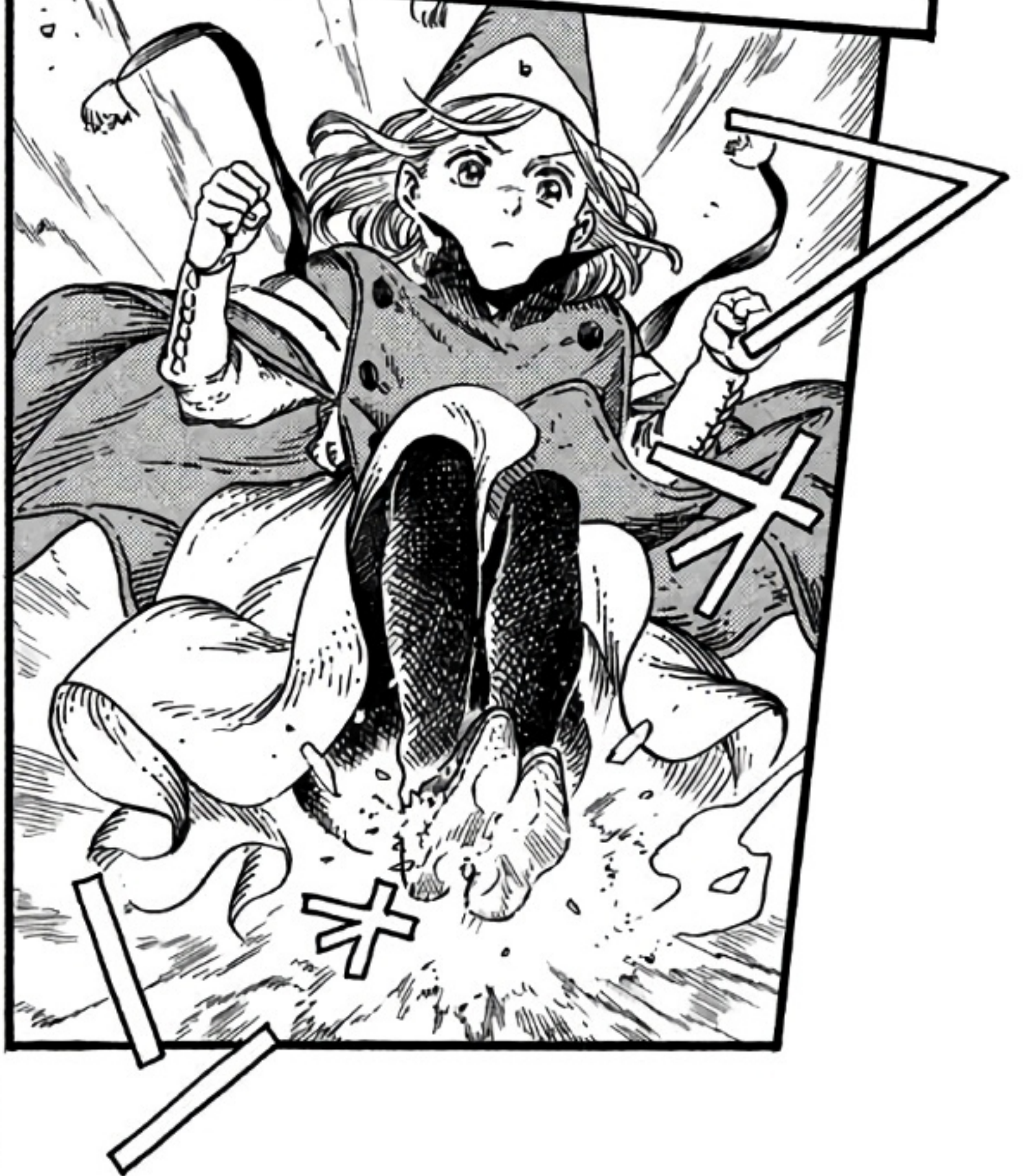
！

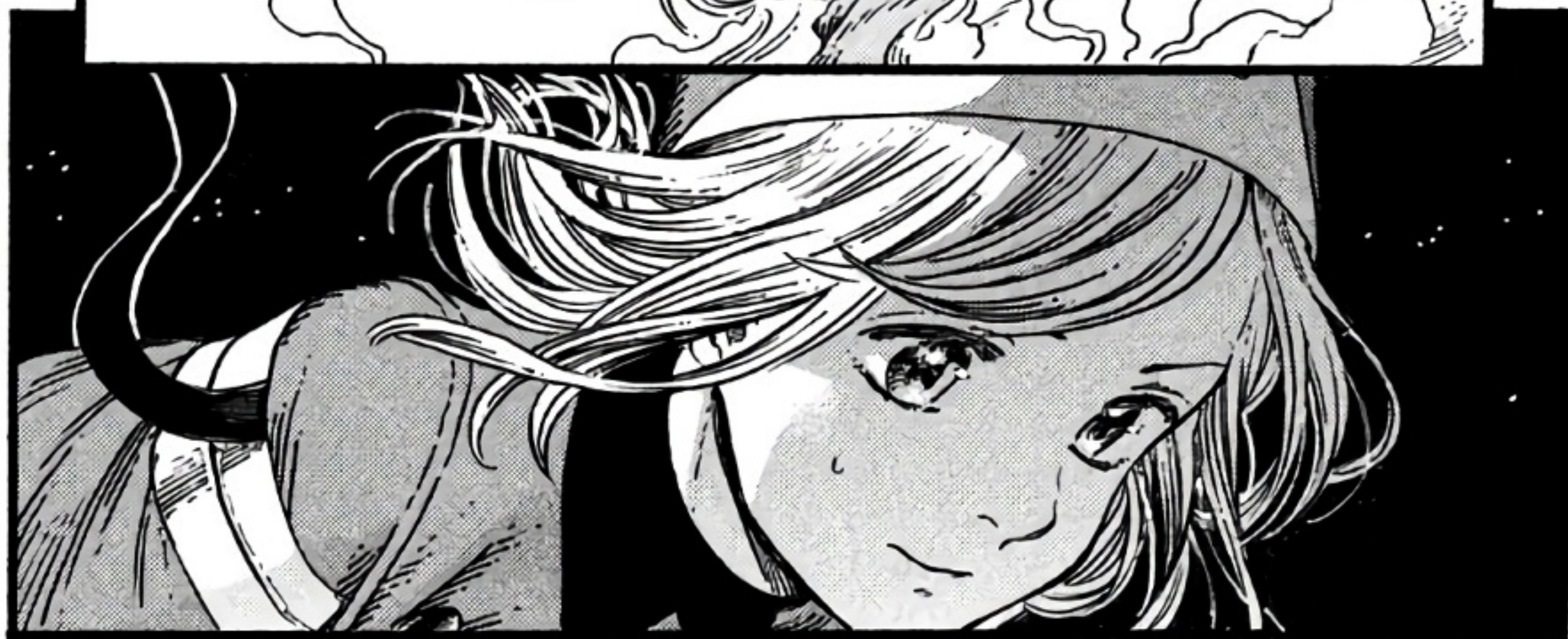
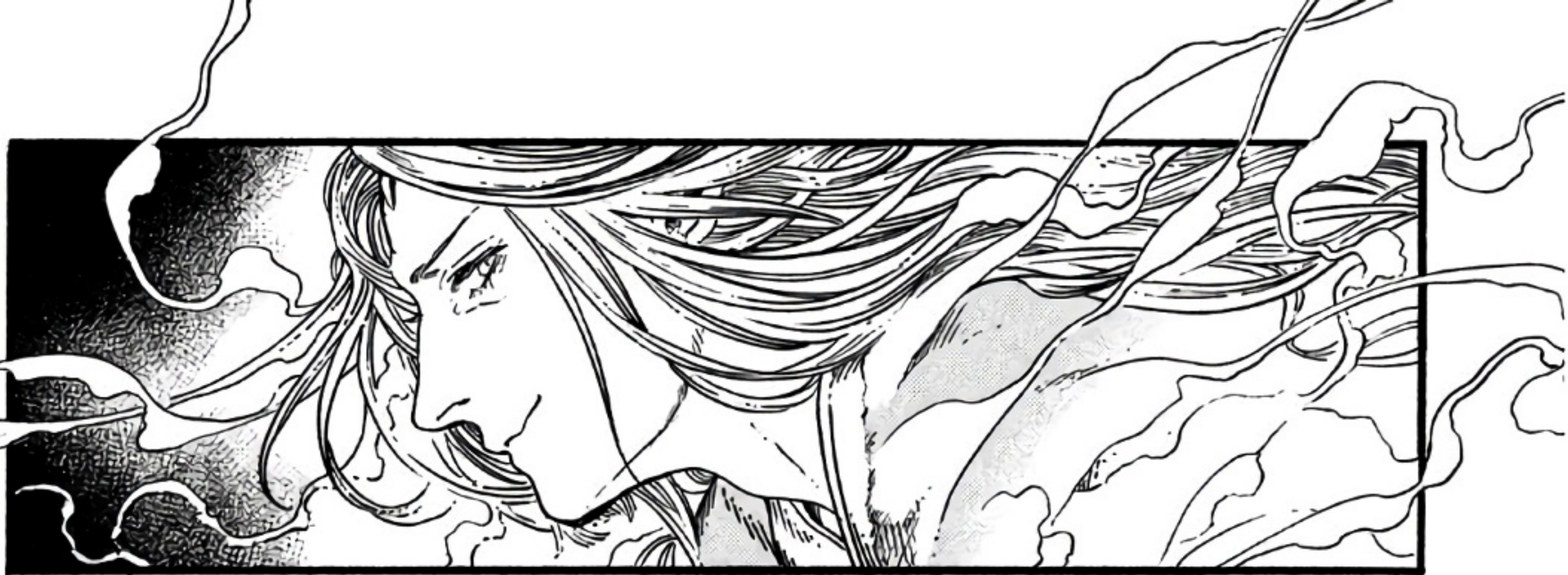


そのために
私は…

アガツト







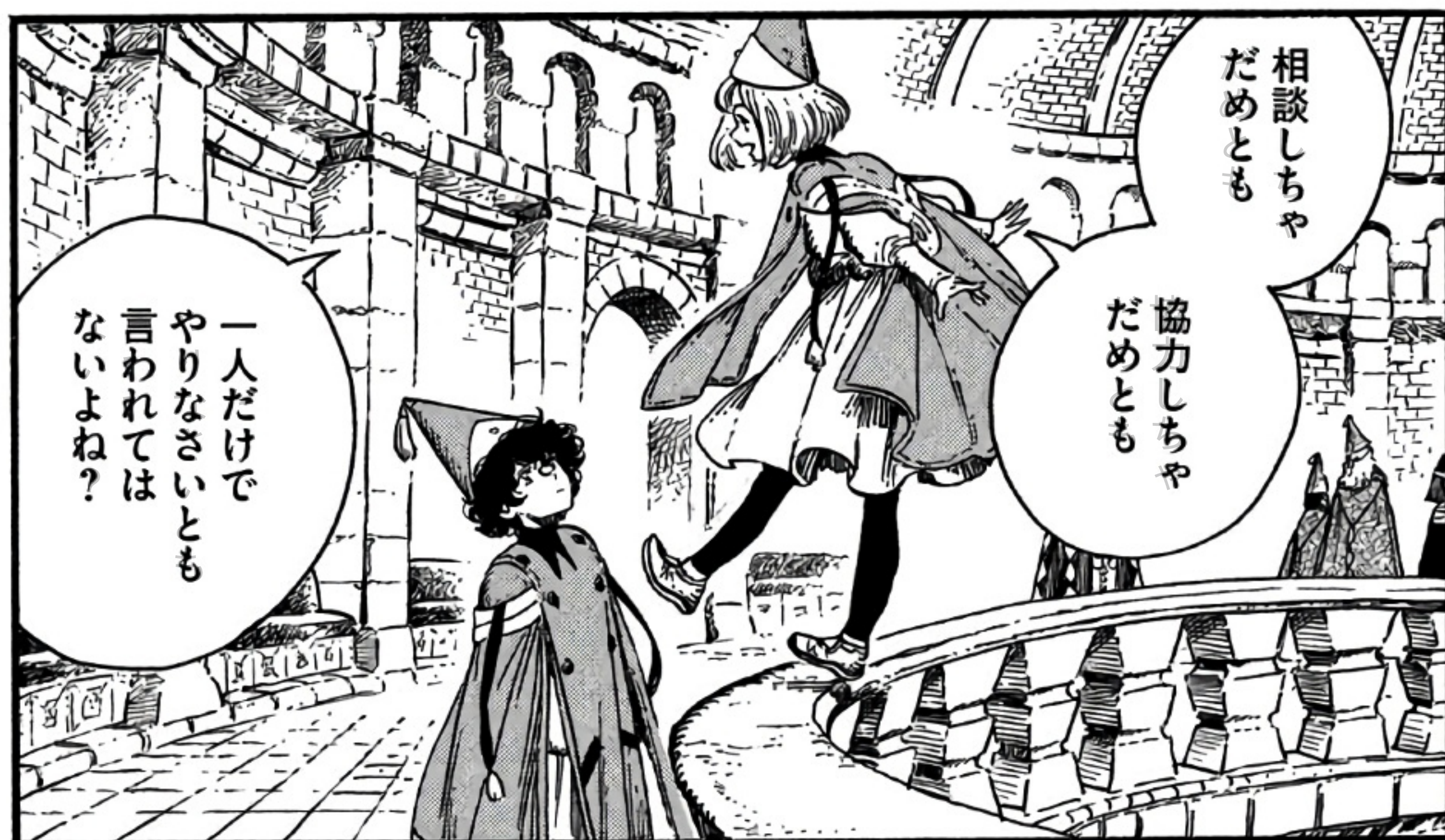
とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH HAT











ベルダルト様に
満足して
もらえないと
思うの！

それじゃ
きつと



私はまだまだ
下手くそだし

思いつきを
魔法陣にするには
力不足だけど



試験の内容は
3日間のうちに
ベルダルト様を
「驚かせること」
でしょ



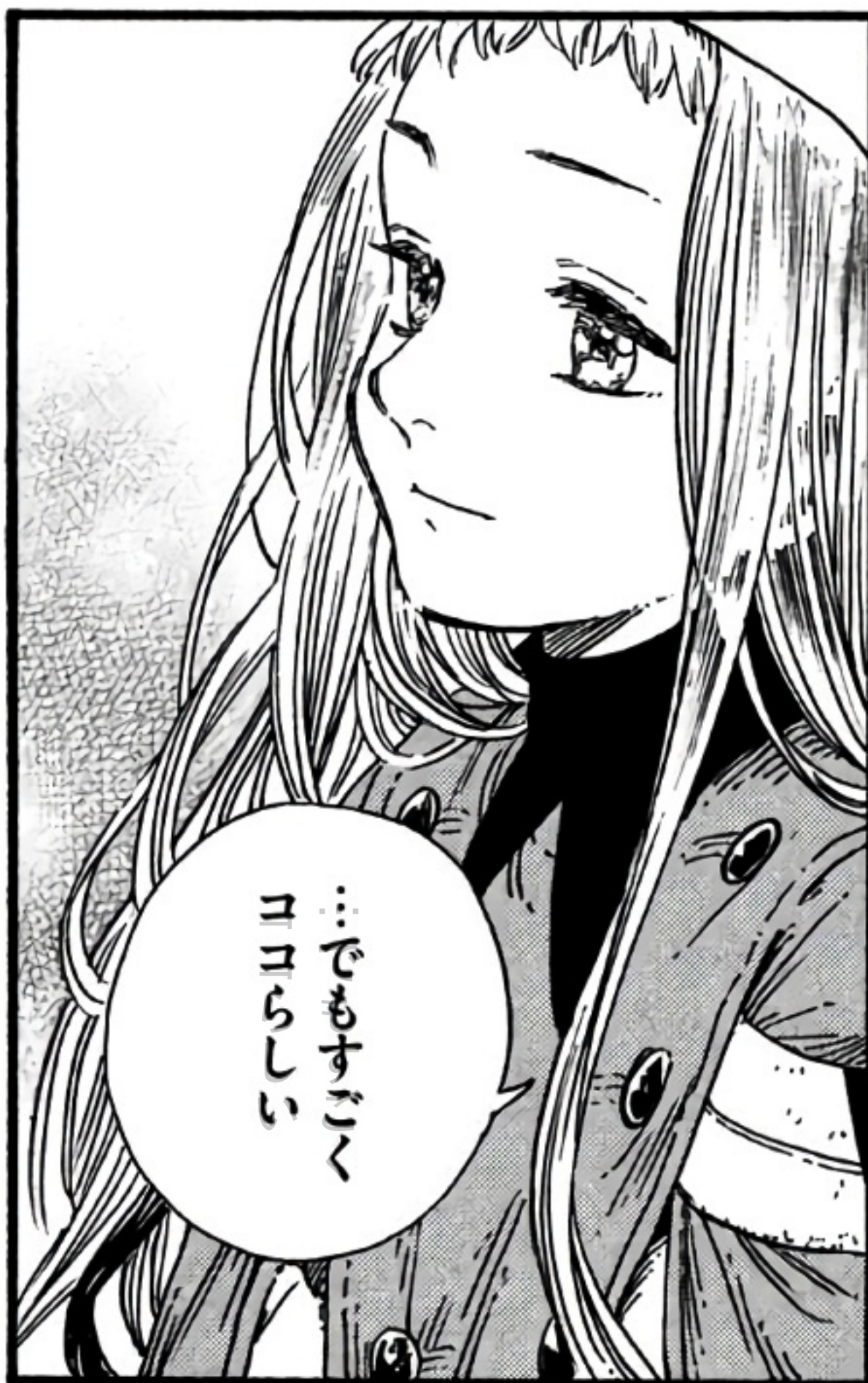
ま

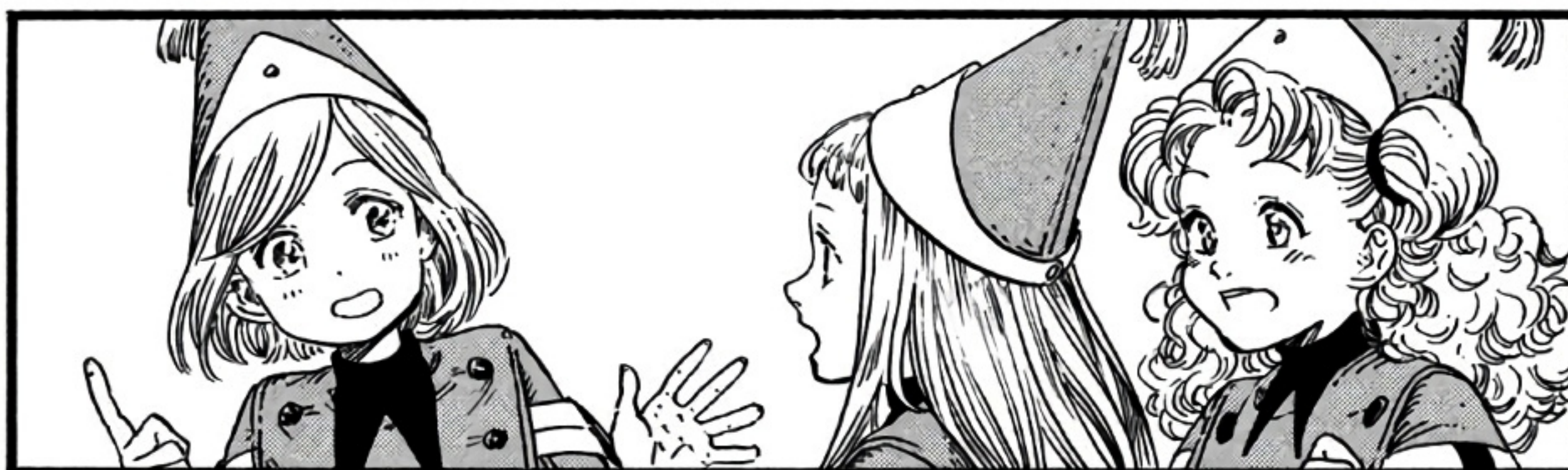


まん
ぞく……？









今までそんなふうに
考えた事はなかった

考えた事は
なかったけれど...

でも...

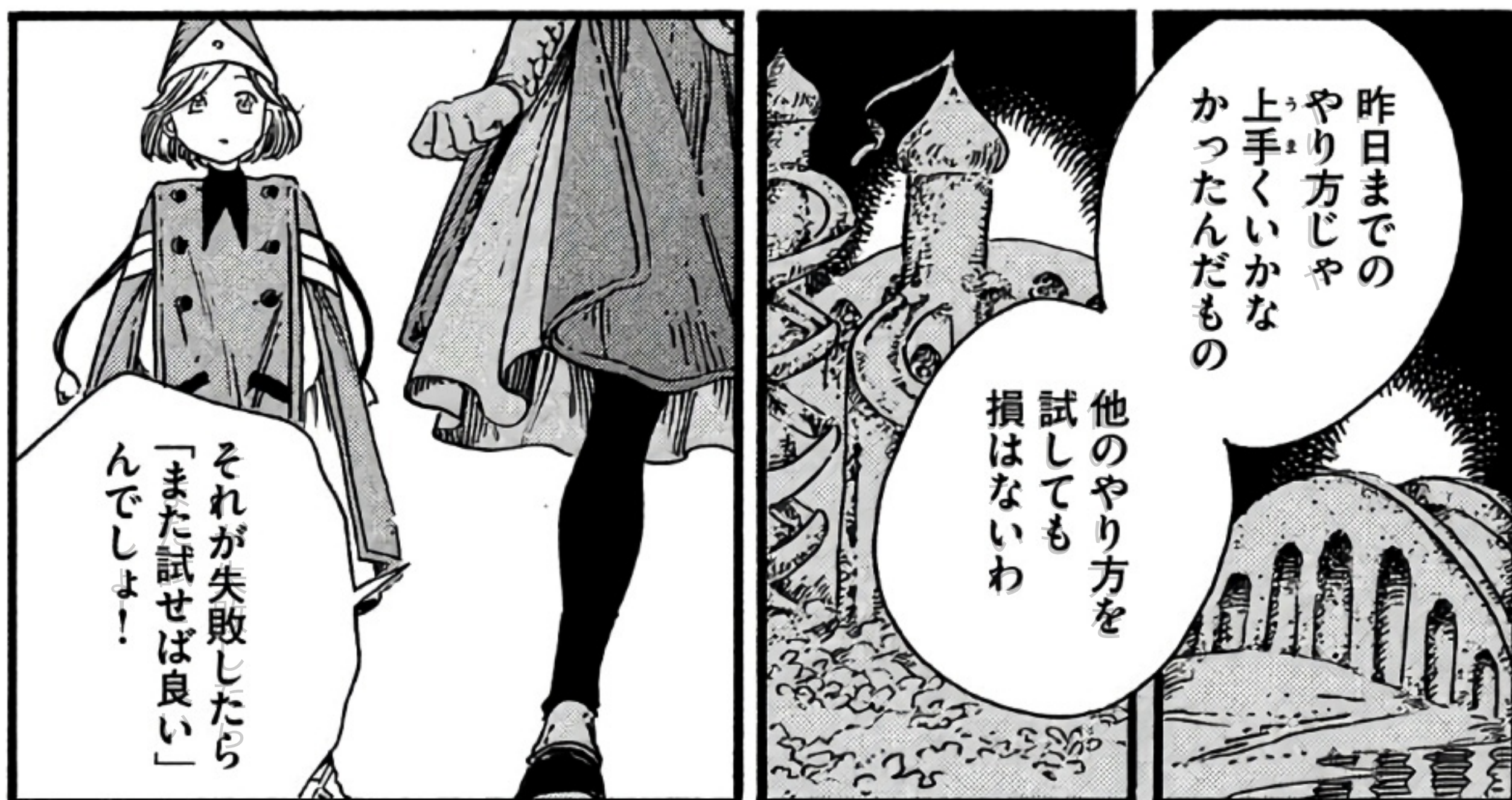
はい...

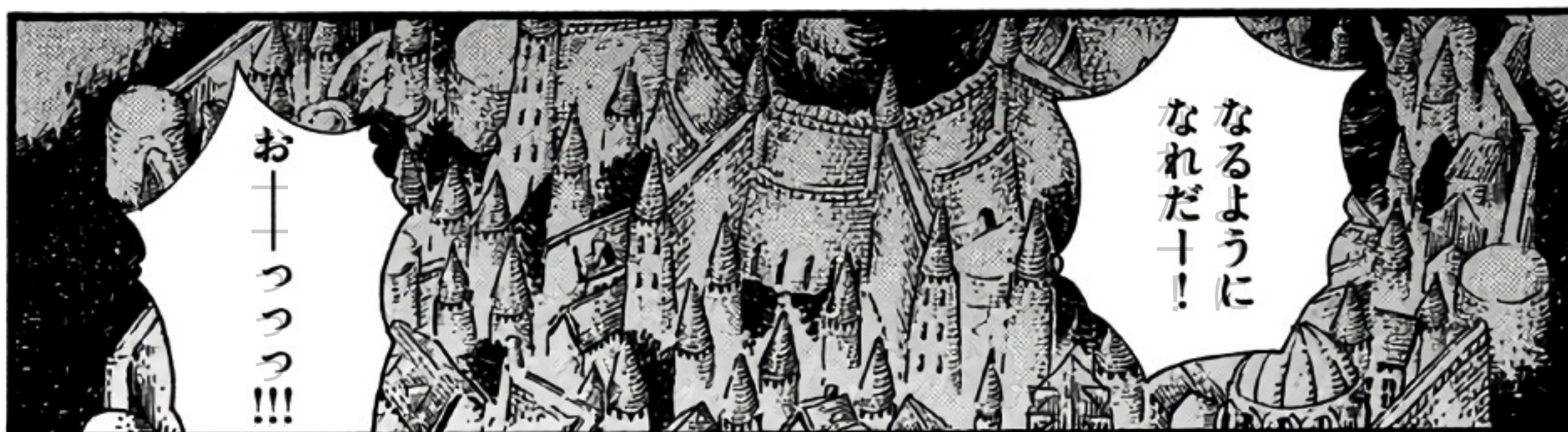
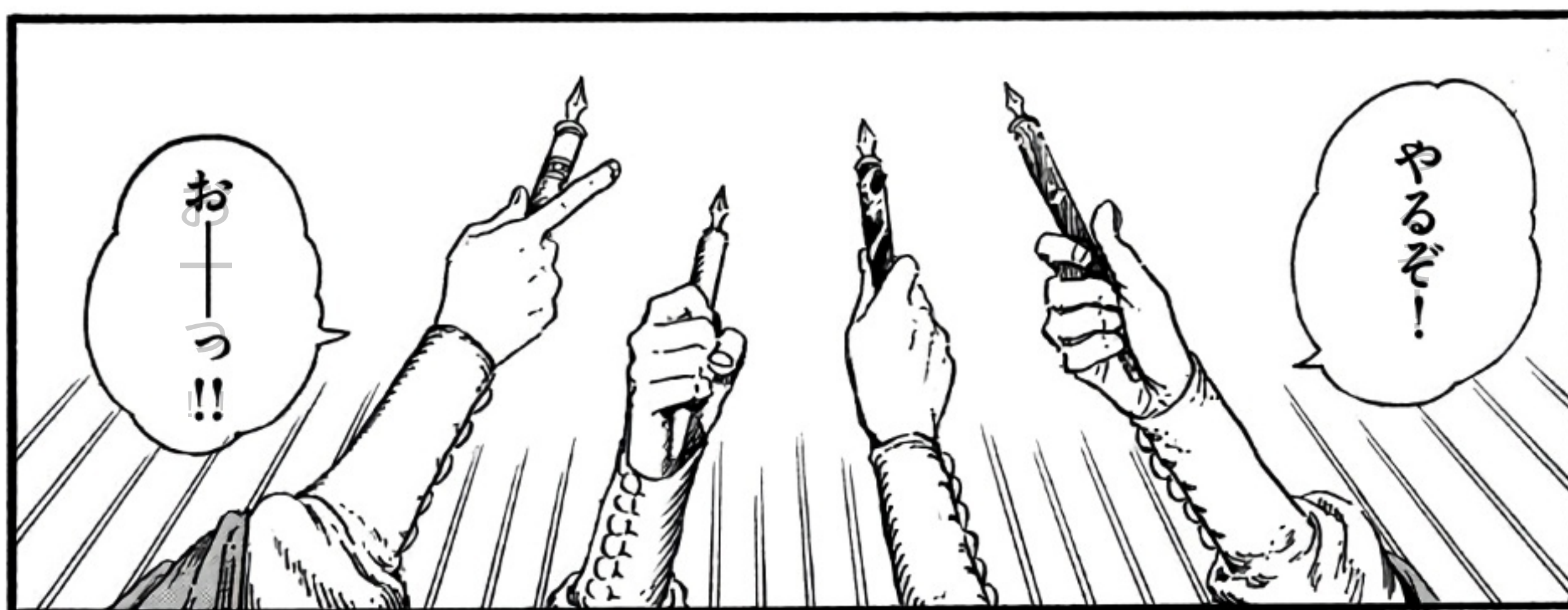
私も...

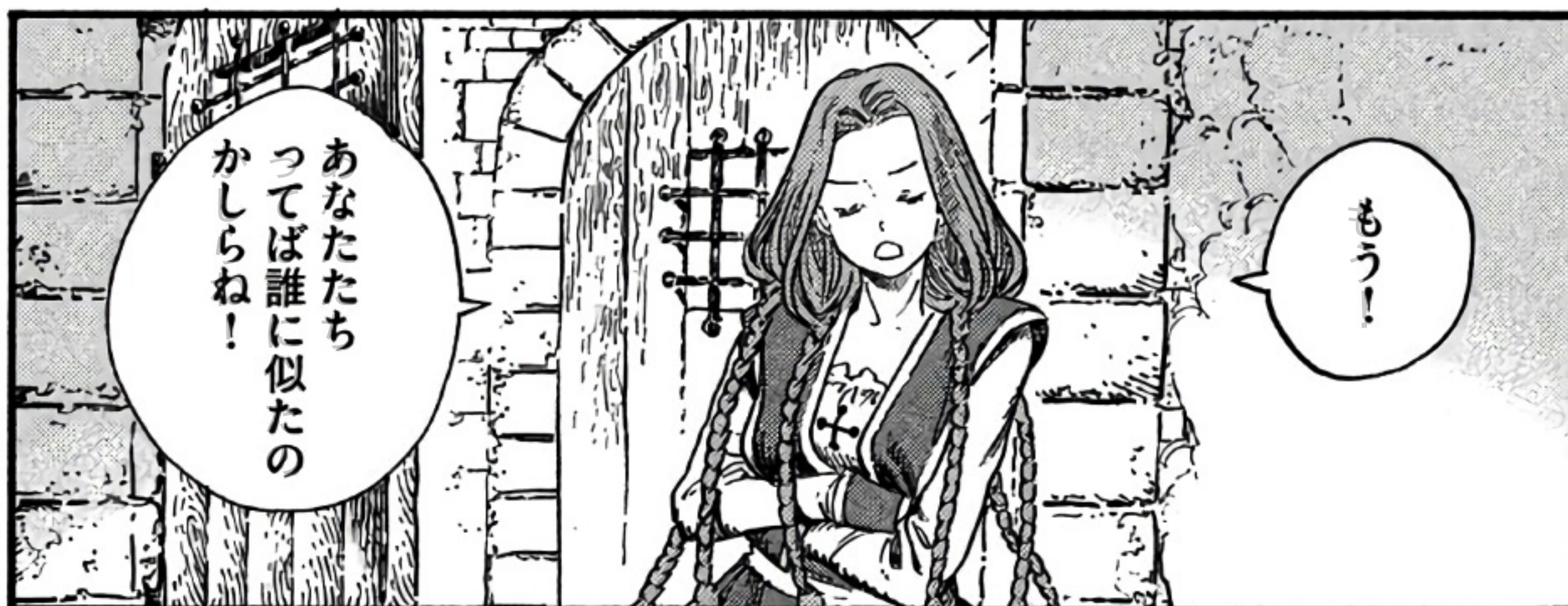
協力
するわ

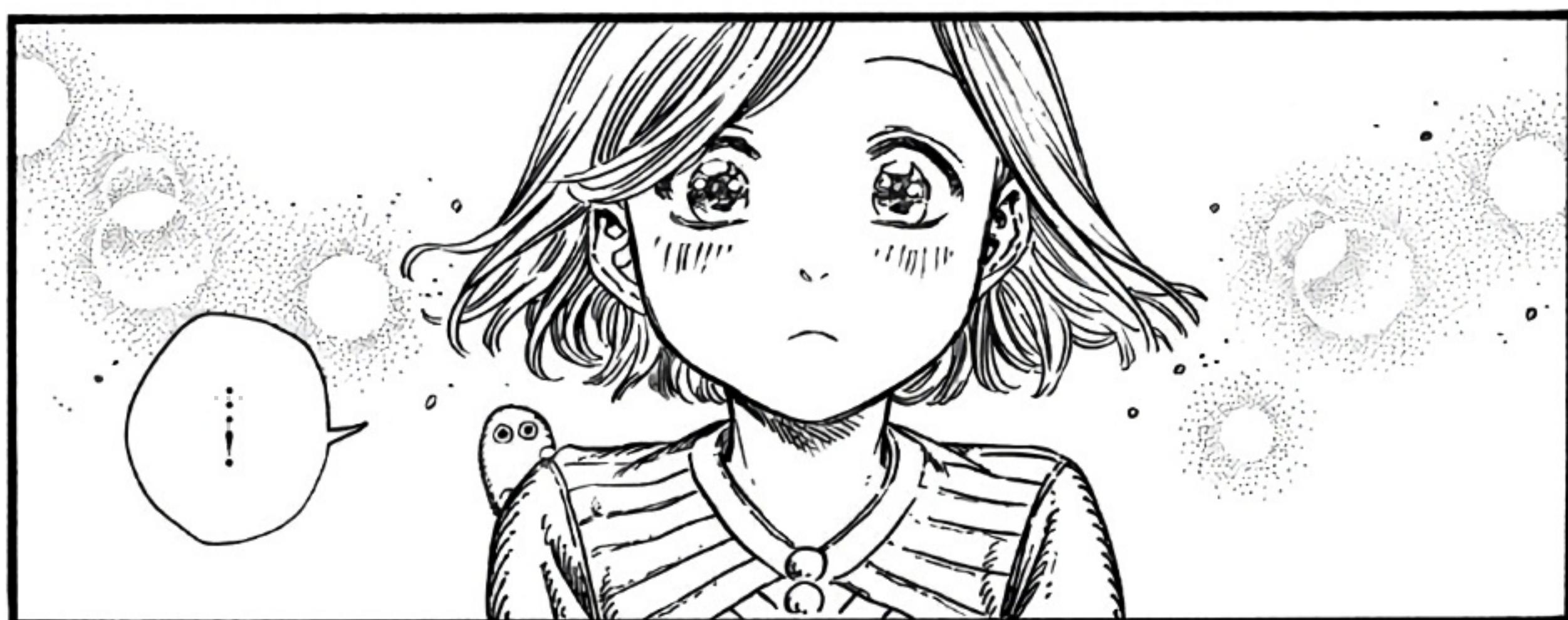
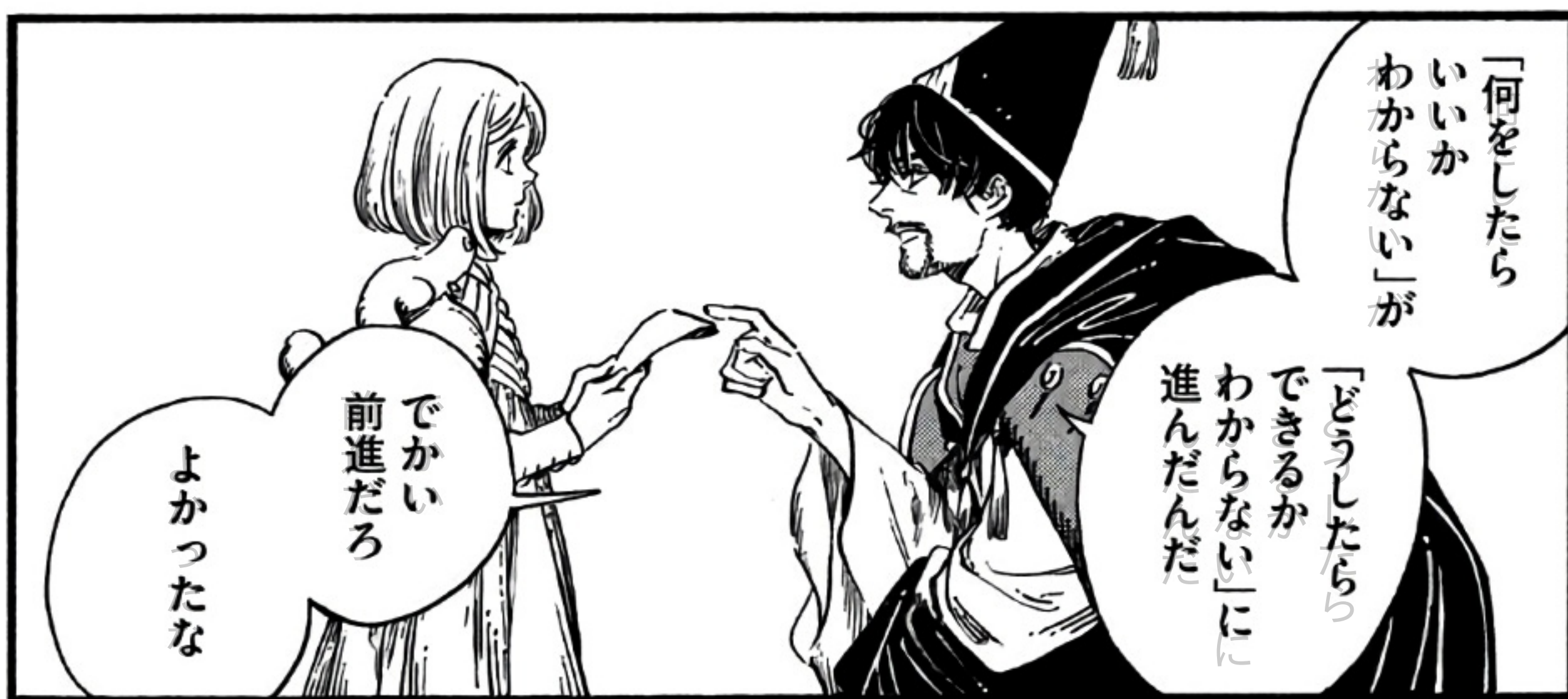
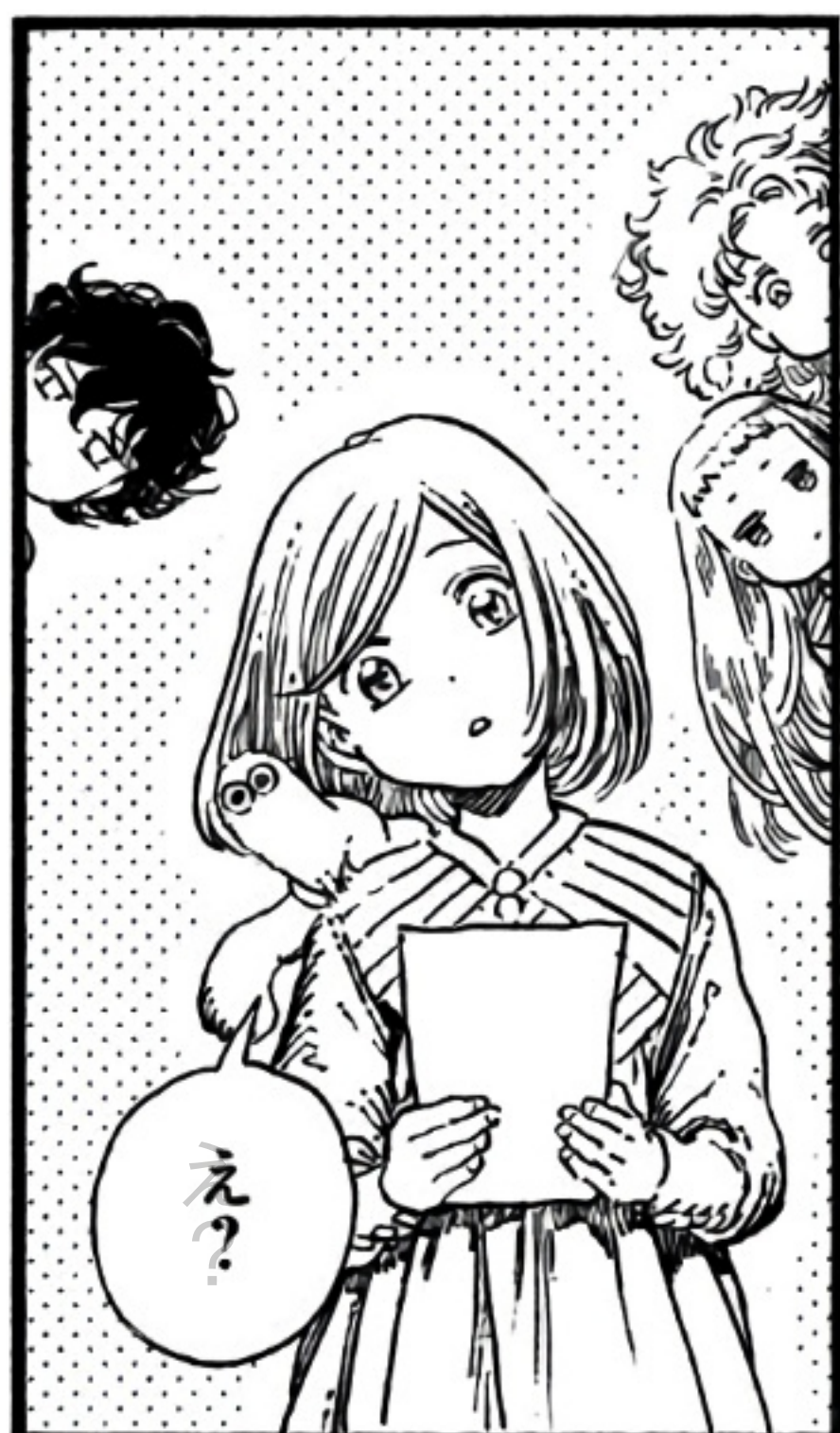
いえ

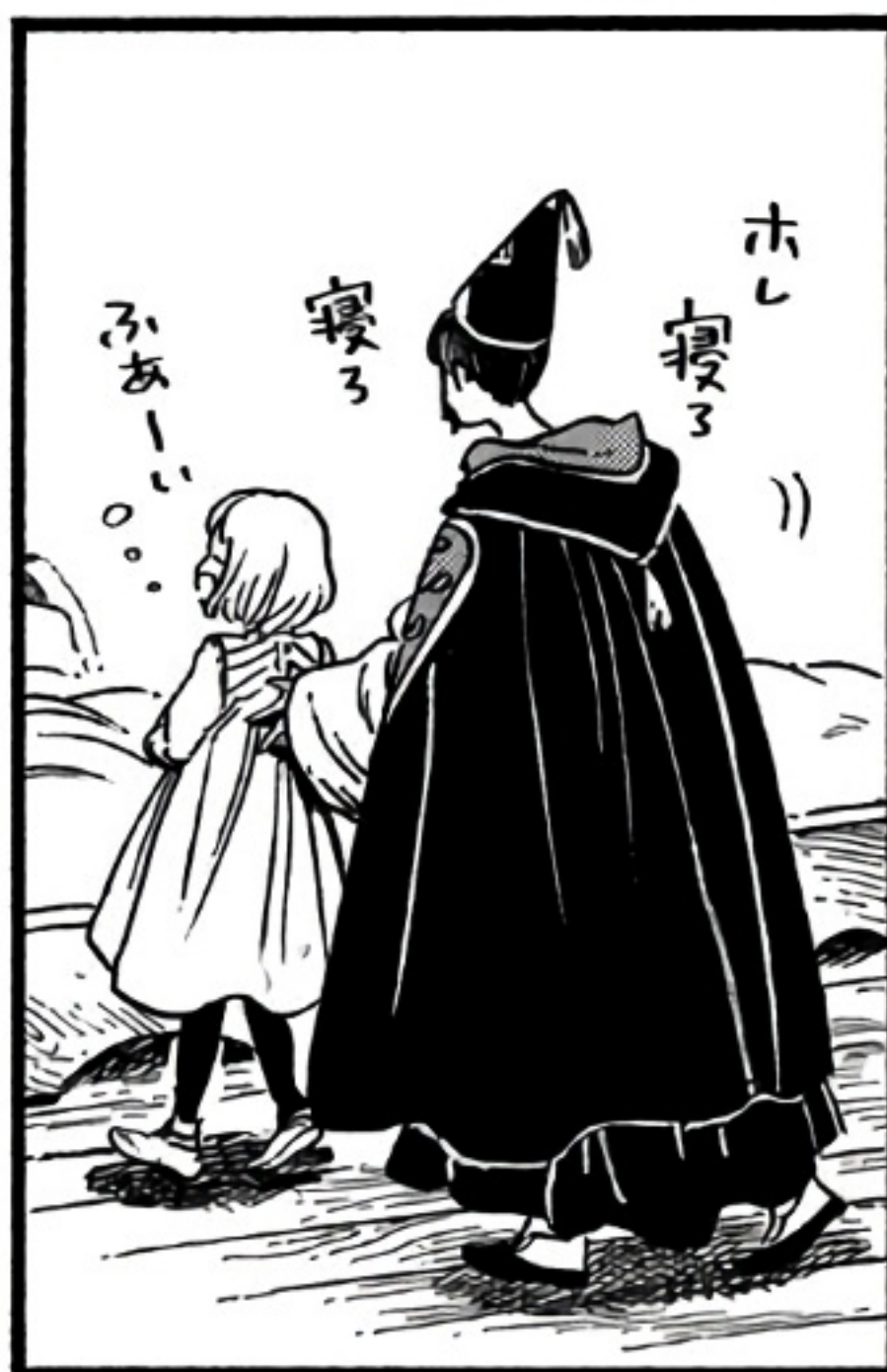
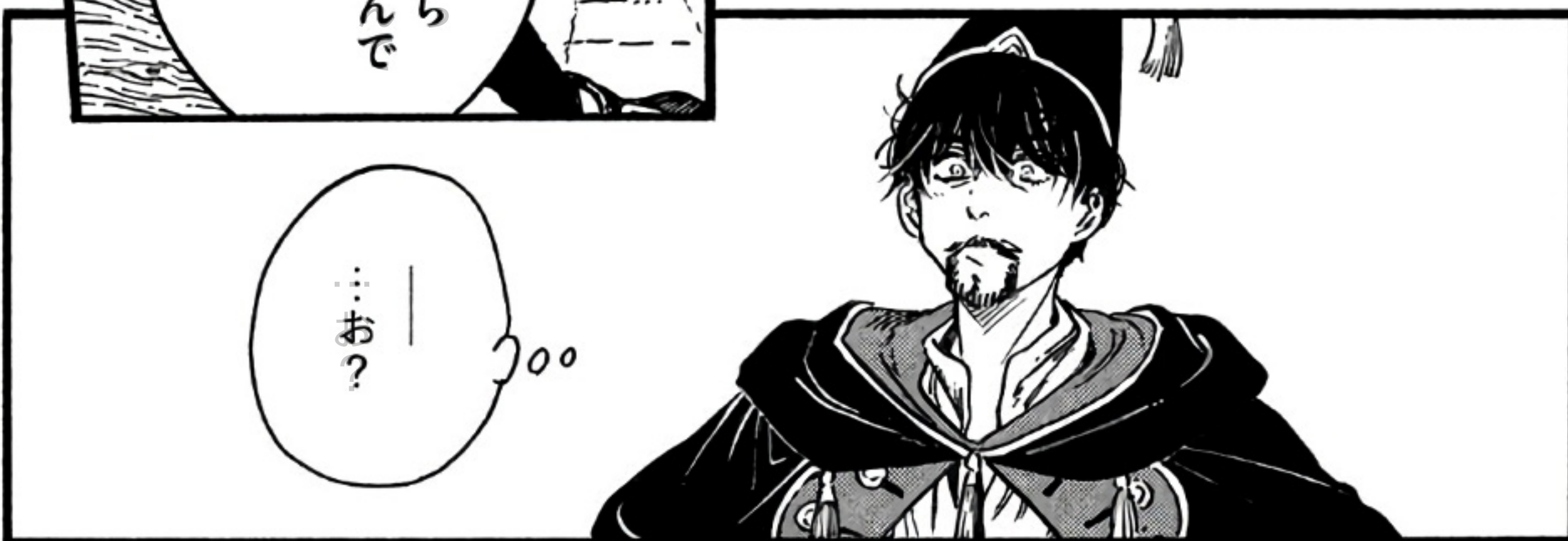
協力させて



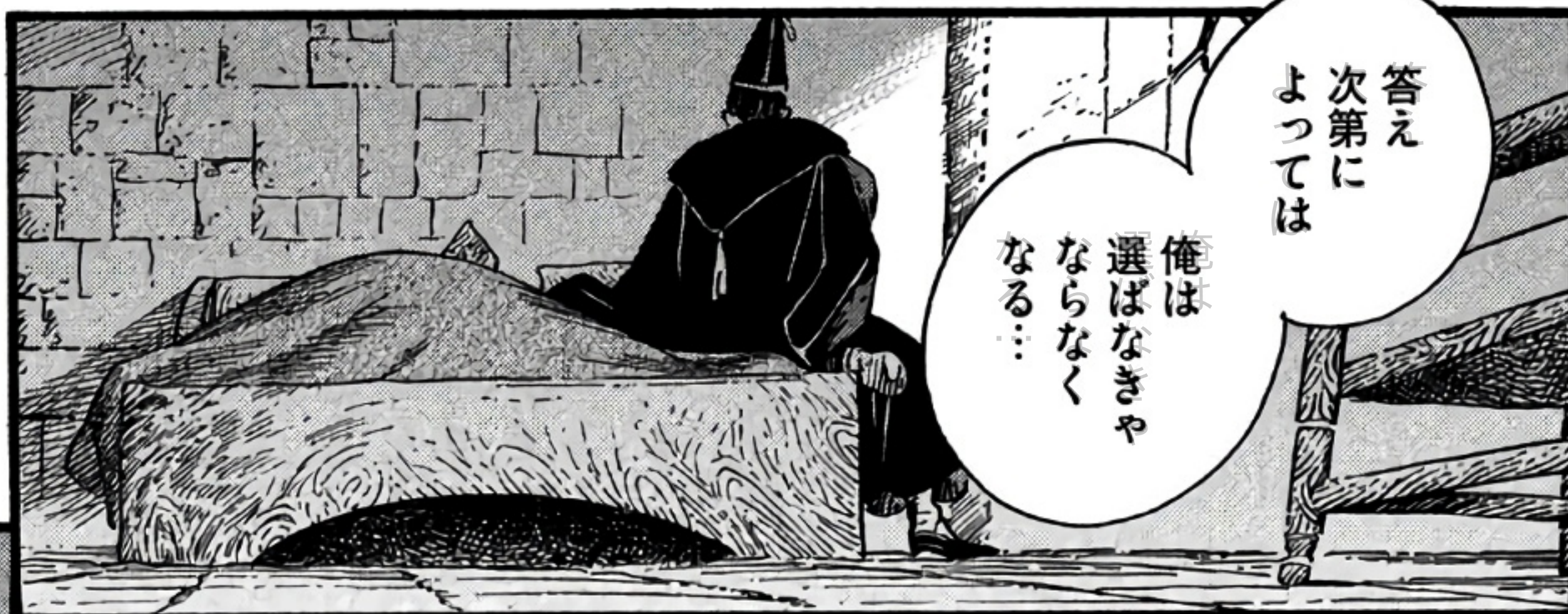








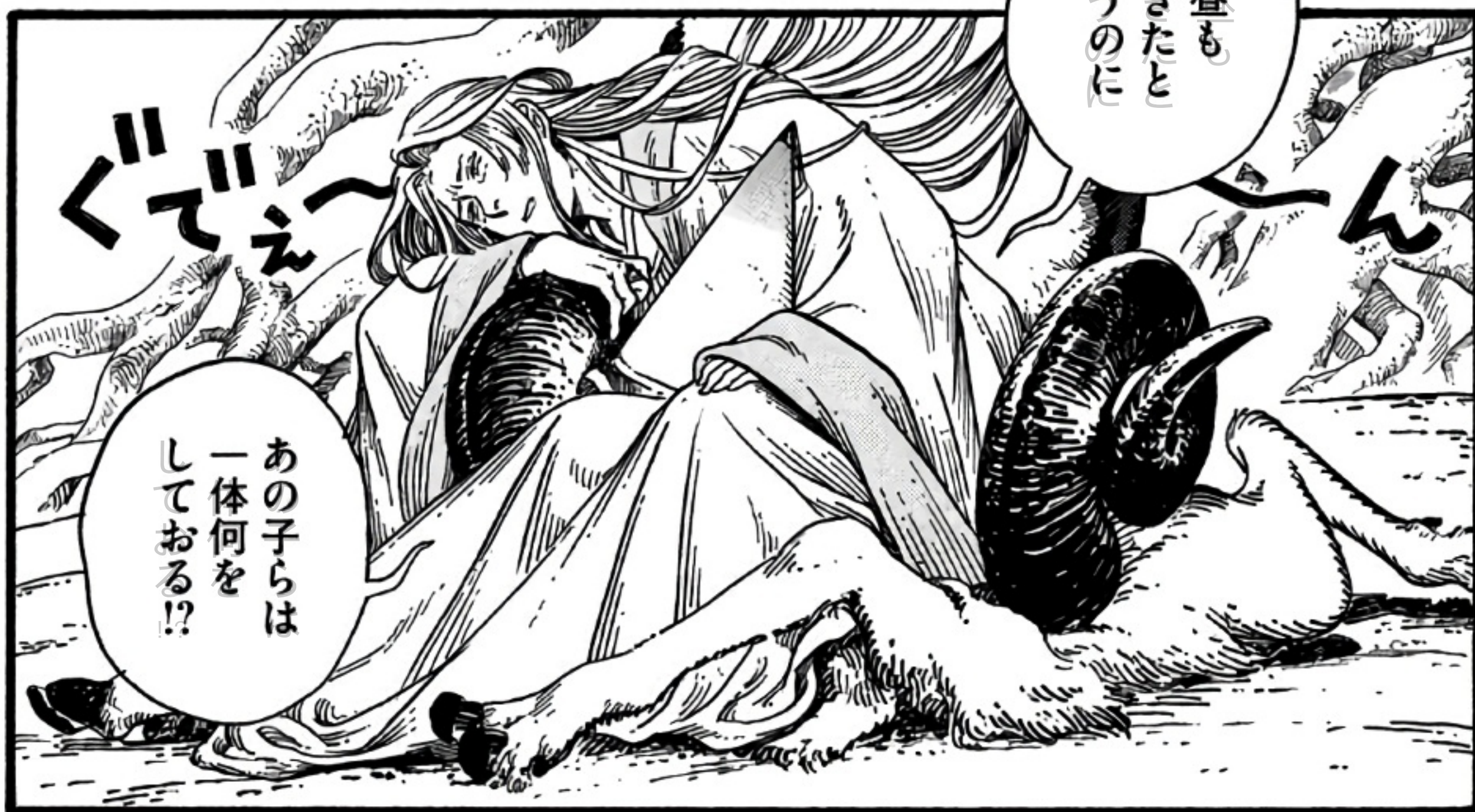






の昼も
過ぎたと
いうのに

最終日...



あの子らは
一体何を
しておる!?

ぐてえ〜

ん



さすがの
ベルさまも
さみしいぞー!

わー!!

さす



3日間では
やはり短すぎた
かの?

昨日も
何も仕掛けて
来んかったし...

ゴッ

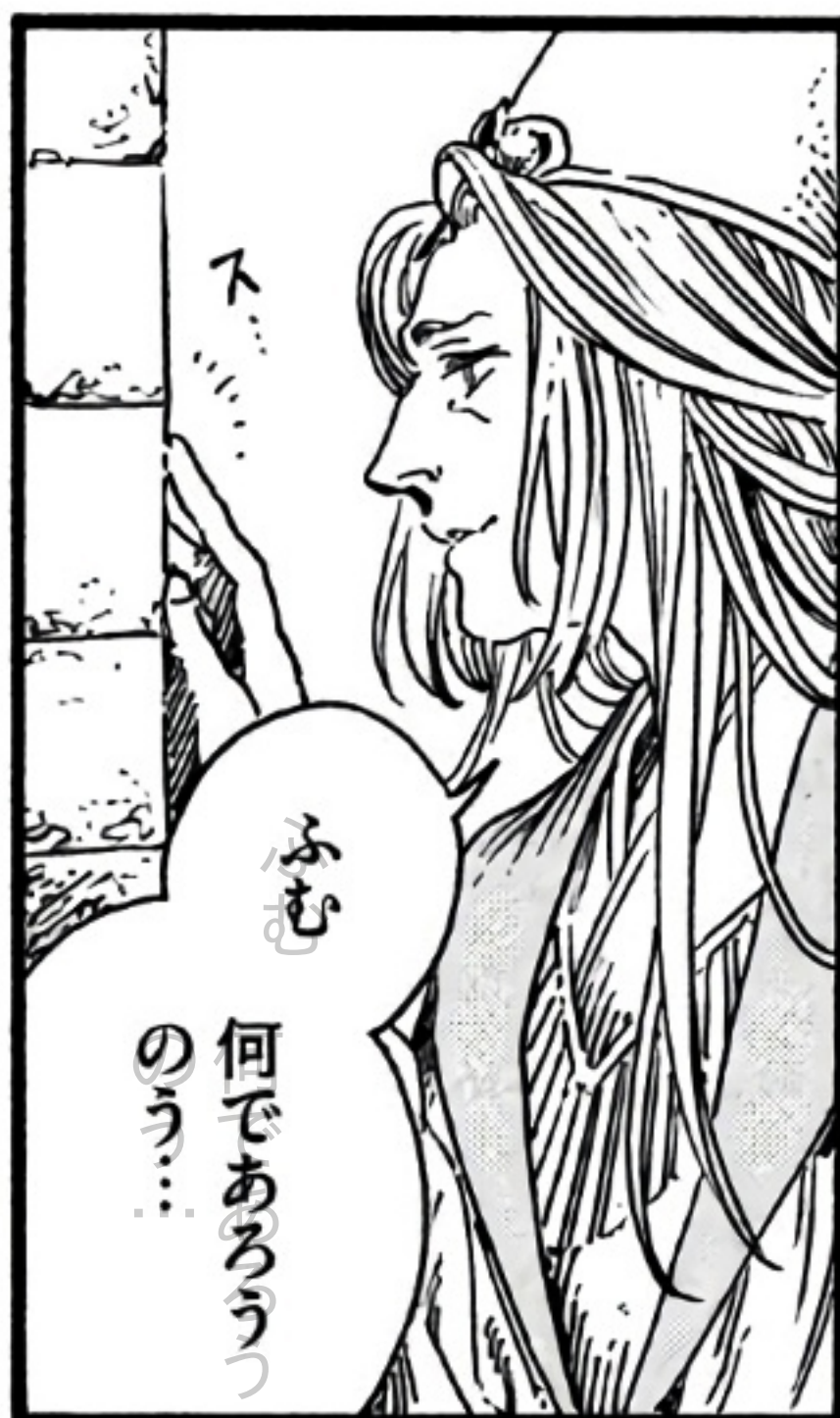
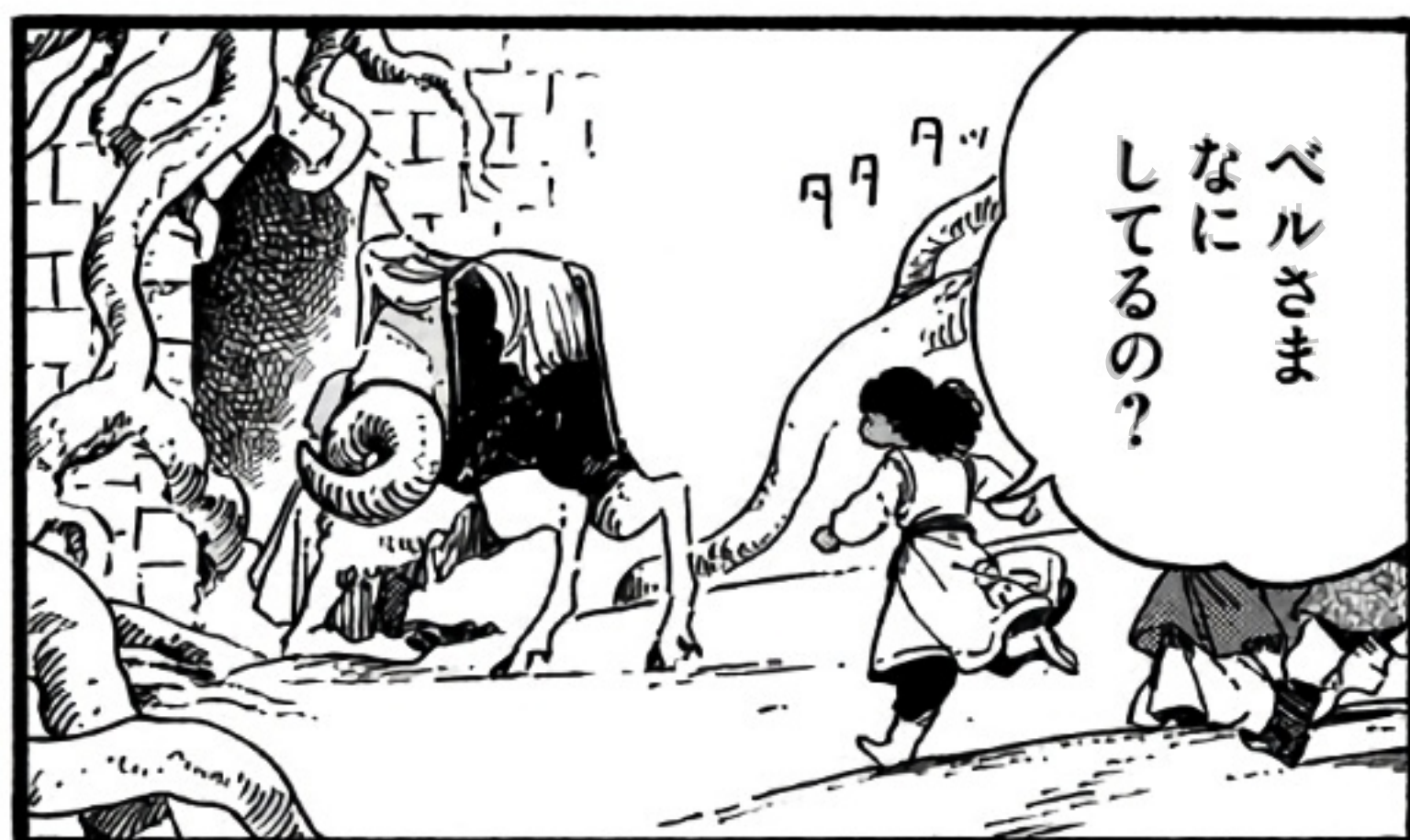
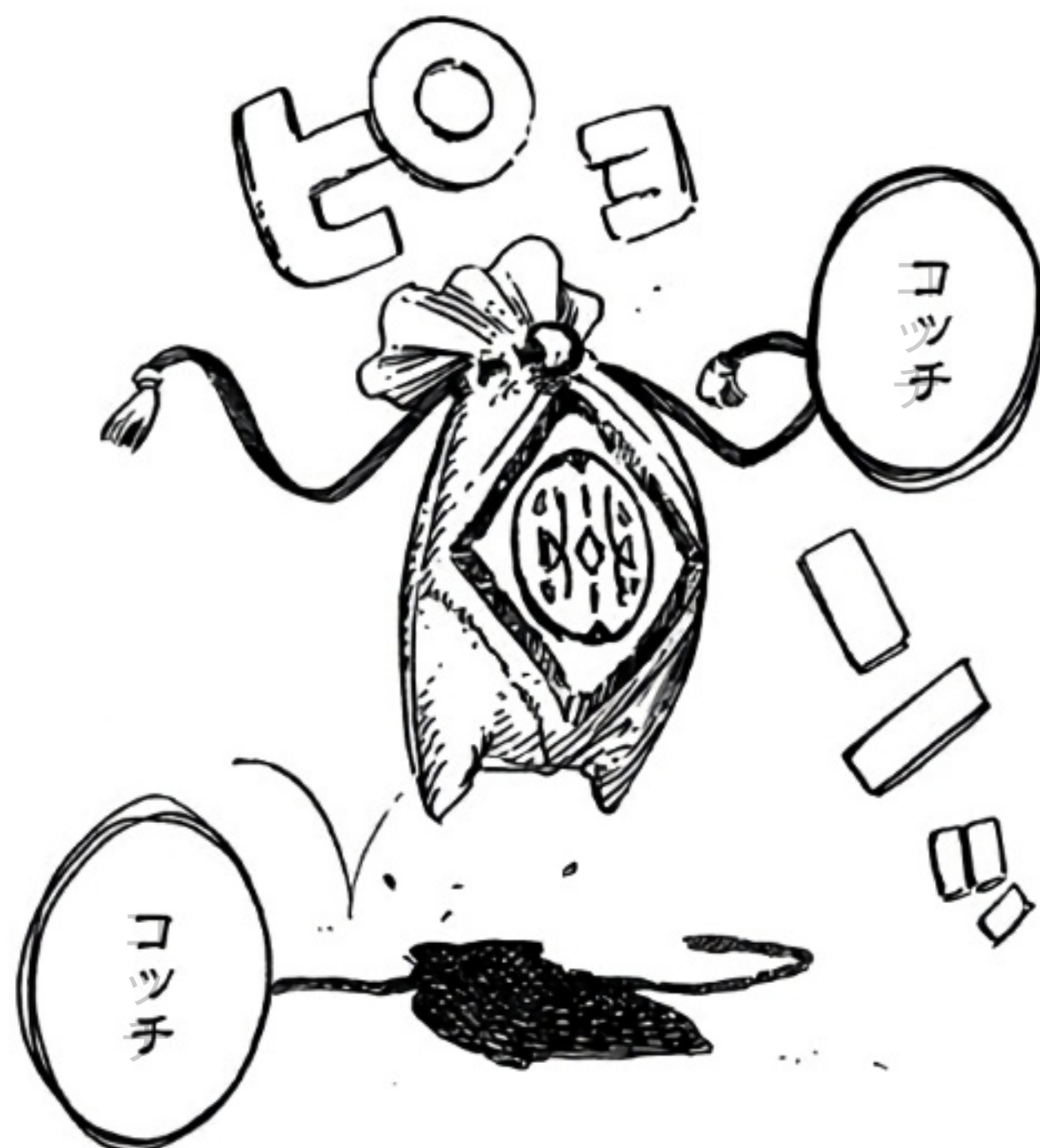
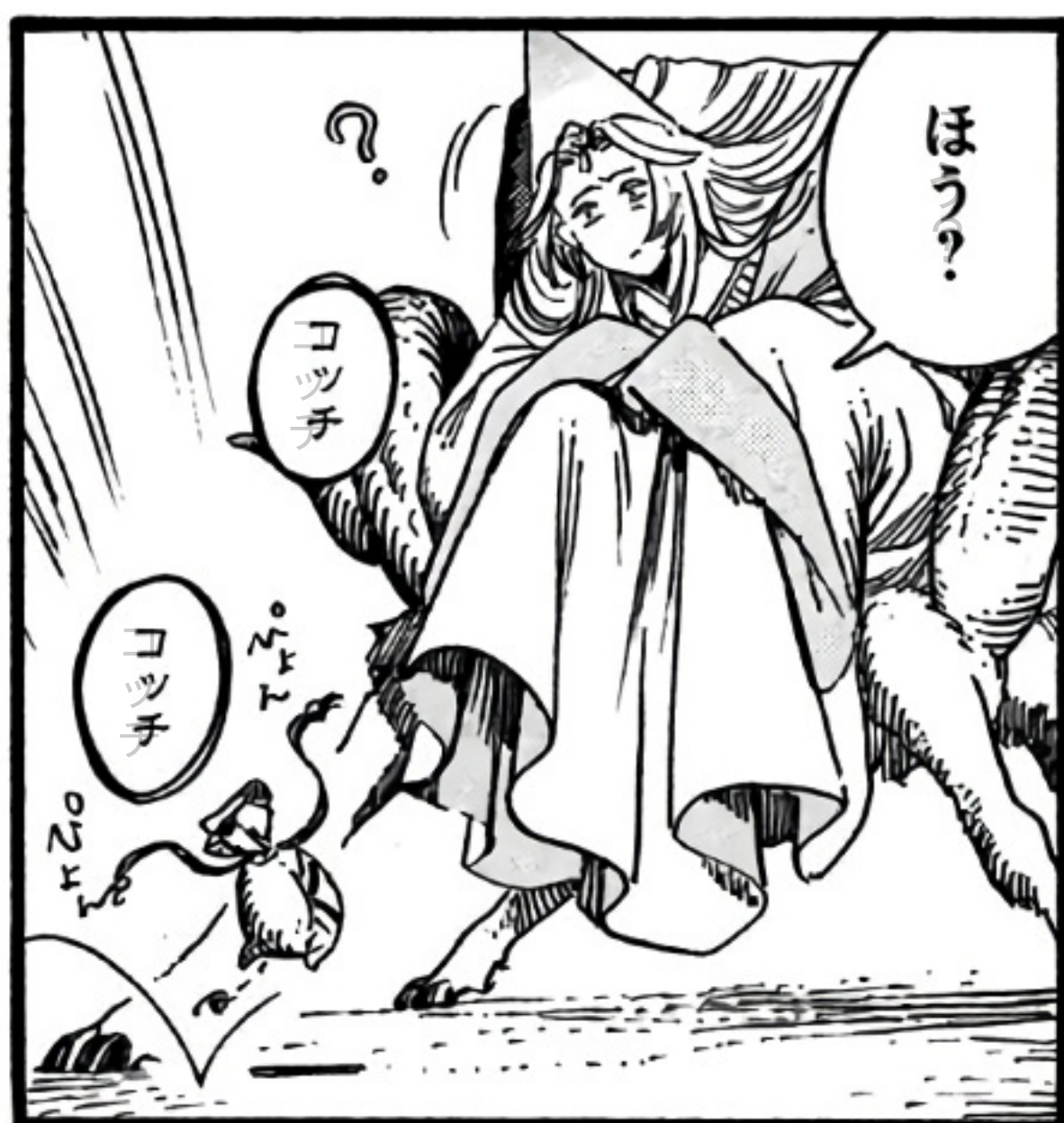
ゴッ

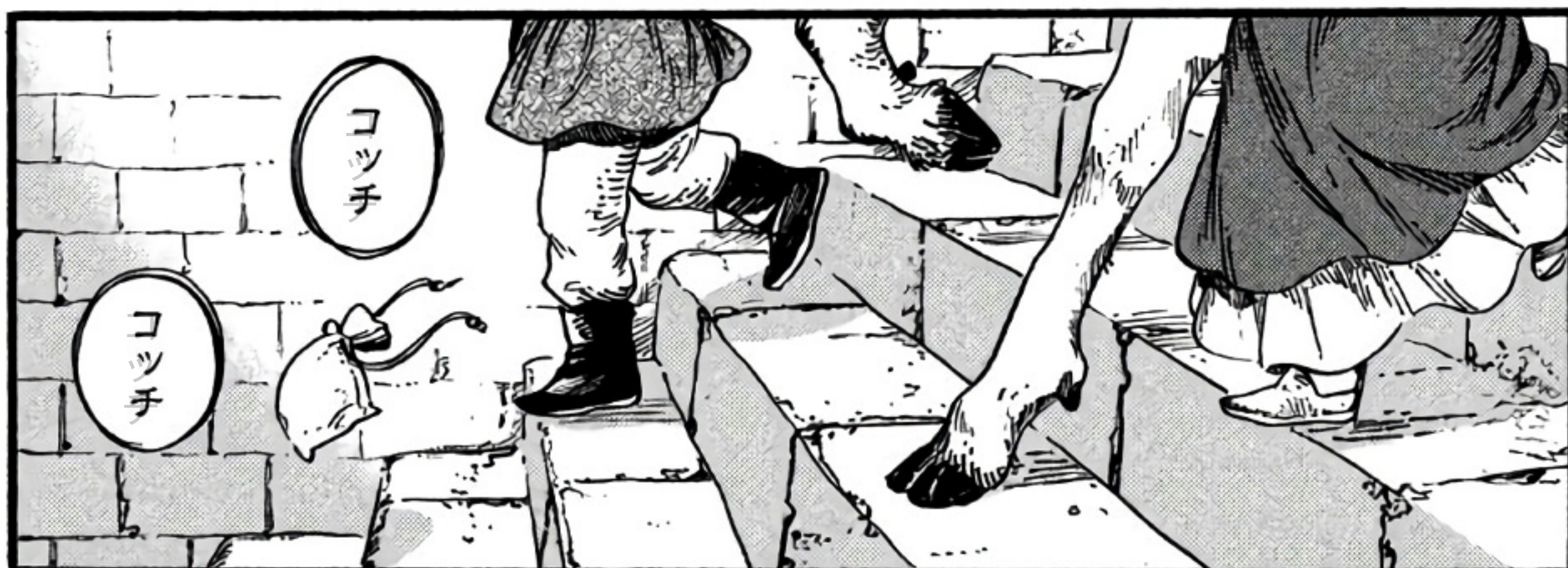
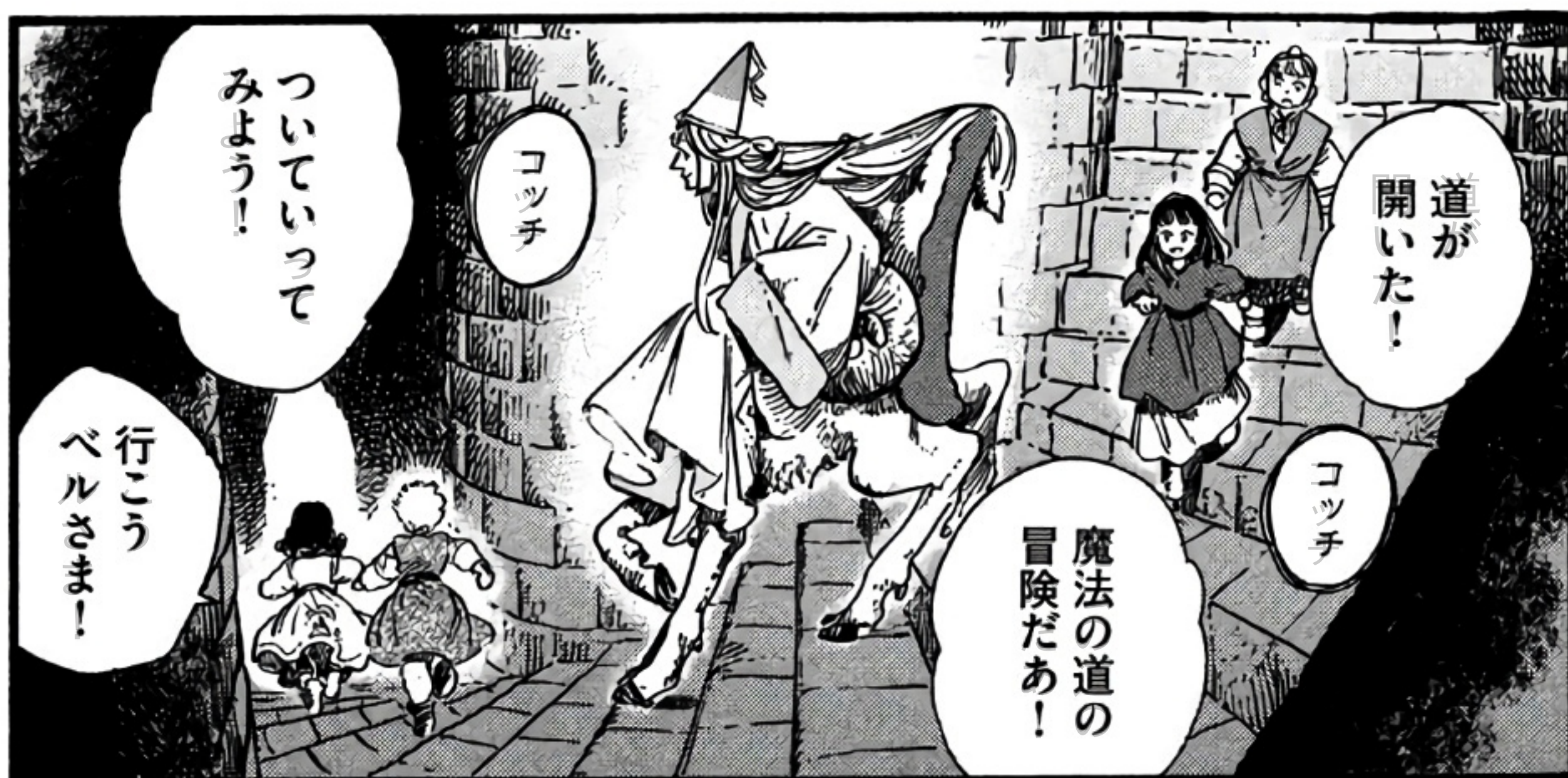
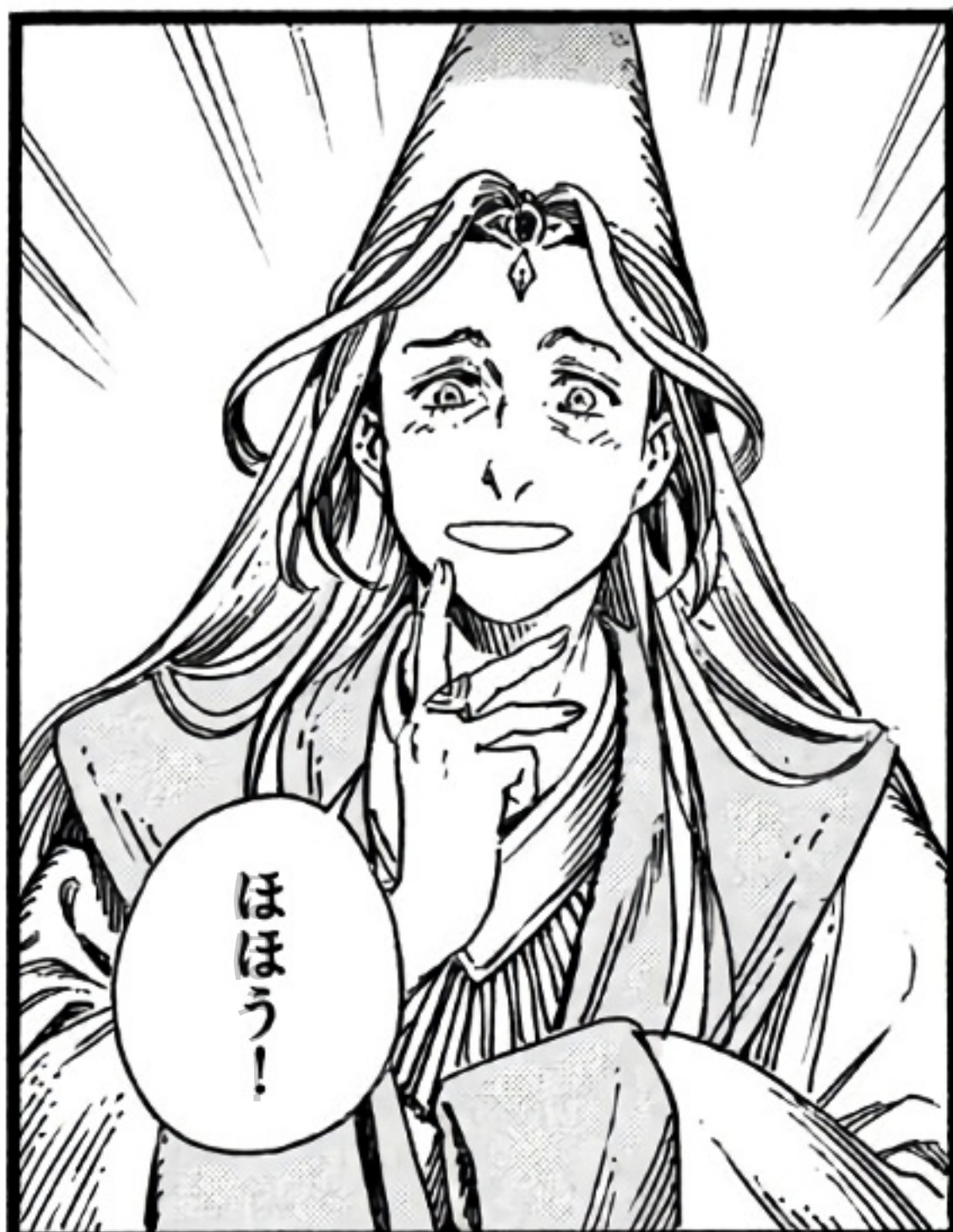


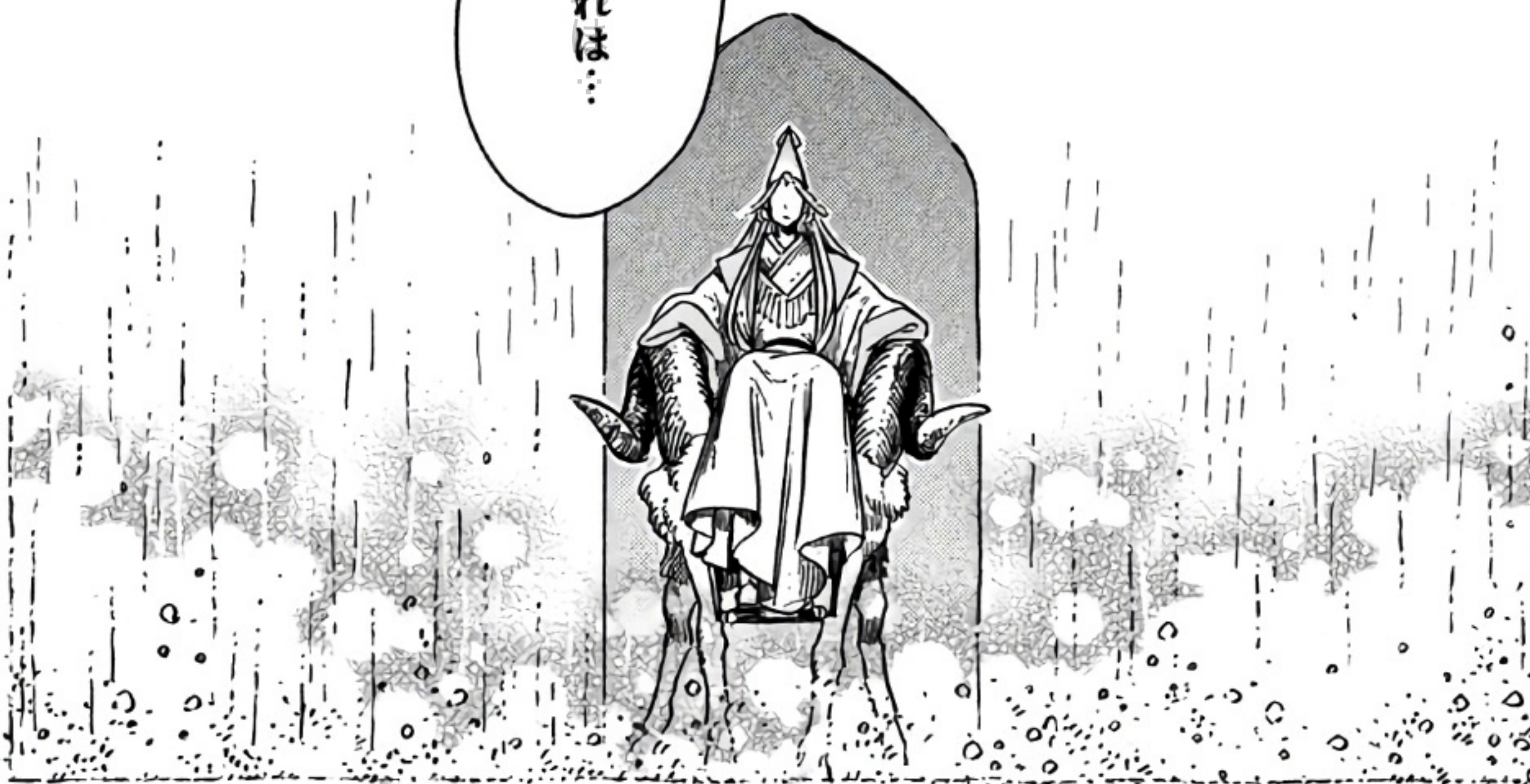
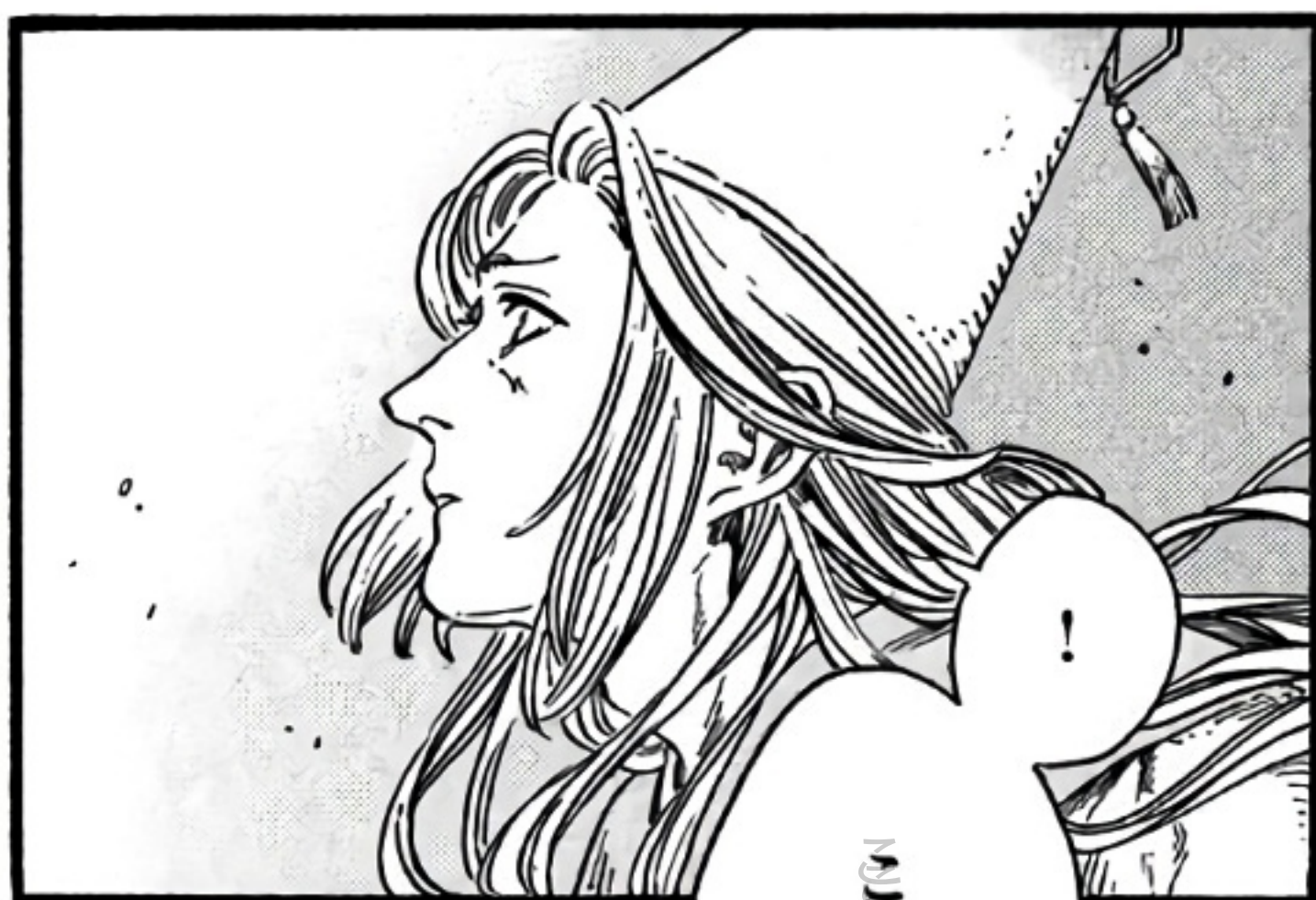
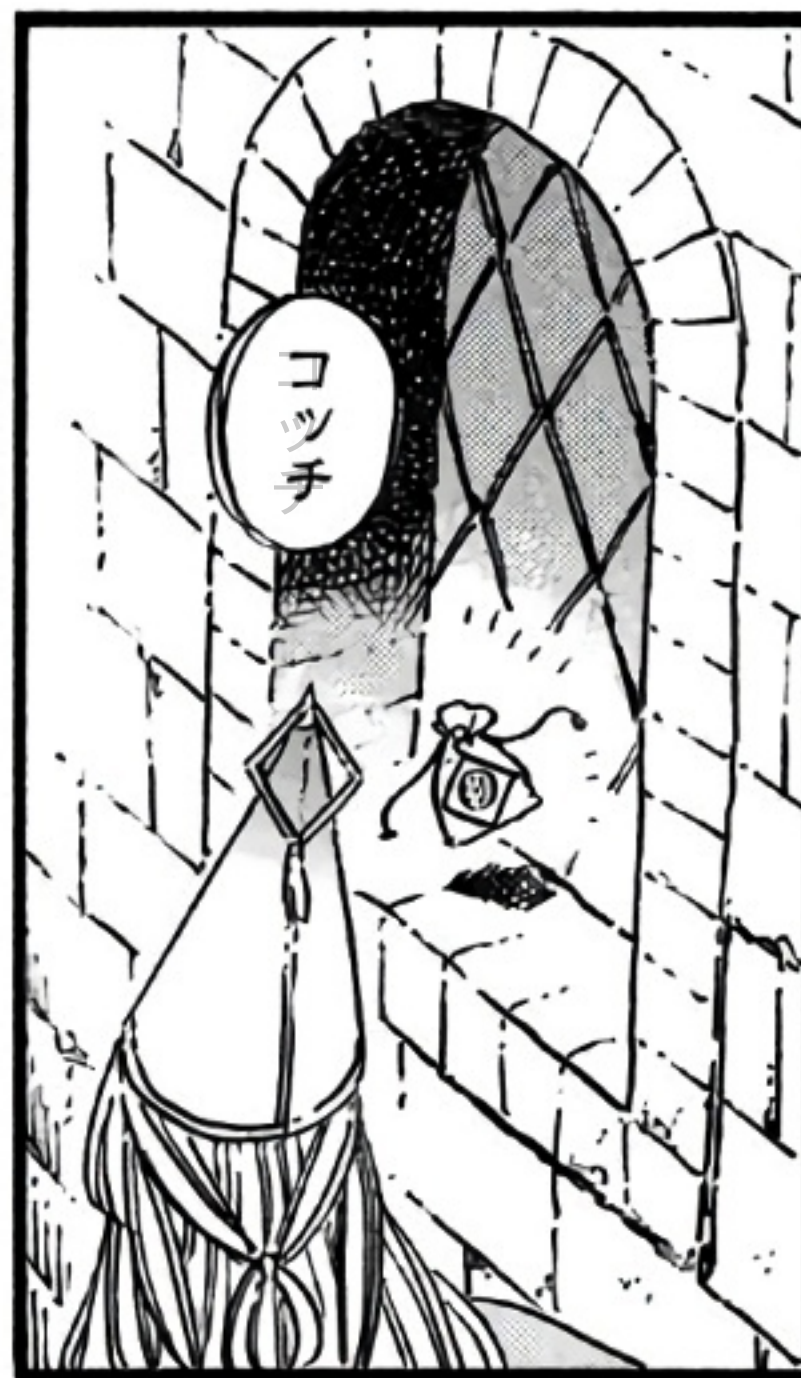
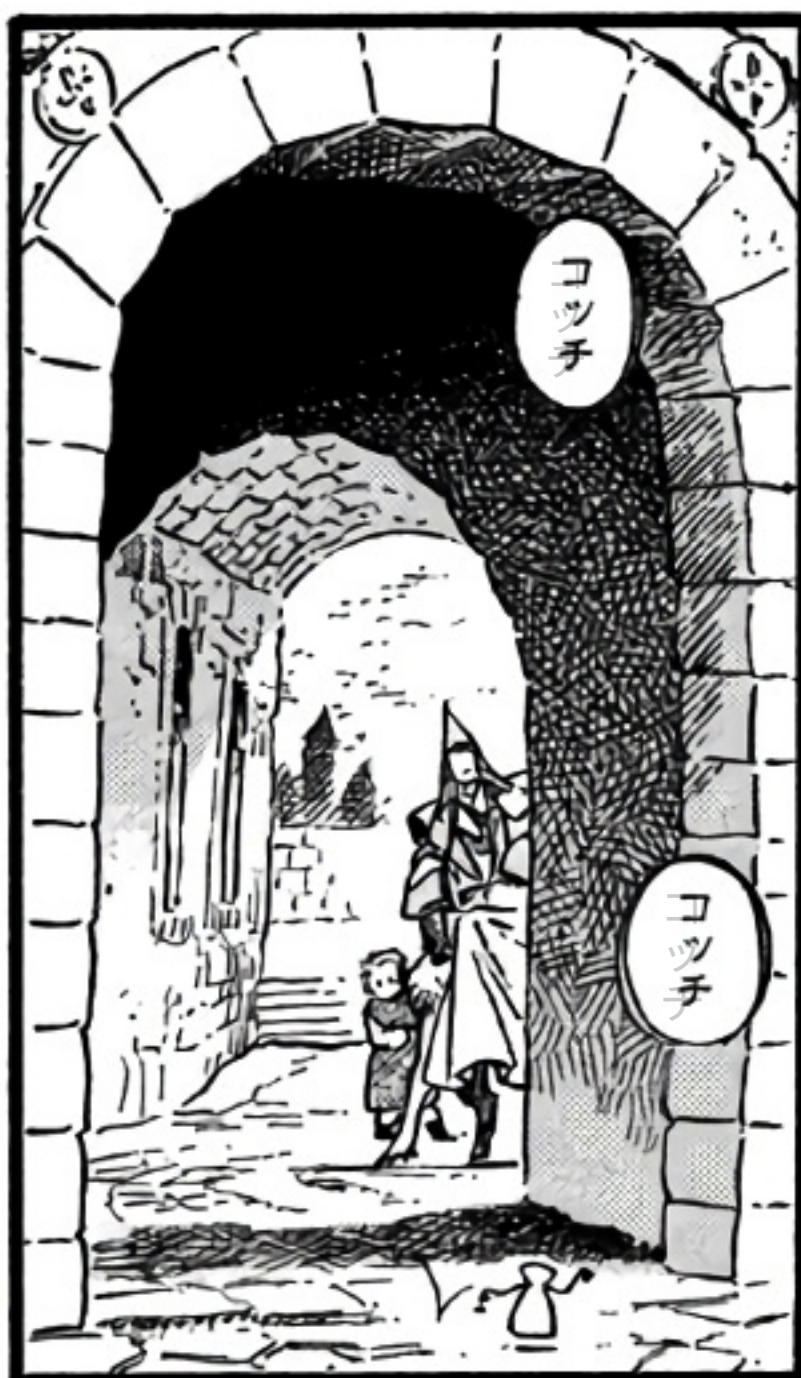
おや?

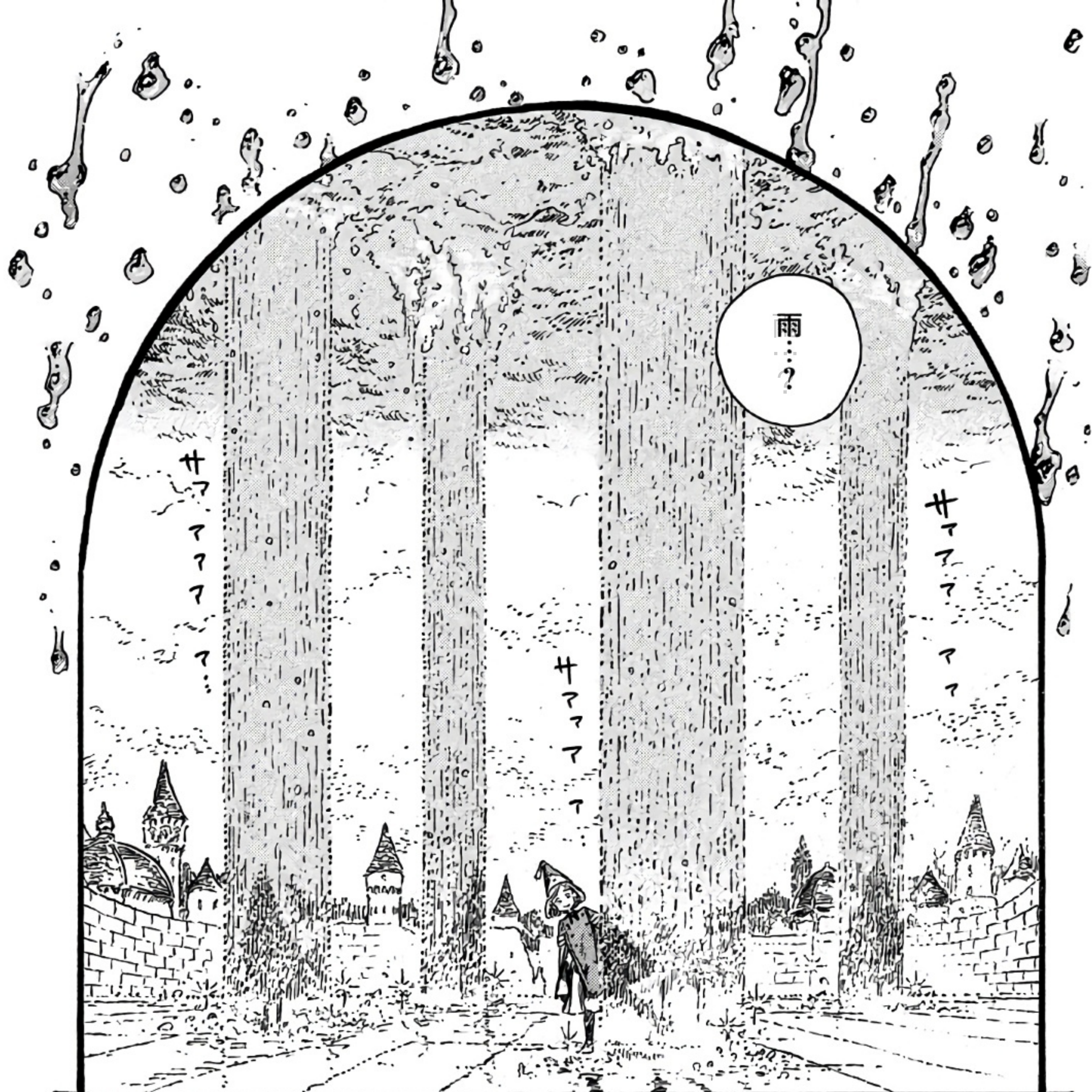
コッチ

コッチ







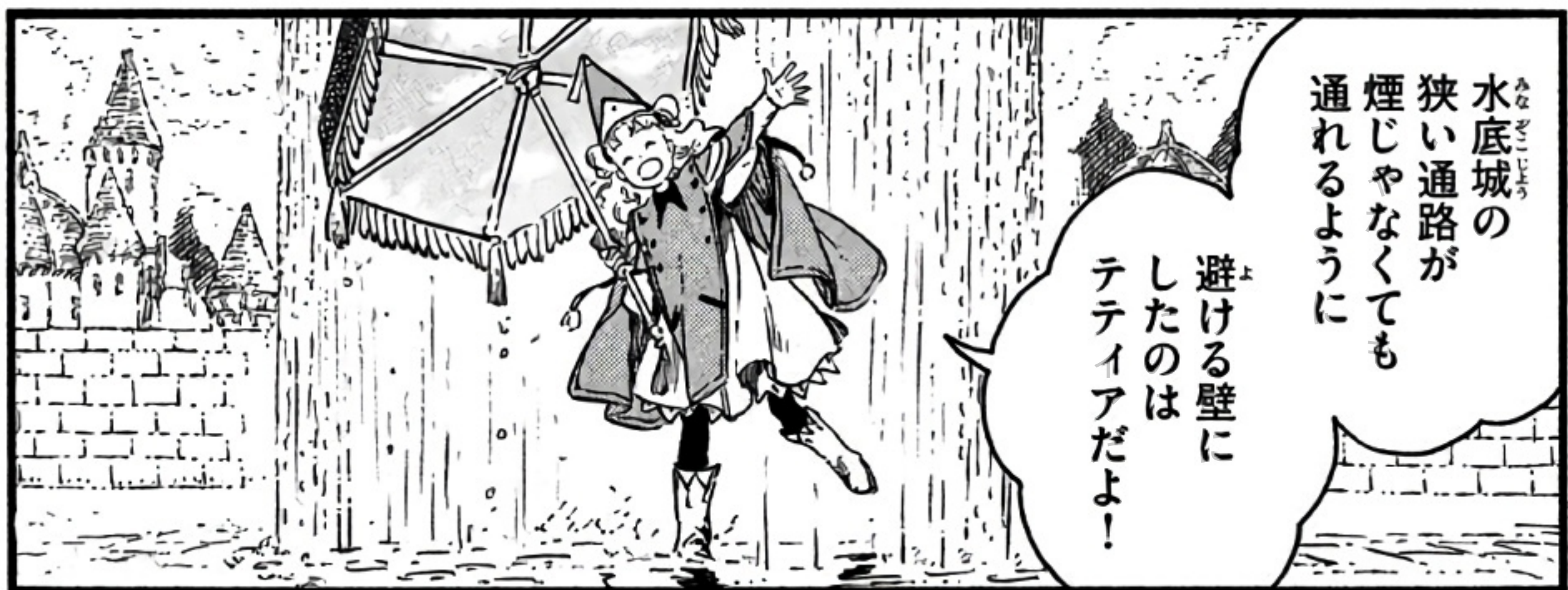
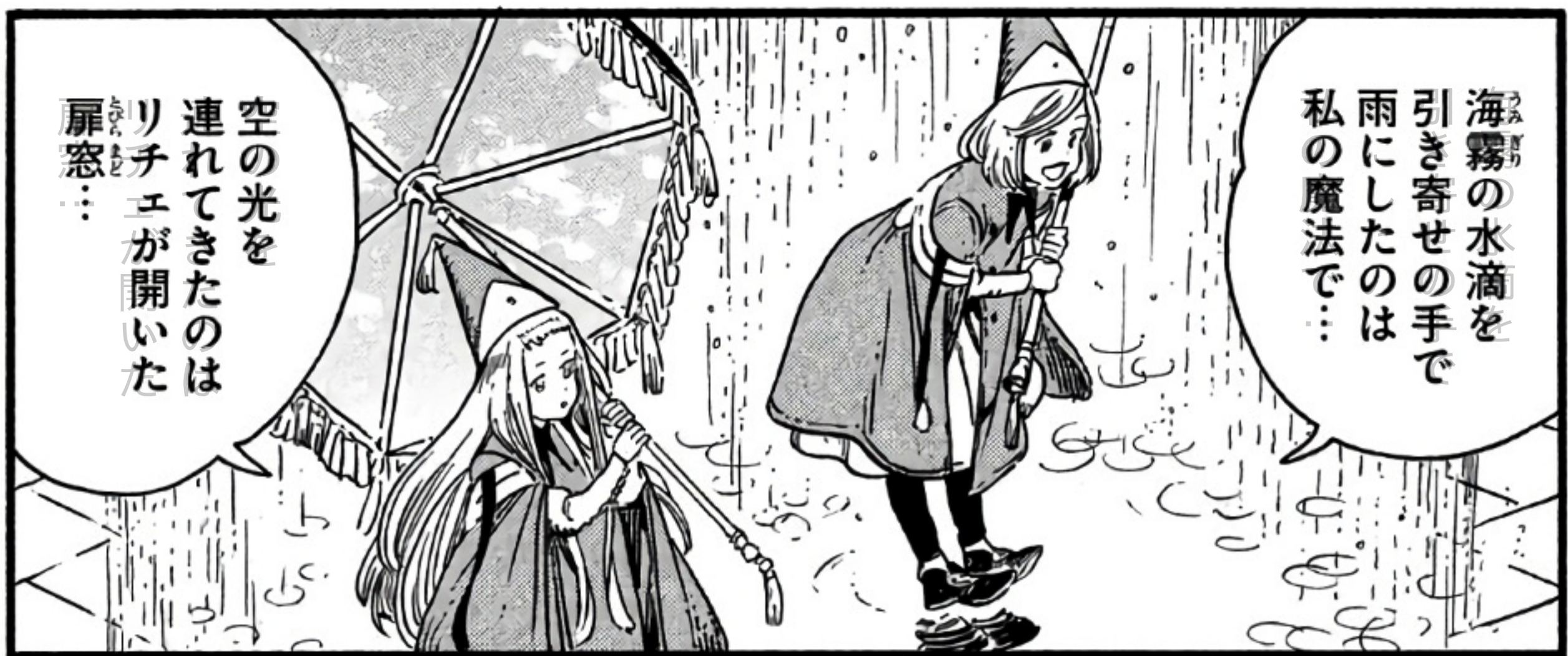


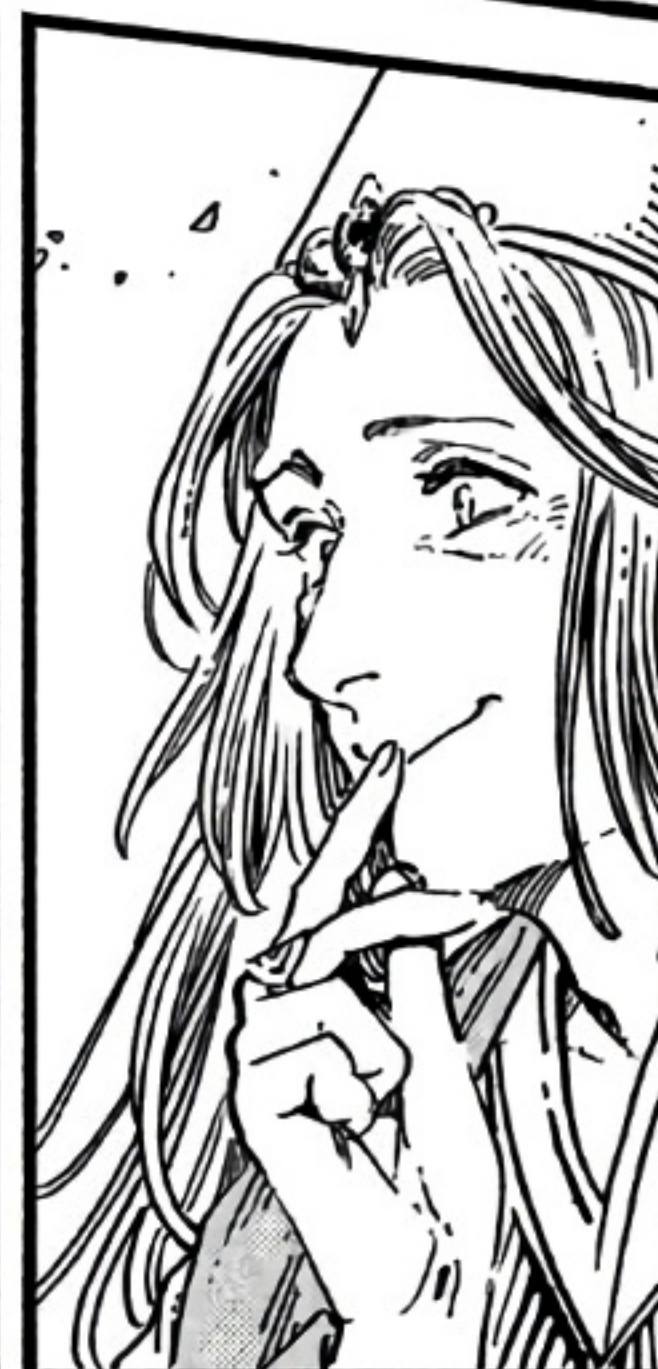
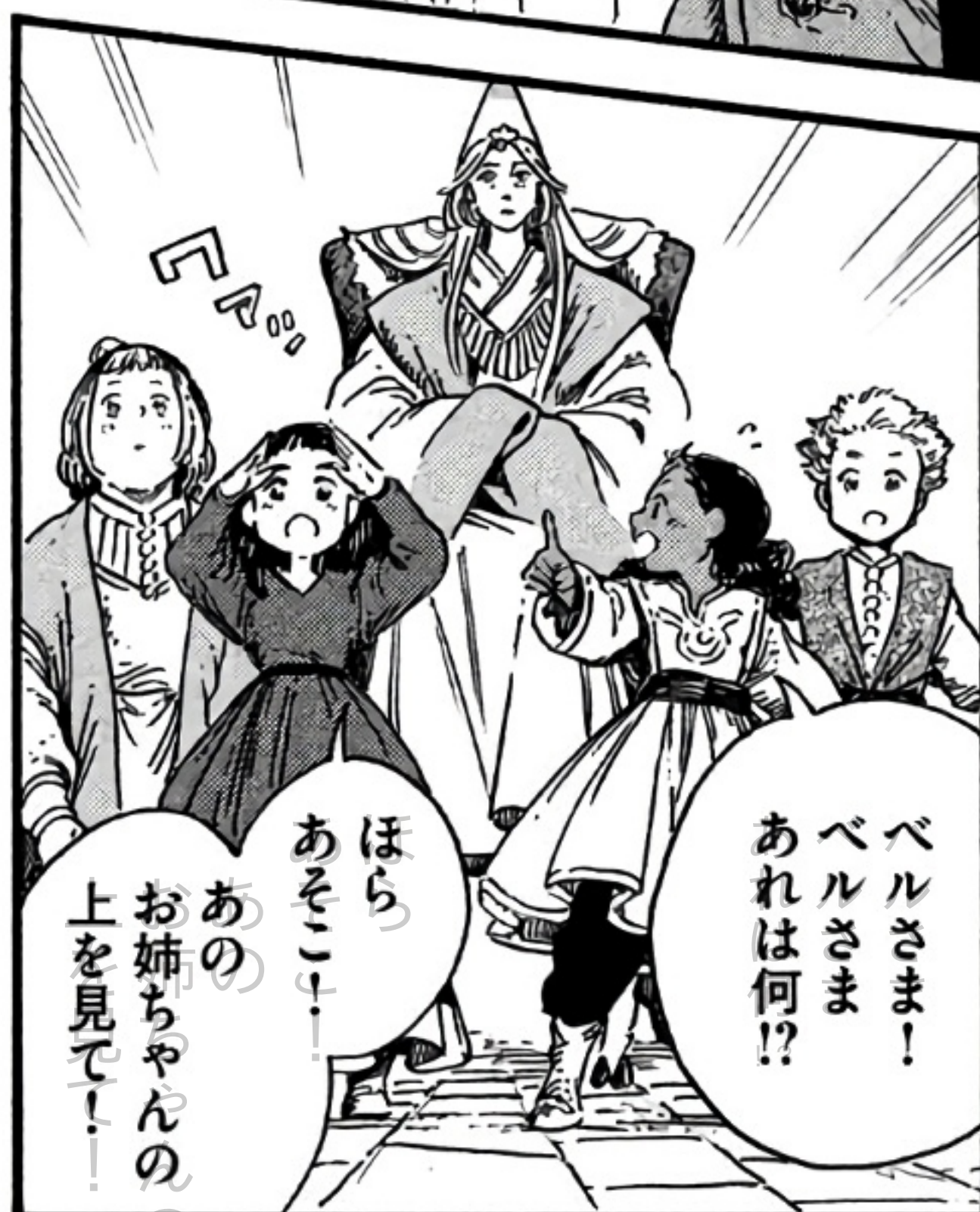
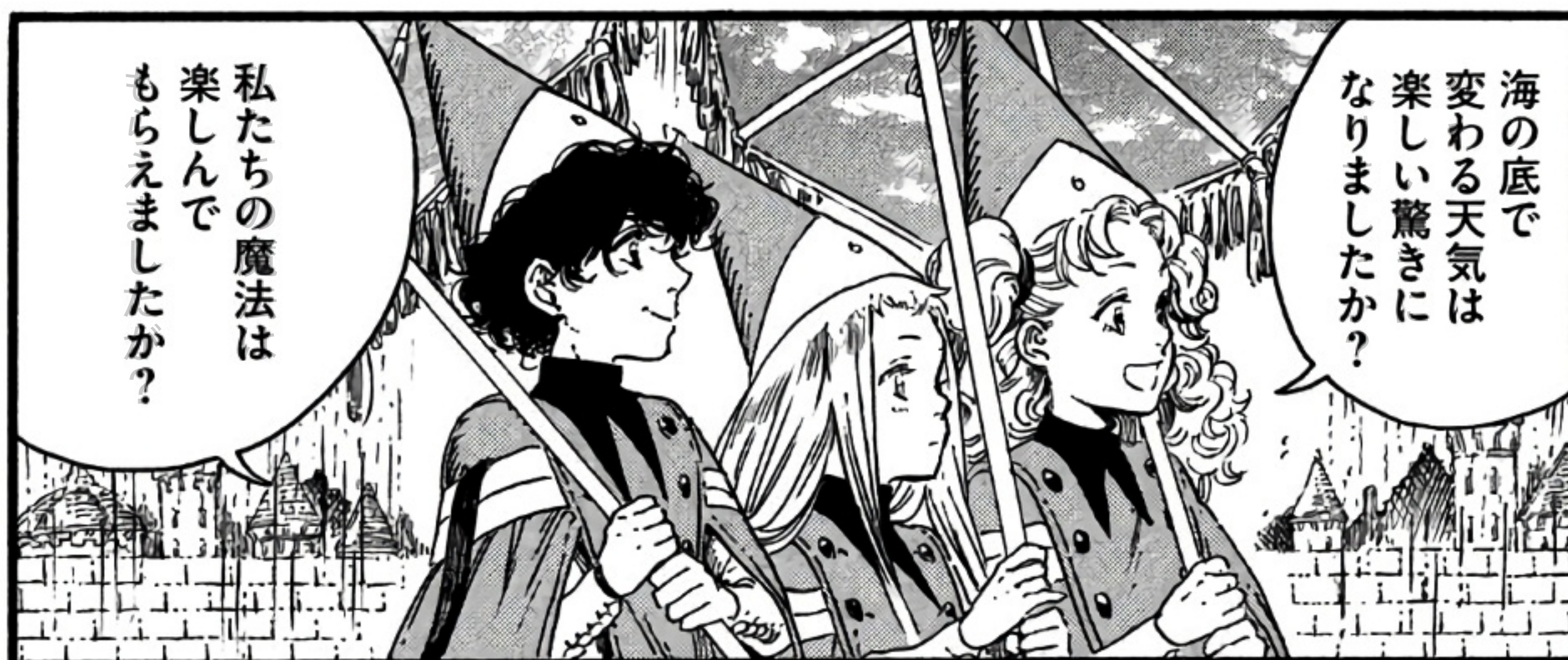
それは

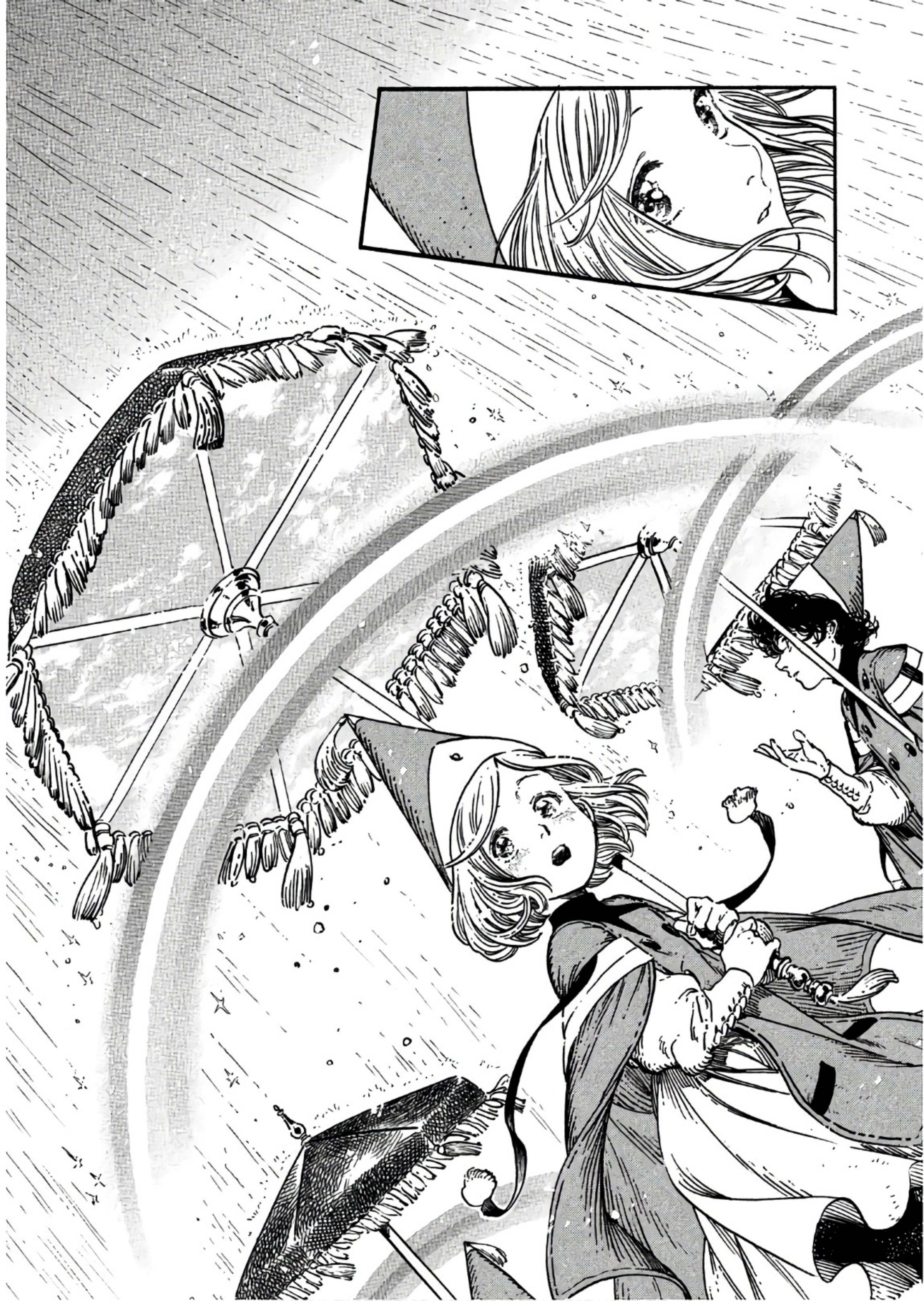
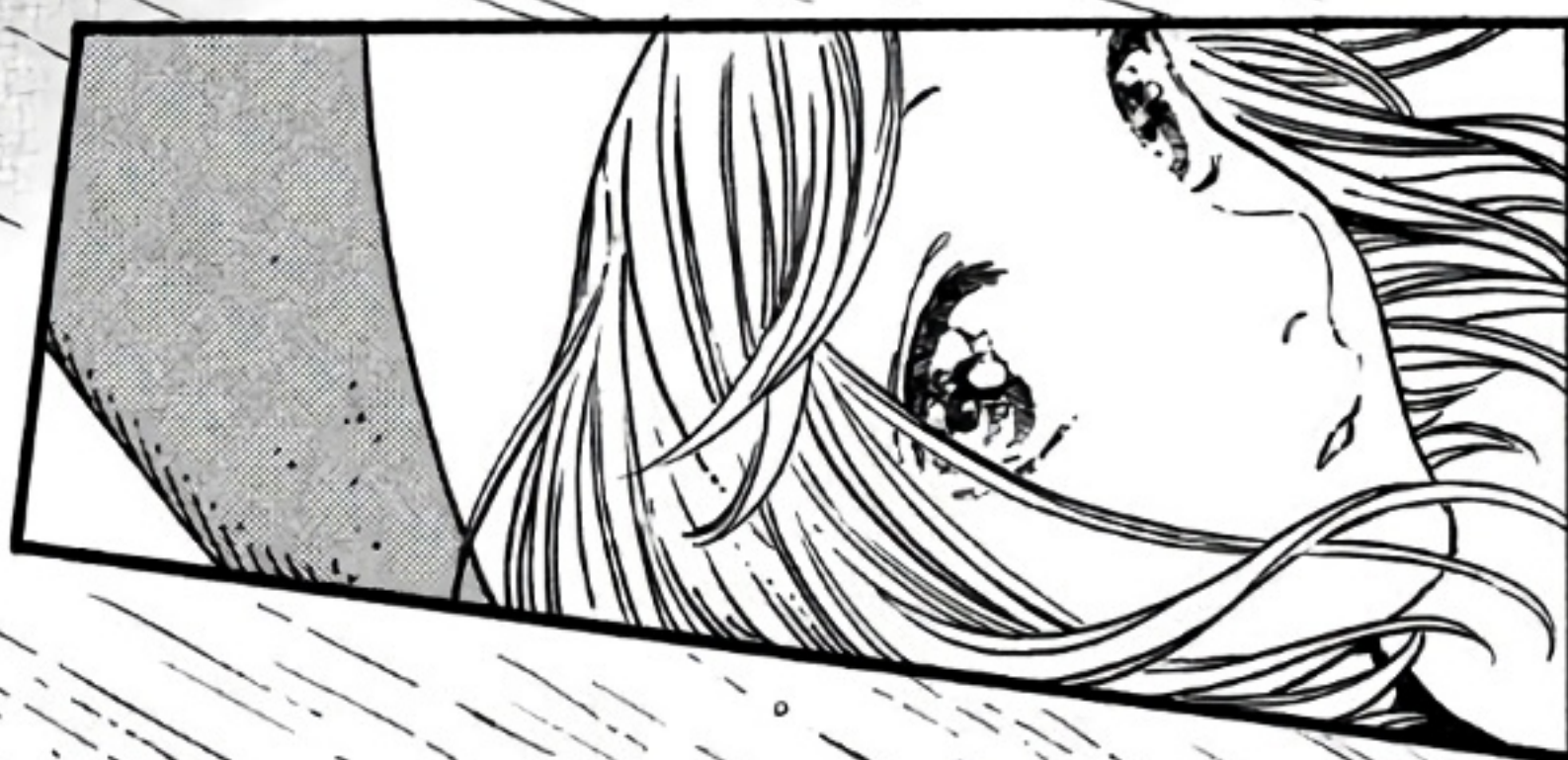
空から
降り注ぐ
恵みの雨と

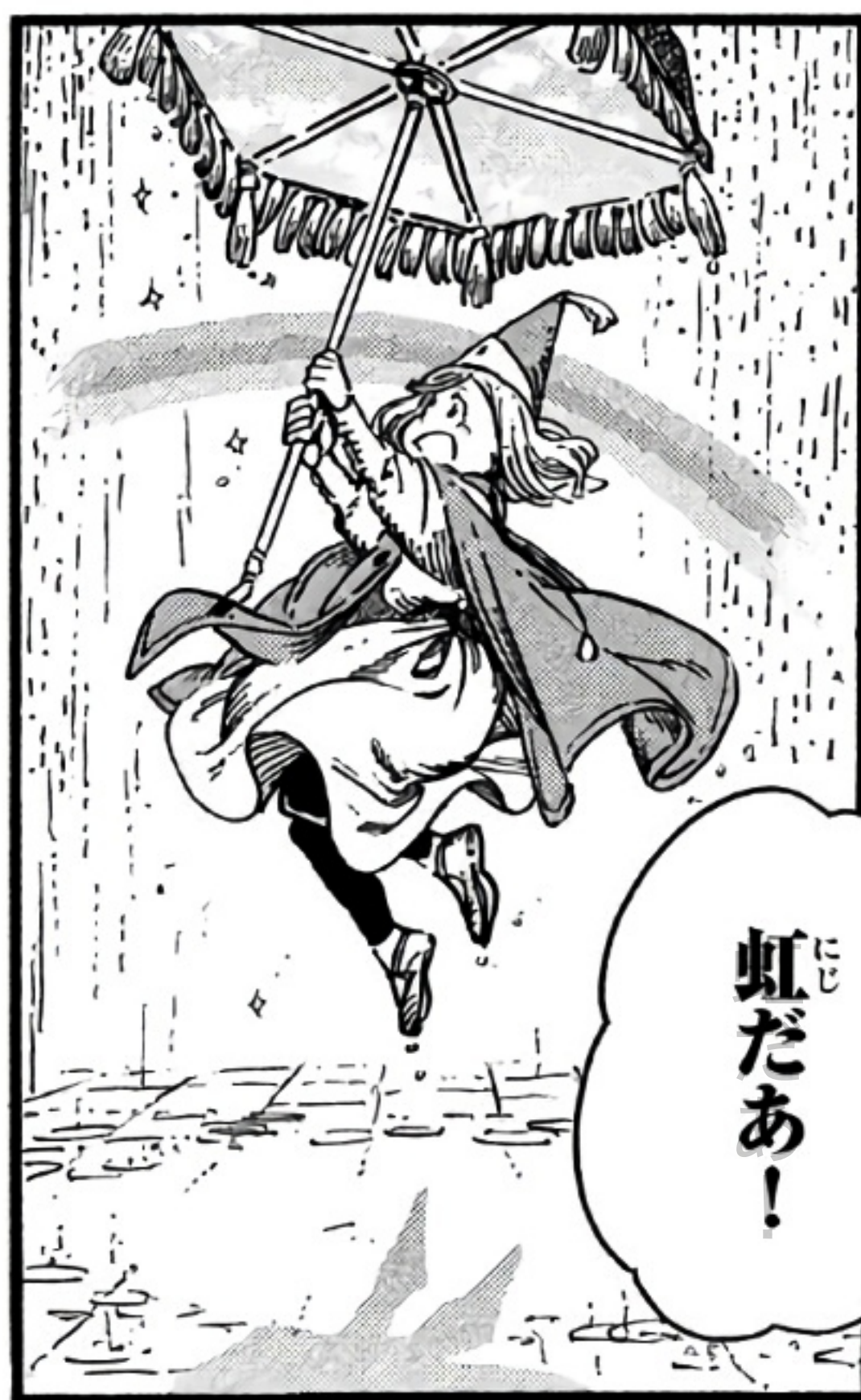
雨上がりの
太陽の
きらめき！



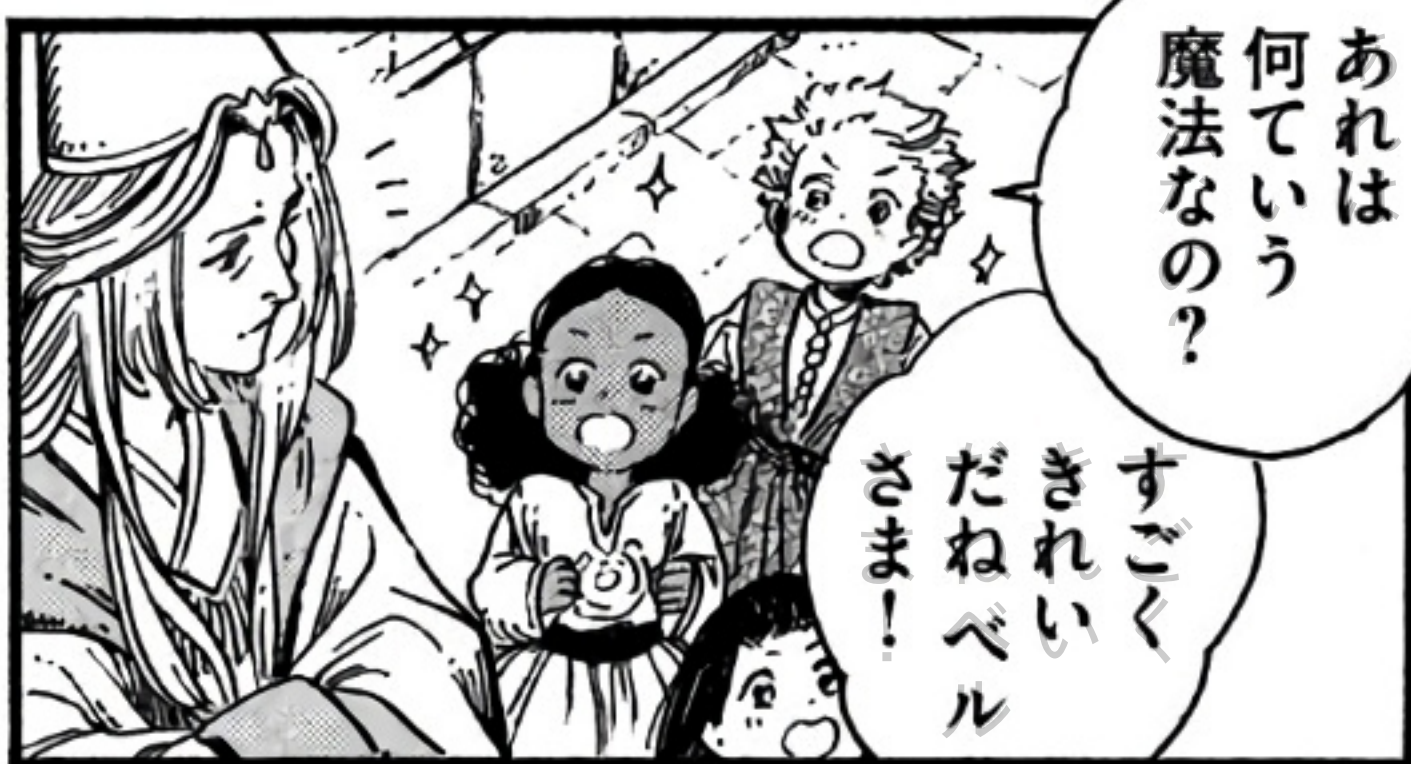






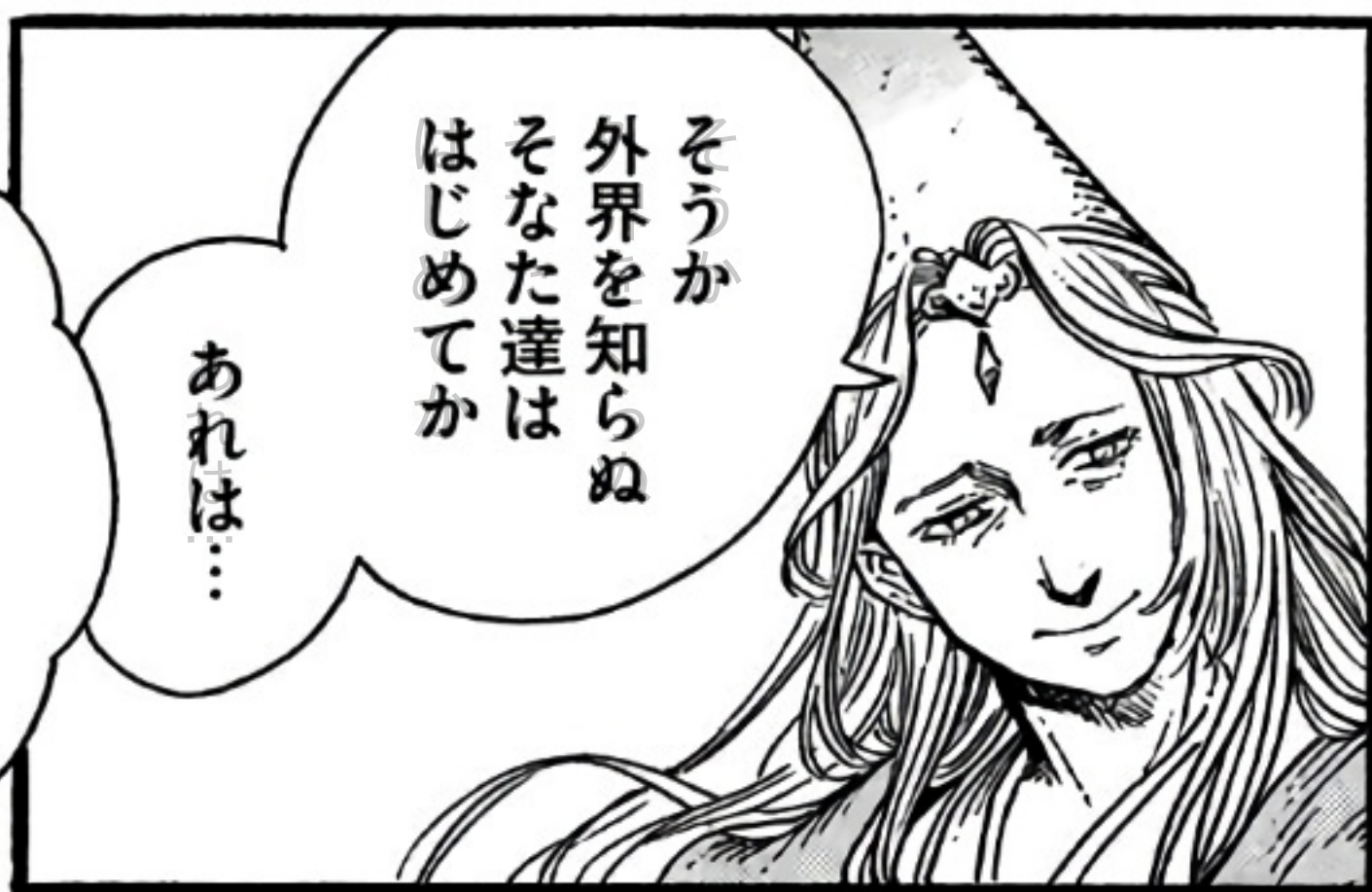


虹だあ！



あれは
何ていう
魔法なの？

すごく
きれい
だねベル
さま！



そうか
外界を知らぬ
そなた達は
はじめてか

あれは…



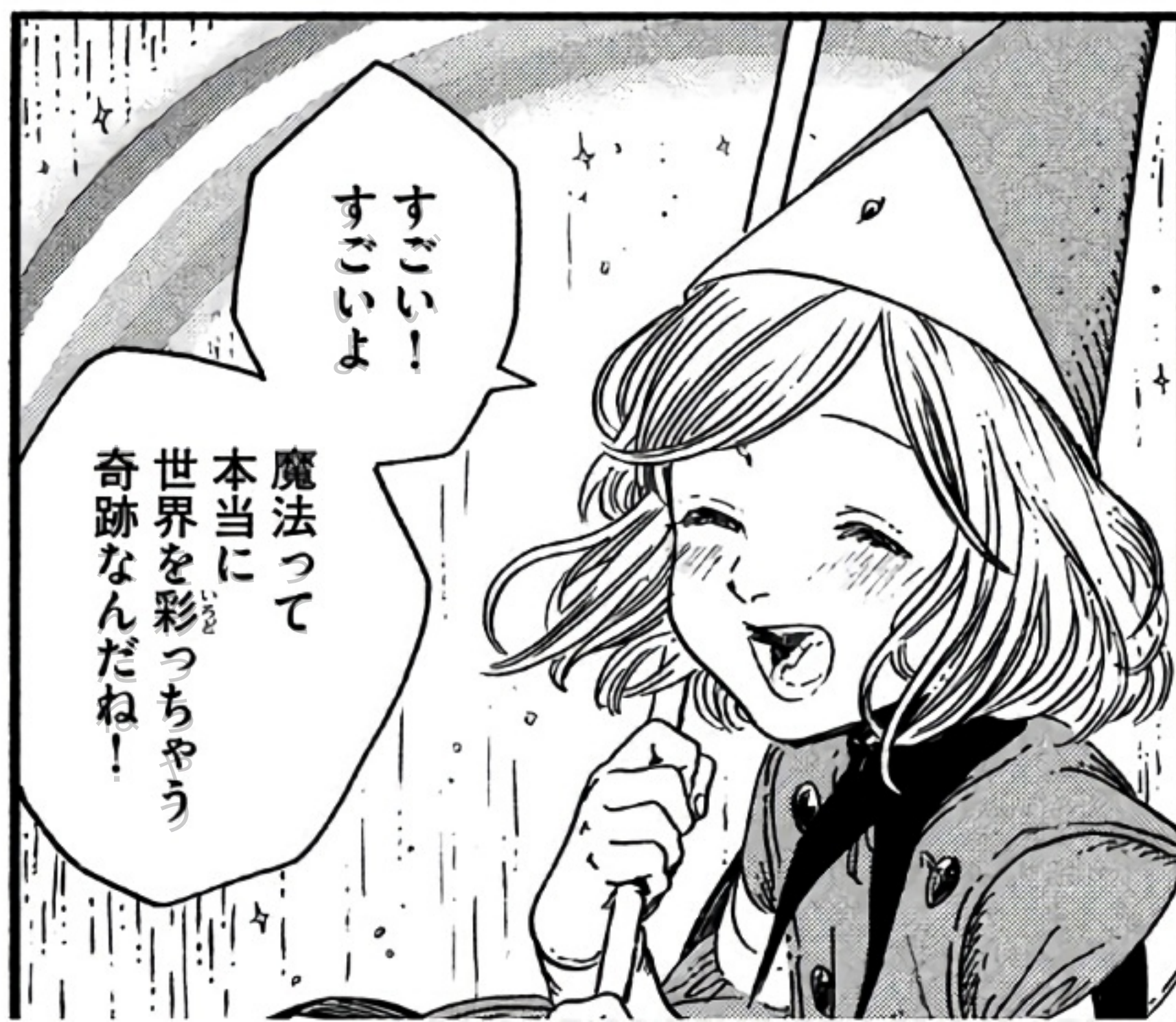
検証すれば
意図的に
作ることも…

雨上がりに
太陽の光が
差したから？

でも
現象には
条件が
あるはずで…

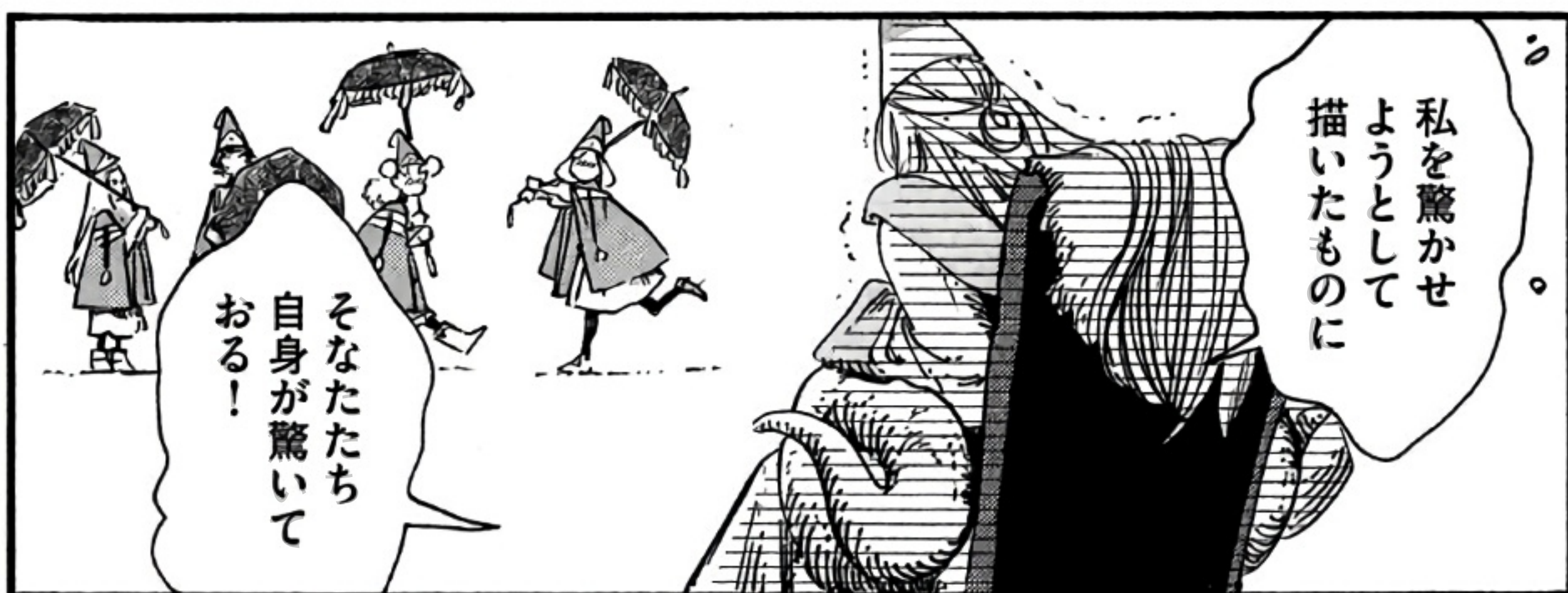


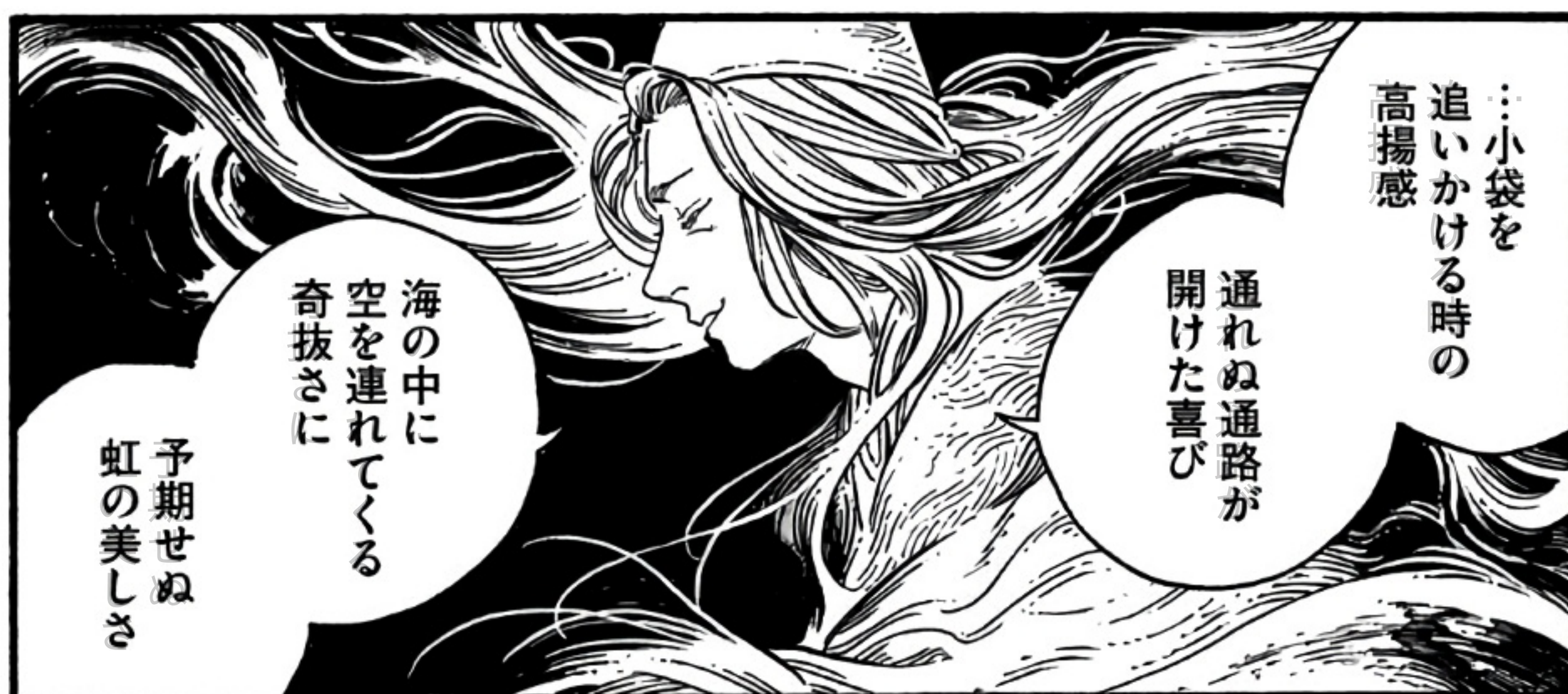
うわああ…！
何で海の中に
虹が出来たん
だろう！

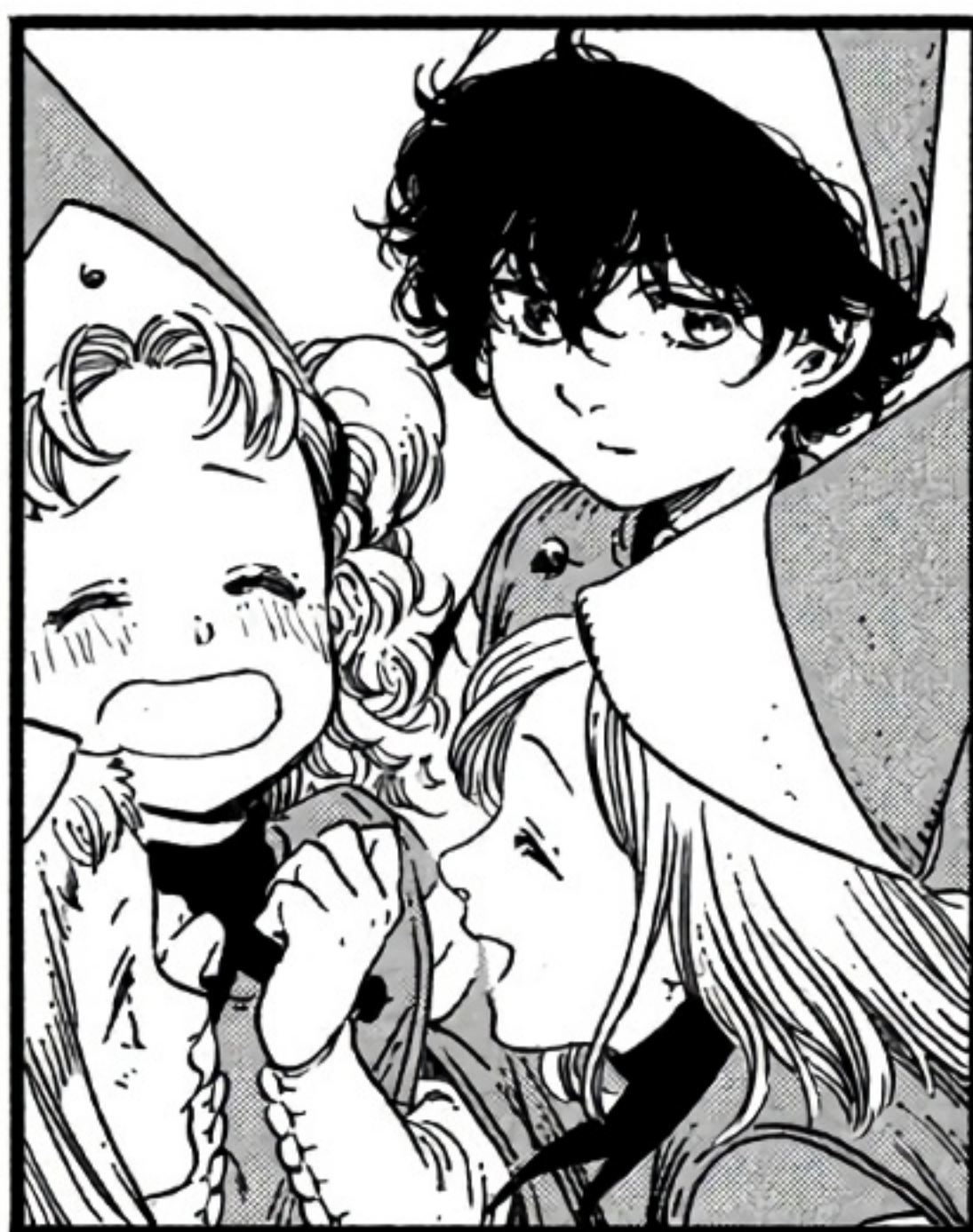
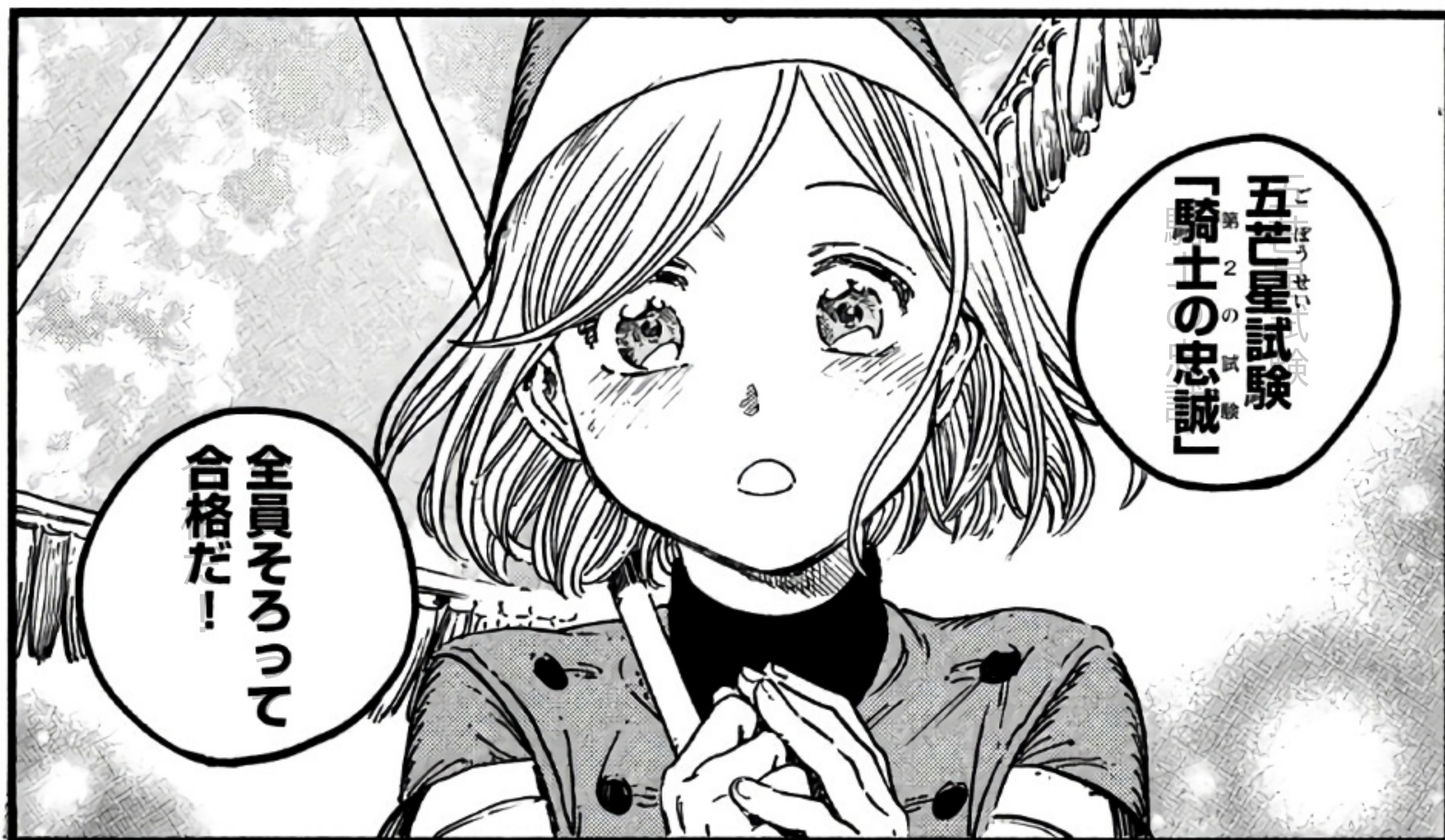


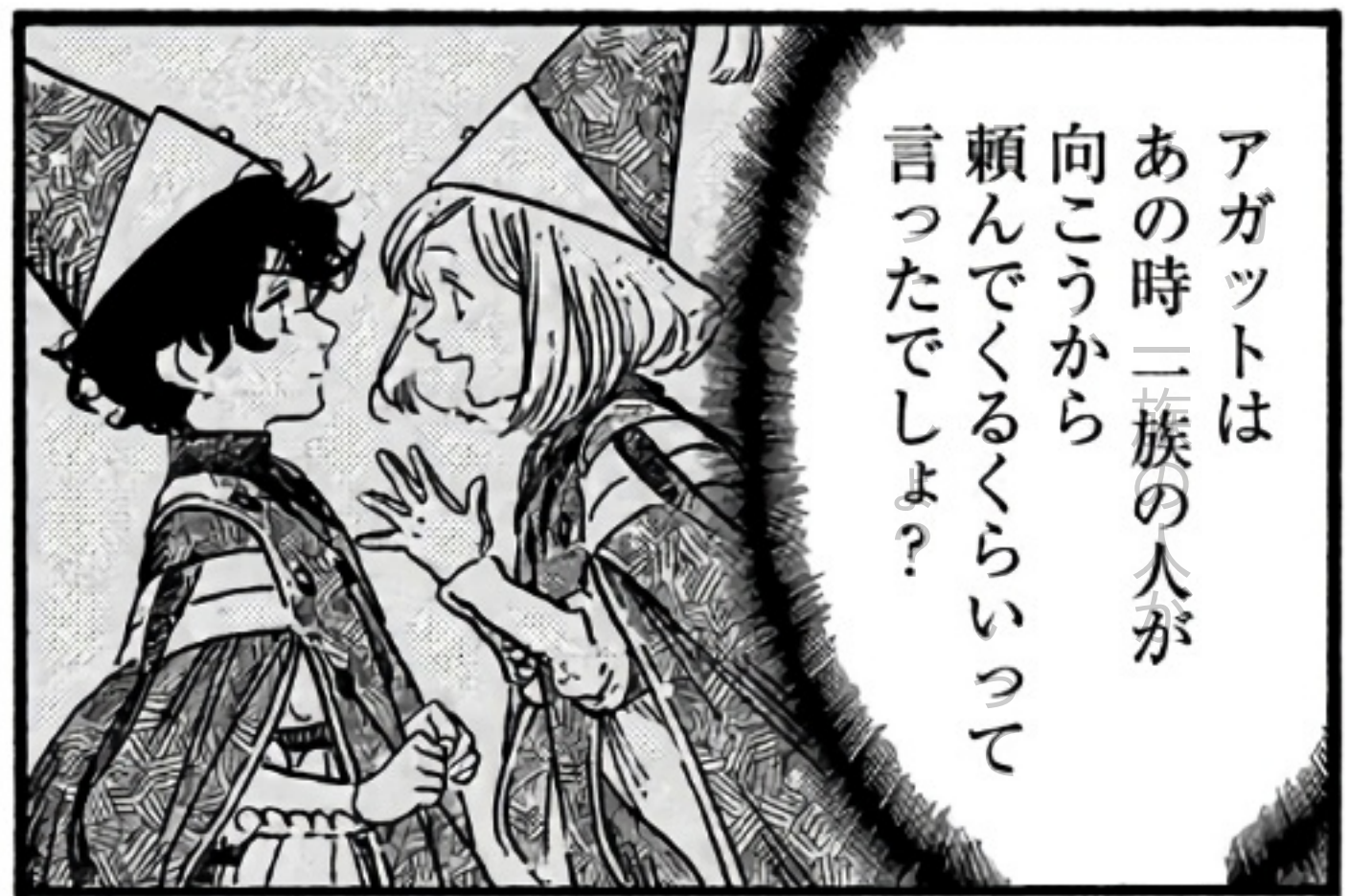
すごい！
すごいよ

魔法って
本当に
世界を彩っちゃう
奇跡なんだね！





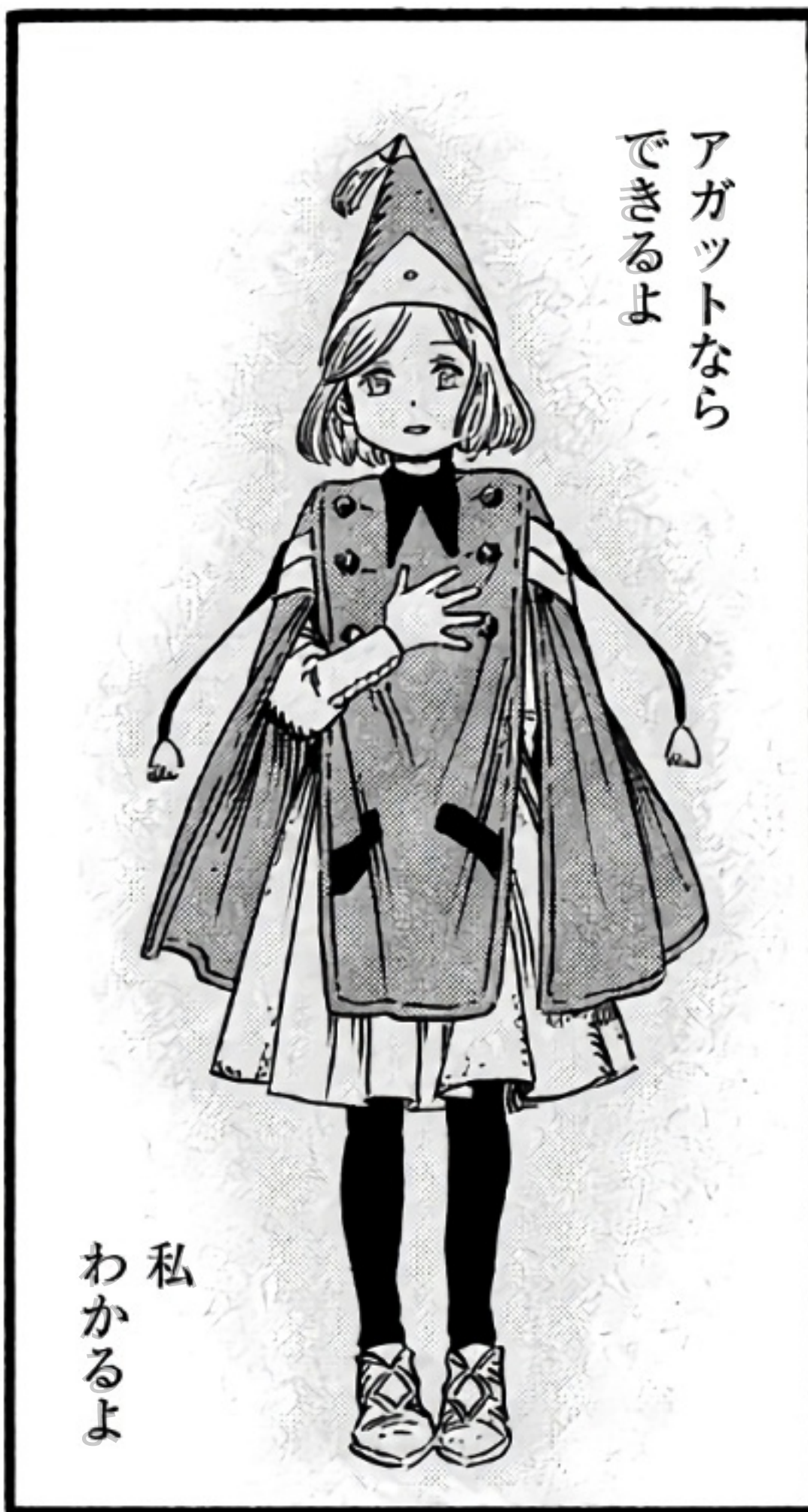




アガットは
あの時二族の人が
向こうから
頼んでくるくらいって
言ったでしょ？



6
だったら
ベルダルト
さまも
向こうから
引き寄せちゃえば
いいんだよ！



アガットなら
できるよ

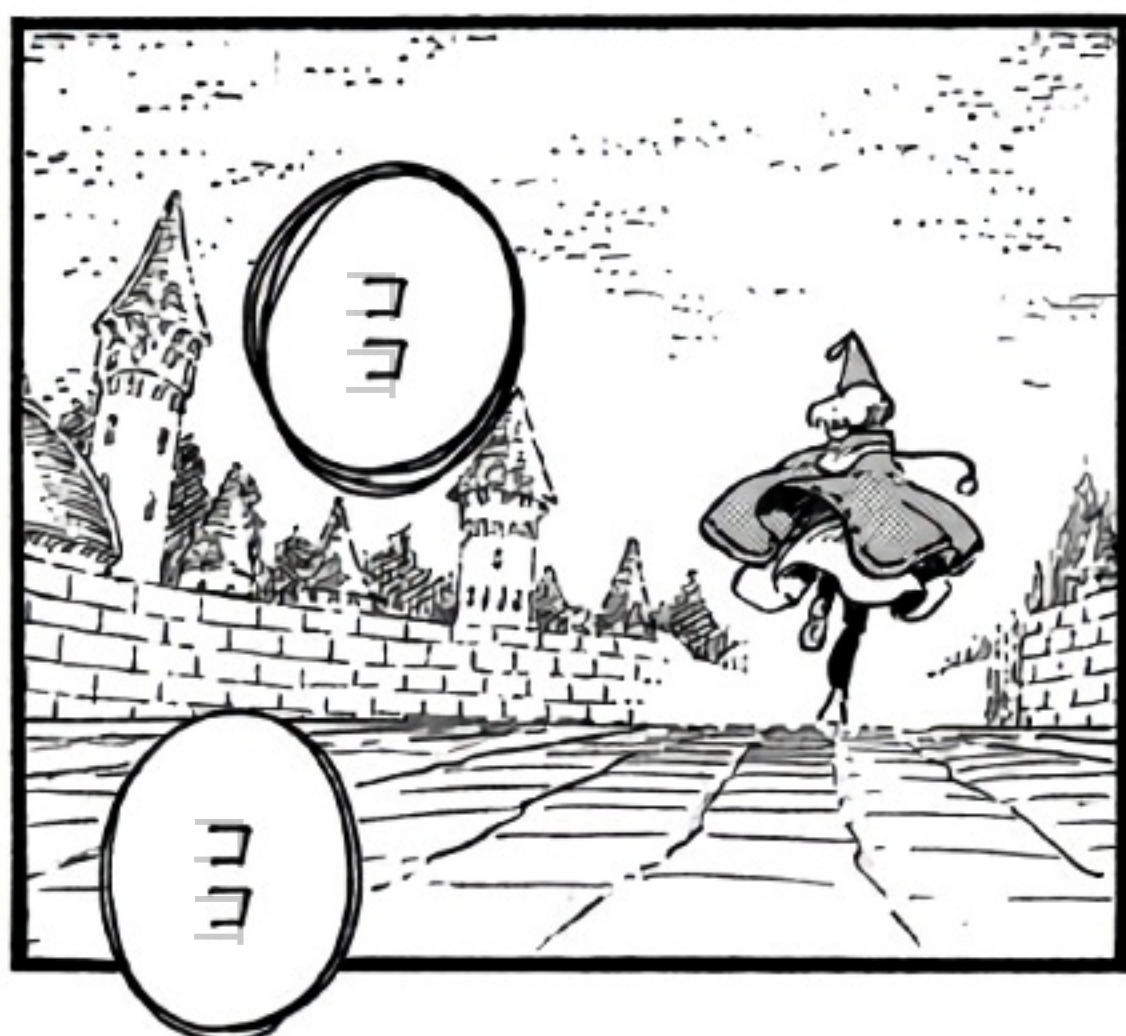
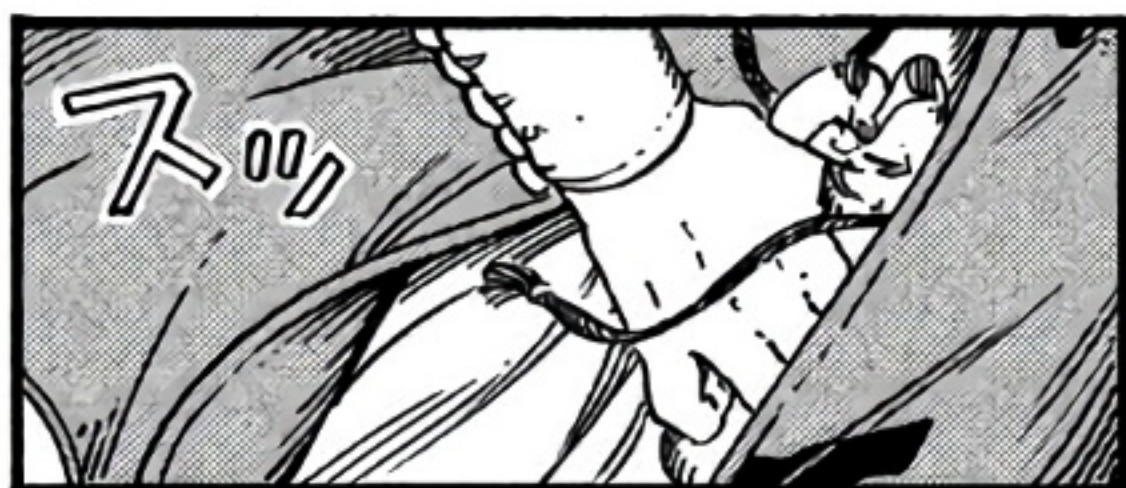
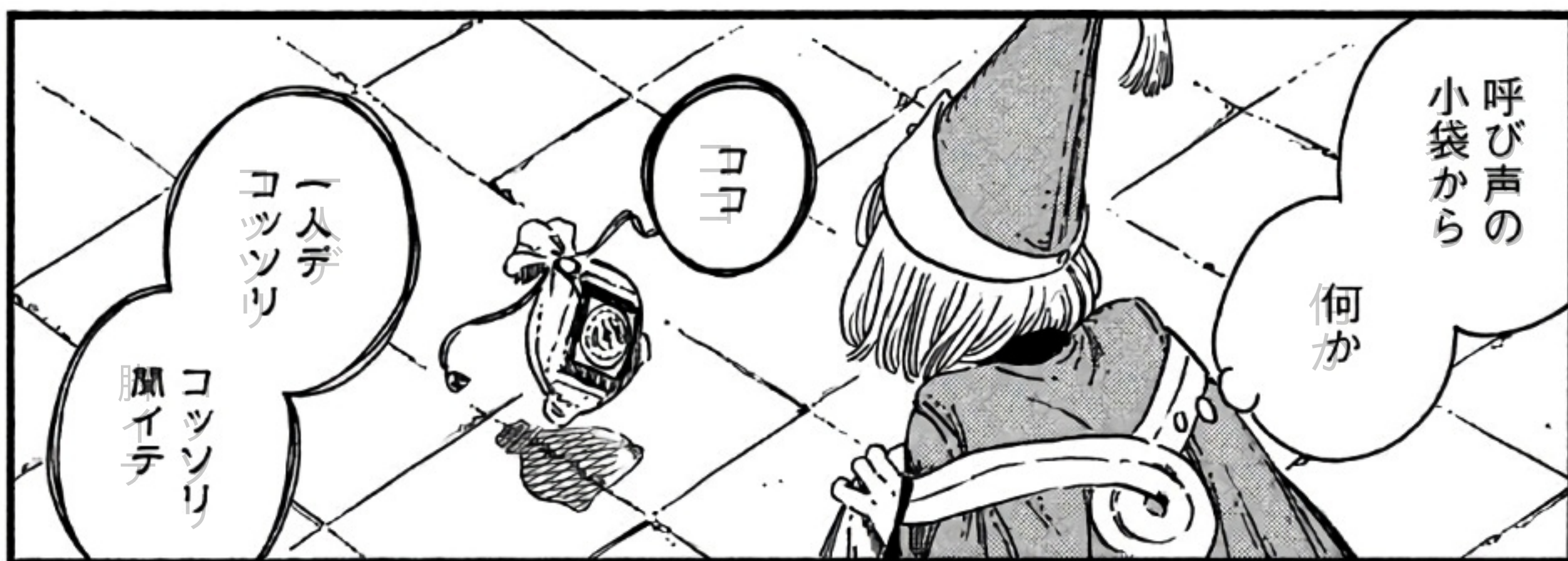
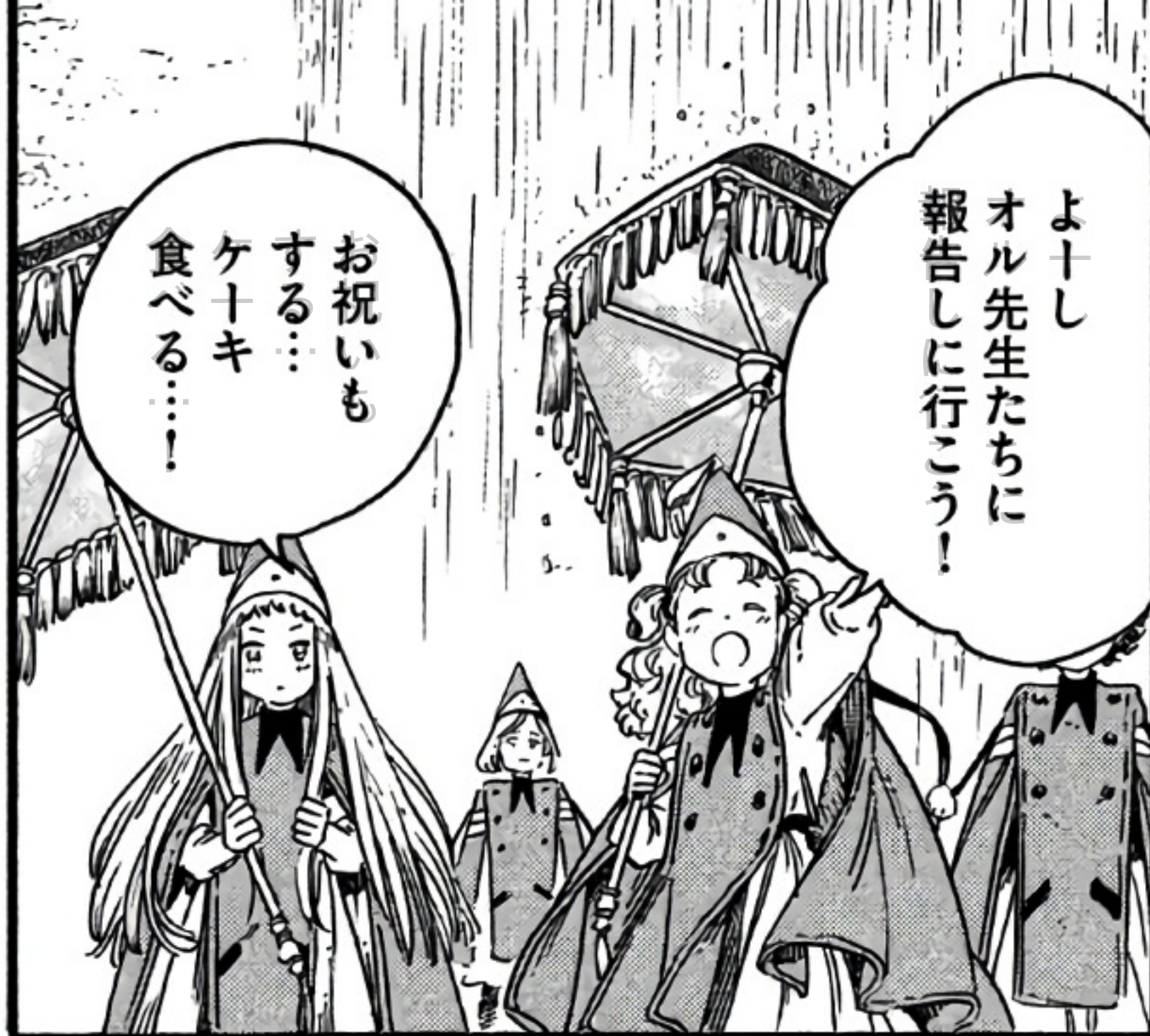
私
わかるよ

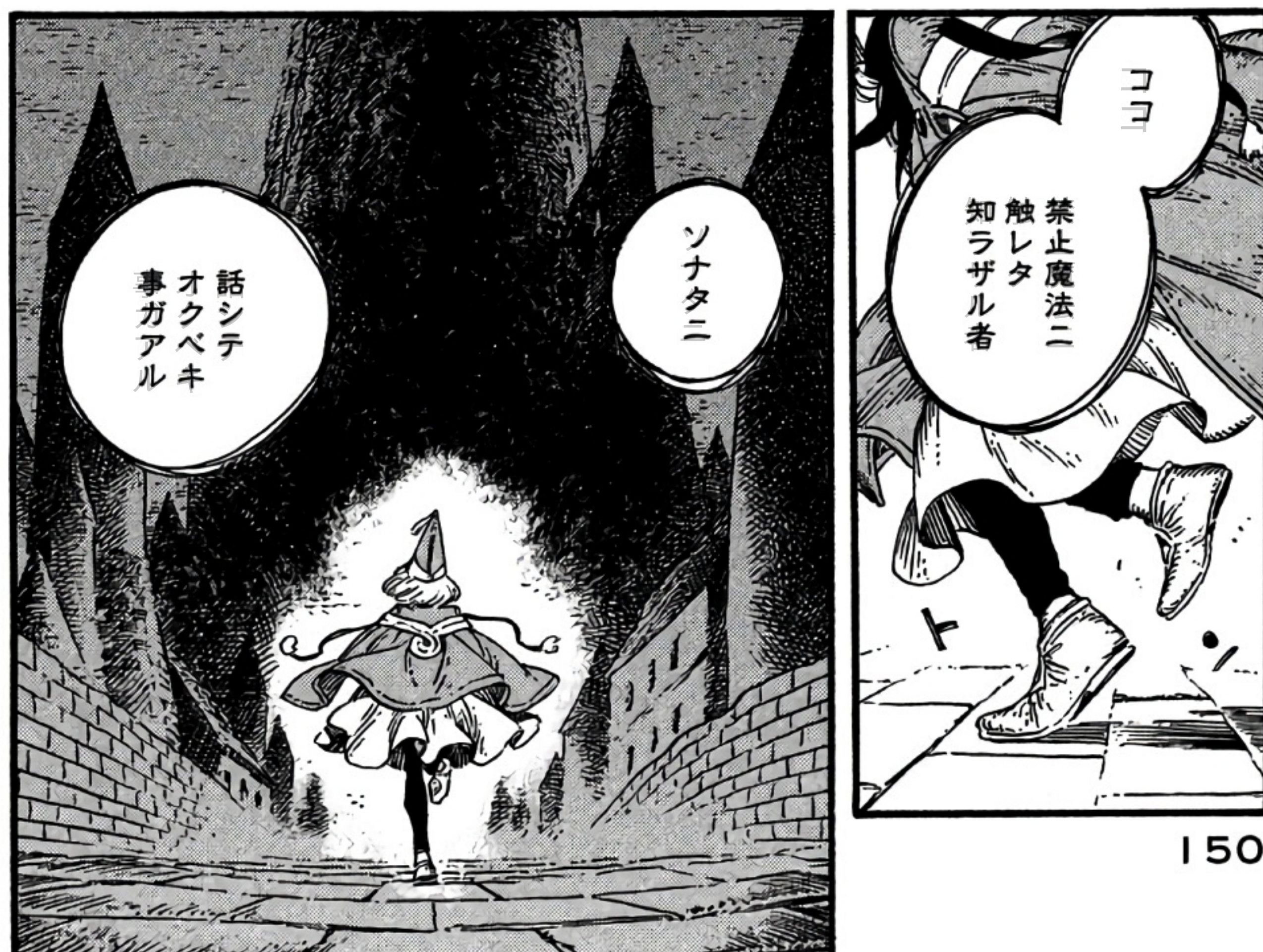
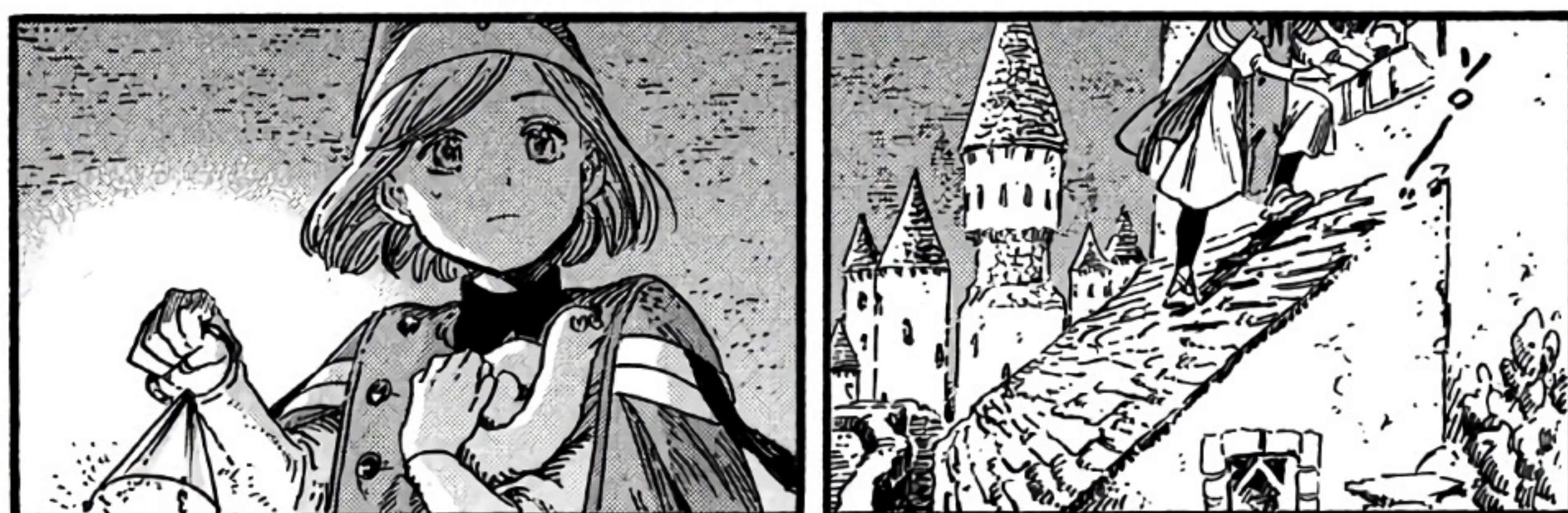
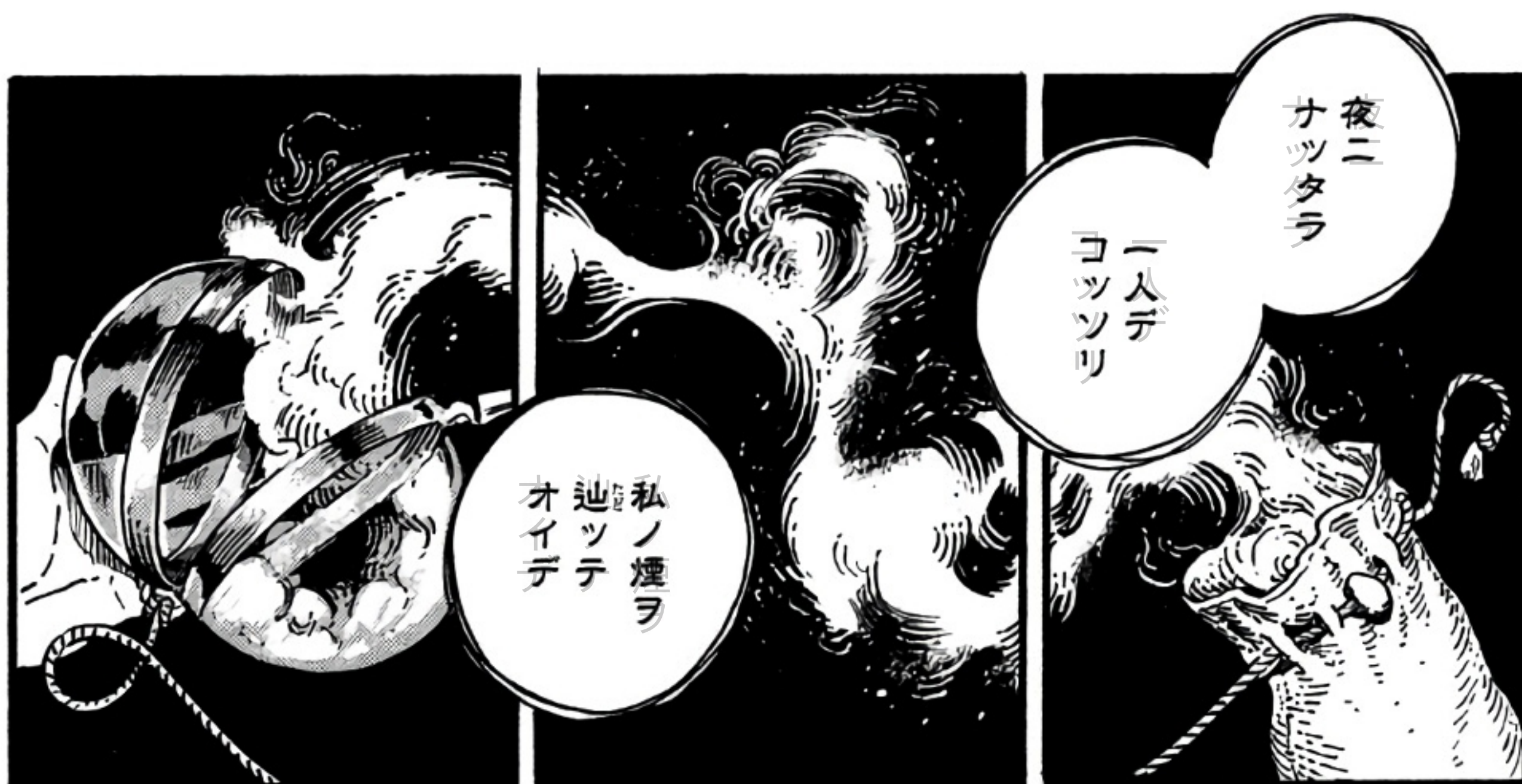


わかるよ



！

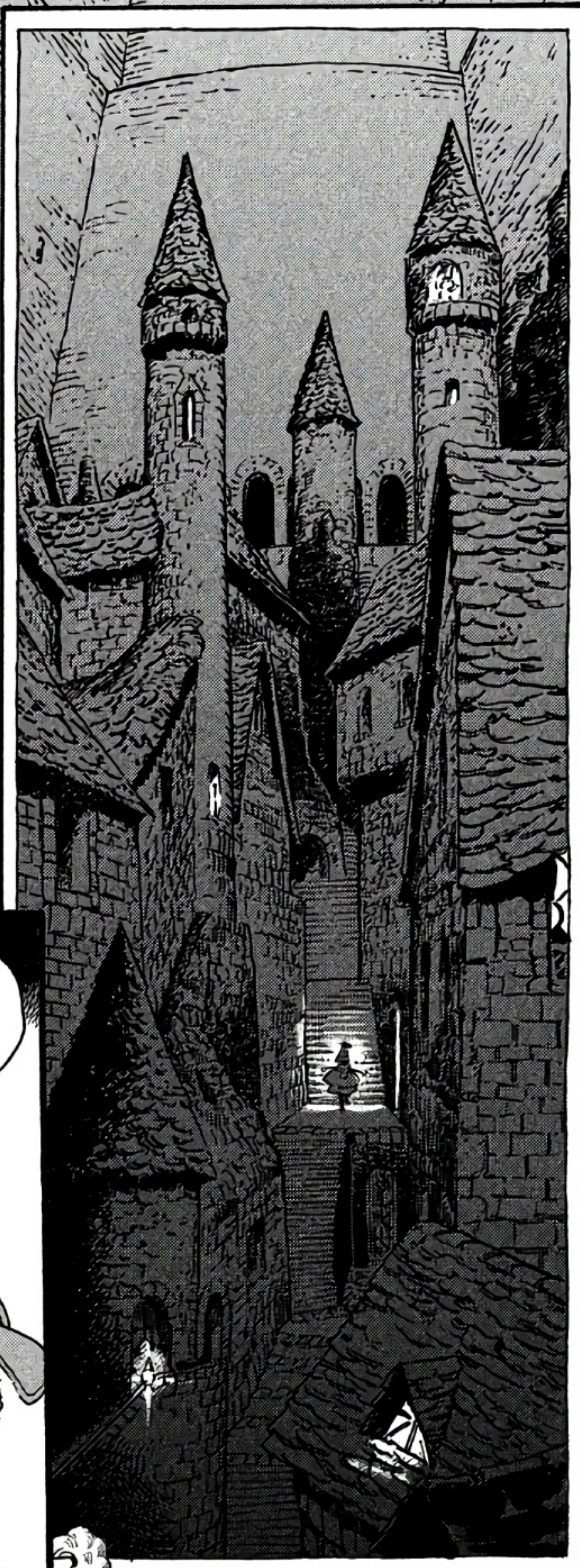
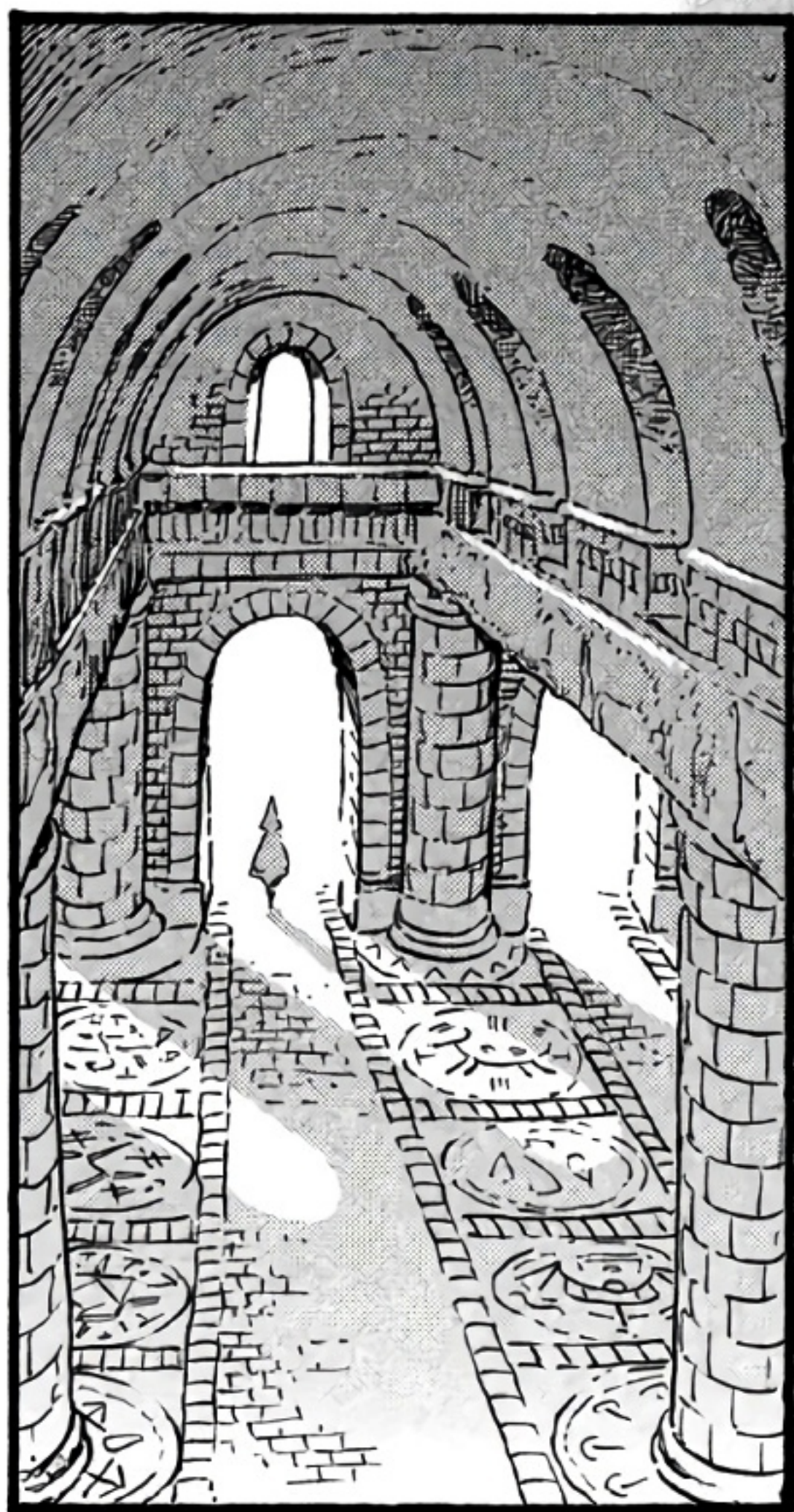




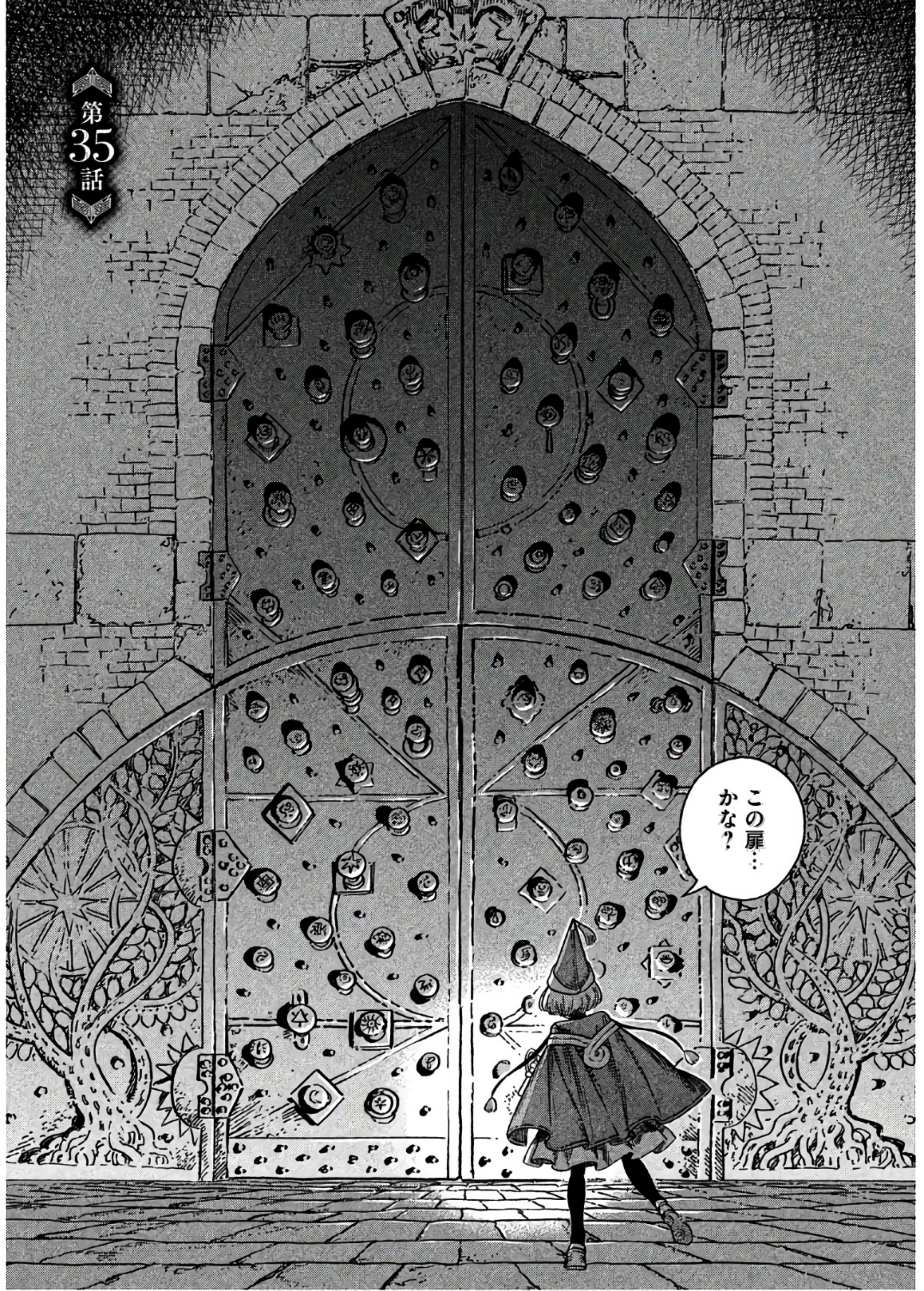
とんがり帽子のアトリエ

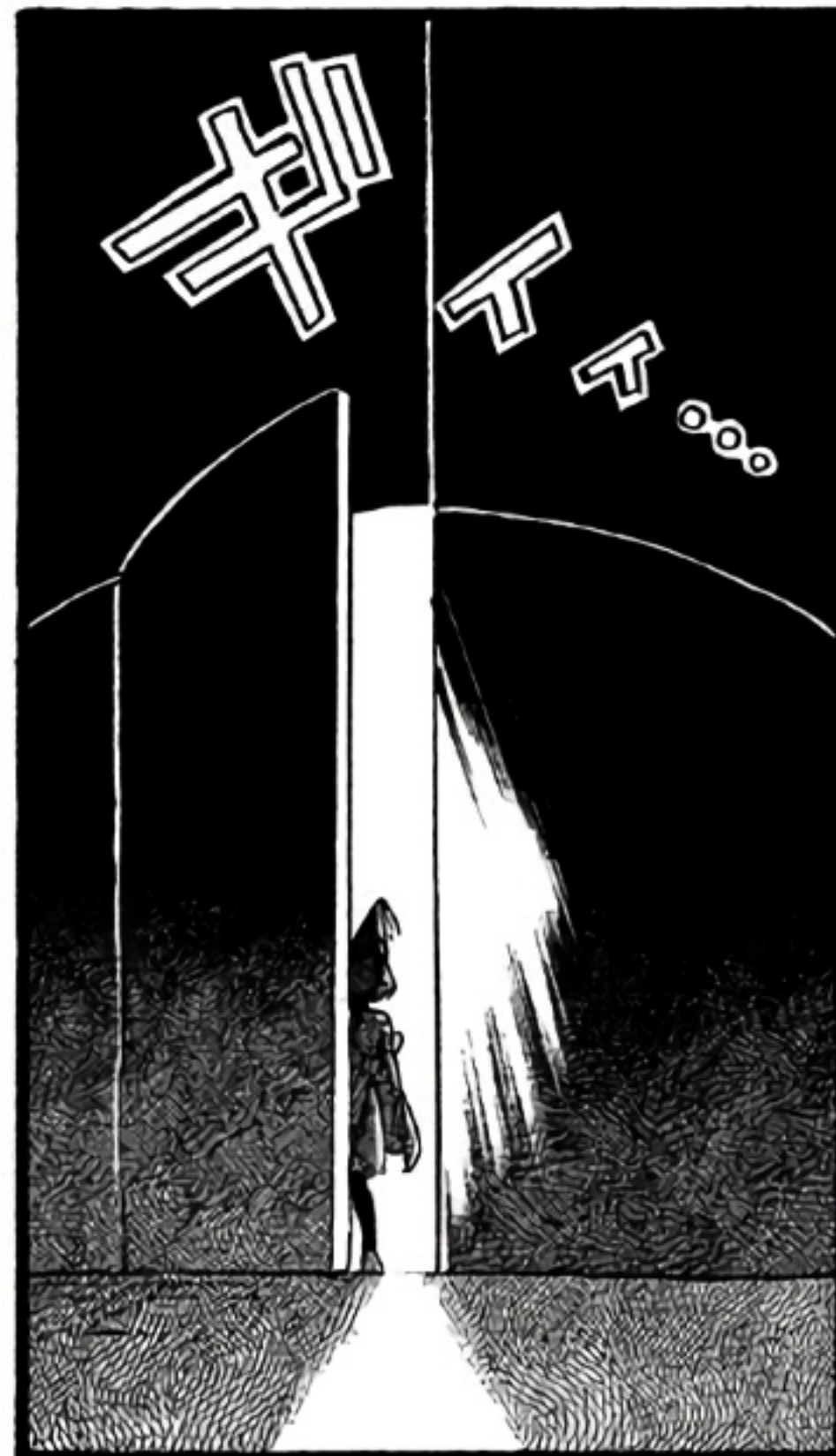
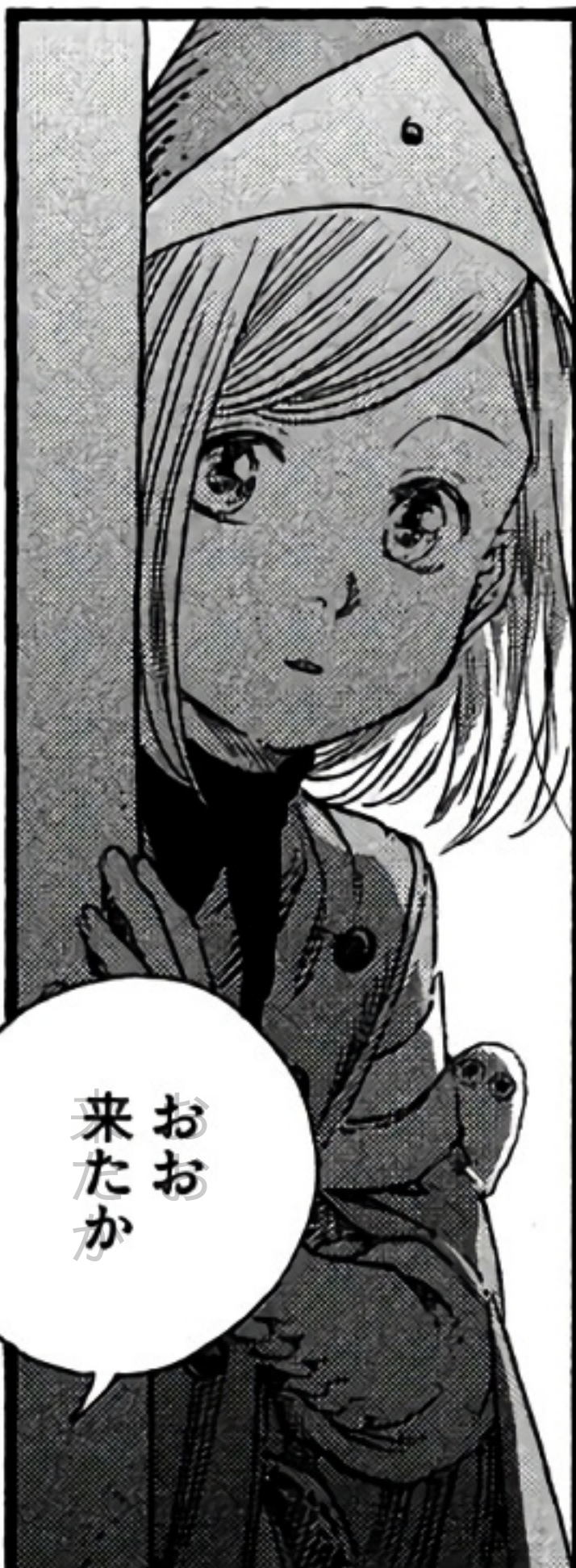
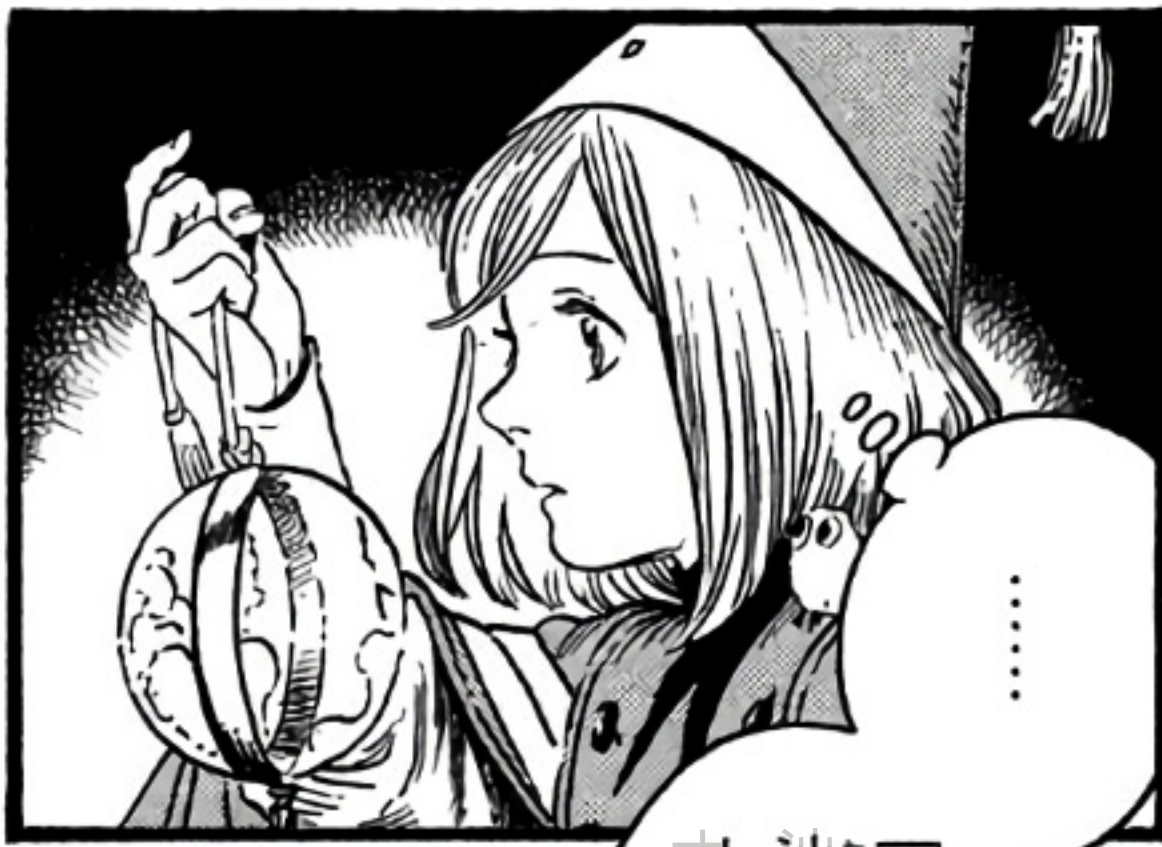
ATELIER OF WITCH HAT

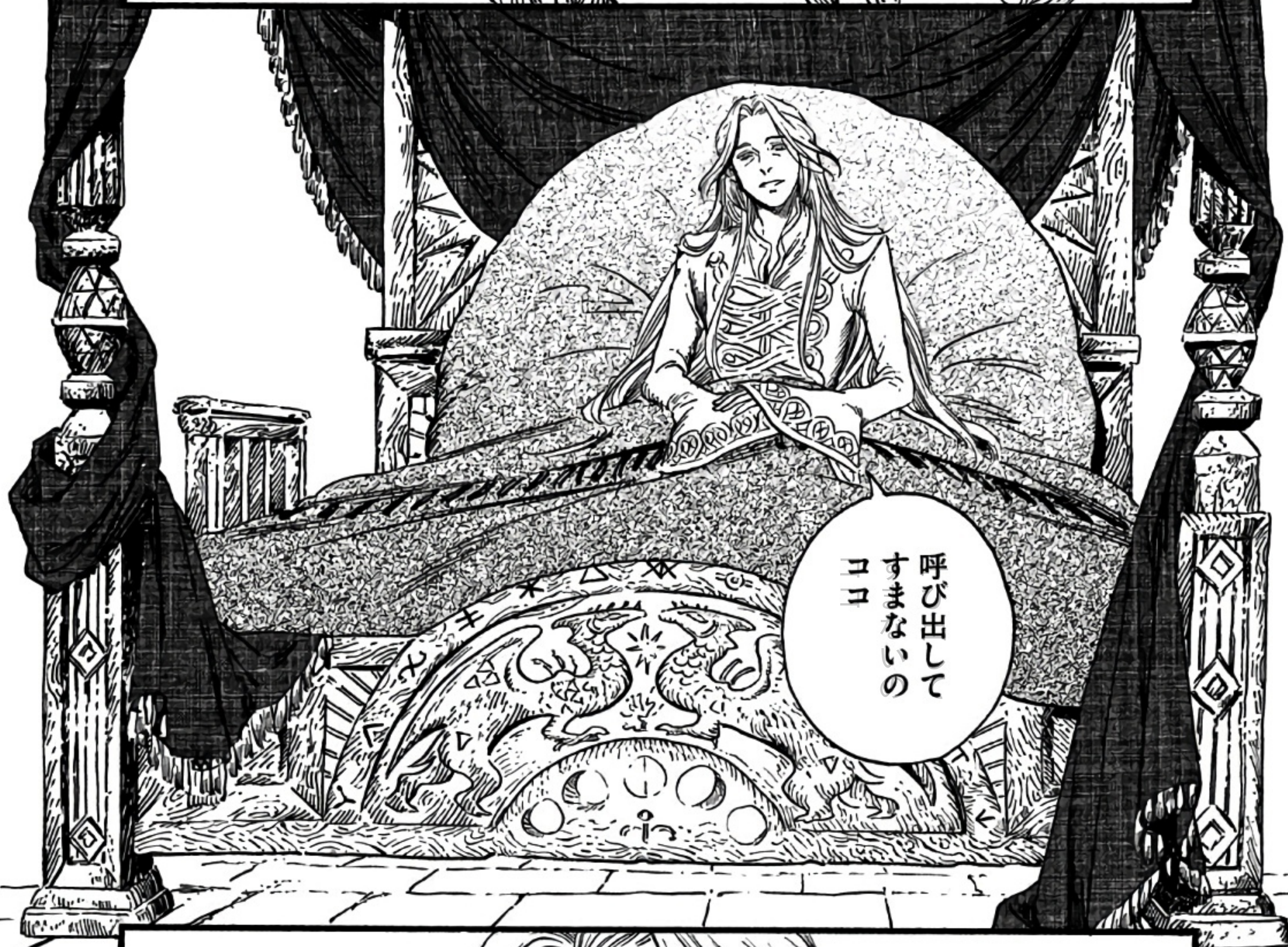




この扉…
かな？

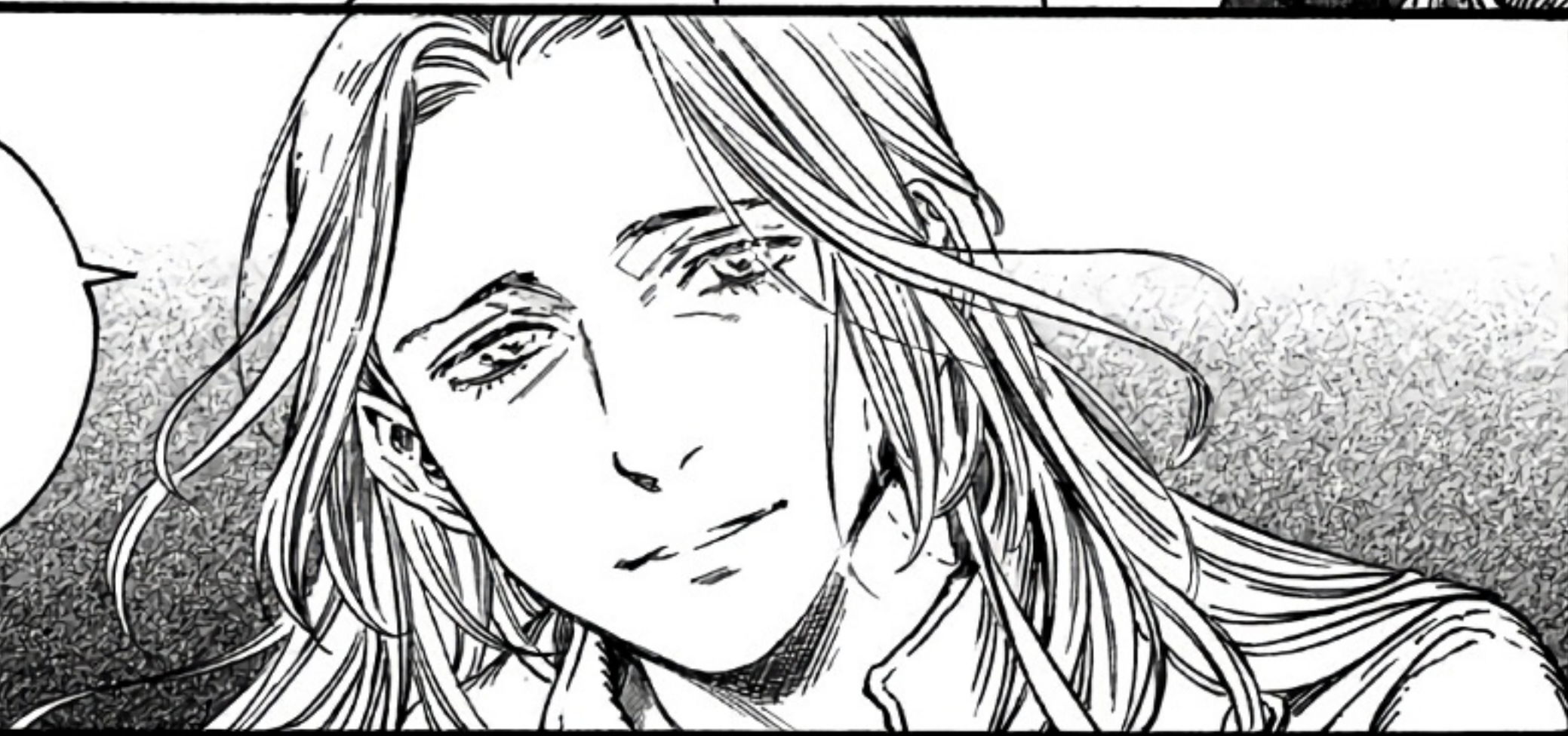


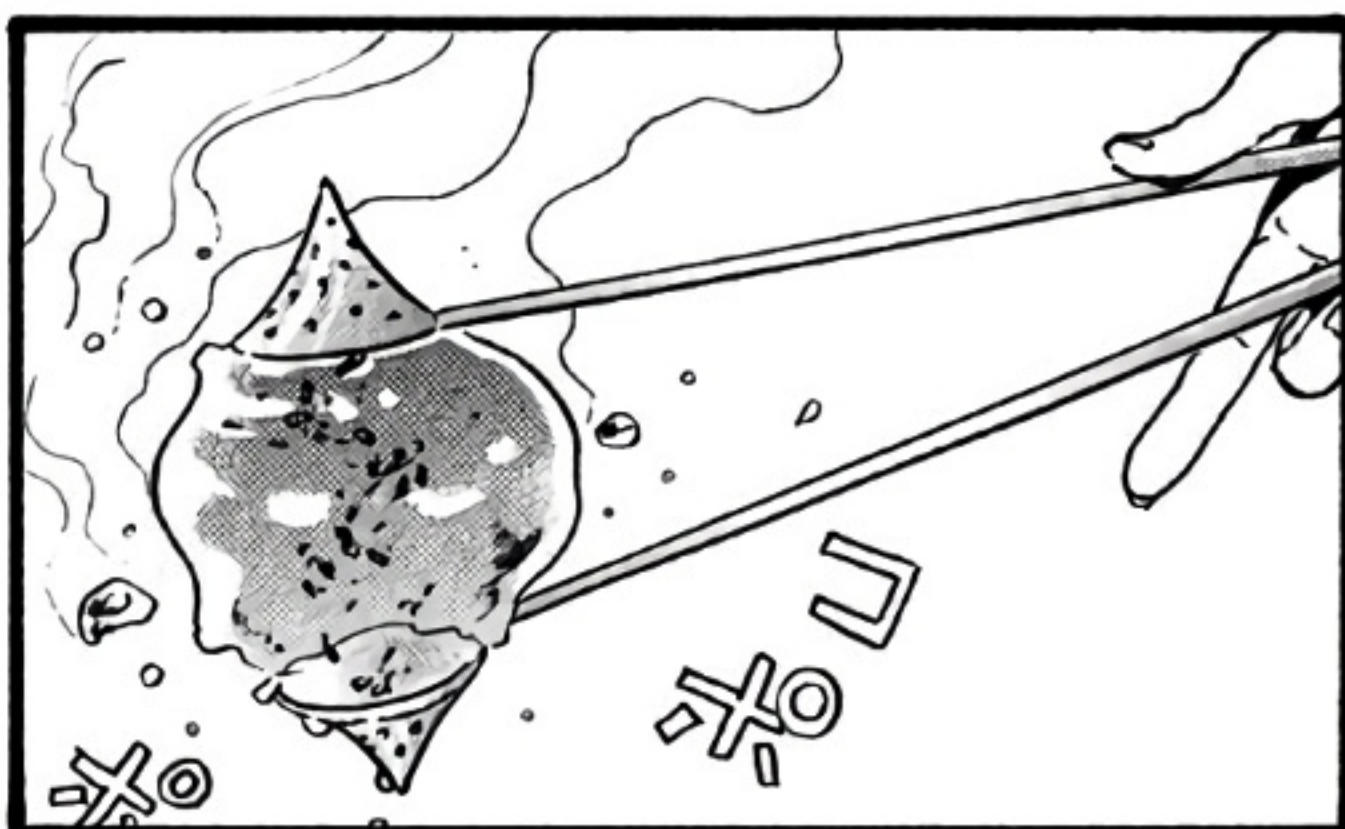
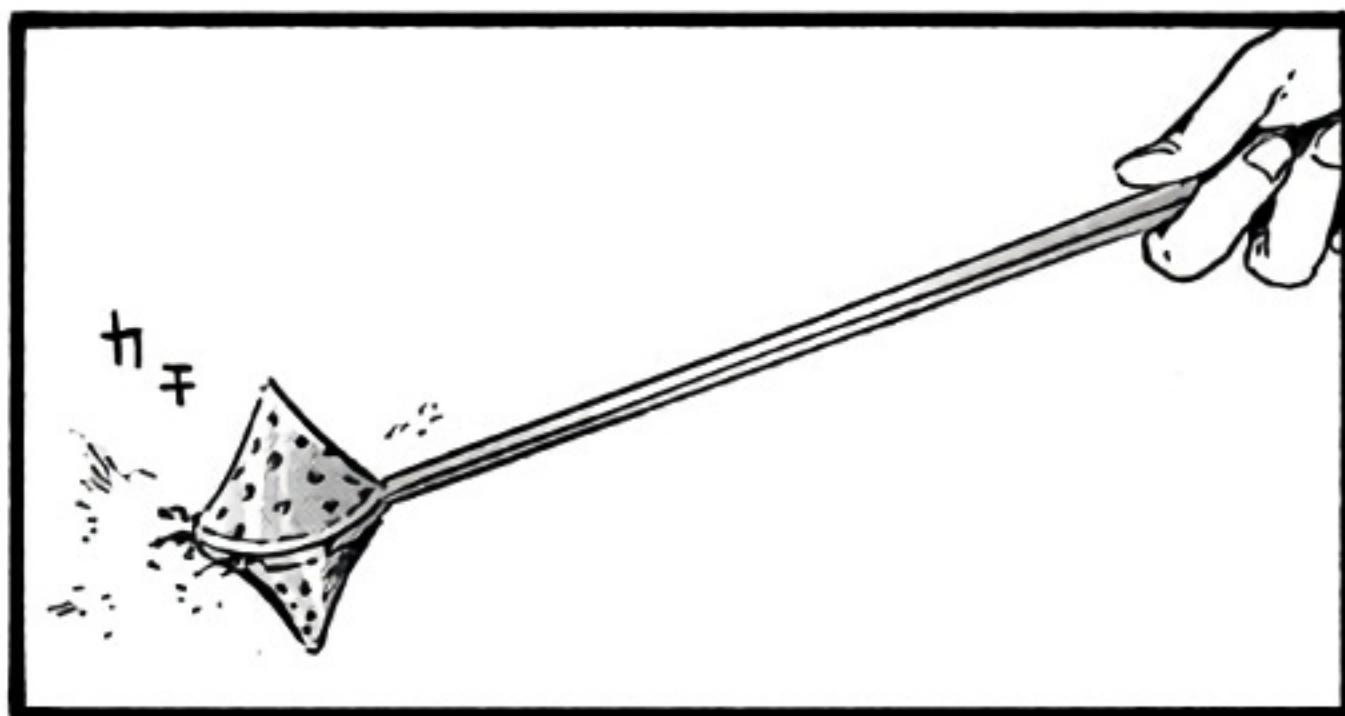


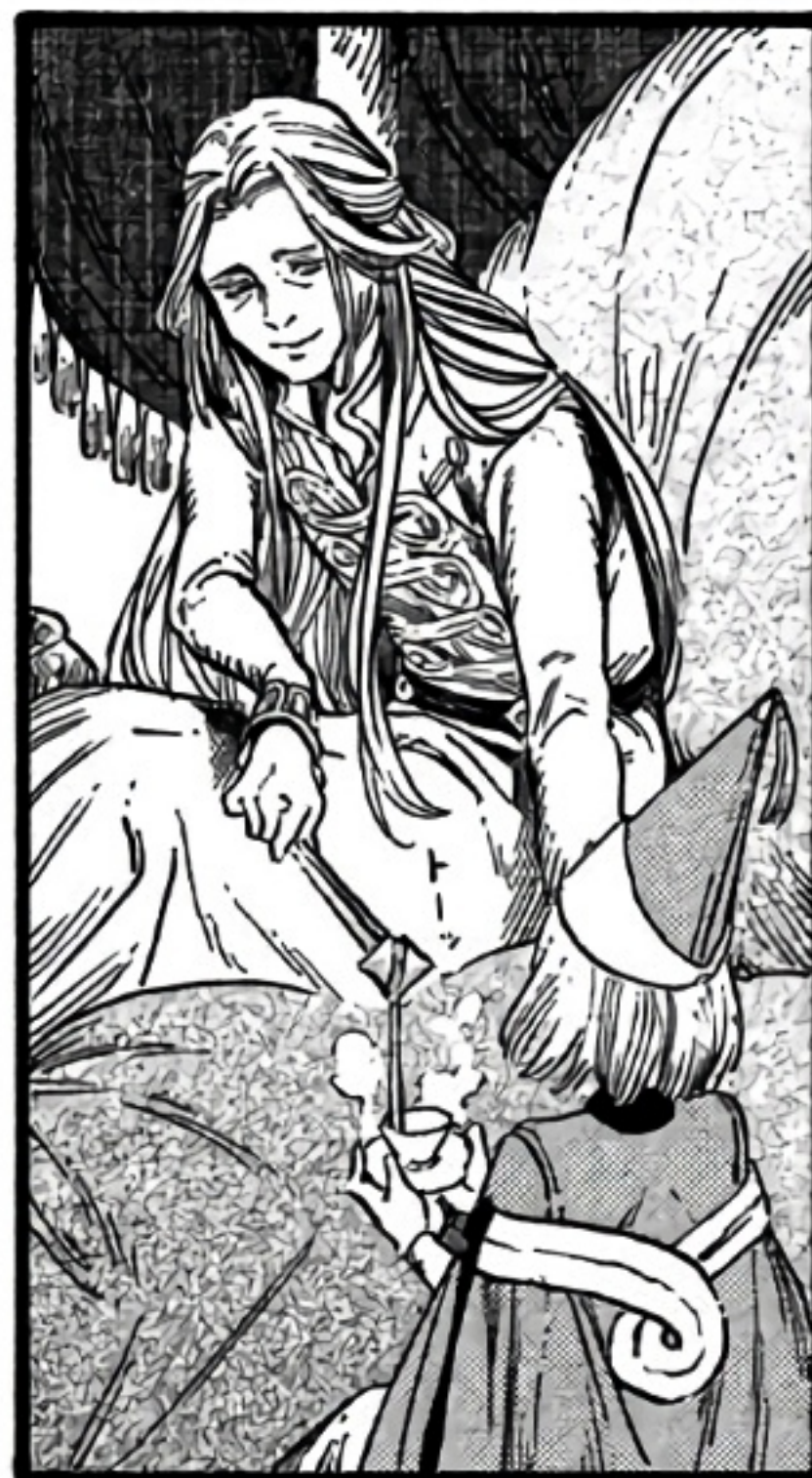
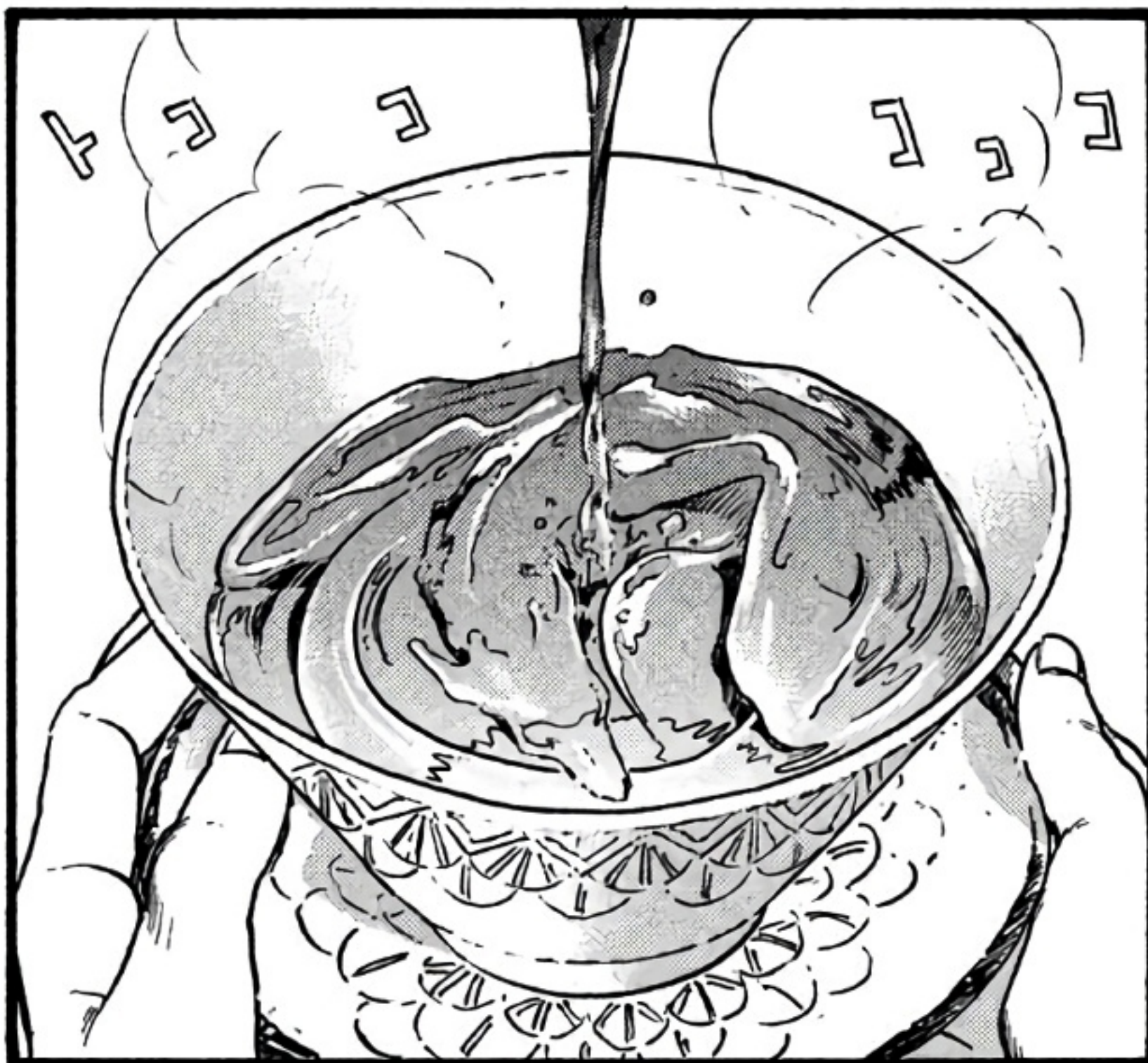


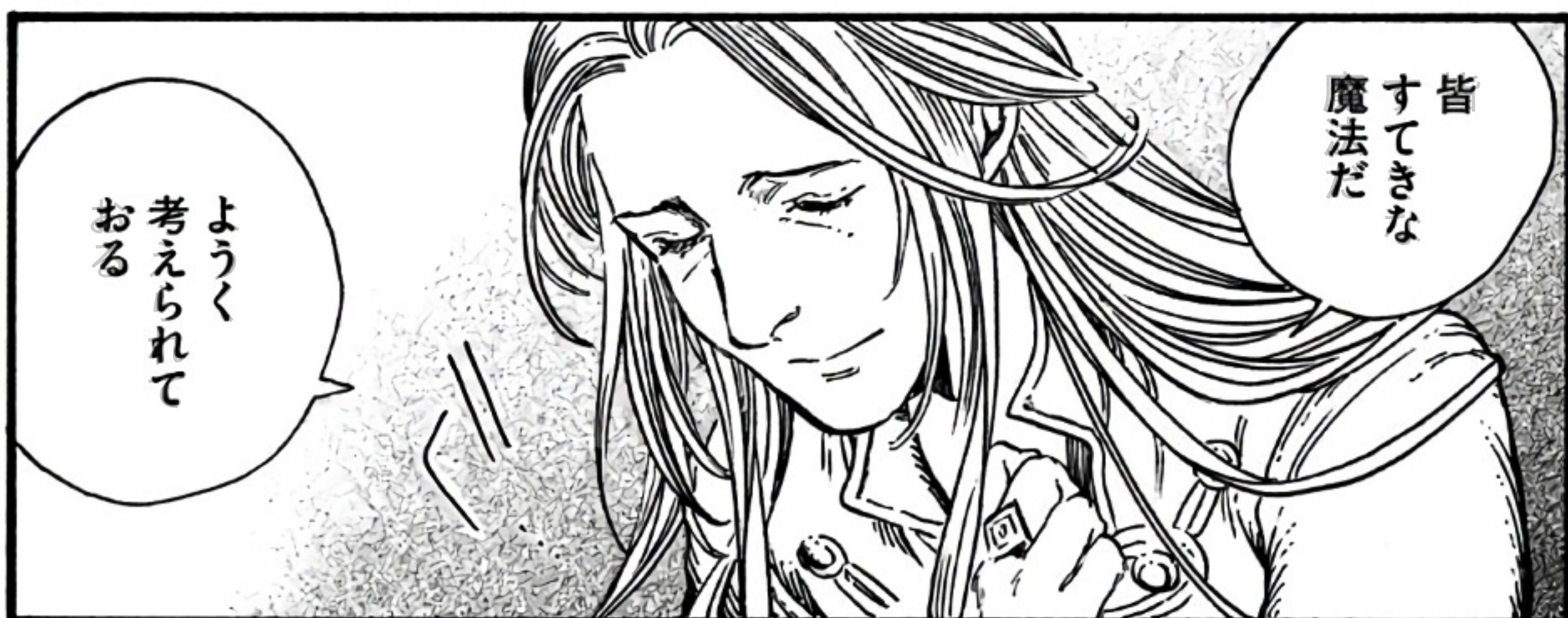
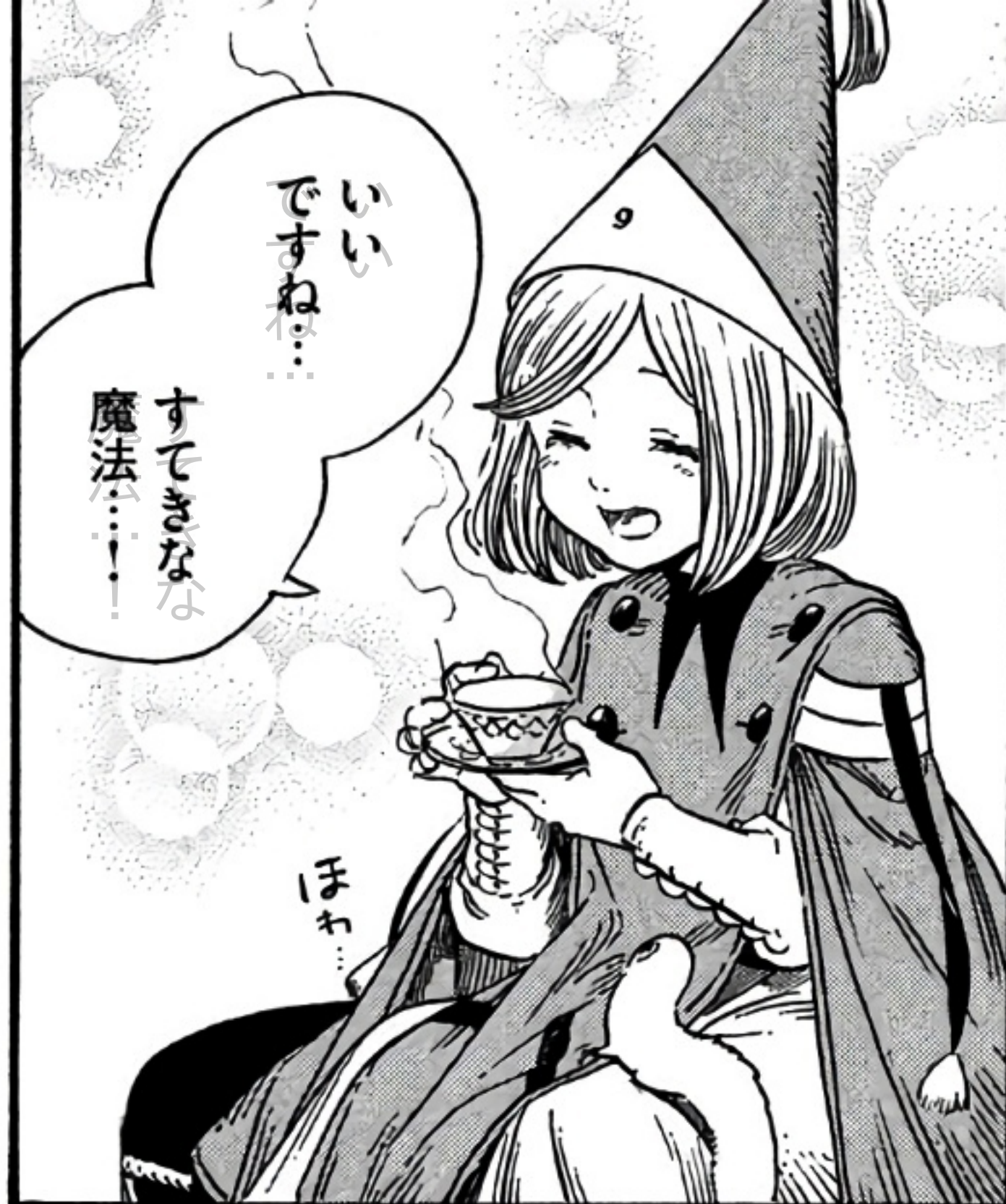
呼び出して
すまないの
ココ

そなたと
話が
したくてな

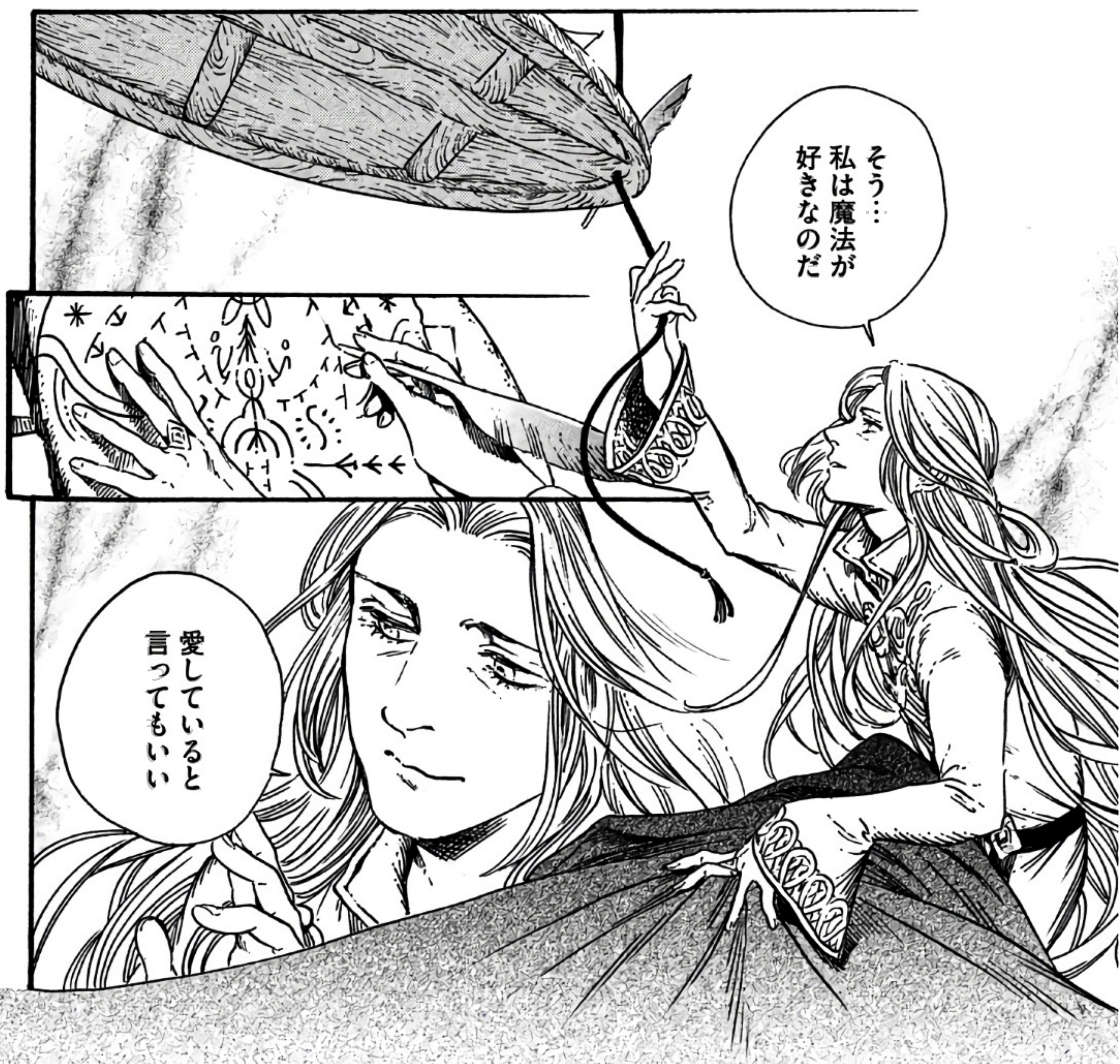
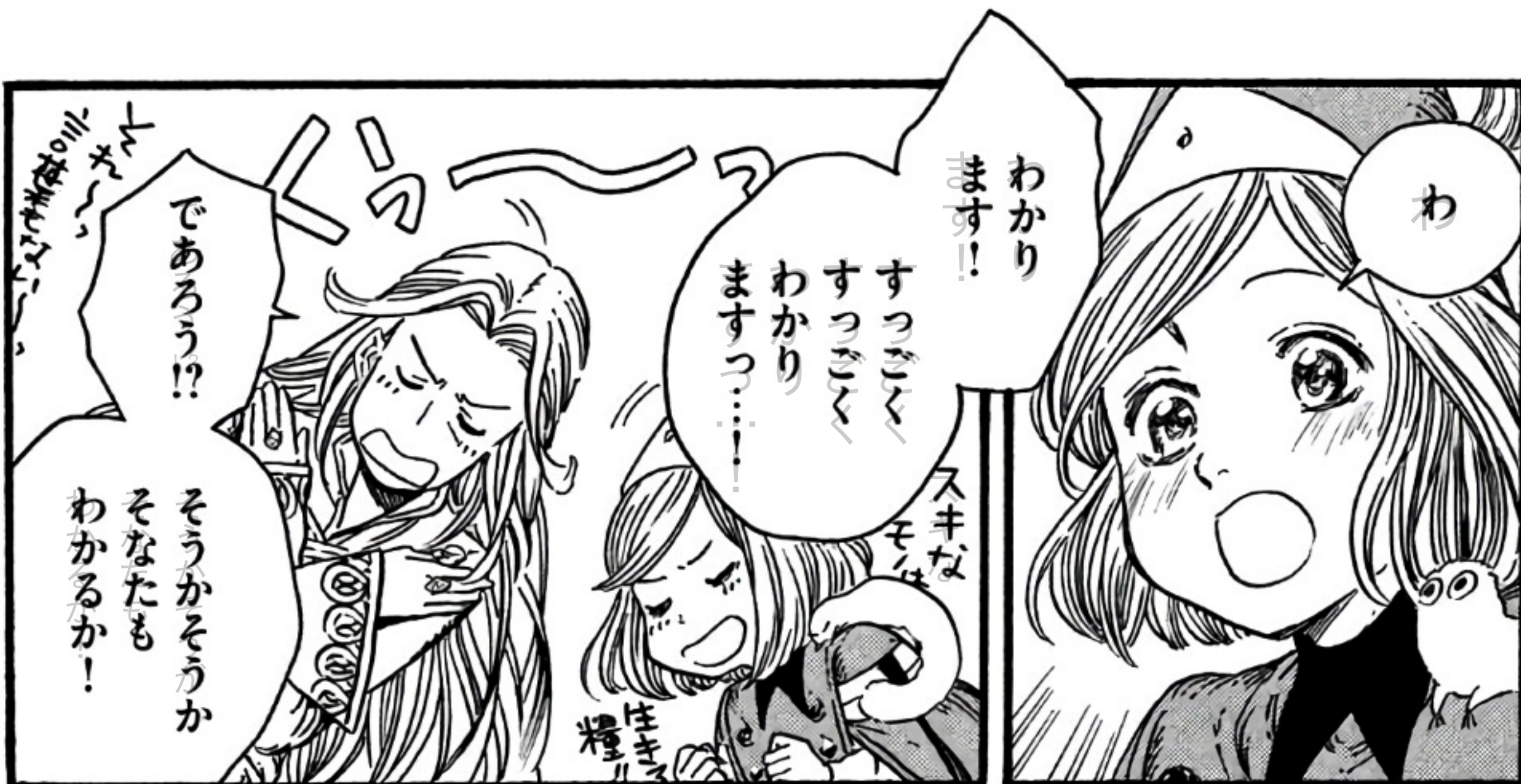









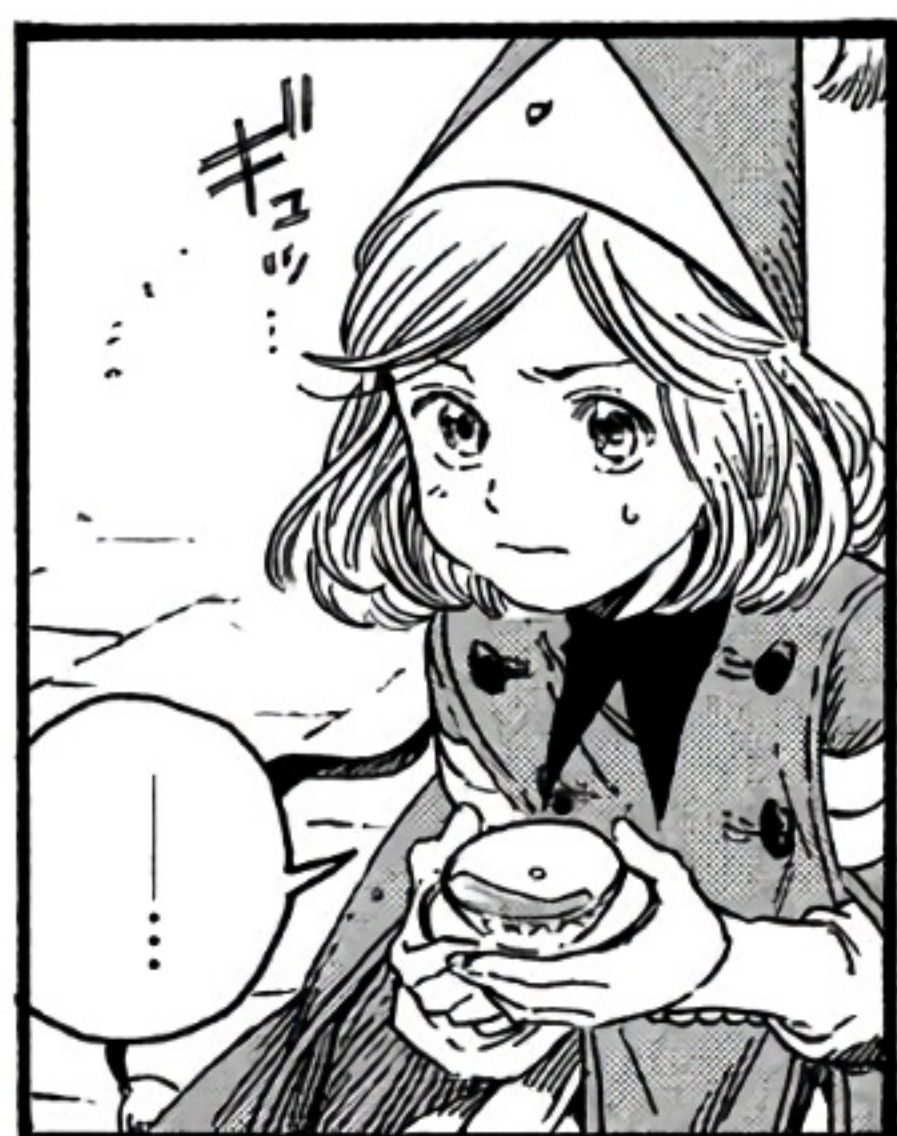
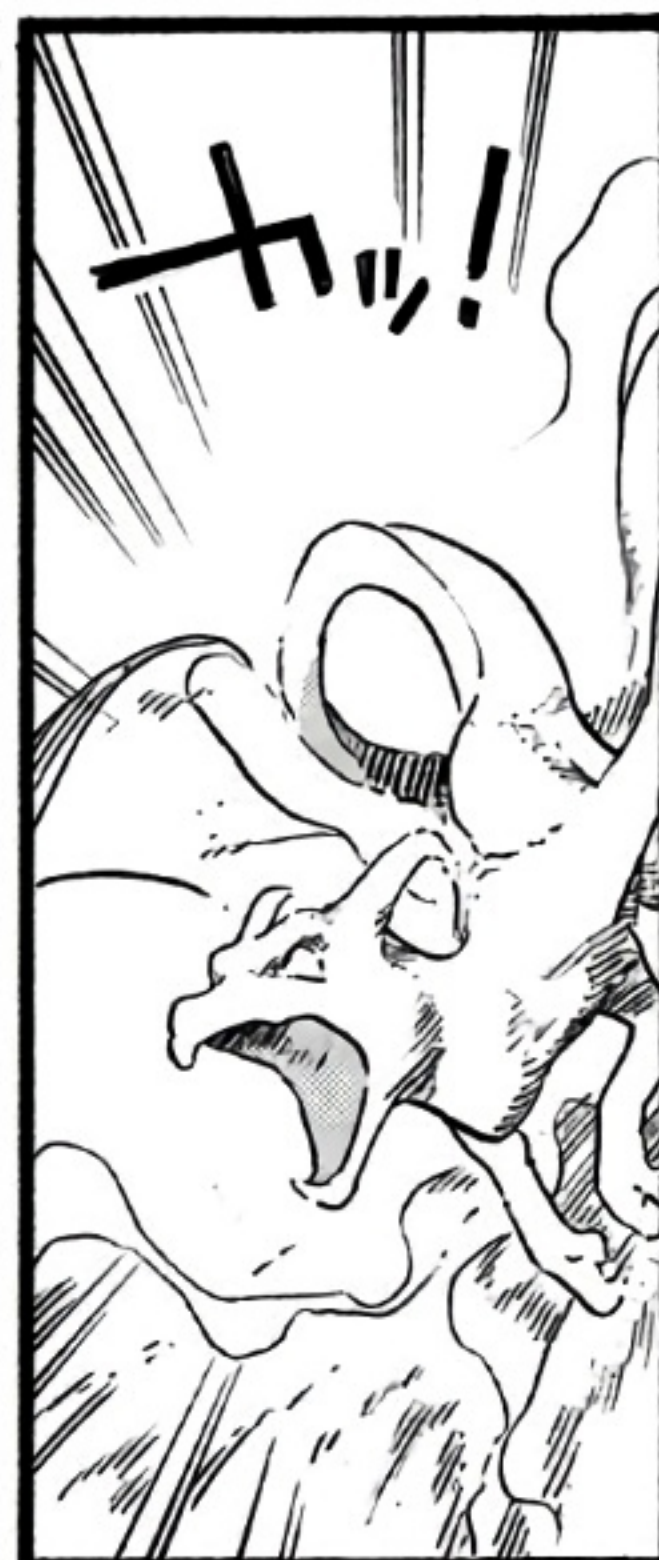
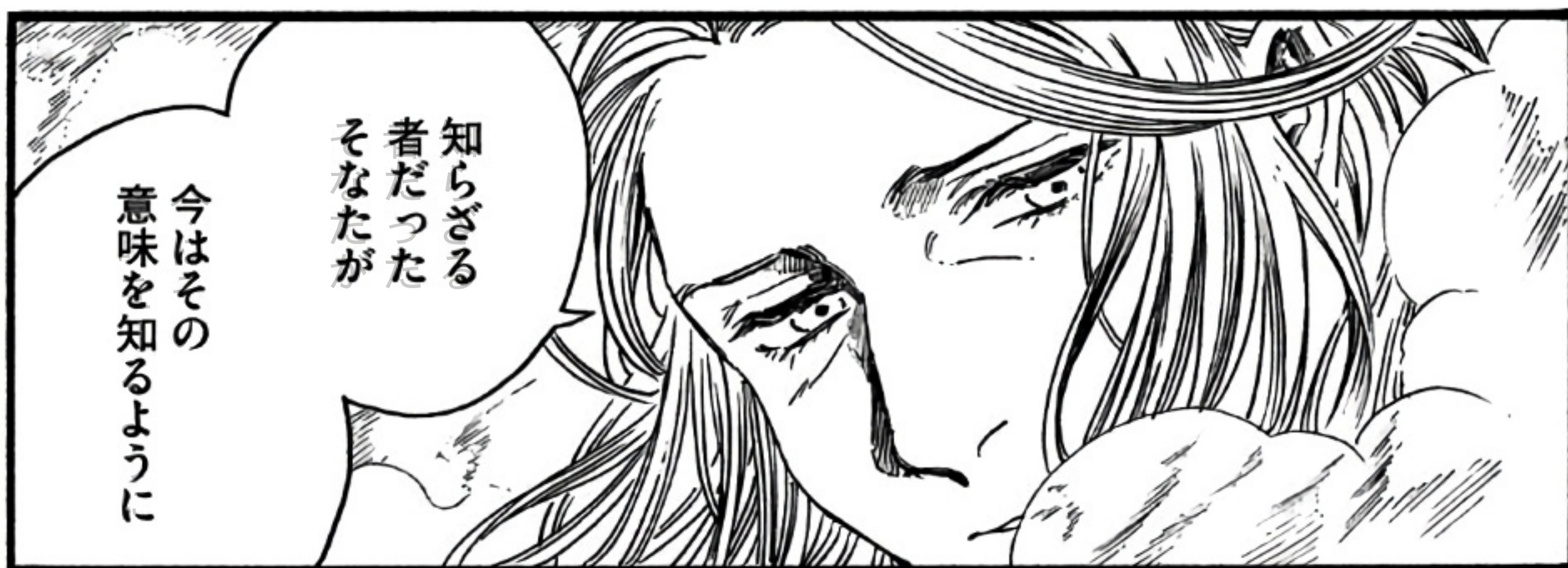


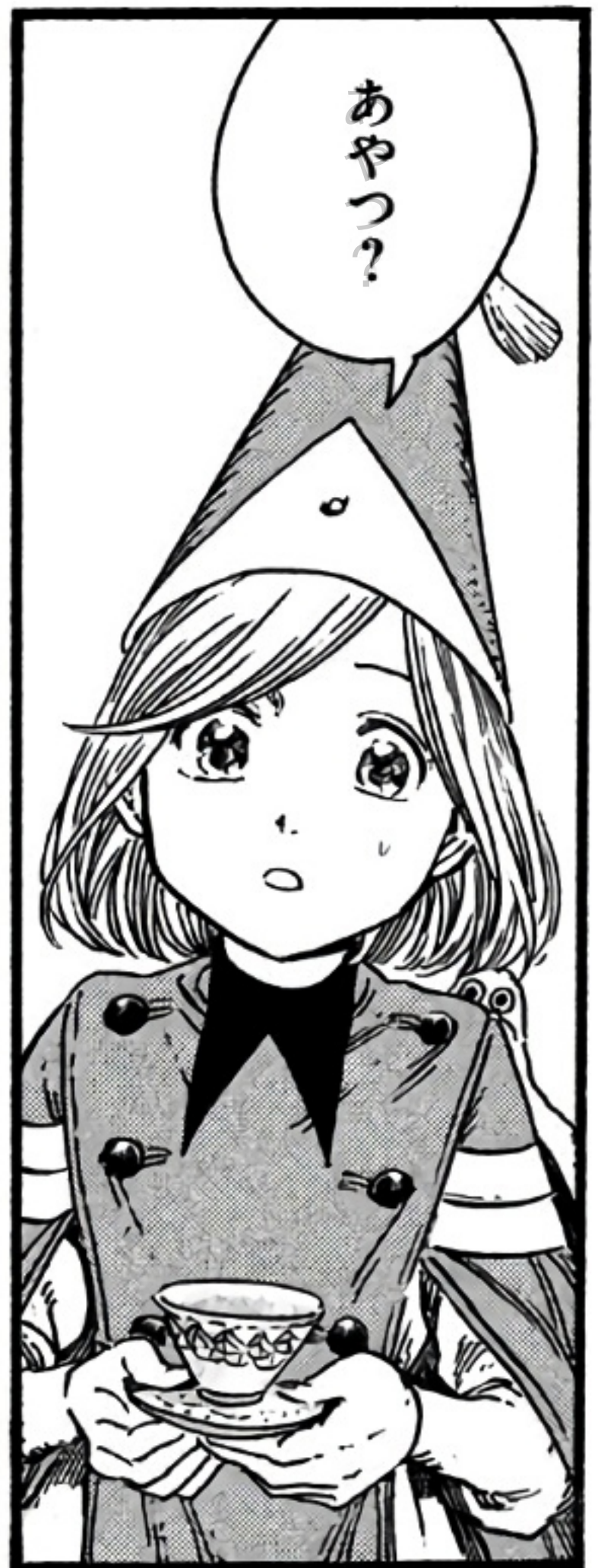
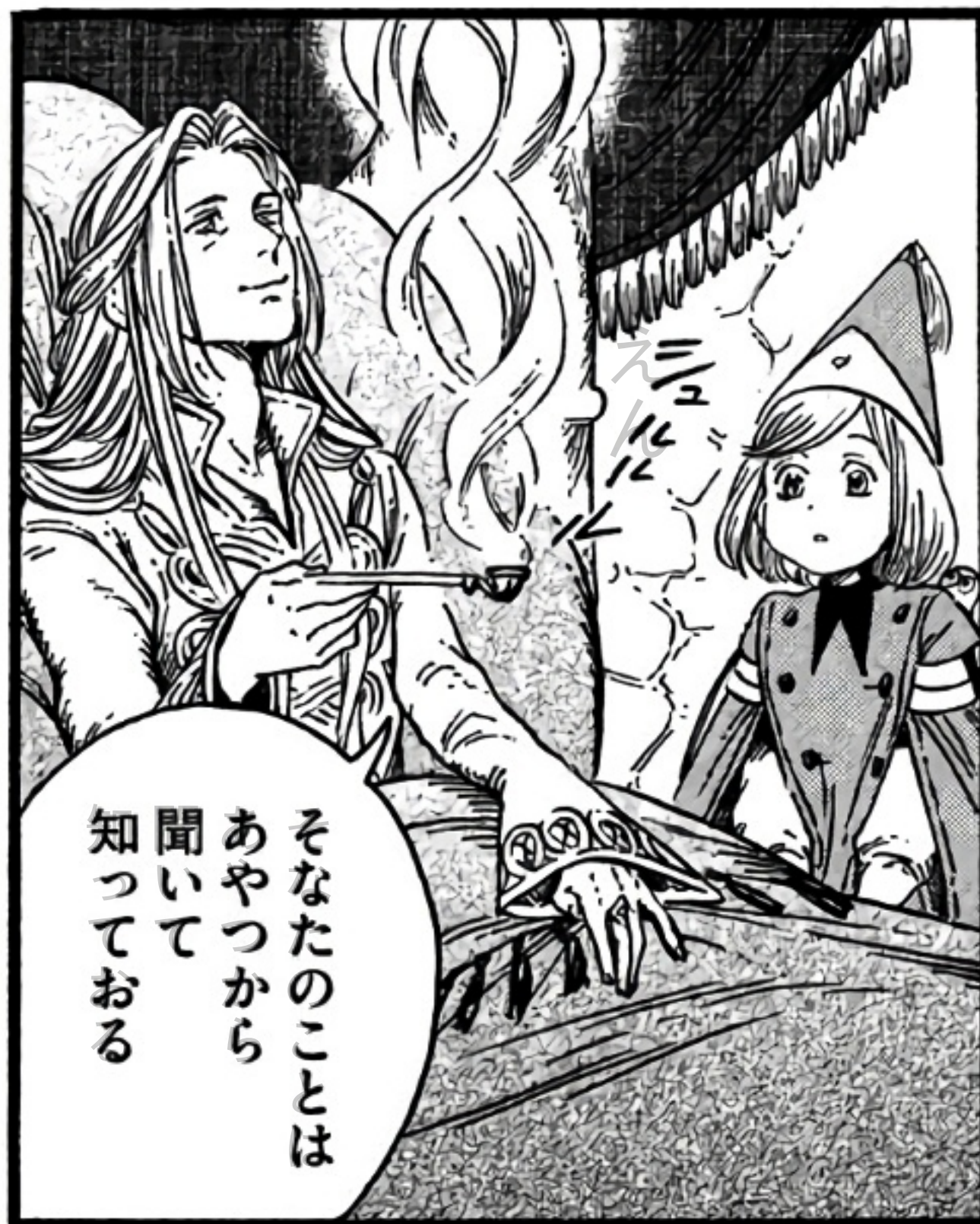


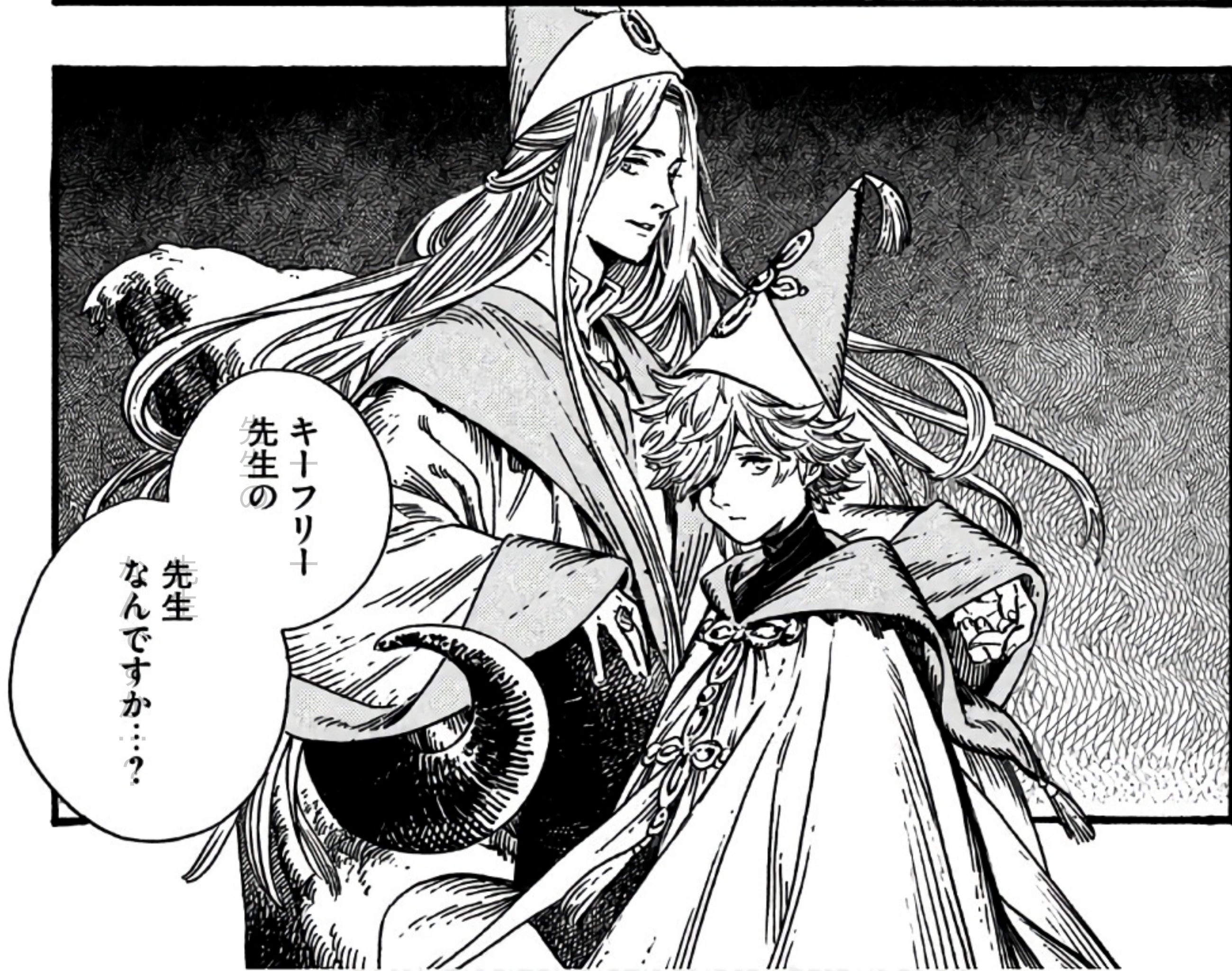
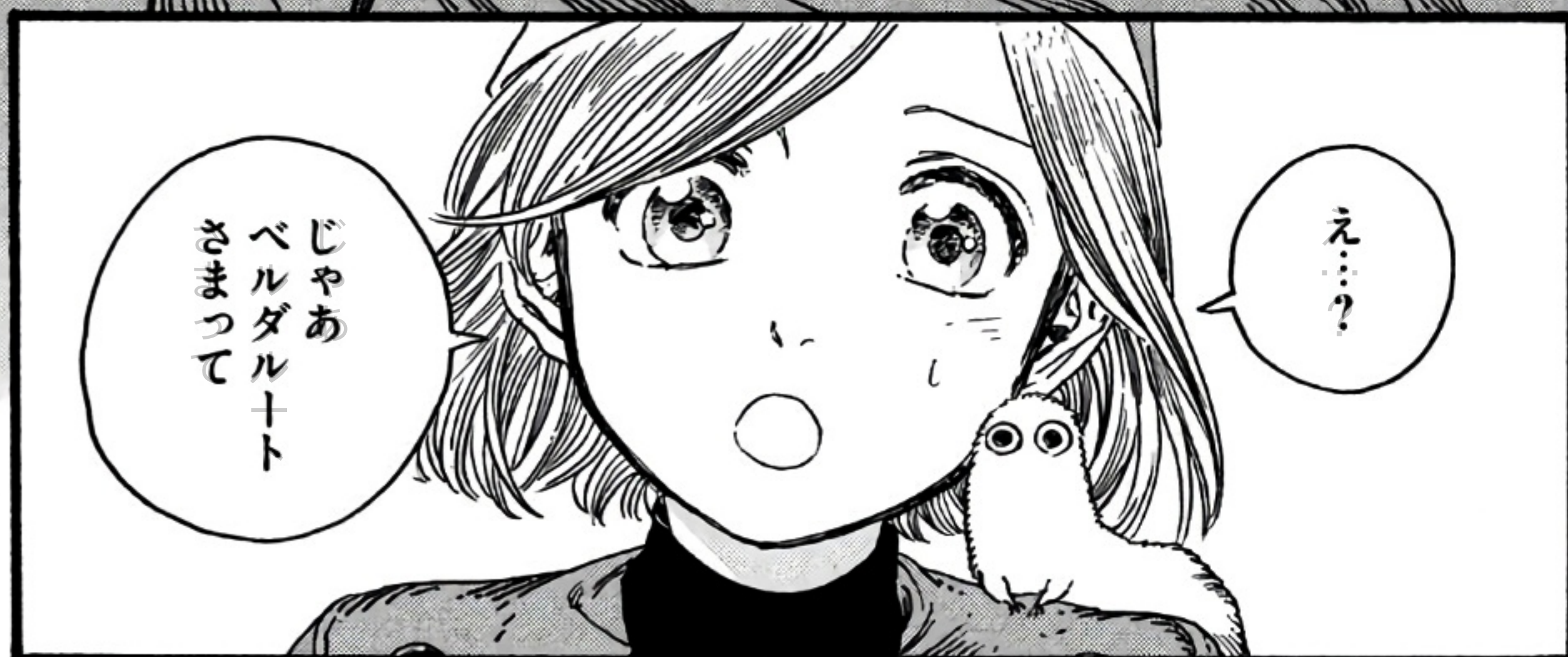


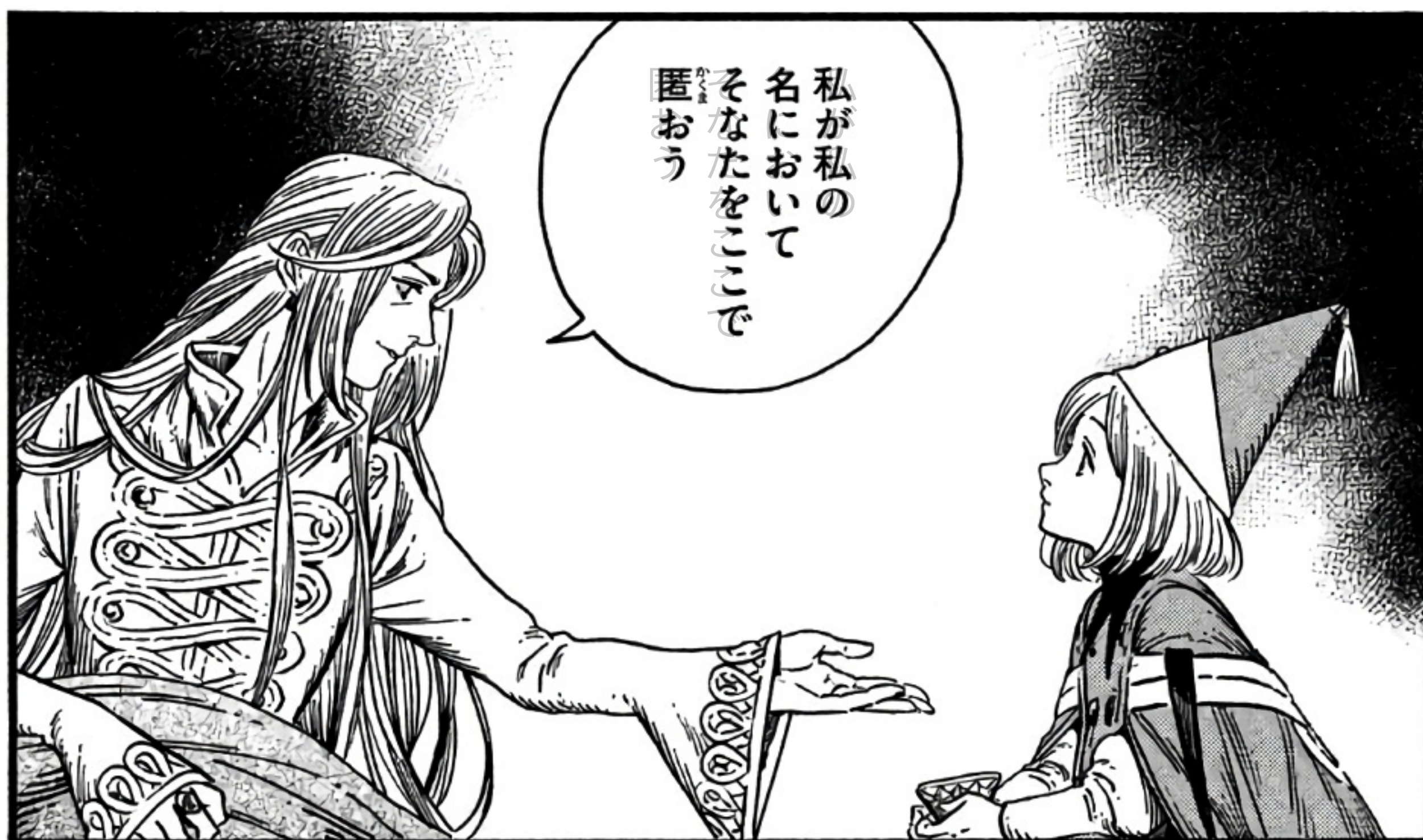
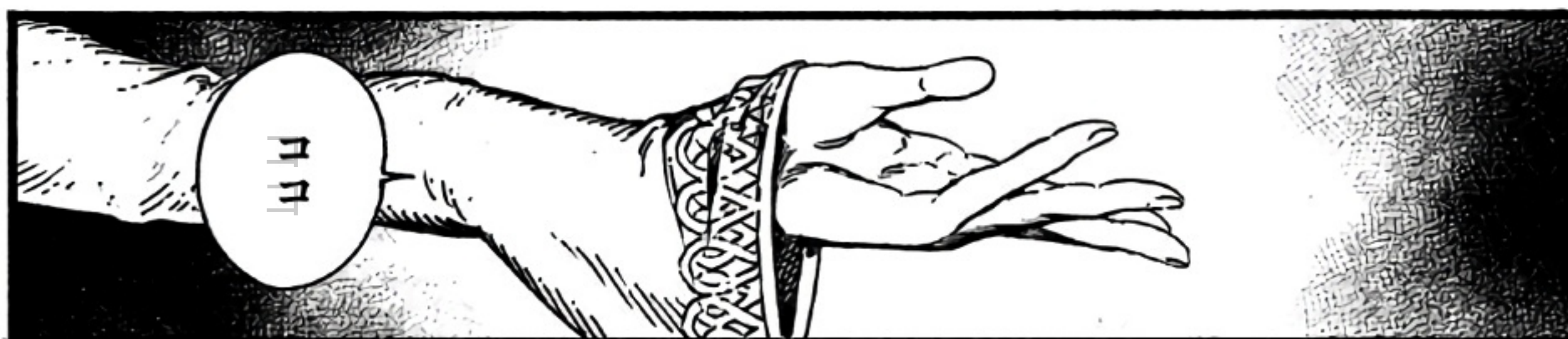
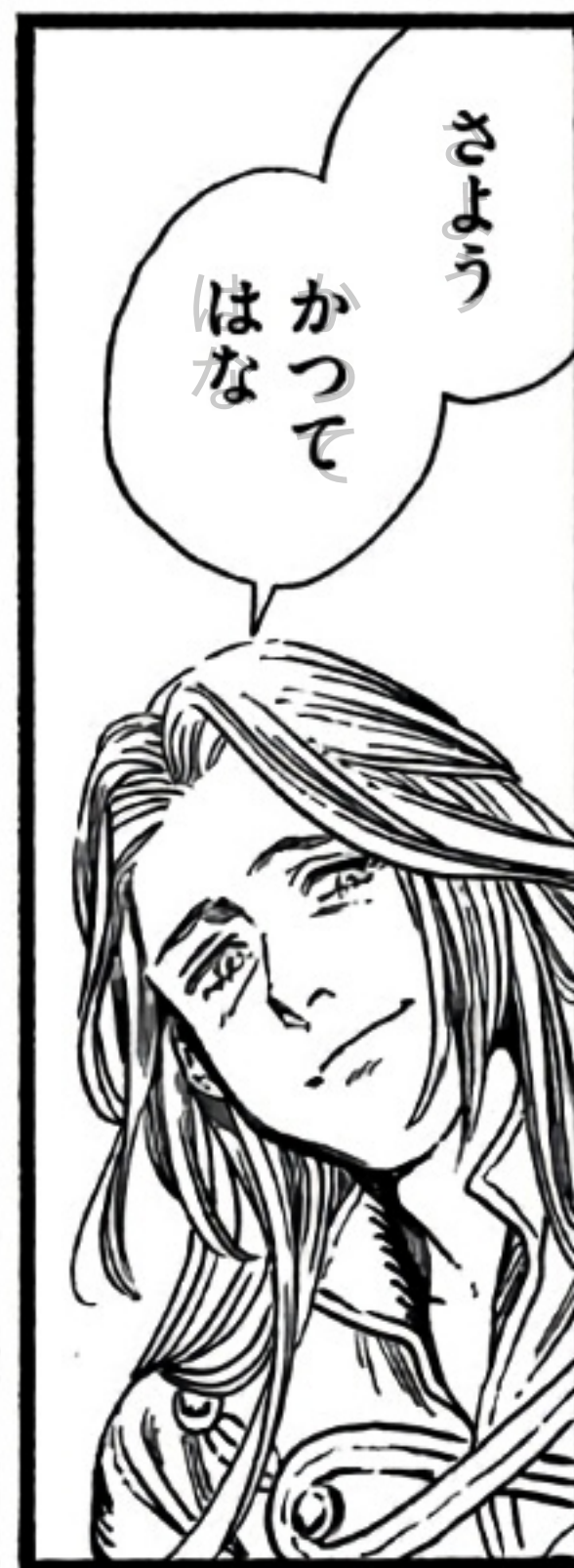
魔法を
愛する者は
知ること
に貪欲で

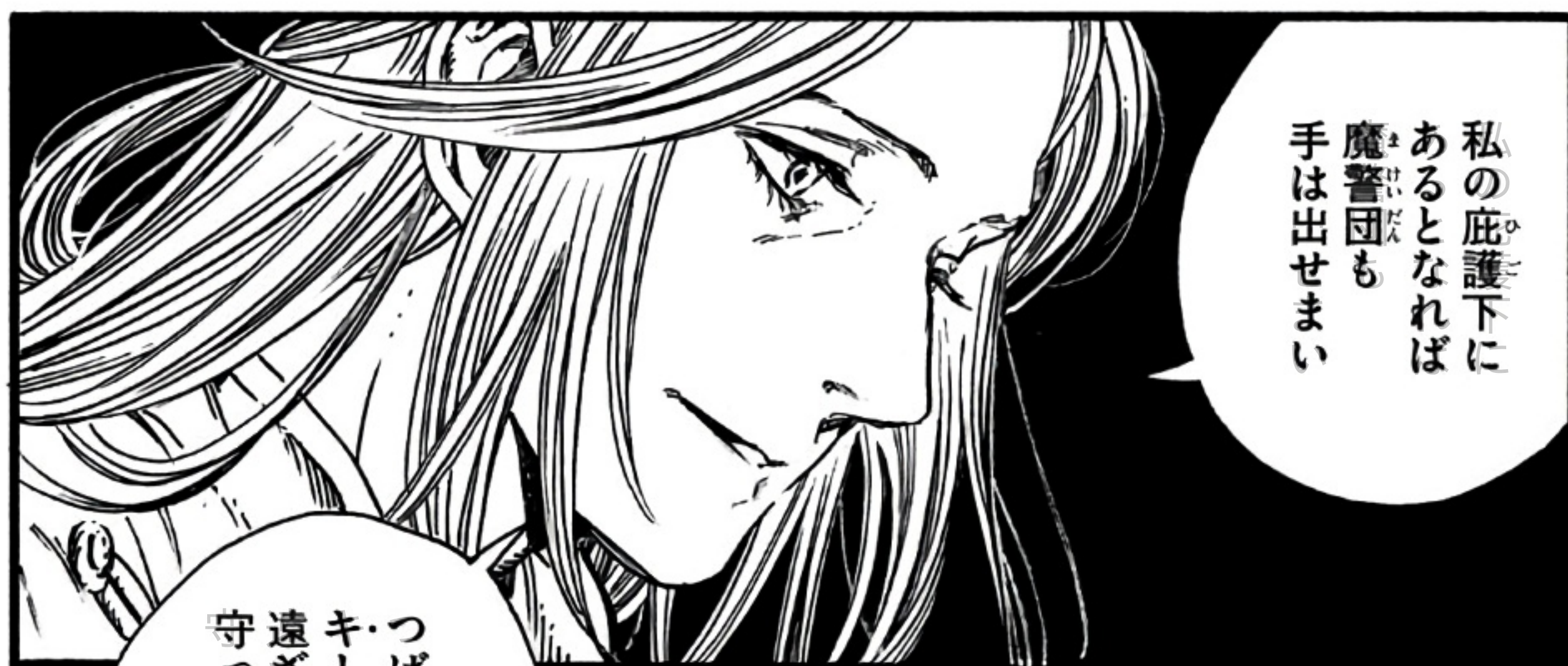
知ること
に貪欲な者は
魔法からもまた
愛される…



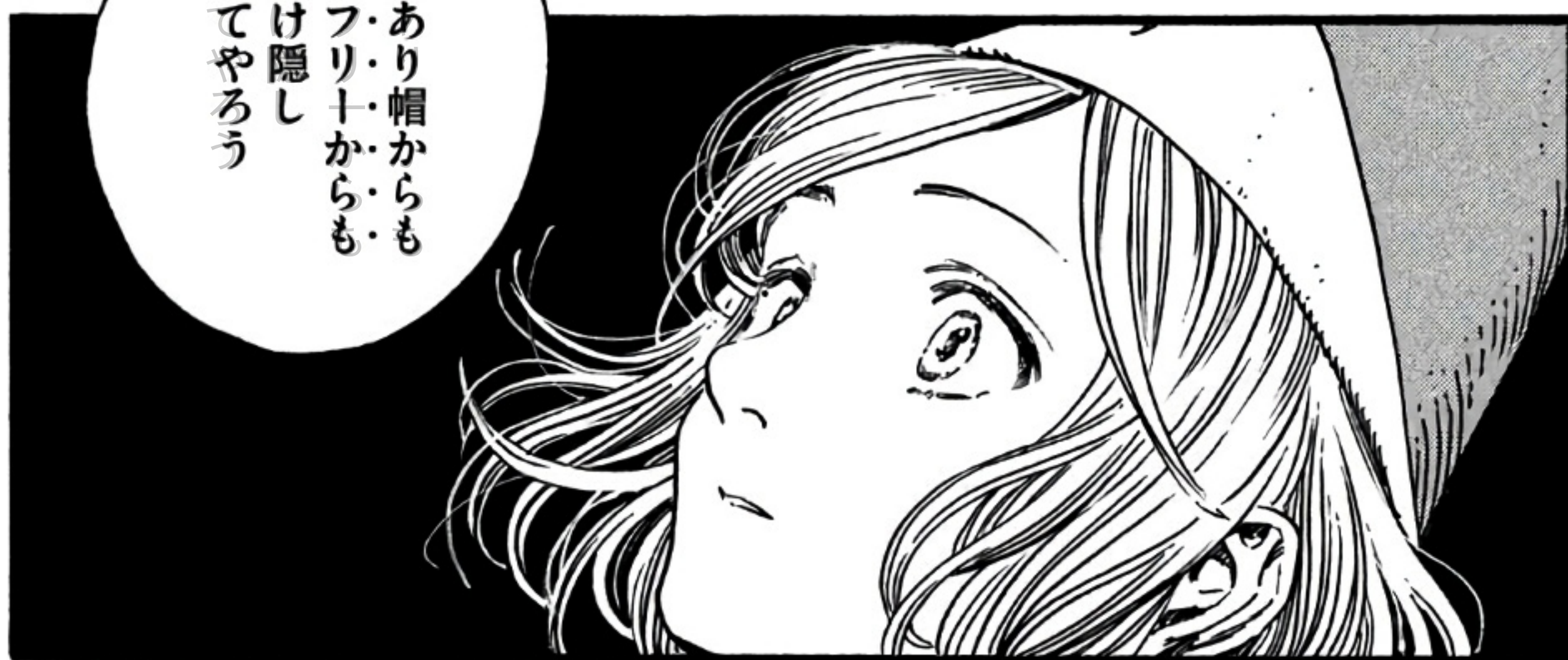




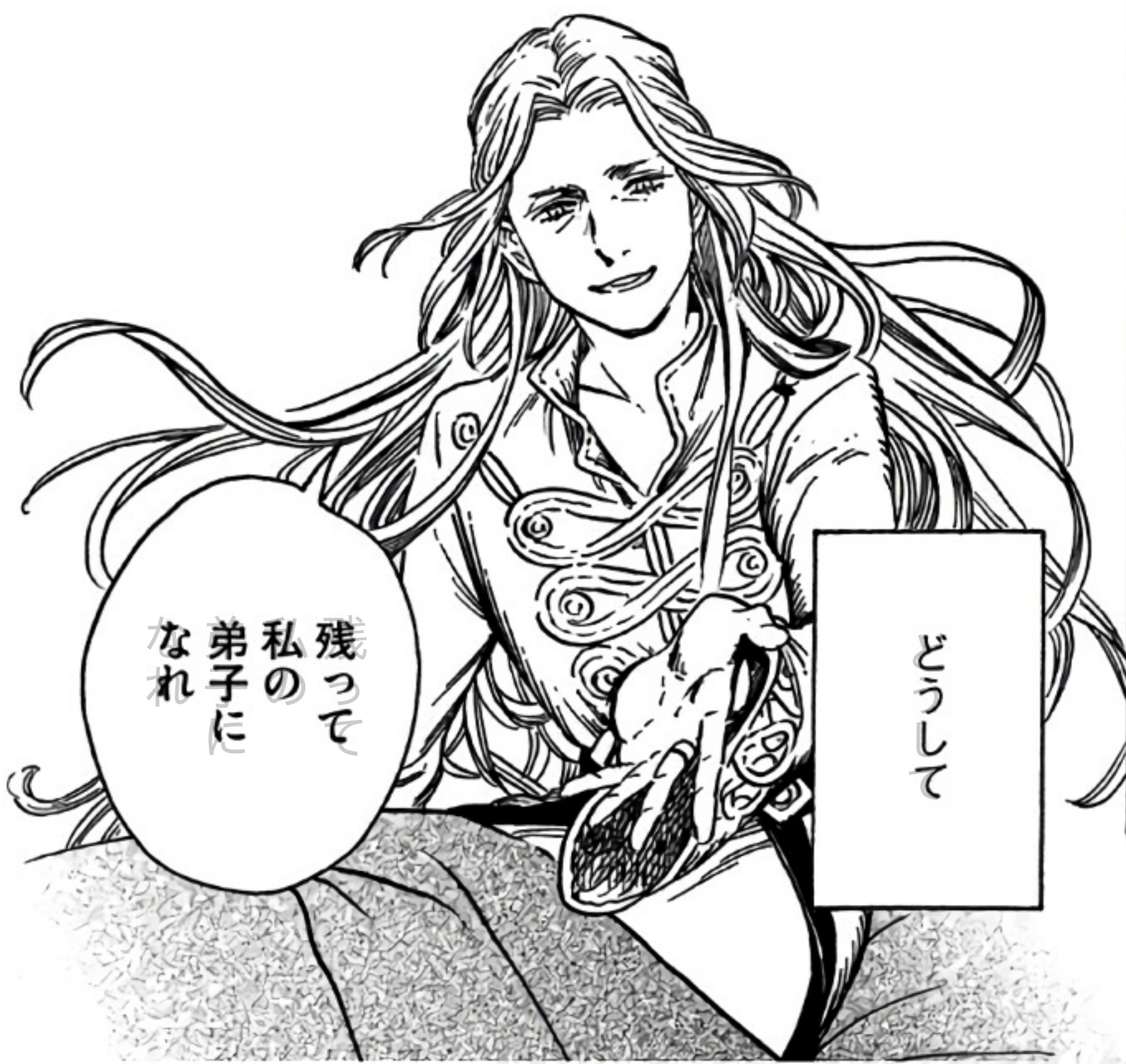




私の庇護下にあるとなれば
魔警団も
手は出せまい



つばあり帽からも
キ・フ・リ・トからも
遠ざけ隠し
守ってやろう



残って
私の
弟子に
なれ

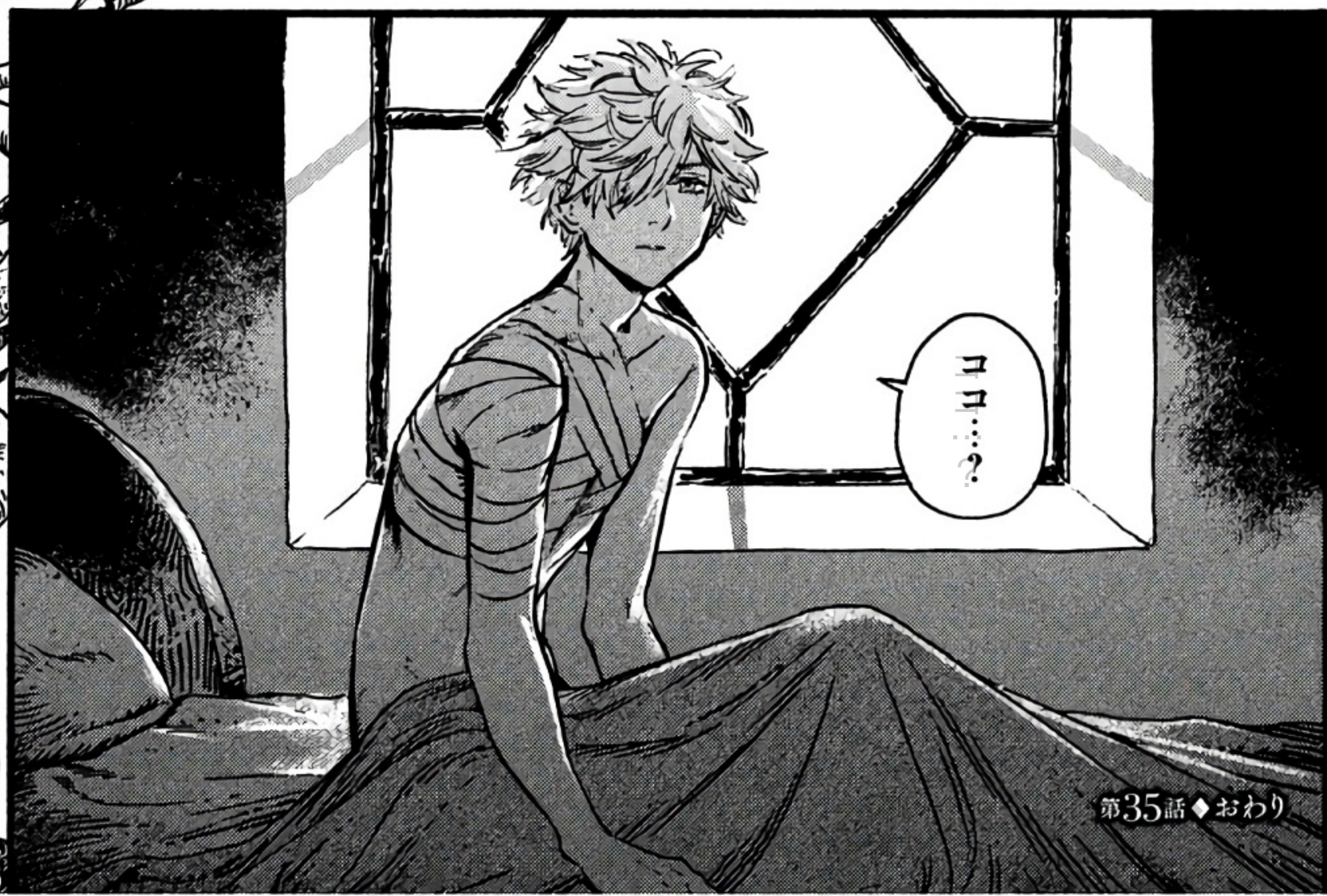
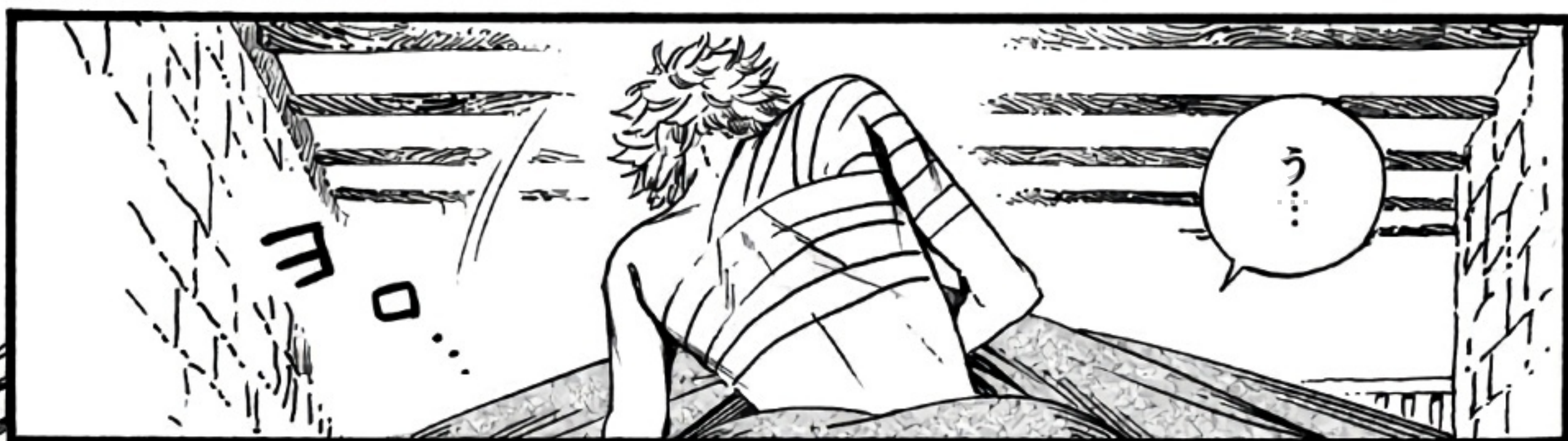
どろろ



どうだ
ココ？

大講堂に
残らぬか？

どうして
キ+フリ+先生
まで…？



とんがり帽子の魔法道具

part 1

COLLECTION OF WITCH TOOLS

「魔法器」と呼ばれる、魔法がかけられた道具たち。

魔法使い以外の人でも発動できるため世界中で重宝されていますが、

魔法使いにしか造ることができないので高値で売買されています。

ちなみに、魔法使いの試験を受け弟子になるまで、魔法器を制作するのは禁止。

これまで出てきた様々な魔法器と、魔法を描くための道具・魔材の一部をここではご紹介します。

飛靴

〔4話などに登場〕

右足と左足に半分ずつ描かれた魔法陣を合わせることで、宙に浮かぶことができる魔法器。長時間使うと太ももがプルプルする。



深淵に消えるトイレ

〔3話などに登場〕

宇宙とつながっている魔法器。深淵に消える造りになっている。これを造り上げた魔法使いは、完成した夜から姿を消している。



浮水水滴

〔2話などに登場〕

空気中の水分から水を汲みだす魔法を使ってできた魔法器。下の皿を傾けると注ぎ口になり、飲み水などに利用されている。



扉窓

〔2話などに登場〕

他の場所に設置された出口とつなげることができる。とても大きく難しい魔法陣が必要。

魔材すりばち

〔3話などに登場〕

特殊な魔法を描くときに魔墨に混ぜる材料をすりつぶすのに使う魔材。陶器製。



魔墨

〔3話などに登場〕

銀葉樹から取れる「樹血」という特殊な液体で作ったインク。これ以外の墨では魔法は発動しない。



樹血の杖

〔3話などに登場〕

「樹血」を固めたもの。木や石に直接描けるが、こすると消えてしまうのであまり使われていない。



魔描の杖

〔3話などに登場〕

木製の軸に金属のペン先をつけて使用する描画に用いる杖。軸を削ったり装飾したりして使いやすくアレンジする。



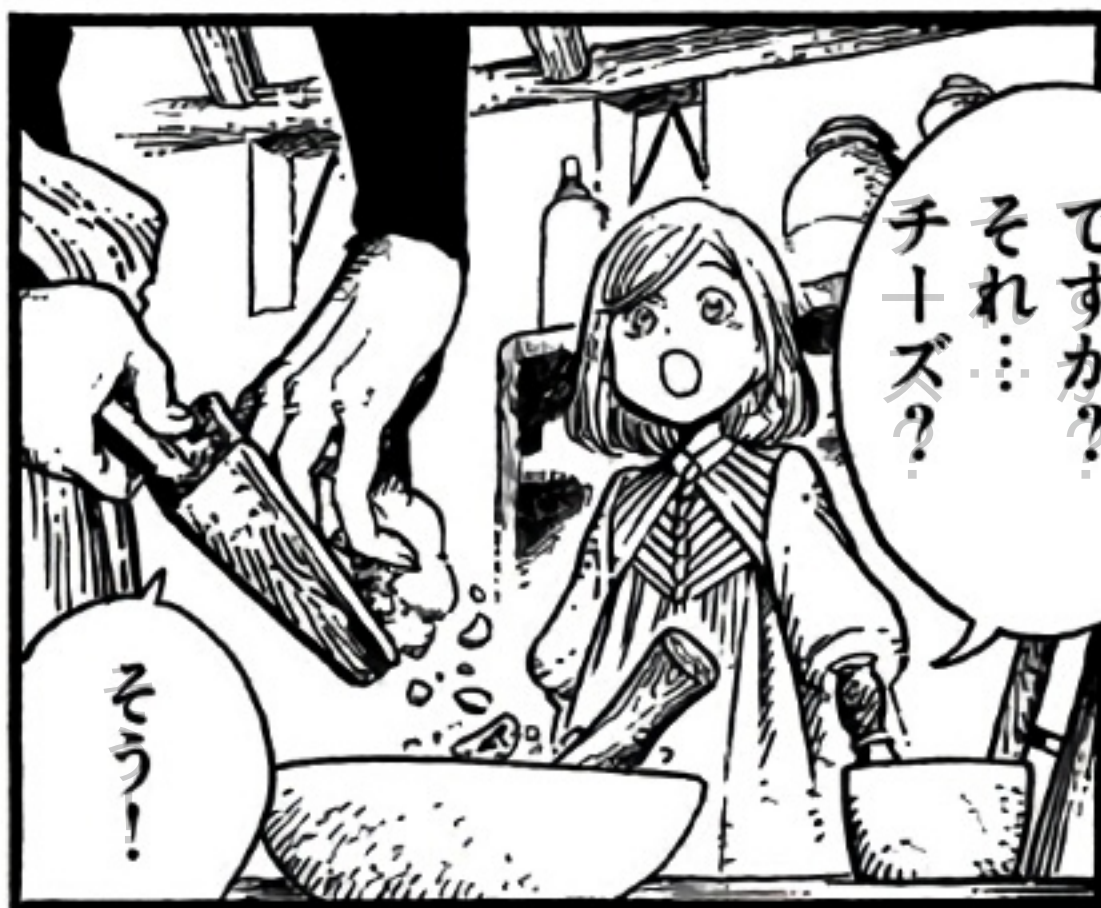
魔円手帳

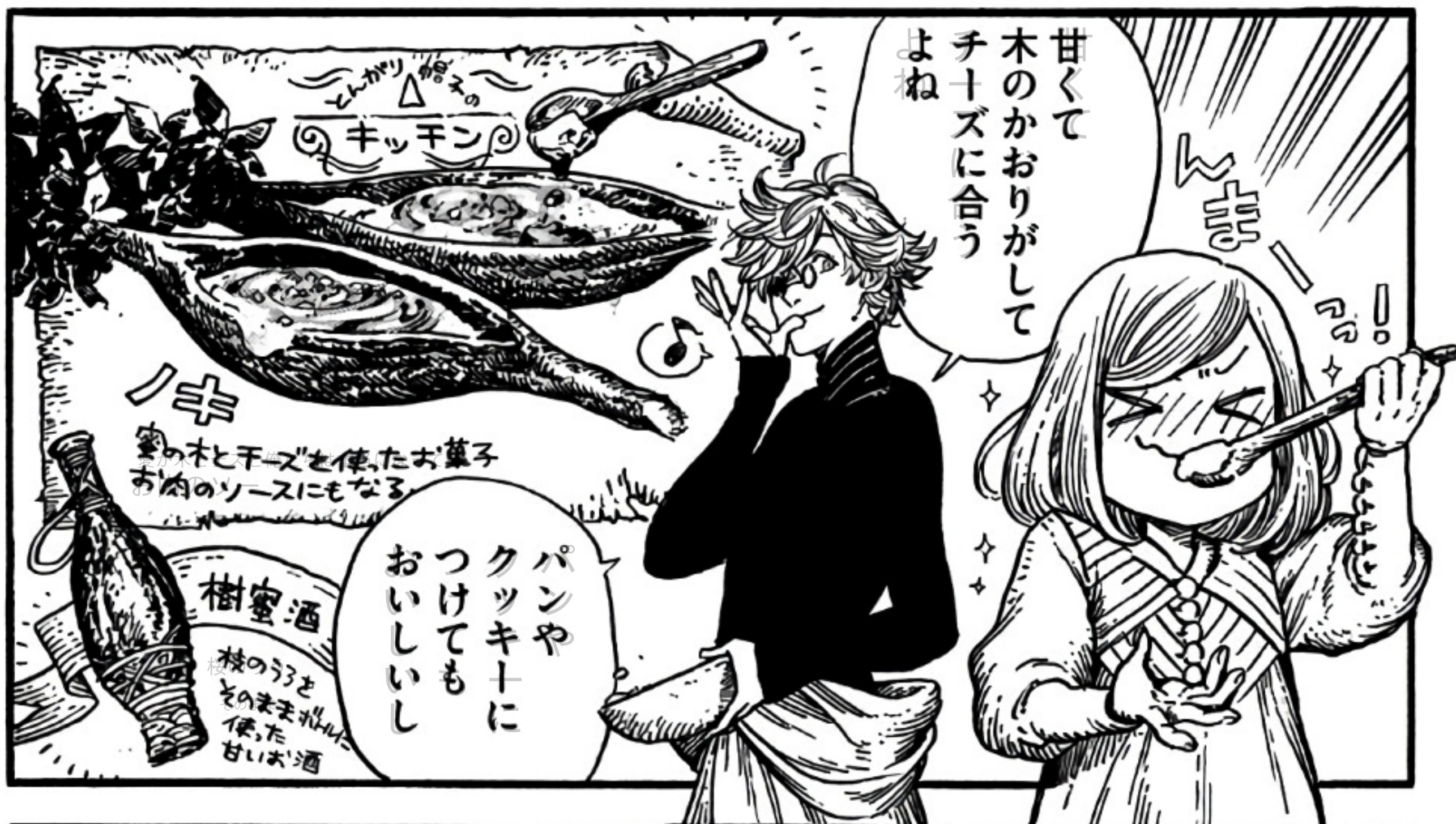
〔3話などに登場〕

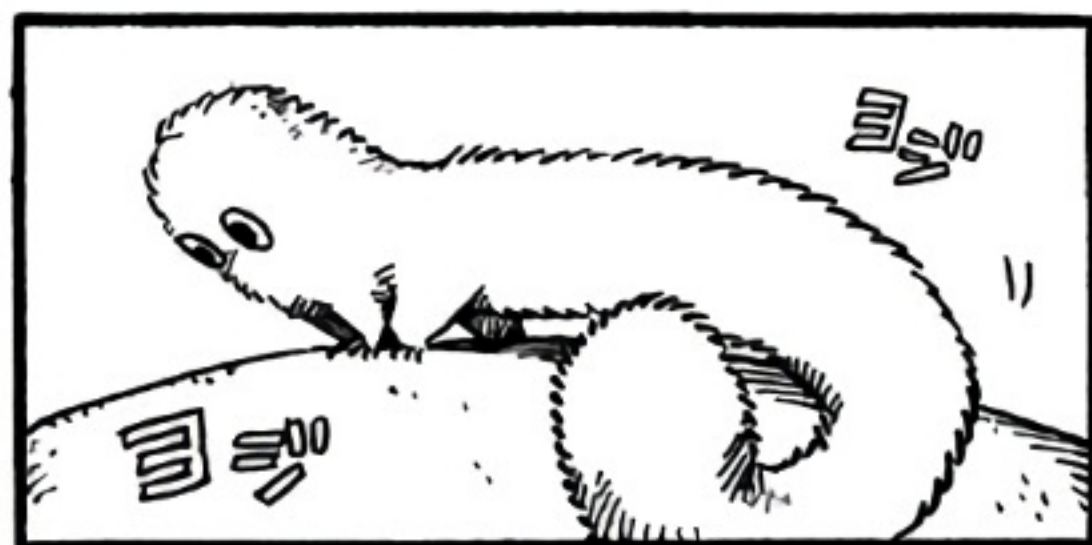
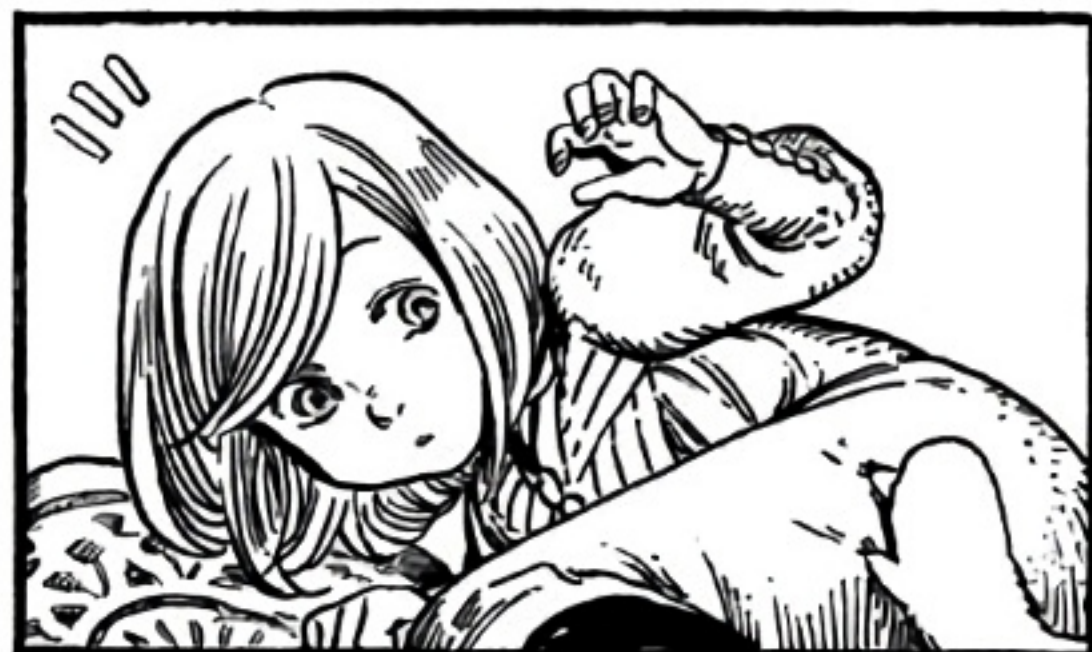
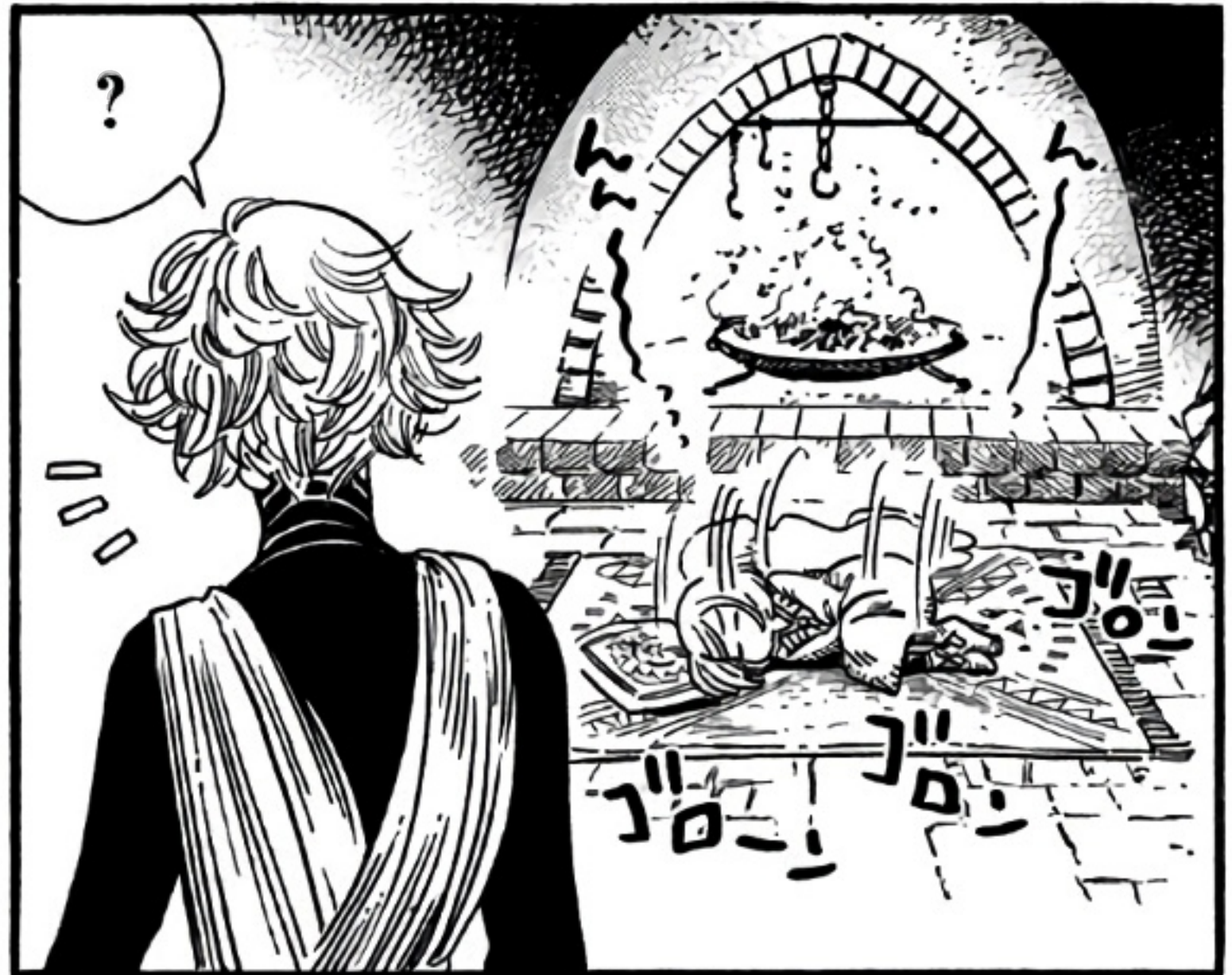
手の平に隠して使える魔法陣用の手帳。中の紙はときどき入れかえる。

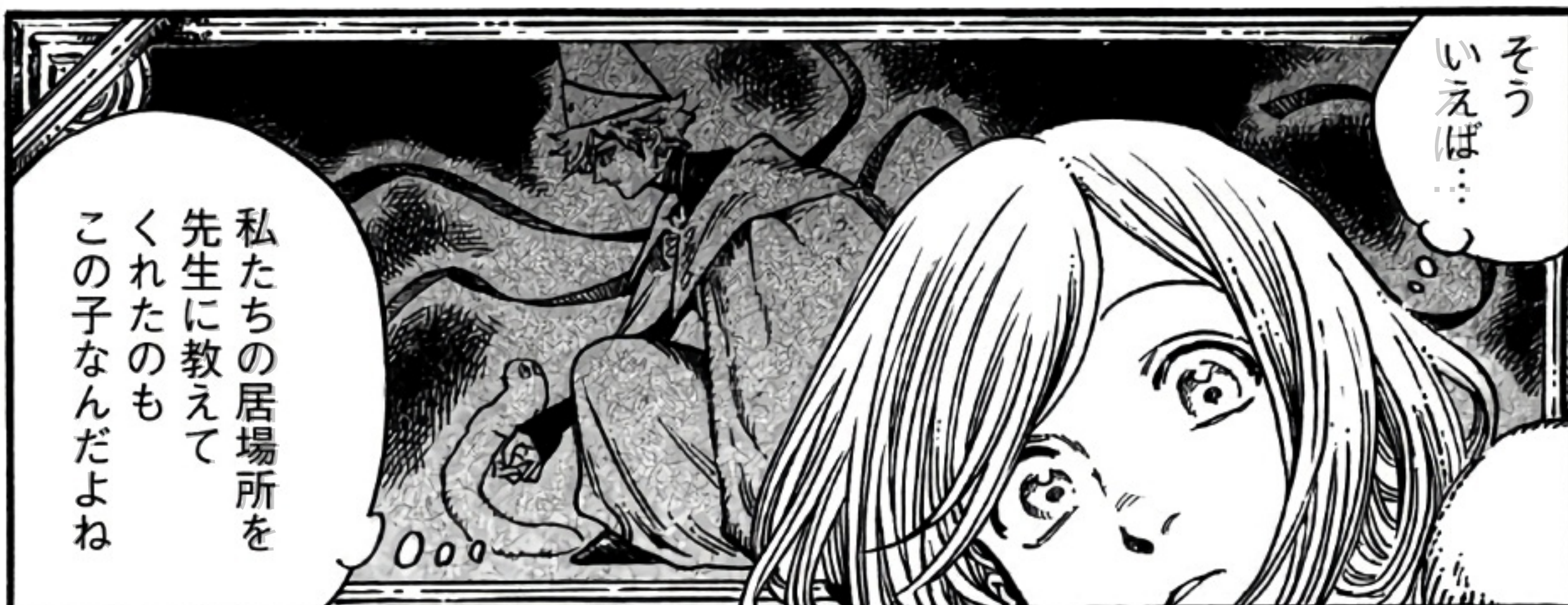
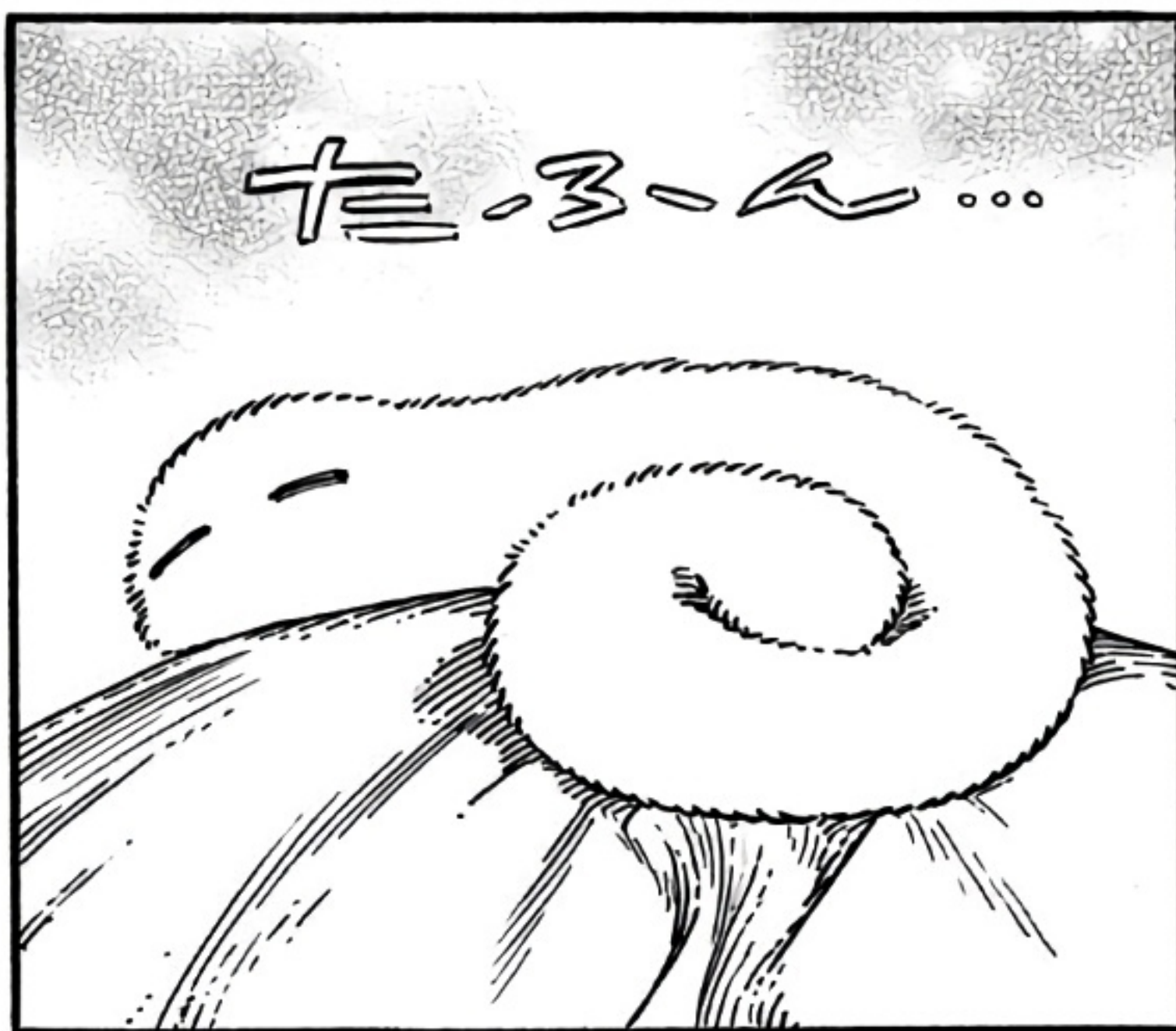


《番外編 食べる》









※第6話参照。



魔法使いの頂点の一人になっても、

今なお魔法を楽しむことを

忘れない男・ベルダルト。

そんな彼の

最初の弟子・キーフリー。



第7卷

今、明かされる物語

魔法を愛する二人は

どこで行き違ってしまったのか。

キーフリー
先生の

先生
なんですか……？



※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などは、一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、コミックス発売当時のまま掲載しています。

とんがり帽子のアトリエ(6)

2019年11月1日発行(01)

著

白浜 鷗

©KAMOME SHIRAHAMA 2019

発行者

森田 浩章

発行者数にご

発行所

株式会社 講談社

〒112-8001

東京都文京区音羽 2-12-21